

Oracle® Hyperion Calculation Manager

Designer's Guide

リリース 11.1.2.3

Calculation Manager Designer's Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2008, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	17
第1章 はじめに	19
Calculation Manager について	19
前提条件	20
セキュリティ	21
ライフサイクル管理	22
EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス	23
ツールバーの使用	24
標準ツールバー	24
Calculation Manager のツールバー	25
メニューの使用	25
「ファイル」メニュー	26
「編集」メニュー	27
「表示」メニュー	27
「お気に入り」メニュー	28
「ツール」メニュー	28
「アクション」メニュー	29
「ヘルプ」メニュー	29
フロー・チャートの使用	30
ビューおよびフィルタの使用	30
リスト・ビュー	30
リスト・ビューでのオブジェクトのフィルタ処理	31
システム・ビュー	33
カスタム・ビュー	34
カスタム・ビューでのフォルダの作成	34
カスタム・ビューでのフォルダの名前変更	35
配置ビュー	35
ビュー・ペイン	35
Calculation Manager でのオブジェクトの検索および置換	36
第2章 ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計	39
ビジネス・ルールについて	39

ビジネス・ルールの作成	40
ビジネス・ルールの設計	41
パラメータのビジネス・ルールとしての使用方法(Financial Management ユーザーのみ)	49
ビジネス・ルールの分析およびデバッグ(Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ)	51
ビジネス・ルールのデバッグ	51
ビジネス・ルールの分析	53
2つのビジネス・ルールのスクリプトの比較	55
Workforce Planning、Capital Asset Planning および人材プランニングの事前 定義済ビジネス・ルールのロード(Planning ユーザーのみ)	56
ルール、ルールセット、テンプレートおよびコンポーネントを開く	57
ビジネス・ルールを開く	58
ビジネス・ルールの編集	58
ビジネス・ルールの編集	59
スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	65
ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブ ロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	70
グラフィカル・ビジネス・ルールでのテキストの検索および置換	71
ビジネス・ルールの別のアプリケーションへのコピー	72
ビジネス・ルール・コンポーネントの子のコピーおよび貼付け	73
ビジネス・ルールの式またはスクリプト・コンポーネントへの参照の コピーおよび貼付け	74
ビジネス・ルールの保存	76
ルール、ルールセット、式またはスクリプト・コンポーネントの異なる名 前での保存	76
異なる名前でのビジネス・ルールの保存	76
ビジネス・ルールへのショートカットの作成	77
ビジネス・ルールの削除	78
ビジネス・ルールの印刷	79
ビジネス・ルールセットについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	80
ビジネス・ルールセットの削除(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	81
ビジネス・ルールセットの設計(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	82
ビジネス・ルールセットを開く(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	86

ビジネス・ルールセット内のビジネス・ルールを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	86
ビジネス・ルールセットへのビジネス・ルールの追加(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	87
ビジネス・ルールセットからのビジネス・ルールの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	88
ビジネス・ルールセットの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	88
ビジネス・ルールセットの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	89
別のアプリケーションへのビジネス・ルールセットのコピー(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	92
ビジネス・ルールセットの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	93
異なる名前でのビジネス・ルールセットの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	94
ビジネス・ルールセットの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)	95
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ	95
ルール、ルールセット、テンプレート、式またはスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示	97
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示	97
オブジェクトの所有者の変更	98

第3章 テンプレートの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	101
テンプレートについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ) ..	102
システム・テンプレートの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	102
Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージのシステム・テンプレートについて	103
ビジネス・ルールでのシステム・テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	105
ビジネス・ルールでの「データの消去」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	107

ビジネス・ルールでの「データのコピー」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	108
ビジネス・ルールでの「金額-単価-レート」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	109
ビジネス・ルールでの「割当て - レベル間」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	110
ビジネス・ルールでの「割当て - 単純」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	112
ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	116
ビジネス・ルールでの「SET コマンド」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	118
ビジネス・ルールでのデータのエキスポート-インポート・テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	120
ビジネス・ルールでの「割当て - 単純除外」テンプレートの使用 (Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	122
「通貨換算」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	131
システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	138
ビジネス・ルールのフロー・チャートへのシステム・テンプレートの挿入 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	139
ビジネス・ルールのフロー・チャートからのシステム・テンプレートの除去(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	140
カスタム・定義テンプレートの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	140
カスタム定義テンプレートについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	141
カスタム定義テンプレートの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	142

カスタム定義テンプレートの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	143
カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	147
テンプレート・ウィザードでの設計時プロンプトの編成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	151
カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの選択(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	153
次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	153
次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	154
設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	155
テンプレートまたはビジネス・ルールのコンポーネントからのカスタム定義テンプレートの作成(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	156
カスタム定義テンプレートを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	157
カスタム定義テンプレートの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	157
カスタム定義テンプレートの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	158
異なる名前でのカスタム定義テンプレートの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	158
カスタム定義テンプレートのリフレッシュ(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	159
カスタム定義テンプレートの使用状況の表示(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	160

カスタム定義テンプレートの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	161
カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	161
ビジネス・ルールのフロー・チャートへのカスタム定義テンプレートの挿入(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	162
ビジネス・ルールのフロー・チャートからのカスタム定義テンプレートの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	163
カスタム定義テンプレートでのテキストの検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	164
設計時プロンプトのテキストの検索および置換	165
テンプレートの検索(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	167
第 4 章 ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	169
コンポーネントについて	170
式コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	171
式コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	172
式コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	172
式コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	173
条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	178
式ステートメントのロギング情報の入力(Financial Management ユーザーのみ)	180
式ステートメントのコメントの入力(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	180
クイック編集を使用したコンポーネントのキャプションの入力(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	181

式コンポーネントを開く(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	182
式コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	182
式コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	183
式コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	184
スクリプト・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	185
スクリプト・コンポーネントの作成	185
スクリプト・コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	186
スクリプト・コンポーネントを開く(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	190
スクリプト・コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	190
スクリプト・コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	191
スクリプト・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	192
条件コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	193
条件コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	193
条件コンポーネントの作成	194
条件コンポーネントを開く(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	195
条件コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	196

条件コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	196
条件コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	197
メンバー・ブロック・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	198
メンバー・ブロック・コンポーネントについて(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	199
メンバー・ブロック・コンポーネントの作成(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	199
メンバー・ブロック・コンポーネントを開く(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	200
メンバー・ブロック・コンポーネントの編集(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	200
メンバー・ブロック・コンポーネントの削除(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	201
メンバー・ブロック・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	202
メンバー範囲コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	203
メンバー範囲コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	203
メンバー範囲コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	204
メンバー範囲コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	206
メンバー範囲コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	206
メンバー範囲コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	207

メンバー範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプ リケーションのユーザーのみ).....	208
データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ).....	209
データ範囲コンポーネントについて(Financial Management ユーザーの み).....	209
データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ) ..	209
データ範囲コンポーネントを開く(Financial Management ユーザーのみ) ..	212
データ範囲コンポーネントの編集(Financial Management ユーザーのみ) ..	212
データ範囲コンポーネントの削除(Financial Management ユーザーのみ) ..	213
データ範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management ユー ザーのみ)	213
固定ループ・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション のユーザーのみ).....	214
固定ループ・コンポーネントについて(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	215
固定ループ・コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	215
固定ループ・コンポーネントを開く(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	217
固定ループ・コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	217
固定ループ・コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	218
固定ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプ リケーションのユーザーのみ).....	219
メタデータ・ループ・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning お よび Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	219
メタデータ・ループ・コンポーネントについて(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユー ザーのみ)	220
メタデータ・ループ・コンポーネントの作成(Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	220
メタデータ・ループ・コンポーネントを開く(Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーショ ンのユーザーのみ)	222

メタデータ・ループ・コンポーネントの編集(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	222
メタデータ・ループ・コンポーネントの削除(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	223
メタデータ・ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	224
DTP 割当てコンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	224
DTP 割当てコンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	225
DTP 割当てコンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	225
DTP 割当てコンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	227
DTP 割当てコンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	228
DTP 割当てコンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	228
DTP 割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	229
スクリプトおよび式コンポーネントの共有(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	230
式およびスクリプト・コンポーネントの共有から非共有への変更(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	230
式およびスクリプト・コンポーネントの非共有から共有への変更(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	231
コンポーネントの保存	232
コンポーネントの保存	232
テンプレートとしてのコンポーネントの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	233

式コンポーネントとスクリプト・コンポーネントを異なる名前で保存 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブ ロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	234
式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリ ケーションのユーザーのみ)	235
式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・スト レージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	236
フロー・チャート内でのコンポーネントの操作.....	236
フロー・チャート内でのコンポーネントの縮小および展開	237
コンポーネントのフロー・チャートからの除去.....	237
フロー・チャート内でのコンポーネントのコピーおよび貼付け	238
フロー・チャート内でのコンポーネントへの参照のコピーおよび貼付 け	239
フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付 け	240
コンポーネントの検索	240

第 5 章 Essbase 集約ストレージ・コンポーネントを使用したビジネス・ルール設計(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーの み).....	241
視点(POV)コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーショ ン・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ).....	242
視点(POV)コンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーショ ン・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ).....	242
視点(POV)コンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーショ ン・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ).....	244
割当てコンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	245
割当てコンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーショ ン・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ).....	245
割当てコンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーショ ン・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ).....	249
視点(POV)または割当てコンポーネンを開く (Essbase 集約ストレージ・アプリ ケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	250
視点(POV)または割当てコンポーネンの削除(Essbase 集約ストレージ・アプリ ケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	250
視点(POV)または割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け(Essbase 集約ス トレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザー のみ).....	251
視点(POV)または割当てコンポーネントの保存(Essbase 集約ストレージ・アプ リケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	252
式コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユー ザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	252

式コンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	253
式コンポーネントを開く(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	255
式コンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	255
式コンポーネントの削除(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	256
式コンポーネントのコピーおよび貼付け(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	256
別のアプリケーションまたはデータベースへの式コンポーネントのコピー(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	257
式コンポーネントの使用状況の表示(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	258

第 6 章 メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計

メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストについて	259
メンバーの操作	260
コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について	260
1 つ以上の次元から 1 つのコンポーネントへのメンバーまたは関数の追加	261
1 つ以上の次元から 1 つのコンポーネントへの複数のメンバーまたは関数の追加	269
コンポーネントからのメンバーおよび関数の除去	276
メンバーの検索	277
名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索	278
変数の操作	279
システム・ビューからの変数の作成	281
数値変数の変数値の入力	285
文字列変数の変数値の入力	286
配列変数の値の入力	287
メンバー範囲変数の値の入力	287
次元間変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)	289
次元変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)	289
メンバー変数またはメンバー(複数)変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)	290

パーセント変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)	291
整数変数の値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)	291
数値としての文字列変数および数値としての日付変数の変数値の入力 (Planning ユーザーのみ)	292
データ範囲変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)	292
ブール変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)	293
ログ情報変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)	293
実行時プロンプト変数の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)	293
変数の選択	294
変数の編集	295
変数の削除	296
変数のリフレッシュ	296
変数のコピー	297
変数デザイナーでの検索	298
変数の使用状況の表示	298
Financial Management アプリケーションへの事前定義済システム変数のロード(Financial Management ユーザーのみ)	299
関数の操作	300
コンポーネントへの関数の挿入	301
スマート・リストの操作(Planning ユーザーのみ)	303
スマート・リストの挿入(Planning ユーザーのみ)	303
第 7 章 ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置 ..	305
システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証	305
ルール・デザイナーからのビジネス・ルールの検証	307
ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置	308
ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置可能にする、および配置可能にしない	309
配置ビューからのビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置	310
ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの配置	311
ショートカットを含むビジネス・ルールの配置	312
ルール・デザイナーからのビジネス・ルールの配置	312
第 8 章 Essbase ビジネス・ルールの起動(Essbase 集約ストレージおよび Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	315
第 9 章 ビジネス・ルールの移行(Financial Management および Planning ユーザーのみ)	317
ビジネス・ルールの移行について	317

Business Rules からのビジネス・ルールの移行(Planning ユーザーのみ)	317
移行のユース・ケース	321
Financial Management からのビジネス・ルールの移行(Financial Management ユーザーのみ)	326
第 10 章 ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポートおよびインポート	333
エクスポートおよびインポートについて	333
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポート	334
アプリケーションのエクスポート	335
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート	335
グラフィカル・ビジネス・ルールとしての Essbase 計算スクリプトのインポート	337
第 11 章 Planning アプリケーションのための Essbase サーバー、アプリケーションおよびデータベースの管理	339
データベース・プロパティの操作	339
MaxL スクリプトの作成および起動	345
データベース・オブジェクトのロックの削除	346
アプリケーションの開始と停止	346
データベースの開始と停止	347
付録 A. 管理者機能の使用	349
Calculation Manager への移行	349
用語集	359
索引	361

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

はじめに

この章の内容

Calculation Manager について	19
前提条件	20
セキュリティ.....	21
ライフサイクル管理	22
EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス	23
ツールバーの使用	24
メニューの使用	25
フロー・チャートの使用.....	30
ビューおよびフィルタの使用	30
Calculation Manager でのオブジェクトの検索および置換	36

Calculation Manager について

Calculation Manager を使用して、ビジネスの問題を解決する高度な計算の作成、検証、配置および管理を行います。Calculation Manager には、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace 内からアクセスします。

Calculation Manager で計算できるオブジェクトは次の 3 種類です:

- ルールセット。同時にまたは連続して計算できるルールが含まれるオブジェクト(第 2 章「ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計」を参照してください。)
- ルール。コンポーネントおよびテンプレートが含まれるオブジェクト(第 2 章「ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計」を参照してください。)
- コンポーネント。式コンポーネント、スクリプト・コンポーネント、条件コンポーネント、範囲コンポーネントおよび固定ループ・コンポーネントが含まれるオブジェクト(第 4 章「ビジネス・ルールとテンプレート进行設計するためのコンポーネントの使用(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)

前提条件

EPM Workspace にログオンして Calculation Manager にアクセスする前に、次のタスクを実行しておく必要があります:

1. Oracle Hyperion Shared Services をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。)
2. EPM Workspace をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。)
3. (Oracle Hyperion EPM Architect アプリケーションのユーザーのみ) Performance Management Architect をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。)

注: Oracle Hyperion Planning や Oracle Hyperion Financial Management アプリケーション管理で作成されたアプリケーション、または Oracle Essbase アプリケーションを使用している場合は、Performance Management Architect をインストールする必要はありません。

4. Oracle Hyperion Calculation Manager をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。)
5. **オプション:** ビジネス・ルールを製品に配置する場合は、Financial Management、Planning、Oracle Operational Planning、Oracle Fusion General Ledger および Essbase をインストールおよび構成する必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。)
6. (Performance Management Architect アプリケーション・ユーザーのみ)少なくとも1つの Financial Management または Planning アプリケーションが Performance Management Architect のメタデータとともにインストールされている必要があります。
7. Shared Services でユーザーをプロビジョニングし、役割を割り当てる必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割管理ガイド』を参照してください。)
8. 次のサーバーがインストールされ、実行されていることを確認する必要があります:(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。)
 - Shared Services サーバー
 - EPM Workspace サーバー
 - **オプション:** Performance Management Architect アプリケーション・サーバー
 - **オプション:** Performance Management Architect 次元サーバー

注： Performance Management Architect アプリケーション・サーバーと次元サーバーは Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合にのみ実行する必要があります。Financial Management や Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーション、または Essbase アプリケーションを使用する場合は、これらのサーバーを実行する必要はありません。

- Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション、あるいはすべてのアプリケーションにビジネス・ルールおよびルールセットを配置する場合は、Financial Management サーバー、Planning サーバーまたは Essbase サーバー、あるいはすべてのサーバー。
 - **注：** これらのサーバーのいずれかがサービスとしてインストールされている場合は、自動的に開始されている可能性があります。
9. EPM Workspace を起動し、ログオンする必要があります。(23 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。)
10. 「ナビゲート」、「管理」、「管理」の順に選択し、Calculation Manager を起動する必要があります。

セキュリティ

オブジェクト(ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、コンポーネントおよびテンプレート)の作成および編集ができるかどうかは、Shared Services で割り当てられている役割および Calculation Manager でのオブジェクトの所有権によって決まります。(役割とセキュリティの詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System のユーザーおよび役割管理ガイドを参照してください。)

ビジネス・ルールやその他のオブジェクトを作成、編集および削除できるかどうかに対して、割り当てられている役割がどのように影響するかについてのパターンは次の3つです:

- 使用しているアプリケーションが配置されていない場合は、ビジネス・ルールやその他のオブジェクトを作成、編集および削除するための4つの役割のうちの1つが必要です:
 - Calculation Manager のグローバル管理者役割では、オブジェクトの作成、編集および削除を行うことができます。
 - **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management の Calculation Manager 管理者役割では、Financial Management オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。
 - **Planning ユーザーのみ:** Planning の Calculation Manager 管理者役割では、Planning オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。
 - **Essbase ユーザーのみ:** Essbase の管理者役割では、Essbase オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。

注： Essbase の管理者役割は、Essbase から継承されます。Essbase の Calculation Manager 管理者役割はありません。

ビジネス・ルールとその他のオブジェクトを配置したら、セキュリティの起動を定義します。次に、Financial Management ビジネス・ルールセットを Financial Management で、Planning ビジネス・ルールを Planning で、Essbase ビジネス・ルールを Oracle Essbase Administration Services または Calculation Manager でそれぞれ起動できます。General Ledger ビジネス・ルールは、General Ledger から起動できます。Operational Planning ルールは、Operational Planning から起動できます。

注： Financial Management ビジネス・ルールセットは Financial Management でのみ、Planning ビジネス・ルールは Planning でのみ起動できます。

- 使用しているアプリケーションが配置済で、そのアプリケーションに対して管理者権限を持つ場合(つまり、配置済アプリケーションに対して、Financial Management 管理者の役割、Planning 管理者の役割、または Essbase 管理者の役割を持つ場合)、そのアプリケーションに属するビジネス・ルールを作成、編集および削除できます。また、アプリケーションを配置することもできます。
- 使用しているアプリケーションが配置済で、そのアプリケーションに対してデザイナー権限を持つ場合(つまり、配置済アプリケーションに対して、Financial Management 計算デザイナー、Planning 対話型ユーザーのアプリケーション固有の役割、または Essbase 計算書込み権限を持つ場合)、ユーザー自身のルールの作成、編集および削除と、他のユーザーのルールの表示を行えます。他のユーザーのルールは、そのユーザーから「所有権の変更」機能を使用してルールの所有権を割り当てられている場合を除き、編集できません。(98 ページの「オブジェクトの所有者の変更」を参照してください。)

注： 使用しているアプリケーションが配置済で、Financial Management ビューアまたは Planning 表示ユーザーのアプリケーション固有の役割を持つ場合は、ルールの表示のみ可能です。

ライフサイクル管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System のライフサイクル管理には、Oracle Enterprise Performance Management System 製品のアプリケーション、リポジトリ、または個別のアーティファクトを製品環境およびオペレーティング・システムの間で移行する一貫した方法があります。Oracle Hyperion Shared Services Console のライフサイクル管理インタフェースは、ライフサイクル管理をサポートするすべての EPM System 製品に対して一貫しています。ただし、Oracle Enterprise Performance Management System 製品では、ライフサイクル管理インタフェースでアーティファクトのリスト表示、およびエクスポートとインポートのオプションの表示が異なります。

ライフサイクル管理には、次の機能があります：

- アプリケーションおよびフォルダの表示
- アーティファクトの検索
- アプリケーションから他のアプリケーションへの直接的な移行
- ファイル・システムとの間の移行

- 移行定義ファイルの保存およびロード
- 選択済アーティファクトの表示
- 移行の監査
- 移行のステータスの表示
- ファイル・システムにおけるクイック変更のための個々のアーティファクトのインポートおよびエクスポート

Oracle Hyperion Shared Services Console にライフサイクル管理インタフェースを提供する他に、別の方法で移行元から移行先にアーティファクトを移行できる、ライフサイクル管理ユーティリティというコマンド・ライン・ユーティリティがあります。ライフサイクル管理ユーティリティは、Windows タスク・スケジューラや Oracle Enterprise Manager などのサードパーティ製のスケジューリング・サービスと併用できます。

また、ユーザーがライフサイクル管理機能をカスタマイズおよび拡張できるようにするライフサイクル管理アプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) もあります。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理ガイド』を参照してください。

EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス

Calculation Manager にアクセスするには、EPM Workspace にログオンし、ここから Calculation Manager を起動する必要があります。

▶ EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager にアクセスするには:

- 1 Web ブラウザから「`http://<WebServer>:<port>/workspace/`」と入力します。`<WebServer>`は Web サーバーのコンピュータ・ホスト名で、`<port>`は Web サーバーのリスニング・ポートです。たとえば、Oracle Hyperion Reporting and Analysis で構成されている Apache インスタンスを使用している場合には、ポート番号は 19000 です。

注： Calculation Manager を起動する前に、Shared Services サーバー、EPM Workspace サーバー、Calculation Manager サーバー、Performance Management Architect アプリケーション・サーバーおよび次元サーバー (Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合) がすべて実行されている必要があります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- 2 EPM Workspace のログオン・ダイアログ・ボックスに、システム・ユーザー名およびパスワードを入力し、「ログオン」をクリックします。

URL の設定の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

注： Performance Management Architect でユーザーを認証できないことを示すエラー・メッセージが表示された場合は、アプリケーションに対してユーザーがプロビジョニングされているか(プロビジョニングされていない場合は、Shared Services を使用してユーザーをプロビジョニングする)、ユーザーのトークンまたはセッションがタイムアウトされていないか(タイムアウトされている場合は、いったんログオフしてからログオンして新規セッションを開始する)を確認します。

3 Calculation Manager にアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「Calculation Manager」の順に選択します。

Calculation Manager のシステム・ビューに、アクセスできるアプリケーションのリストが表示されます。

Shared Services で割り当てられているユーザー役割に応じて(対話型ユーザーまたは管理者の役割が必要)、Calculation Manager を使用してビジネス・ルール、ビジネス・ルールセットおよびコンポーネントを表示、作成および管理できます。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割管理ガイド』を参照してください。)

ツールバーの使用

EPM Workspace、Performance Management Architect(Performance Management Architect アプリケーションを操作している場合)、および Calculation Manager からツールバーにアクセスできます。この項では、使用可能なツールバーの概要を示します。

標準ツールバー

標準ツールバーには、EPM Workspace 内のアプリケーションで共通の機能およびタスク用のボタンが含まれます。

表 1 標準ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	適用なし	コンテンツ領域のデフォルトの起動オプションが表示されます
	「ファイル」>「新規」>「ドキュメント」	ブック、バッチ、分析ドキュメント、スケジュール済バッチ・ジョブなどのドキュメントを作成します
	「ファイル」>「開く」>「ドキュメント」	リポジトリ・ドキュメントを開きます
	「ナビゲート」>「エクスプローラ」	エクスプローラが表示されます。ここから、リポジトリがファイル管理システムとして表示されます。

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」>「ログオフ」	現在のセッションを終了します
	「ヘルプ」>「このトピックに関するヘルプ」	コンテンツ・ペインに表示されているページのヘルプを表示します

Calculation Manager のツールバー

Calculation Manager のツールバーには、EPM Workspace のボタンに加えて、Calculation Manager 固有のボタンが表示されます。Calculation Manager 内のすべてのビューやデザイナーにすべてのボタンが表示されるわけではありません。

表 2 Calculation Manager のツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	表示、システム・ビュー	Calculation Manager 内にメイン・ビューが表示されます。(これがデフォルト・ビューです。)
	表示、リスト・ビュー	アプリケーション・タイプ、アプリケーション、オブジェクト・タイプ、計算、プランまたはデータベースのタイプ、そして配置および検証ステータス別にフィルタできるオブジェクトのリストが表示されます。
	表示、カスタム・ビュー	カスタマイズできるビューが表示されます。フォルダを作成し、オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップできます。
 (このボタンはリスト・ビューでのみ使用できます。)	ツール、フィルタ	リスト・ビューでオブジェクトをフィルタするために使用できる「フィルタ」ダイアログ・ボックスが開きます。
	適用なし	最新の変更でビューをリフレッシュします。
	アクション、検証	操作するオブジェクトを検証します。
	ファイル、保存	操作するオブジェクトを保存します。

メニューの使用

EPM Workspace のメニューおよびメニュー・オプションに加えて Calculation Manager のメニューおよびメニュー・オプションが表示されます。このメニューおよびメニュー・オプションは、使用するビューおよび操作するオブジェクトごとに異なります。この項では、Calculation Manager を起動したときに表示されるデフォルト・ビュー(システム・ビュー)で使用可能な Calculation Manager のメニューおよびオプションについて説明します。

次のトピックを参照してください:

- [26 ページの「ファイル」メニュー](#)
- [27 ページの「編集」メニュー](#)
- [27 ページの「表示」メニュー](#)
- [28 ページの「お気に入り」メニュー](#)
- [28 ページの「ツール」メニュー](#)
- [29 ページの「アクション」メニュー](#)
- [29 ページの「ヘルプ」メニュー](#)

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューでは、新規オブジェクトの作成、オブジェクトを開いたり、閉じたり、オブジェクトのインポートおよびエクスポート、ルール印刷およびログオフができます。「ファイル」メニューのオプションには、EPM Workspace および Calculation Manager のオプションがあります。この項では、Calculation Manager の「ファイル」メニュー・オプションのみを説明します。

注： Calculation Manager を使用する製品で、これらの「ファイル」メニュー・オプションをすべて使用できるわけではありません。たとえば、Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションを操作する場合は、ルールセットがないため、ルールセットを作成するメニュー・オプションはありません。

表 3 「ファイル」メニュー

コマンド	説明
新規、ルール	新規ルールを作成します
新規、ルールセット	新規ルールセットを作成します
新規、カスタム定義テンプレート	新規カスタム定義テンプレートを作成します
新規、式コンポーネント	式コンポーネントを作成します
新規、スクリプト・コンポーネント	スクリプト・コンポーネントを作成します
開く	アプリケーション・リストから選択されるオブジェクトを開きます
印刷	アプリケーション・リストから選択されるビジネス・ルールを印刷します
インポート	「インポート」ダイアログ・ボックスが開きます
エクスポート	アプリケーション・リストから選択されるオブジェクトをエクスポートします

「編集」メニュー

「編集」メニューでは、選択したオブジェクトを編集できます。このメニューは、ほとんどのビュー、およびルール、コンポーネントおよびテンプレートの各デザイナー内で使用できます。

注： このメニューは、EPM Workspace では使用できません。Calculation Manager 内からのみ使用できます。

表 4 「編集」メニュー

コマンド	説明
編集、削除	システム・ビュー、リスト・ビューまたはカスタム・ビューで選択されているオブジェクトを削除します
編集、コピー	選択されているテキストをコピーします
編集、貼付け	クリップボードにコピーされているテキストをカーソルの右側に貼り付けます
編集、参照のコピー	コンポーネントへの参照をコピーします
編集、グループのコピー	コンポーネント・グループをコピーします
編集、グラフィカル/スクリプト	ルールまたはテンプレートとそのコンポーネントのグラフィカル表示と、ルールまたはテンプレートとそのコンポーネントの生成されたスクリプト間で表示を切り替えます

注： 「編集」メニューは配置ビュー内では使用できません。

「表示」メニュー

「表示」メニューから、様々なビューを開くことができます。システム・ビューは、Calculation Manager を起動したときに表示されるデフォルト・ビューです。配置ビューを選択した場合は、Calculation Manager はシステム・ビューを開いたまま、別のタブで配置ビューを開きます。リスト・ビューまたはカスタム・ビューを選択した場合は、Calculation Manager はシステム・ビューを閉じて、同じタブでリスト・ビューまたはカスタム・ビューに置き換えます。

「表示」メニュー・オプションには、EPM Workspace および Calculation Manager のオプションがあります。この項では、Calculation Manager の「表示」メニュー・オプションのみを説明します。

表 5 「表示」メニュー

コマンド	説明
表示、ビュー・ペイン	ドラッグおよびドロップによって、ルール、ルールセット、コンポーネントおよびテンプレートに追加できる既存または新規オブジェクト(あるいはその両方)のリストを表示または非表示にします。 注： これは、ルール・デザイナー、ルールセット・デザイナー、テンプレート・デザイナーおよびコンポーネント・デザイナー内から使用できる唯一の「表示」メニュー・オプションです。

コマンド	説明
表示、リスト・ビュー	「フィルタ」ダイアログ・ボックスで選択したオブジェクトのリストが表示されます。「フィルタ」ダイアログ・ボックスで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、およびオブジェクト別にフィルタされたリストを作成できます。
表示、システム・ビュー	アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、およびアクセスできるオブジェクトのリストが表示されます。(これがデフォルト・ビューです。)
表示、カスタム・ビュー	フォルダを作成し、そこにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップすることにより、カスタマイズできるビューが表示されます。このビューにより、ユーザーの目的に合わせてオブジェクトを整理できます。
表示、配置ビュー	配置されているルールとルールセットおよび配置されていないルールとルールセットのリストがアプリケーション・タイプおよびアプリケーション別に表示されます。配置および検証ステータスが表示されます。

「お気に入り」メニュー

「お気に入り」メニューは、EPM Workspace およびその製品内のページにブックマークを作成するために使用できる EPM Workspace のメニューです。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

「ツール」メニュー

「ツール」メニューには、Calculation Manager および EPM Workspace のツールが含まれます。ここから、他の製品のインストール、オブジェクトの検索、リスト・ビュー用のフィルタされたオブジェクト・リストの作成、オブジェクトのキャプションの編集、変数ナビゲータおよび変数デザイナーへのアクセスができます。この項では、Calculation Manager の「ツール」メニュー・オプションのみを説明します。

表 6 「ツール」メニュー

コマンド	説明
ツール、フィルタ	「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここから、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、オブジェクト・タイプ(ルール、ルールセット、式またはスクリプト・コンポーネント、またはテンプレート)、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、および配置または検証ステータス別にフィルタできます。また、「すべて」を選択すると、配置および検証ステータスに関係なく、すべてのアプリケーション・タイプ、すべてのアプリケーション、すべてのオブジェクト、およびすべての計算タイプ、プラン・タイプおよびデータベースを表示できます。 注： このメニュー・オプションは、配置ビュー内では使用できません。
ツール、変数	変数ナビゲータが表示されます。ここから、変数を作成、編集、コピーまたは削除する場所に移動できます。変数ナビゲータで選択した場所から変数デザイナーを表示して、コンポーネントの変数を作成、編集、コピーおよび削除できます。 注： このメニュー・オプションは、配置ビュー内では使用できません。
ツール、クイック編集	ルールおよびテンプレート・デザイナー内から、フロー・チャートのコンポーネントのキャプションを編集できます。

「アクション」メニュー

「アクション」メニューでは、「リスト」、「システム」、「カスタム」および「配置」ビュー内や、ルール・デザイナー、ルールセット・デザイナー、テンプレート・デザイナーおよびコンポーネント・デザイナーで選択したオブジェクトの検証、移行、起動および配置を行うことができます。「アクション」メニューのすべてのオプションをすべてのビューおよびデザイナー内から使用できるわけではありません。

注：「アクション」メニューは Calculation Manager 内からのみ使用できます。

表7 「アクション」メニュー

コマンド	説明
アクション、検証	選択したルール、ルールセット、スクリプト、式コンポーネントまたはテンプレートを検証します。 注： これは、配置ビュー内からのみ使用できる「アクション」メニュー・オプションです。
アクション、移行	選択したルールまたはルールセットを移行します。
アクション、スクリプトの比較	選択した2つのビジネス・ルールの計算スクリプトを比較します。
アクション、配置	選択したルールまたはルールセットを配置します。
アクション、起動	Essbase ビジネス・ルールのみ: ビジネス・ルールを起動します。

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューから、Calculation Manager のヘルプ、EPM Workspace 内の他の製品のヘルプおよび Oracle Web サイトのその他のリソースにアクセスできます。

表8 「ヘルプ」メニュー

コマンド	説明
ヘルプ、このトピックに関するヘルプ	現在の Web ページのコンテキスト依存ヘルプを起動します
ヘルプ、目次	使用中の製品のヘルプ・システムを起動します
ヘルプ、Oracle サポート - http://www.oracle.com/support/index.html	Oracle Web サイトのサポート・ページを起動します
ヘルプ、Oracle Technology Network - http://www.oracle.com/technology/index.html	Oracle Web サイトの Oracle Technology Network ページを起動します
ヘルプ、Oracle Web サイト - http://www.oracle.com/index.html	Oracle Web サイトを起動します
ヘルプ、EPM Workspace のバージョン情報	EPM Workspace の著作権およびバージョン情報を起動します

フロー・チャートの使用

ルールおよびテンプレートとそれらを構成するコンポーネントを、ルール・デザイナーおよびテンプレート・デザイナー内のフロー・チャートに表示できます。ルールまたはテンプレートを開いて、フロー・チャートで選択することにより、ルールまたはテンプレートを構成するコンポーネント(たとえば、式、スクリプト、条件、範囲およびループ)間を移動できます。また、フロー・チャートのサイズを増減させることにより、コンポーネントの詳細を表示したり非表示にしたりできます。

フロー・チャートでコンポーネントを選択すると、フロー・チャートの下のタブに、コンポーネントのプロパティ、使用およびその他の情報が表示されます。コンポーネント間で移動すると、フロー・チャートの下のタブが変わります。たとえば、式コンポーネントおよびスクリプト・コンポーネントを含むビジネス・ルールを開いて、フロー・チャートで式コンポーネントを選択すると、式のプロパティ(名前、説明、所属するアプリケーションおよびアプリケーション・タイプ)、式の使用(使用されるルールとテンプレート)および式のテキスト(変数、メンバーおよび関数)が、フロー・チャートの下のタブに表示されます。次に、ルールのフロー・チャートでスクリプト・コンポーネントを選択すると、スクリプト・コンポーネントのテキスト、プロパティおよび使用がフロー・チャートの下のタブに表示されます。

ビューおよびフィルタの使用

ビューを使用して、Calculation Manager オブジェクトを様々なコンテキストで表示できます。たとえば、配置ビューは、オブジェクトが配置されているかどうかに基づいて、オブジェクトを表示します。カスタム・ビューは、選択したフィルタと条件に基づいて、オブジェクトを表示します。

次のトピックを参照してください:

- [30 ページの「リスト・ビュー」](#)
- [33 ページの「システム・ビュー」](#)
- [34 ページの「カスタム・ビュー」](#)
- [35 ページの「配置ビュー」](#)
- [35 ページの「ビュー・ペイン」](#)

リスト・ビュー

リスト・ビューには、Financial Management、Planning および Essbase アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、およびオブジェクト(ルールセット、ルール、スクリプト、式コンポーネントおよびテンプレート)が、指定するフィルタ条件に従ってフィルタされて、リストに表示されます。リスト・ビューから、次のタスクを実行できます:

- オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、削除、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定

- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用状況の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- ビジネス・ルールの印刷
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行
- 指定する条件に従ったビューでのオブジェクトのフィルタ
- 変数の操作
- オブジェクトの検証および移行
- EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

リスト・ビューでのオブジェクトのフィルタ処理

リスト・ビューでフィルタを使用すると、アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning および Essbase)、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、オブジェクト・タイプ(つまり、ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネント、およびテンプレート)、および配置または検証ステータスに応じてオブジェクトをフィルタできます。

▶ リスト・ビューでフィルタされたオブジェクト・リストを作成するには:

1 システム・ビューで、「表示」、「リスト・ビュー」の順に選択します。

リスト・ビューを初めて開く場合は、「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。フィルタ処理オプションを選択してから、システム・ビューまたはカスタム・ビューで作業するためにリスト・ビューを閉じると、リスト・ビューを再度開く際に、「フィルタ」ダイアログ・ボックスは表示されません。リスト・ビューを開く際にフィルタ処理オプションを変更する場合は、「ツール」、「フィルタ」の順に選択して、「フィルタ」ダイアログ・ボックスを表示します。

2 「フィルタ」ダイアログ・ボックスで、「フィルタ・オプション」の「アプリケーション・タイプ」から「Financial Management」、「Planning」または「Essbase」を選択します。(デフォルトでは、「Financial Management」が表示されています。)

3 次のいずれかのタスクを行います:

ヒント: 連続した複数の項目を選択する場合は[Shift]を押しながら、連続しない複数の項目を選択する場合は[Ctrl]を押しながらクリックします。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 「アプリケーション」および「オブジェクト・タイプ」で、リスト・ビューに表示するアプリケーションとオブジェクト・タイプを選択します。(デフォルトは「すべて」です。)

- **Financial Management ユーザーのみ:** 「アプリケーション」、「オブジェクト・タイプ」および「計算タイプ」で、リスト・ビューに表示するアプリケーション、オブジェクト・タイプおよび計算タイプを選択します。(デフォルトは「すべて」です。)
- 4 「配置済ステータス」および「検証済ステータス」で、表示しないチェック・ボックスの選択を解除します。(デフォルトではすべてのチェック・ボックスが選択されています。)

ヒント: 「リセット」をクリックして、「フィルタ・オプション」タブをデフォルト値にリセットします。このタブで値をリセットした場合、「詳細設定オプション」タブで指定した値は変更されないままです。

- 5 「詳細設定オプション」の「オブジェクト名」で、条件に一致する名前のオブジェクトのみを表示する場合には、次のいずれかのオプションを選択します:
- 「次で始まる」、指定する文字で始まる名前のオブジェクトのみを表示
 - 「次で終わる」、指定する文字で終わる名前のオブジェクトのみを表示
 - 「含む」、指定する文字を含む名前のオブジェクトのみを表示
 - 「一致」、指定する文字と一致する名前のオブジェクトのみを表示
- 6 選択した「オブジェクト名」オプションの右側のフィールドに、表示するオブジェクトの名前に共通する文字を入力します。
- 7 **手順 6** で入力したテキストの大文字と小文字が異なっても、そのテキストを含んでいる名前のオブジェクトを表示する場合には、「大文字と小文字を区別しない」を選択します。
- 8 「作成者」には、表示するオブジェクトを作成したユーザー名を入力します。
- 9 「変更者」には、表示するオブジェクトを変更したユーザー名を入力します。
- 10 「任意のテキスト」で、次のいずれかのオプションを選択します:
- 「次で始まる」: 入力したテキストで始まるテキストを検索する場合。
 - 「次で終わる」: 入力したテキストで終わるテキストを検索する場合。
 - 「次を含む」: 入力したテキストを含むテキストを検索する場合。
 - 「次と一致」: 入力したテキストと一致するテキストを検索する場合。(これはデフォルトです。)
- 11 選択した「任意のテキスト」オプションの右側のフィールドに、検索するテキスト文字列を入力します。
- 12 入力したテキストを大文字と小文字を区別して検索する場合、「大文字と小文字を区別しない」を選択解除します。(「大文字と小文字を区別しない」はデフォルトで選択されます。)
- 13 「作成日」には、指定する日付の後、前またはその間に作成されたオブジェクトのみ表示する場合に、「次より後」、「次より前」または「次の値の間」を選択します。(「次の値の間」がデフォルトです。)次に、ドロップダウンの矢印をクリックし、カレンダーを表示して、日付を選択できます。
- 14 「変更日」には、指定する日付の後、前またはその間に変更されたオブジェクトのみ表示する場合に、「後」、「前」または「次の値の間」を選択します。(「次の値

の間」がデフォルトです。)次に、ドロップダウンの矢印をクリックし、カレンダーを表示して、日付を選択できます。

- 15 「開始日」には、指定する日付の後、前またはその間に作成されたオブジェクトのみ表示する場合に、「次より後」、「次より前」または「次の値の間」を選択します。(「次の値の間」がデフォルトです。)次に、ドロップダウンの矢印をクリックし、カレンダーを表示して、日付を選択できます。
- 16 「終了日」には、指定する日付の後、前またはその間に削除されたオブジェクトのみ表示する場合に、「次より後」、「次より前」または「次の値の間」を選択します。(「次の値の間」がデフォルトです。)次に、ドロップダウンの矢印をクリックし、カレンダーを表示して、日付を選択できます。

ヒント: 「リセット」をクリックして、「詳細設定オプション」タブをデフォルト値にリセットします。このタブで値をリセットした場合、「フィルタ・オプション」タブで指定した値は変更されないままです。

- 17 「OK」をクリックします。

システム・ビュー

システム・ビューは、Calculation Manager を起動したときに表示されるデフォルト・ビューです。アクセスできるアプリケーション、計算またはプラン・タイプおよびオブジェクトのすべてのリストが表示されます。(アクセス権は Shared Services で割り当てられている役割によって決定されます。アクセス権はアプリケーション・ベースで割り当てられます。)各オブジェクトについて、所有者、最後に変更したユーザーおよび最後に変更された日付がリストされます。システム・ビューから、次のタスクを実行できます:

- オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、削除、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用状況の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- オブジェクトの所有者の変更
- ビジネス・ルールへのショートカットの作成
- ビジネス・ルールの印刷
- ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトのインポートおよびエクスポート
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行
- 変数の操作
- オブジェクトの検証および移行

- EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

カスタム・ビュー

カスタム・ビューでは、フォルダを作成して、そこにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップして、必要なオブジェクトのみ表示するビューを作成できます。このビューにより、ユーザーの目的に合わせてオブジェクトを整理できます。カスタム・ビューから、次のタスクを実行できます:

- オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、除去、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用状況の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- オブジェクトの所有者の変更
- ビジネス・ルールの印刷
- ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトのインポートおよびエクスポート
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行、その他の EPM Workspace 製品のインストール、および変数の操作
- オブジェクトの検証および移行
- EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

カスタム・ビューでのフォルダの作成

カスタム・ビューでは、表示および操作に必要なビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式、スクリプト・コンポーネントおよびテンプレートのみを含むフォルダを作成できます。フォルダにオブジェクトを追加するには、「既存のオブジェクト」ペインからオブジェクトをドラッグし、フォルダにドロップします。

▶ カスタム・ビューでフォルダを作成するには:

- 1 システム・ビューで、「表示」、「カスタム・ビュー」の順に選択します。
- 2 カスタム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプを右クリックし、「新規フォルダ」を選択します。
- 3 「新規フォルダ」に、フォルダの名前を入力します。
- 4 「OK」をクリックします。

ヒント: フォルダを右クリックし、「新規フォルダ」を選択することにより、ネストされたフォルダを作成できます。

カスタム・ビューでのフォルダの名前変更

カスタム・ビューで作成したフォルダを名前変更できます。

▶ カスタム・ビューでフォルダを名前変更するには:

- 1 システム・ビューで、「表示」、「カスタム・ビュー」の順に選択します。
- 2 カスタム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプを展開します。
- 3 名前変更するフォルダを右クリックし、「名前変更」を選択します。
- 4 「フォルダ名の変更」に、フォルダの新規名前を入力します。
- 5 「OK」をクリックします。

配置ビュー

配置ビューには、アプリケーション・タイプおよびアプリケーション別に、配置可能なルールおよびルールセットとその配置および検証ステータスのリストが表示されます。このビューから、アプリケーションに配置できるようにするルールおよびルールセットを選択できます。次に、アプリケーションに1つ以上のルールおよびルールセットを配置するか(部分配置)、すべてのルールおよびルールセットを配置できます(完全配置)。配置ビューから、次のタスクを実行できます:

- オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、除去、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用状況の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- オブジェクトの所有者の変更
- ビジネス・ルールの印刷
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行
- 変数の操作
- オブジェクトの検証および移行
- オブジェクトの配置
- EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

ビュー・ペイン

オブジェクトを作成したり開いたりするときに、ウィンドウの左側のフレームにビュー・ペインを表示できます。ルール、ルールセット、テンプレートまたはコ

コンポーネント・デザイナのどれを使用しているかによって、ビュー・ペインにルール・パレット、ルールセット・パレット、テンプレート・パレットまたはコンポーネント・パレットが表示されます。ルール、ルールセット、コンポーネントまたはテンプレート・パレットから、新規または既存オブジェクトをドラッグして、ルール、ルールセット、テンプレートまたはコンポーネント・フロー・チャートにドロップできます。

ビューを使用している場合には、「表示」メニューを使用してビュー・ペインを表示したり、非表示にしたりできます。カスタム・ビューでは、ビュー・ペインから、作成したカスタム・フォルダに新規または既存オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップできます。システムおよびリスト・ビューでは、ビュー・ペインはデフォルトで非表示になっています。配置ビューでは、ビュー・ペインは使用できません。

注： ビュー・ペインのコンテンツは、現在のビュー、およびルールセット、ルール、テンプレート、コンポーネントを使用しているかどうかによって異なります。

Calculation Manager でのオブジェクトの検索および置換

システム・ビューから、Calculation Manager、アプリケーション、プラン、データベースまたは計算タイプ、ルールセット、ルール、式コンポーネントおよびスクリプト・コンポーネントを使用する製品内で、グローバルな検索および置換を実行できます。アプリケーション、すべてのビジネス・ルールまたは特定のビジネス・ルール、およびすべてのビジネス・ルールセットまたは特定のビジネス・ルールセット内で、すべてのオブジェクトを検索できます。

▶ システム・ビューからテキストを検索して置換するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ、計算タイプまたはデータベース、または、「ルール」、「ルールセット」、「式」、「スクリプト」または「テンプレート」ノードを右クリックし、「検索」を選択します。

注： 特定のビジネス・ルール、ルールセット、式、スクリプトまたはテンプレート内で検索するには、検索するオブジェクトを選択して開きます。編集用にオブジェクトが開いている場合は、「編集」、「検索」の順に選択します。

- 2 「検索」ダイアログで、「任意のテキスト」から、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「次で始まる」: 入力したテキストで始まるテキストを検索する場合。
- 「次で終わる」: 入力したテキストで終わるテキストを検索する場合。
- 「次を含む」: 入力したテキストを含むテキストを検索する場合。
- 「次と一致」: 入力したテキストと一致するテキストを検索する場合。(これはデフォルトです。)

- 3 「任意のテキスト」の右側のフィールドに、検索するテキストを入力します。
- 4 テキストを大文字と小文字を区別して検索するには、「大文字と小文字を区別しない」を選択します。(「大文字と小文字を区別しない」はデフォルトで選択されます。)
- 5 オブジェクトの基本プロパティでテキストを検索するには、「基本プロパティを含める」を選択します。

「基本プロパティを含める」を選択した場合、Calculation Manager では、オブジェクトの名前、説明およびキャプションを検索します。Calculation Manager では、デフォルトで、オブジェクト内で使用する式、スクリプト、その他のコンポーネント、変数などを検索します。

- 6 「検索」をクリックします。

Calculation Manager で検索対象のテキストが見つかった場合、検索したオブジェクトのテキストおよびスコープを含むオブジェクトのリストを示す「検索」タブが開きます。たとえば、Planning アプリケーション内で、プラン・タイプの「スクリプト」ノードでテキストを検索する場合、Calculation Manager では、テキストが見つかったオブジェクトの数と、オブジェクトが存在するアプリケーション名およびプラン・タイプが表示されます。リスト内のオブジェクトをダブルクリックして開くことができます。

- 7 テキストを置換するには、次のいずれかを行います:

- 「検索」タブにリストされたオブジェクトのサブセットで検索したテキストを置換するには、([Ctrl]キーを押しながらクリックして)オブジェクトを選択し、「編集」、「選択項目の置換」の順に選択します。
 1. 「置換後の文字列」で、検索したテキストを置換するテキストを入力します。
 2. 「選択項目の置換」をクリックします。
- 「検索」タブにリストされたすべてのオブジェクトで検索したテキストを置換するには、「編集」、「すべて置換」の順に選択します。
 1. 「置換後の文字列」で、検索したテキストを置換するテキストを入力します。
 2. 「すべて置換」をクリックします。

Calculation Manager では、テキストの置換に成功したオブジェクトの数と、置換できなかったテキストを含むオブジェクト(存在する場合)の数を通知するメッセージが表示されます。

2

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計

この章の内容

ビジネス・ルールについて.....	39
ビジネス・ルールセットについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ).....	80
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ	95
ルール、ルールセット、テンプレート、式またはスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示.....	97
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示.....	97
オブジェクトの所有者の変更	98

ビジネス・ルールについて

Calculation Manager では、高度な多次元ビジネス・ルールの作成、検証、配置、管理ができます。また、2つ以上の関連するルール(またはルールセット)を同時にまたは連続して起動できるビジネス・ルールを作成できます。通常、ビジネス・ルールおよびルールセットは次の目的で作成します:

- エンティティ間でのコストの割当て
- 収益モデリングの実行
- 費用モデリングの実行
- 貸借対照表の準備
- キャッシュ・フローの計算
- 為替換算調整勘定の計算
- グループおよび小数株持ち分の計算
- 繰延税金の計算

ビジネス・ルールまたはルールセットを作成する前に、データベース・アウトラインおよび使用するアプリケーションについて熟知しておく必要があります。この情報を把握しておくこと、ビジネス・ルールをより効率的に作成できます。また、データに関して、次も理解しておく必要があります:

- データの保管および集約方法
- データがデータベースにロードされるレベル
- 計算の実行順序
- 計算を実行する主な仮定

ビジネス・ルールは、式、スクリプト、ルール、データおよびメンバー範囲、テンプレートおよび実行時プロンプト変数を含む変数などのコンポーネントを使用することにより作成できます。(第4章「ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)Planning でビジネス・ルールを起動するユーザーには、管理者として、ルールに対してその場所からの起動権限を付与する必要があります。ユーザーには、Financial Management でビジネス・ルールを起動するための起動権限は必要ありません。

ビジネス・ルールの作成

ビジネス・ルールはシステム・ビューから作成できます。また、リスト、カスタムおよび配置ビューからもビジネス・ルールを作成できます。

▶ 新規ビジネス・ルールを作成するには:

- 1 「新規ルール」にルールの名前を入力します。
- 2 「アプリケーション・タイプ」に入力します。

注: アプリケーション・タイプは、新規ルールを作成しているアプリケーション・タイプがデフォルトで移入されます。

Oracle General Ledger または Operational Planning アプリケーションで Essbase 集約ストレージ・アプリケーションを操作している場合は、「Essbase」アプリケーション・タイプを選択します。

- 3 「アプリケーション」を選択します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、Financial Management アプリケーション、Planning アプリケーション、Operational Planning アプリケーション、Essbase 集約またはブロック・ストレージ・アプリケーション、あるいは Oracle General Ledger アプリケーションである必要があります。
- 4 選択したアプリケーション・タイプに応じて次のタスクの1つを行います:
 - Financial Management アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを選択した場合は、「計算タイプ」を選択します。
 - Planning アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを選択した場合は、「プラン・タイプ」を選択します。
 - Essbase アプリケーション・タイプと、Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning アプリケーションを選択した場合は、「データベース」を選択します。また、Operational Planning を選択した場合は、「計算タイプ」を選択する必要があります。

注: 「ルール」を右クリックし、「新規」を選択して、新規ビジネス・ルールを作成する場合は、「新規ルール」ダイアログ・ボックスに、システム・ビュー内で現在操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーション、および計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースが移入されます。

5 「OK」をクリックします。

新規ルールがルール・デザイナーに表示されます。ルールを設計するには、[41 ページの「ビジネス・ルールの設計」](#)を参照してください。

ビジネス・ルールの設計

ビジネス・ルールは、計算で構成される Calculation Manager オブジェクトです。計算は、コンポーネントとしてグループ化されます。ルールには1つ以上のコンポーネント、テンプレートまたはルールが含まれます。

アクセスできるアプリケーションのビジネス・ルールを作成します。(ルールを作成できるかどうかは、Shared Services で割り当てられている役割によって決まります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割管理ガイド』を参照してください。)ルールは、フロー・チャートにグラフィカルに表され、フロー・チャートにコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップしてルールを設計できます。

注： ビジネス・ルールを作成する前に、ビジネス・ルールを作成する対象の製品にアプリケーションが存在していることを確認します。

▶ ビジネス・ルールを設計するには:

- 1 [40 ページの「ビジネス・ルールの作成」](#)の手順を実行します。
- 2 ビジネス・ルールを設計するには、「ルール・パレット」から、新規または既存オブジェクトをドラッグし、「ルール・デザイナー」内のフロー・チャートにドロップします。

注： また、ルールについての独立した式やスクリプトなどの新規オブジェクトを作成して、後でルールに追加できます。

「新規オブジェクト」から、次のコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップして、新規コンポーネントをルールのフロー・チャートに挿入します:

- (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)式: [171 ページの「式コンポーネントの操作\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
- (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)スクリプト: [185 ページの「スクリプト・コンポーネントの操作\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
- (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)条件: [193 ページの「条件コンポーネントの操作\(Financial Management、Planning、Operational Planning および](#)

Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

- (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ) メンバー・ブロック: 198 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ) メンバー範囲: 203 ページの「メンバー範囲コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- (Financial Management ユーザーのみ) データ範囲: 209 ページの「データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。
- (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ) 固定ループ: 214 ページの「固定ループ・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- (Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ) 視点 (POV): 242 ページの「視点(POV)コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- (Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ) 割当て: 245 ページの「割当てコンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- (Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ) 式: 252 ページの「式コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。

「既存のオブジェクト」で、アプリケーションの既存のオブジェクトをルールのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップします。既存の式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートにドラッグすると、デフォルトで、式またはスクリプトは共有オブジェクトになります。共有しない場合は、式またはスクリプト・コンポーネントの「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスの選択を解除します。230 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

ヒント： Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ: グラフィカル・フォーマットでない(つまり、スクリプト・フォーマット)でビジネス・ルールを操作する場合は、「編集」、「スクリプト」の順に選択します。(65 ページの「スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)

- 3 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ:** ビジネス・ルールにスクリプト・コンポーネントを挿入し、グラフィカル・フォーマットで表示する場合は、ビジネス・ルールのフロー・チャートでスクリプト・コンポーネントを右クリックし、「グラフィカルに変換」を選択します。

注： スクリプトが有効な場合にのみ、スクリプト・コンポーネントがグラフィカル・フォーマットに変換されます。スクリプトが無効な場合は、グラフィカル・フォーマットに変換されません。

ヒント： スクリプト・コンポーネントからグラフィカル・フォーマットへの変換を元に戻すには、コンポーネントを右クリックし、スクリプトからグラフィカルへの変換を元に戻すを選択します。

- 4** ビジネス・ルールにコンポーネントを挿入し、コンポーネントを無効化する場合は、ビジネス・ルールのフロー・チャートでコンポーネントを選択し、コンポーネントの「プロパティ」タブで「使用不可」を選択します。(メンバー範囲コンポーネントの場合、「使用不可」チェック・ボックスは「メンバー範囲」タブにあります。)どのコンポーネントが検証エラーの原因になっているかを分析するために、検証からコンポーネントを除外する際、コンポーネントの無効化が必要になる場合があります。

コンポーネントを無効化し、そのコンポーネントが属するビジネス・ルールを保存すると、コンポーネント・アイコンがビジネス・ルールのフロー・チャートでグレーになります。無効化されたコンポーネントに移動または作成されるコンポーネントでは、無効化されたコンポーネントの「使用不可」のステータスが継承されます。

注： 条件コンポーネントを使用不可にすることはできません。

共有されているコンポーネントを無効化すると、そのコンポーネントを無効化したビジネス・ルールでのみ使用不可になります。

- 5 「プロパティ」で、ルールのプロパティを入力します。**

注： ルールにコンポーネントを追加したり、フロー・チャートでルールのコンポーネント間を移動したりすると、タブの数やコンテンツが変わります。ルールのコンポーネントのプロパティやその他の情報を入力するには、フロー・チャートでコンポーネントを選択します。第4章「ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

- **オプション:** 50 文字までの新規名前を入力して、名前を編集します。(「新規ルール」ダイアログ・ボックスでの名前がデフォルトで使用されます。)
- **オプション:** ルールの説明を 255 文字以下で入力します。
- **オプション:** ルールのキャプションを入力します。キャプションは、フロー・チャートのルールのアイコンの下に表示されます。
- **オプション:** ルールのコメントを入力します。たとえば、ルールの用途をユーザーに示せます。
- **Financial Management ユーザーのみ:**

- 「ロギングの使用可能」を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注: ルールセットに対してはロギングが使用可能になっていないが、そのルールセットに属しているルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールセットのログ設定がルールおよびコンポーネントの設定を上書きするため、ログ・ファイルは作成されません。

- 「タイマーの使用可能」を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な 3 つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- 「使用不可」を選択し、スクリプトが生成されるときに、ビジネス・ルールを一時的に使用不可にします。
- 「関数」を選択します。この設定によりルールが、「パラメータ」タブでパラメータとして指定する実行変数が含まれる関数として使用されます。ルールを関数として使用すると、関数のように値が戻されます。

注: 「関数」が選択されたビジネス・ルールは、関数セレクトアで関数として表示されます。

- **Workforce Planning、Capital Expense Planning、Project Planning および Public Sector Budgeting のプラン・タイプの Planning ユーザーのみ:** 実行時プロンプトが使用可能なメンバー・タイプの変数で、デフォルトの動的な親も指定する場合、「動的メンバーの作成」および「動的メンバーの削除」を使用して、それぞれ作成および削除するメンバーを使用可能にします。ビジネス・ルールで動的メンバーの作成および/または削除を使用可能にし、デフォルトの動的な親を定義する場合、Planning では、ルールを起動する前にその親の子メンバーが自動的に作成されるか、またはルールを起動した後でその親の子メンバーが自動的に削除されます。

注： 動的メンバーの作成を選択した場合、ビジネス・ルールが起動に失敗すると、新しく作成されたメンバーは削除されます。

- **Oracle General Ledger ユーザーのみ：**「開始日」および「終了日」機能を使用して、ビジネス・ルールを起動する日付範囲を指定します。この日付範囲外でビジネス・ルールを起動できません。
 - ビジネス・ルールを起動する際の開始日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「開始日」を選択します。
 - ビジネス・ルールを起動する際の終了日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「終了日」を選択します。

6 **Financial Management ユーザーのみ：**「パラメータ」で、ビジネス・ルールで使用されている実行変数を表示し、パラメータとして使用する実行変数を選択できます。次の手順を行います：

注： 新規ビジネス・ルールを初めて開くと、このタブは空です。ビジネス・ルールにコンポーネントを追加し、それらのコンポーネントが変数を使用する場合、このタブに変数が表示されます。

1. 実行変数をパラメータとして使用するには、「パラメータ」を選択します。実行変数がルールセット・スコープを持つ場合(つまり、同じルールセット内で1つのビジネス・ルールから別のビジネス・ルールに渡される場合)、「パラメータ」がデフォルトで選択されます。変数がルール・スコープを持つ場合(つまり、作成されるビジネス・ルールでのみ使用できて、別のビジネス・ルールに渡されない場合)、「パラメータ」は選択されません。

注： ビジネス・ルールに、「パラメータ」が選択される実行変数が少なくとも1つ含まれる場合、このビジネス・ルールを別のビジネス・ルールまたは同じビジネス・ルールに含めると、その実行変数に対する値を「パラメータ」タブで指定できます。

2. 「渡す方法」で、「参照」または「値」を選択します。(「参照」がデフォルトです。)

7 **Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ：**「グローバル範囲」で、各次元に対して値(つまり、メンバー、変数および関数)を選択することにより、ルール内のすべてのコンポーネントに共通の次元を指定します。次元に対して選択した値は、ルールの起動時に計算される値になります。

1. 「値の選択」列で行をクリックすることにより、次元に対して値を選択します。
2. 「アクション」アイコンが表示されたら、これをクリックし、次のいずれかを選択します：
 - 変数(279 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。この章では、変数の詳細な手順について説明しています。)
 - メンバー(260 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照してください。この章では、メンバー選択の詳細な手順について説明しています。)

- 関数(300 ページの「関数の操作」を参照してください。この章では、関数の詳細な手順について説明しています。)

8 「変数」では、次のタスクを実行できます:

注: 「変数」タブは、フロー・チャートでビジネス・ルールの開始コンポーネントまたは終了コンポーネントをクリックした場合にのみ表示されません。

- ビジネス・ルールで使用される変数の名前を表示します。
- 変数のスコープを表示します:
 - グローバル変数: スコープは空です
 - アプリケーション・レベルの変数: アプリケーション名を表示します
 - プラン・レベルの変数: アプリケーション名およびプラン・タイプ名を表示します
 - ルール・レベルの変数: アプリケーション名、プラン・タイプ名およびルール名を表示します
- 変数が実行時プロンプトとして使用される際に、変数をユーザーに表示するか非表示にするかを指定します。
- メンバー・セレクトアを使用して、変数に値を選択します。
- メンバー・セレクトアを使用して、変数に検証値を選択します。これにより、変数に異なる値を使用して、ビジネス・ルールを検証できます。
- メンバー・タイプの実行時プロンプト変数のセキュリティ設定を選択します:
 - 「デフォルトの使用」: Planning で、メンバーへのアクセスが「なし」に設定されていない場合、デフォルトのセキュリティ設定が有効になります。
 - 「読取り」: Planning でビジネス・ルールを起動する際に、実行時プロンプトに選択できるメンバーをユーザーが表示できます。
 - 「書込み」: Planning でビジネス・ルールを起動する際に、実行時プロンプトに選択できるメンバーをユーザーが変更できます。
 - 「承認」: メンバーに対する書込みアクセス権があり、メンバーが Planning でプランニング・ユニットに属する場合に、実行時プロンプトに選択できるメンバーをユーザーが変更できます。

9 Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ: 「スクリプト」で、ルールに対して生成された計算スクリプトを表示できます。

注: このタブでは変更できません。スクリプトを変更する場合は、「編集」、「スクリプト」の順に選択します。65 ページの「スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

10 Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ: 「スクリプト」でテキスト文字列を検索するには:

- スクリプト内のテキストを検索するには、「検索」アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. ダイアログ・ボックスに入力するテキストの大文字小文字が一致するテキストを検索する場合は、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 4. 「検索」をクリックします。
- スクリプト内のテキストを検索して置換する場合は、「検索/置換」アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 置換するテキストを入力します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力するテキストの大文字小文字が一致するテキストを検索する場合は、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 5. テキスト文字列のインスタンスを検索して、一度に1つを置換する場合は、「置換」をクリックします。
 6. テキスト文字列のインスタンスを検索して、同時にすべてを置換する場合は、「すべて置換」をクリックします。

11 「用途」には、そのルールを使用するルールおよびルールセットがあれば表示されます。(このタブの情報は編集できません。)ここには、ルールおよびルールセットの次の情報が表示されます:

- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの名前
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの説明

注: デフォルトでは、ルールを作成する時点では、ルールはどのルールにもルールセットにも使用されていません。

12 Planning および Essbase ブロック・ストレージのユーザーのみ: 「エラーおよび警告」で、ボタンをクリックして、ビジネス・ルールのスクリプト診断を実行します。これを行うと、Calculation Manager では、ビジネス・ルール・スクリプトを分析し、次のいずれかを表示します:

- 検証が行われない場合は、検証エラーが表示されます。各検証エラーをクリックして、「スクリプトの表示」タブで、エラーの原因を確認できます。デザイナーに戻り、「スクリプトの編集」を選択してエラーを修正し、ルールを保存してから、スクリプト診断を再実行します。
- 検証が行われた場合は、「要約」および「警告」が表示されます。要約および警告の各アイテムをクリックして、「スクリプトの表示」タブで、スクリプトの原因を確認できます。デザイナーに戻り、「スクリプトの編集」を選択して、必要に応じて変更を行います。ルールを保存してから、スクリプト診断を再実行します。
 - 「要約」では、計算におけるデータ・セルの数、データのパス・スルーの数、不正に使用された次元の数などの統計がリストされます。
 - 「警告」では、すべての疎次元がセル参照に指定されるかどうか、セルは疎メンバーを参照するかどうか、割当てでは異なるデータ・ブロックの疎次元メンバーを参照するかどうかなどの情報をリストします。これらは、それぞれパフォーマンスに影響を及ぼすことがあります。

13 ビジネス・ルールに追加する各コンポーネントで前述の手順を繰り返します。

ヒント: ビジネス・ルールにコンポーネントを追加する際、フロー・チャートに表示されるコンポーネント・アイコンのサイズや詳細の程度を増減できます。このためには、フロー・チャート内でズーム・バーを使用してズーム・インおよびズーム・アウトができます。「プロパティ」タブでコンポーネントを選択してそのプロパティを表示し、コンポーネントを編集できます。

14 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ルールを設計し、保存した後、次のタスクを実行できます:

- 分析およびデバッグ。(51 ページの「[ビジネス・ルールの分析およびデバッグ\(Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。)
- ルールの印刷。(79 ページの「[ビジネス・ルールの印刷](#)」を参照してください。)
- ルールの検証。(第7章「[ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置](#)」を参照してください。)
- ルールの配置。(第7章「[ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置](#)」を参照してください。)
- Planning 内からのルールの起動(Planning ビジネス・ルールの場合)、Operational Planning 内からのルールの起動(Operational Planning ビジネス・ルールの場合)、Oracle General Ledger 内からのルールの起動(Oracle General Ledger ビジネス・ルールの場合)、あるいは Calculation Manager または Administration Services 内からのルールの起動(Essbase ビジネス・ルールの場合)。(ビジネス・ルールの起動の詳細は、これらの製品のドキュメントおよびこのガイドの[第8章](#)

「Essbase ビジネス・ルール of 起動(Essbase 集約ストレージおよび Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション of ユーザーのみ)」を参照してください。

注： Financial Management ではルールセットのみを起動できます。

パラメータ of ビジネス・ルールとしての使用方法(Financial Management ユーザーのみ)

ルール・デザイナ of 「パラメータ」タブを使用して、ビジネス・ルールに使用するパラメータを指定できます。最初に、ルール内で実行変数が使用されているかどうか of 確認が行われます。(実行変数はルールセットまたはルール of スコープを持つ場合があります。279 ページ of 「変数 of 操作」を参照してください。)ビジネス・ルールで使われている実行変数は、「パラメータ」タブ of グリッドにリストされます。

「パラメータ」列 of 下 of グリッドで、ルールセット・スコープを持つ実行変数 of チェック・ボックスがデフォルトで選択されます。これら of 実行変数はパラメータとして渡されます。ルール・スコープを持つ実行変数 of チェック・ボックスはデフォルトで選択解除されています。これら of 実行変数は、その変数が使われているビジネス・ルール of みに適用されるためです。これら of 実行変数はパラメータとして渡されません。グリッドにリストされた任意 of 変数 of デフォルト設定を変更できます。

「渡す方法」列では、デフォルト of 設定は「参照」ですが、「値」を選択することもできます。

注： 「パラメータ」タブに表示される変数は、自動的に生成されます。変数 of スコープを追加、削除または変更するなどして、これら of いずれか of 変数を変数デザイナで変更した場合、ルール of 「パラメータ」タブを再度選択すると、ビジネス・ルールに影響する変更のみが表示されます。

▶ パラメータをビジネス・ルールとして使用するには:

1 41 ページ of 手順 1 から 45 ページ of 手順 6 を実行します。

注： ビジネス・ルール of 「プロパティ」タブで、Calculation Manager でルールが関数として扱われるように「関数」が選択されているか確認します。

パラメータ・パッシングは、「関数」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、どのビジネス・ルールでも使えます。オプションが選択されていない場合、パラメータ・パッシング機能を備えた通常 of ビジネス・ルールです。オプションが選択されている場合、ビジネス・ルールは関数として扱われます。

2 ビジネス・ルールを保存します。

3 2 番目 of ビジネス・ルールを開きます。

4 「既存 of オブジェクト」から、1 番目 of ビジネス・ルール of コピーを 2 番目 of ビジネス・ルール of フロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップします。

パラメータ・パッシングを備えたビジネス・ルールが別のビジネス・ルールに挿入されます。

5 「プロパティ」で、ビジネス・ルールのプロパティを入力または編集します。

- **オプション:** 50 文字までの新規名前を入力して、名前を入力または編集します。(「新規ルール」ダイアログ・ボックスでの名前がデフォルトで使用されます。)
- **オプション:** ルールの説明を 255 文字までで入力するか編集します。
- **オプション:** ルールのキャプションを入力または編集します。キャプションは、フロー・チャートのルールのアイコンの下に表示されます。
- **オプション:** ルールのコメントを入力または編集します。たとえば、ルールの用途をユーザーに示せます。
- 「ロギングの使用可能」を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注: ルールセットに対してはロギングが使用可能になっていないが、そのルールセットに属しているルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールセットのログ設定がルールおよびコンポーネントの設定を上書きするため、ログ・ファイルは作成されません。

- 「タイマーの使用可能」を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な 3 つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- 「使用不可」を選択し、スクリプトが生成されるときに、ビジネス・ルールを一時的に使用不可にします。
- 「関数」を選択します。この設定によりルールが、「パラメータ」タブでパラメータとして指定する実行変数が含まれる関数として使用されます。

注: 「関数」が選択されたビジネス・ルールは、関数セレクトで関数として表示されます。

6 「パラメータ」では、「パラメータ」オプションが選択された実行変数はすべて、グリッドにリストされます。「値」列の行をクリックしてパラメータの値を入力するか、「アクション」をクリックして次のオプションのいずれかを選択して値を入力します:

- 変数(279 ページの「変数の操作」を参照してください。この章では、変数の詳細な手順について説明しています。)
- メンバー(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。この章では、メンバー選択の詳細な手順について説明しています。)

- 関数(300 ページの「関数の操作」を参照してください。この章では、関数の詳細な手順について説明しています。)

注： 変数に対して入力した値は、このビジネス・ルールのみ適用されます。ビジネス・ルールを他のビジネス・ルール内で使用する際は、値を変更できます。入力した値は、ビジネス・ルールのスクリプトが生成される際に変数タイプに対して検証されます。

注： グリッドに表示された変数を削除または追加することはできません。渡される変数に対して変更を加える場合は、元のビジネス・ルールで変更を行う必要があります。

7 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールの分析およびデバッグ(Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ)

分析機能を使用すると、ビジネス・ルールを実行し、統計情報(コンポーネントの実行にかかった時間、実行された回数、コンポーネント実行前後のメンバー交差の値など)を取得できます。デバッグ機能を使用すると、ビジネス・ルールを実行し、そのスクリプトがどのように実行されるかを1行ずつ調べることができます。

▶ ビジネス・ルールを分析またはデバッグするには:

1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプまたはデータベース、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

2 開くルールを右クリックして、「開く」を選択します。

3 ルール・デザイナーで、次のいずれかのタスクを実行します:

- ビジネス・ルールをバッグするには、「アクション」、「デバッグ」の順に選択します。51 ページの「ビジネス・ルールのデバッグ」に進みます。
- ビジネス・ルールを分析するには、「アクション」、「分析」の順に選択します。53 ページの「ビジネス・ルールの分析」に進みます。

ビジネス・ルールのデバッグ

書込み権限がある場合は、Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのビジネス・ルールをデバッグできます。また、起動権限がある場合は、配置済の Planning アプリケーションのビジネス・ルールをデバッグすることもできます。デバッグ機能を使用すると、ビジネス・ルールの計算スクリプトを実行しながら調査することができます:

- 文のメンバー交差の値を調査するために、スクリプトの実行を停止するブレイク・ポイントを挿入(および削除)できます。ブレイク・ポイントで実行が停止すると、文のすべてのメンバー交差の値が表示されます。
- ブレイク・ポイントのリストを表示できます。
- 条件に一致した場合にのみ文の実行を停止する条件をブレイク・ポイントに追加できます。(条件に使用できるのは、ブレイク・ポイントのある文で使用されているメンバーのみです。)
- 実行の前後に、文のメンバーの値を表示できます。
- 文の実行の前後に、文の実行変数の値を表示できます。
- デバッグ・セッションを終了して、再開することができます。

▶ ビジネス・ルールをデバッグするには:

- 1 **51 ページの手順 1** から **51 ページの手順 3** を実行します。(または、「システム・ビュー」から、ビジネス・ルールを右クリックして「デバッグ」を選択します。)
- 2 「ルール・デザイナー」で、「アクション」、「デバッグ」の順に選択します。
「スクリプト・デバッガ」に、ビジネス・ルールのスクリプトが表示されます。スクリプトの各文が、デバッガの個別の行に表示されます。
- 3 ビジネス・ルールのスクリプトの文をデバッグするには、次のタスクのいずれかを実行します:

注: デバッグ中は、ビジネス・ルールを編集できません。

- ブレイク・ポイントを追加するには、ブレイク・ポイントを挿入する文のマージンをクリックします。割当て文や条件文にブレイク・ポイントを追加できます。

注: ブレイク・ポイントは、文頭の空白が白いスクリプトの行にのみ追加できます; 文頭の空白がグレーの行にはブレイク・ポイントを追加できません。

ヒント: ブレイク・ポイントを削除するには、ブレイク・ポイントを右クリックして、「ブレイク・ポイントの削除」を選択します。

- ブレイク・ポイントに条件を追加するには、ブレイク・ポイントを右クリックし、「条件の追加」を選択します。

ヒント: 条件を編集するには、条件を右クリックして、「条件の編集」を選択します。

- ブレイク・ポイントのある文のデバッグを開始するには、文を右クリックし、「デバッグの開始」を選択します。

デバッグ中の文は、スクリプト・デバッガで強調表示されます。実行前後の文のメンバー、ブレイク・ポイント、およびメンバー交差の値は、スクリプト・デバッガの下のタブに表示されます。

スクリプト・エディタの下部ペインには、2つのセクションがあります。エディタの左側には、「メンバー」タブと「ブレイク・ポイント」タブの2つのタブがあります。いずれかのタブをクリックして、メンバーまたはブレイクポイントを表示します。「メンバー」をクリックすると、デバッグ・ブレイク・ポイントの現在のメンバー交差が表示されます。次のメンバー交差を表示するには、デバッグ・プロセスを再開します。「ブレイク・ポイント」をクリックすると、ブレイク・ポイントを入力したスクリプトの式が表示されます。エディタの右側には、式メンバーが、デバッグの実行前後の値とともに表示されます。

ヒント： デバッグを再開するには、「デバッグ」(緑の矢印)をクリックするか、スクリプト・エディタで「デバッグ」アイコンを右クリックして、「デバッグの再開」をクリックします。デバッグがすべてのメンバー交差をデバッグするまで、「デバッグの再開」をクリックし続ける必要があります。デバッグがすべてのメンバー交差をデバッグすると、「スクリプトのデバッグが完了しました」というメッセージが表示されます。

- スクリプト・デバッグを終了して、ビジネス・ルールの編集に戻るには、「アクション」、「編集」の順に選択します。

デバッグが完了していない場合には、次のメッセージを受け取ります: 「デバッグは進行中です。デバッグを終了しますか?デバッグを終了するには「はい」を、デバッグを続行するには「いいえ」をクリックしてください。」

ビジネス・ルールの分析

分析機能を使用すると、グラフィカル・ビジネス・ルールを分析して、次のことを決定できます: コンポーネントの実行にかかる時間、コンポーネントの式が実行される回数、およびコンポーネントの実行前後のメンバー交差の値。

注： 分析機能は、メンバー範囲、メンバー・ブロック、固定ループ、または条件コンポーネントでは使用できません。

▶ ビジネス・ルールを分析するには:

- 1 **51 ページの手順 1** から **51 ページの手順 3** を実行します。
- 2 「ルール・デザイナ」で、「アクション」、「分析」の順に選択します。

注： 分析できるのは、グラフィカル・ビジネス・ルールのみです。

「分析条件を入力してください」ダイアログが表示されます。次のタスクを実行します:

1. ルールのコンポーネントが実行された前と後で変更された値のみを追跡するかどうかを指定します。このオプションを選択しない場合、すべての値(変更された値と変更されなかった値の両方)が、「分析情報」タブに表示されます。

2. 次のいずれかのタスクを実行します:

- 表示するエントリの数を入力します。これは、計算および表示されるメンバー交差の合計数です。たとえば、アプリケーションに次の次元があるとした場合:
 - 年 = 12 メンバー
 - メジャー = 50,525 メンバー
 - 製品 = 450 メンバー
 - 市場 = 2000 メンバー
 - シナリオ = 4 メンバー

計算されるメンバー交差の数は次のとおりです: 2,182,680,000 (12 x 50,525 x 450 x 2,000 x 4、つまり年 x メジャー x 製品 x 市場 x シナリオ)

注: 変更された値のみの追跡を指定する場合も、表示するエントリ数を入力する必要があります。すべてのメンバー交差を表示するには不十分なエントリ数を入力すると、エントリ数を増やす必要があることを示すメッセージが、「分析情報」タブに表示されます。

- すべてのメンバー交差を表示するには、「すべて表示」を選択します。

3. 次のいずれかのタスクを行います:

- メンバー・セレクタを使用して、分析および表示するメンバーを選択します。
- リストされている各次元に対して、「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックし、分析するメンバーを選択します。
- メンバーを入力します。

注: 次元ごとに選択できるメンバーは1つのみです。

4. 「OK」をクリックして分析を開始します。

ルール分析が完了したことを示すメッセージが表示されます。

3 分析が完了したことを示す「情報」ダイアログで、「OK」をクリックします。

分析情報は、「分析情報」タブに、ルールのコンポーネントごとに表示されます(メンバー範囲、メンバー・ブロック、固定ループおよび条件コンポーネントは除きます)。

4 各コンポーネントの分析情報にアクセスするには、ビジネス・ルールのフロー・チャートでコンポーネントをクリックし、「プロパティ」ペインをクリックして「分析情報」タブを表示します。

注: Essbase の最適化が原因で、分析の正しい開始値と終了値が表示されない場合があります。少なくとも1つの交差に対して分析の開始値と終了値が表示されない場合、件数と経過時間が正しくない可能性があります。

- 5 分析情報データをエクスポートするには、「分析情報」タブ内のグリッドで右クリックし、「エクスポート」を選択します。その後、ファイルを保存するか開きます。
- 6 追跡されている次元のメンバーを非表示にするには、「次元の非表示」を選択します。「次元の非表示」を選択しない場合、その次元で処理されるすべてのメンバーが表示されます。実行前の値と後の値を確認すると、どのメンバーで追跡メンバー値が変更されたかが示されています。「分析情報」タブに表示されている前の値と後の値は、追跡しているメンバーの値です。たとえば、製品 200-30 を追跡している場合は、製品 200 の行が表示されます。製品 200 の行に表示されている値は、200-30 の値です。
- 7 ビジネス・ルールの編集に戻るには、編集するコンポーネントをフロー・チャートでクリックします。

注： 分析機能の統計情報を取得するには、Essbase に対する内部呼出しをメンバー・ブロックで囲っておく必要があります。Fix ステートメントで 1 つの次元のみを空にしておき、その次元の追跡メンバーを使用しないと、その次元またはその子孫の 1 つがメンバー・ブロックで使用されず、「分析情報」タブには、メンバー・ブロックで使用するメンバーの値のみが表示されます。Fix ステートメントで 1 つの次元のみを空にしておき、その次元の動的計算メンバーである追跡メンバーを指定すると、動的計算メンバーやラベルのみのメンバーではない次元またはその子孫の 1 つがメンバー・ブロックになります。「分析情報」タブには追跡メンバーの値と、メンバー・ブロックで使用するメンバーが表示されます。

2 つのビジネス・ルールのスクリプトの比較

2 つのビジネス・ルールのスクリプトを表示して、それぞれがどのように違うか、変更した箇所、またはグラフィカル・ビジネス・ルールのスクリプトを確認できます。Calculation Manager のシステム・ビューで、2 つのビジネス・ルールのスクリプトをウィンドウで左右に並べて表示できます。

▶ 2 つのビジネス・ルールのスクリプトを比較するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 「[Ctrl]を押しながらクリック」して、スクリプトを比較するビジネス・ルールを 2 つ選択します。

注： 2 つを超えるビジネス・ルールを一度に比較することはできません。また、ビジネス・ルールのバージョンを比較することはできません(たとえば、ビジネス・ルールの直前のバージョンと、保存したばかりのバージョンを比較できません)。

3 「アクション」、「スクリプトの比較」を順に選択します。

2つの計算スクリプトのコンポーネントが、横に並んで新しいウィンドウに表示されます。スクリプトの比較ウィンドウに次の情報が表示されます:

- どちらかのスクリプトに追加が行われた場合、その行の背景が薄いグレーで表示されます。
- どちらかのスクリプトで削除が行われた場合、その行の背景が濃いグレーで表示されます。
- いずれかのスクリプトが変更された場合は、その行の背景が黄色で表示されます。
- 最初の列にはスクリプトの行番号が表示されます。
- 2番目の列には、次の3種類の文字の1つが表示されます:
 - *は、左列に表示されるスクリプトの行が、右列に表示されるスクリプトの行と異なることを示します
 - +は、左列に表示されているスクリプトと比較すると、右列に表示されているスクリプトに新しい行が追加されていることを示します
 - -は、左列に表示されているスクリプトと比較すると、右列に表示されているスクリプトから行が削除されていることを示します
- 3番目と4番目の列には2つのスクリプトが表示されます。

4 スクリプトの比較ウィンドウで、次のいずれかのタスクを行います:

- 「上へ移動」キーと「下へ移動」キーを使用して、変更が行われた行の間を移動します。
- 「表示/非表示」ボタンを使用して、下部ペインの表示と非表示を切り替えます。下部ペインは2つのペインに分かれており、上部ペインで選択したスクリプトの完全な行が表示されます。1つ目のペインには左列のスクリプト、2つ目のペインには右列のスクリプトが表示されます。

5 スクリプトの比較が終了したら、「OK」をクリックします。

Workforce Planning、Capital Asset Planning および人材プランニングの事前定義済ビジネス・ルールのロード(Planning ユーザーのみ)

Planning アプリケーション管理を使用して作成された Oracle Hyperion Workforce Planning、Oracle Hyperion Capital Asset Planning、または Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting のアプリケーションを使用している場合、Planning で作成および初期化される際に、事前定義済ビジネス・ルールがアプリケーションにロードされます。これらの事前定義済ビジネス・ルールを使用すると、アプリケーションで Web フォームを使用する場合に事前定義済の計算を実行できます。

これらの事前定義済ビジネス・ルールを変更または削除したら、これらを Calculation Manager に再ロードする必要があります。次の手順は、事前定義済ビジネス・ルールを、Wrkforce、Capex または Human Capital Planning プラン・タイ

プ(いずれかまたはすべて)が使用可能な Planning アプリケーションにロードする
場合に使用します。

▶ 事前定義済ビジネス・ルールをロードするには:

- 1 システム・ビューで、事前定義済ビジネス・ルールをロードする Planning アプリケーション・タイプとアプリケーションを展開します。
- 2 Workforce Planning、Capital Asset Planning または人材プランニングのプラン・タイプを右クリックし、「事前定義済ルールのロード」を選択します。
ビジネス・ルールがプラン・タイプにロードされます。
- 3 「OK」をクリックし、事前定義済ルールが正常にロードされたことを示すメッセージを閉じます。

事前定義済ルールが、ルールをロードしたアプリケーションおよびプラン・タイプの「ルール」フォルダに表示されます。

ルール、ルールセット、テンプレートおよびコンポーネントを開く

このダイアログを使用してオブジェクトを開きます。

- ビジネス・ルールを開くには、58 ページの「ビジネス・ルールを開く」を参照してください。
- ビジネス・ルールセットを開くには、86 ページの「ビジネス・ルールセットを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- カスタム定義テンプレートを開くには、157 ページの「カスタム定義テンプレートを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- コンポーネントを開くには、次のトピックを参照してください:
 - 182 ページの「式コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」 (式コンポーネントを開く場合)
 - 190 ページの「スクリプト・コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」 (スクリプト・コンポーネントを開く場合)
 - 195 ページの「条件コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」 (条件コンポーネントを開く場合)
 - 200 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントを開く (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」 (メンバー・ブロック・コンポーネントを開く場合)

- 206 ページの「メンバー範囲コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」 (メンバー範囲コンポーネントを開く場合)
- **Financial Management ユーザーのみ:** データ範囲コンポーネントを開くには 212 ページの「データ範囲コンポーネントを開く (Financial Management ユーザーのみ)」
- 217 ページの「固定ループ・コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」 (固定ループ・コンポーネントを開く場合)
- **Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 視点 (POV) または割当てコンポーネントを開くには、250 ページの「視点 (POV) または割当てコンポーネンを開く (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」
- **Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 式コンポーネントを開くには、255 ページの「式コンポーネントを開く (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」

ビジネス・ルールを開く

ビジネス・ルールは、Calculation Manager を開いたときにデフォルトで表示されるシステム・ビューで開きます。別のルール、ルールセット、コンポーネント、またはテンプレートのタブ内から「ファイル」、「開く」を使用してルールを開くこともできます。

▶ ビジネス・ルールを開くには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注: Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 次のいずれかのタスクを行います:

- 開くルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 開くルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。

ビジネス・ルールの編集

次のトピックを参照してください:

- 59 ページの「ビジネス・ルールの編集」

- 65 ページの「スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

ビジネス・ルールの編集

ビジネス・ルールの構造は、そのコンポーネント(式、スクリプト、条件、範囲およびループを含む)を追加、除去、または変更することによって編集できます。ビジネス・ルールのコンポーネントおよびビジネス・ルール自体のプロパティも編集できます。

ビジネス・ルールの次のプロパティを編集できます:

- ビジネス・ルールの名前およびキャプション
- ビジネス・ルールの説明およびコメント
- Financial Management アプリケーションの場合は、ビジネス・ルールにログ・ファイルおよびタイマーがあるかどうか、スクリプトの生成時にビジネス・ルールが使用不可であるかどうか、およびビジネス・ルールがパラメータとして機能するかどうか
- Essbase アプリケーションの場合は、ビジネス・ルールを起動できるかどうか

次元およびメンバーの範囲と、ビジネス・ルールに含める変数も編集できます。

▶ ビジネス・ルールを編集するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注: Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 次のいずれかのタスクを行います:

- 編集するルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 編集するルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。

- 3 ルールを編集するには、「ルール・デザイナー」で新規コンポーネントを追加し、そのルールのフロー・チャートから既存のコンポーネントをコピーおよび削除します。

ヒント: ビジネス・ルールのコンポーネントを編集する際、コンポーネント・アイコンのサイズとフロー・チャートに表示される詳細情報の量を増減できます。このために、フロー・チャート内でズーム・バーを使用してズーム・インおよびズーム・アウトできます。フロー・チャートを小さいサイズまたは最小サイズで表示した場合、コンポーネントのキャプションは表示されませんが、アイコン上にマウス・ポインタを置くと、キャプションが表示されます。フロー・チャート内のコンポーネントのサイズにかかわらず、コンポーネントを選択すると「プロパティ」タブにそのプロパティが表示されます。

- フロー・チャートからコンポーネントを削除するには、そのコンポーネントを選択して右クリックし、「除去」を選択します。
- コンポーネントをコピーして貼り付けるには、コンポーネントを選択して右クリックし、「コピー」を選択します。コピーした後、フロー・チャートに貼り付けます。
- 新規コンポーネントを追加するには:
 - 「新規オブジェクト」からコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップして、新規コンポーネントをルールのフロー・チャートに挿入します:
 - (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)式: 171 ページの「式コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)スクリプト: 185 ページの「スクリプト・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)条件: 193 ページの「条件コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)メンバー・ブロック: 198 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)メンバー範囲: 203 ページの「メンバー範囲コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - (Financial Management ユーザーのみ)データ範囲: 209 ページの「データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。
 - (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ)固定ループ: 214 ページの「固定ループ・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

- (Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ) 視点(POV): 242 ページの「視点(POV)コンポーネントの操作 (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- (Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ) 割当て: 245 ページの「割当てコンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- (Essbase 集約ストレージおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ) 式: 252 ページの「式コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- 「既存のオブジェクト」で、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションから既存オブジェクトをドラッグし、ルールのフロー・チャートにドロップします。

注: (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ) 既存の式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャート内にドラッグすると、式またはスクリプトはデフォルトで共有オブジェクトになります。共有しない場合は、式またはスクリプト・コンポーネントの「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスを選択解除します。230 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

- 4 「プロパティ」でルールのプロパティを編集します。(フロー・チャートでルールのコンポーネント間を移動するとタブの数およびコンテンツが変わります。コンポーネントのプロパティおよびその他の情報を編集するには、フロー・チャートでそのコンポーネントを選択してタブに情報を表示します。第 4 章「ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」)
 - **オプション:** 50 文字までの新規名前を入力して、名前を編集します。(「新規ルール」ダイアログ・ボックスでの名前がデフォルトで使用されます。)
 - **オプション:** 説明を変更するか 255 文字以下の新規説明を入力して説明を編集します。
 - **オプション:** ルールのキャプションを編集します。キャプションは、フロー・チャートのルールのアイコンの下に表示されます。
 - **オプション:** ルールのコメントを入力します。たとえば、ルールの機能詳細を説明するコメントを追加したりできます。
 - **Financial Management ユーザーのみ:**

- 「ロギングの使用可能」を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注： ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- 「タイマーの使用可能」を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な3つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- 「使用不可」を選択し、スクリプトが生成されるときに、ビジネス・ルールを一時的に使用不可にします。
- 「関数」を選択します。この設定によりルールが、「パラメータ」タブでパラメータとして指定する実行変数が含まれる関数として使用されます。

注： 「関数」が選択されたビジネス・ルールは、関数セクタで関数として表示されます。

- **Oracle General Ledger ユーザーのみ：**「開始日」および「終了日」機能を使用して、ビジネス・ルールを起動する日付範囲を指定します。この日付範囲外でビジネス・ルールを起動できません。
 - ビジネス・ルールを起動する際の開始日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「開始日」を選択します。
 - ビジネス・ルールを起動する際の終了日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「終了日」を選択します。

5 Financial Management ユーザーのみ：「パラメータ」で、ビジネス・ルールで使用されている実行変数を表示し、パラメータとして使用する実行変数を選択できます。次の手順を行います：

注： 新規ビジネス・ルールを初めて開くと、このタブは空です。ビジネス・ルールにコンポーネントを追加し、それらのコンポーネントが実行変数を使用する場合、このタブに実行変数が表示されます。

1. 実行変数をパラメータとして使用するには、「パラメータ」を選択します。実行変数がルールセット・スコープを持つ場合(つまり、同じルールセット内で1つのビジネス・ルールから別のビジネス・ルールに渡される場合)、「パラメータ」がデフォルトで選択されます。変数がルール・スコー

プを持つ場合(つまり、作成されるビジネス・ルールでのみ使用できて、別のビジネス・ルールに渡されない場合)、「パラメータ」は選択されません。

注： ビジネス・ルールに、「パラメータ」が選択される実行変数が少なくとも1つ含まれる場合、このビジネス・ルールを別のビジネス・ルールまたは同じビジネス・ルールに含めると、その実行変数に対する値を「パラメータ」タブで指定できます。49 ページの「[パラメータのビジネス・ルールとしての使用方法\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。

2. 「渡す方法」で、「参照」または「値」を選択します。(「参照」がデフォルトです。)

6 Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ: 「グローバル範囲」では、ルールの起動時に計算される値の範囲を定義する値(つまり、メンバー、変数および関数)を編集できます。

1. 「値」列で行をクリックすることにより、次元に対して値を選択します。
2. 「アクション」アイコンが表示されたら、これをクリックし、次のいずれかを選択します:
 - 変数(279 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。この項に詳細手順を示してあります。)
 - メンバー(260 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照してください。この項に詳細手順を示してあります。)
 - 関数(300 ページの「[関数の操作](#)」を参照してください。この章に詳細手順を示してあります。)

7 「変数」で、ルールの変数を作成できます。(279 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。)

8 Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ: 「スクリプト」では、グラフィカルでないフォーマットでルールを表示できます。

注： このタブでは変更できません。スクリプトを変更する場合は、「編集」、「スクリプト」の順に選択します。65 ページの「[スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」を参照してください。

9 Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ: 「スクリプト」でテキスト文字列を検索するには:

- 「検索」アイコンをクリックしてスクリプト内のテキスト文字列を検索します。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。

2. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 4. 「検索」をクリックします。
- スクリプト内のテキスト文字列を検索および置換する場合には、「検索/置換」アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 検索したテキストを置換するテキストを入力します。
 3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 5. テキスト文字列の1つのインスタンスを検索して、一度に置換する場合には、「置換」をクリックします。
 6. テキスト文字列のすべてのインスタンスを検索して、一度に置換する場合には、「すべて置換」をクリックします。
 - 「コメントの表示」および「コメントの非表示」アイコンをクリックして、スクリプト内のシステム生成のコメントを表示または非表示します。(デフォルトでは、スクリプト内にシステム生成のコメントが表示されません。)

注： 「コメントの表示」および「コメントの非表示」の機能は、自身および他のユーザーがスクリプトに追加するコメントには影響しません。Calculation Manager で、ビジネス・ルールをグラフィカル・フォーマットに変換するために使用するコメントにのみ影響します。

10 「用途」には、そのルールを使用するルールおよびルールセットがあれば表示されます。ここには、そのルールを使用するルールおよびルールセット(Financial Management および Planning ユーザーのみ)の次の情報が表示されます:

注： このタブで情報は編集できません。

- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの名前
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットのアプリケーション名

- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- ビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの所有者
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットが配置されるかどうか
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットが検証されるかどうか
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの説明

11 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

デフォルトで、ビジネス・ルールはルール・デザイナを使用してグラフィカル・モードで作成され、ビジネス・ルールのフローをグラフィカルに設計します。ビジネス・ルールを作成し、保存した後、グラフィカル・モードまたはスクリプト・モードで編集できます。スクリプト・モードでの編集を選択した場合、後でグラフィカル・モードでの編集に戻れます。

Financial Management ビジネス・ルールの場合は、グラフィカル・ビジネス・ルールをスクリプト・モードで編集すると、変更したルールを別のスクリプト・コンポーネントとして保存するように求められます。元のグラフィカル・ルールは変更されずデータベースに残ります。

▶ ビジネス・ルールをスクリプト・モードで編集するには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- 編集するルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 編集するルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。

3 ルールがルール・デザイナで開いたら、「編集」>「スクリプト」を選択します。

再びグラフィカル・モードに戻るには、「編集」、「グラフィカル」の順に選択します。

注： ビジネス・ルールに共有のコンポーネント(式およびスクリプト・コンポーネントなど)またはテンプレートが含まれる場合、グラフィカル・モードからスクリプト・モードの編集に切り替えると、ビジネス・ルールのスクリプトには、スクリプト・エディタ内の共有コンポーネントおよびテンプレートへの参照のみが含まれます。共有コンポーネントおよびテンプレートの完全に生成されたスクリプトは、下部ペインの「スクリプト」タブに表示されます。

4 スクリプト・エディタで、次のタスクを1つ以上実行します：

- スクリプトに関数を挿入するには、「関数とそのパラメータの挿入」をクリックします。(300 ページの「関数の操作」を参照してください。)
- 次元からスクリプトにメンバーを挿入するには、「次元から選択したメンバーの挿入」をクリックします。(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。)
- スクリプトに変数を挿入するには、「変数の挿入」をクリックします。(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)
- 編集するテンプレートのスクリプトを選択し、「テンプレートの編集」をクリックします。
- **Planning ユーザーのみ：** スクリプトにスマートリストを挿入するには、「スマートリストの挿入」をクリックします。(303 ページの「スマート・リストの操作(Planning ユーザーのみ)」を参照してください。)
- スクリプト内のテキスト文字列を検索するには、「検索」アイコンをクリックします。(70 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)
- 「置換」アイコンをクリックして、スクリプト内のテキスト文字列を検索して置換します。(70 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)
- スクリプトの行番号を非表示にする(または表示する)には、「行番号の非表示」アイコンをクリックします。行番号はデフォルトで表示されています。
- スクリプトへのコメント行の追加および削除を行うには、コメントまたはコメント解除するスクリプト行を選択し、「コメント」および「コメント解除」アイコンをクリックします。
- コード補完の提案を抑制するには、「コード補完を OFF に設定」アイコンをクリックします。(このアイコンはトグルとして機能します。コード補完をオンにするには、アイコンを再度クリックします。コード補完はデフォルトでオンに設定されています。)
- スクリプトの行をフォーマットするには、「フォーマット・コード」アイコンをクリックします。
「フォーマット・コード」を選択すると、スクリプトの行がグループ化されてインデントされ、空白行が削除されます。

- スクリプトの構文にエラーがあるかどうかを確認するには、「構文の確認」アイコンをクリックします。
- コピーするスクリプトの行を選択し、「クリップボードにコピー」アイコンをクリックします。
- 切り取るスクリプトの行を選択し、「クリップボードに切り取り」アイコンをクリックします。
- 貼り付けるスクリプトの場所にカーソルを置き、「クリップボードから貼付け」アイコンをクリックします。

注： 「クリップボードにコピー」、「クリップボードに切り取り」、「クリップボードから貼付け」オプションは、Microsoft Internet Explorer ブラウザでのみサポートされています。

- 「コメントの非表示」および「コメントの表示」アイコンをクリックして、デフォルトでスクリプト内にコメントとして表示するシステム・キーワードを非表示または表示します。

注： この機能は、自身または他のユーザーがスクリプトに入力するコメントの表示には影響しません。Calculation Manager で生成されたコメントの表示にのみ影響します。

- 関数には、自動推奨機能があります。関数の最初の数文字を入力して、「[Ctrl]を押しながら[Space]」を押すと、推奨内容が表示されます。推奨内容のいずれかを選択してクリックするか、「[Enter]」を押して、関数を完成させます。

5 「プロパティ」では、ルールのプロパティを編集します。

- **オプション:** 50 文字までの新規名前を入力して、名前を入力または編集します。（「新規ルール」ダイアログ・ボックスでの名前がデフォルトで使用されます。）
- **オプション:** ルールの説明を 255 文字までで入力するか編集します。
- **オプション:** ルールのキャプションを入力または編集します。キャプションは、フロー・チャートのルールのアイコンの下に表示されます。
- **オプション:** ルールのコメントを入力または編集します。たとえば、ビジネス・ルールの機能詳細を説明するコメントを追加できます。
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - 「ロギングの使用可能」を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注： ルールセットのロギングが使用不可に設定され、ルールセットに含まれるルールおよびコンポーネントのロギングが使用可能に設定されている場合、ログ・ファイルは作成されません。ルールセットのログ設定は、ルールおよびコンポーネントのログ設定をオーバーライドします。

- 「タイマーの使用可能」を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な3つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
 - 「使用不可」を選択し、スクリプトが生成されるときに、ビジネス・ルールを一時的に使用不可にします。
 - 「関数」を選択します。この設定によりルールが、「パラメータ」タブでパラメータとして指定する実行変数が含まれる関数として使用されます。
- **Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「開始日」および「終了日」機能を使用して、ビジネス・ルールを起動する日付範囲を指定します。この日付範囲外でビジネス・ルールを起動できません。
 - ビジネス・ルールを起動する際の開始日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「開始日」を選択します。
 - ビジネス・ルールを起動する際の終了日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「終了日」を選択します。

6 Financial Management ユーザーのみ: 「パラメータ」で、ビジネス・ルールで使用されている実行変数を表示し、パラメータとして使用する実行変数を選択できます。次の手順を行います:

注: 新規ビジネス・ルールを初めて開くと、このタブは空です。ビジネス・ルールにコンポーネントを追加し、それらのコンポーネントが変数を使用する場合、このタブに変数が表示されます。

1. 実行変数をパラメータとして使用するには、「パラメータ」を選択します。実行変数がルールセット・スコープを持つ場合(つまり、同じルールセット内で1つのビジネス・ルールから別のビジネス・ルールに渡される場合)、「パラメータ」がデフォルトで選択されます。変数がルール・スコープを持つ場合(つまり、作成されるビジネス・ルールでのみ使用できて、別のビジネス・ルールに渡されない場合)、「パラメータ」は選択されません。

注: ビジネス・ルールに、「パラメータ」が選択される実行変数が少なくとも1つ含まれる場合、このビジネス・ルールを別のビジネス・ルールまたは同じビジネス・ルールに含めると、その実行変数に対する値を「パラメータ」タブで指定できます。[49 ページの「パラメータのビジネス・ルールとしての使用方法\(Financial Management ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。

2. 「渡す方法」で、「参照」または「値」を選択します。(「参照」がデフォルトです。)

7 **Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ:**「変数」で、ルールの変数を作成できます。(279 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。)

8 **Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ:**「スクリプト」で、ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールに含まれるコンポーネントおよびテンプレートに関して生成されたスクリプト全体を表示できます。

注: このタブでは変更できません。スクリプト・エディタでのみスクリプトを編集できます。

9 「用途」には、そのルールを使用するルールおよびルールセット(Financial Management および Planning ユーザーのみ)があればこれが表示されます。ここには、そのルールを使用するルールおよびルールセット(Financial Management および Planning ユーザーのみ)の次の情報が表示されます:

注: このタブで情報は編集できません。

- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレート、および(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの名前
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレート、および(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- ビジネス・ルールおよび(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの所有者の名前
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレート、および(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットが配置されるかどうか
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレート、および(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットが検証されるかどうか
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレート、および(Financial Management、Planning および Operational Planning ユーザーのみ)ビジネス・ルールセットの説明

10 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「検索」または「検索と置換」を使用して、スクリプト・モードで編集しているビジネス・ルール内のテキスト文字列を検索および置換できます。

▶ スクリプトのテキスト文字列を検索および置換するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 次のいずれかのタスクを行います:

- 検索するスクリプトが含まれるルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 検索するスクリプトが含まれるルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。

- 3 「スクリプト」タブを選択します。

- 4 スクリプト・エディタで、次のタスクを1つ以上実行します:

- 「検索」アイコンをクリックしてスクリプト内のテキスト文字列を検索します。
 1. 検索するテキスト文字列を入力します。
 2. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 4. 「検索」をクリックします。
- スクリプト内のテキスト文字列を検索して置換する場合には、「検索/置換」アイコンをクリックします。
 1. 検索するテキスト文字列を入力します。
 2. 検索したテキスト文字列を置換するテキストを入力します。
 3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。

4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
5. テキスト文字列のインスタンスを検索して、一度に1つを置換する場合は、「置換」をクリックします。
6. テキスト文字列のインスタンスを検索して、同時にすべてを置換する場合は、「すべて置換」をクリックします。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

グラフィカル・ビジネス・ルールでのテキストの検索および置換

グラフィカル・ビジネス・ルール内でテキスト文字列を検索できます。文字列を検索する場合、Calculation Manager は、フロー・チャートで選択されているコンポーネントの直後のコンポーネントから検索を開始し、フロー・チャートの最後まで検索して、フロー・チャートで選択されているコンポーネントに到達するまで、フロー・チャートの最初から再度検索を開始します。一致するテキスト文字列が1つ見つかった後に、別の場所を検索する場合は、再度検索を開始して次の一致を探す必要があります。

グラフィカル・ビジネス・ルールのテキスト文字列を置換することもできます。

▶ グラフィカル・ビジネス・ルールでテキストを検索および置換するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注: Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 次のいずれかのタスクを行います:

- 検索するテキスト文字列が含まれるルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 検索するテキスト文字列が含まれるルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。

- 3 次のタスクを実行できます:

- テキスト文字列の最初または後続の一致を検索するには、「編集」、「検索」の順に選択するか、「編集」、「次を検索」の順に選択して、次のタスクを実行します:
 - 1 「検索項目」に、検索するテキスト文字列を入力します。
 - 2 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。

3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 4. ビジネス・ルールとそのコンポーネントの名前、説明、コメント、およびキャプションを検索に含める場合は、「基本プロパティを含める」を選択します。
 5. 「検索」をクリックします。
- テキスト文字列のすべての一致を置換するには、「編集」、「すべて置換」の順に選択し、次のタスクを実行します:
 1. 「検索項目」に、検索するテキスト文字列を入力します。
 2. 「置換後の文字列」に、「検索項目」のテキスト文字列のすべての一致を置換するテキスト文字列を入力します。
 3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 5. ビジネス・ルールとそのコンポーネントの名前、説明、コメント、およびキャプションを検索に含める場合は、「基本プロパティを含める」を選択します。
 6. 「検索」をクリックします。
 7. 「すべて置換」をクリックして、テキスト文字列のすべての一致を置換します。

注： テキスト文字列を置換するビジネス・ルールに共有コンポーネントが含まれる場合、テキスト文字列は共有コンポーネントでも置換されます。ただし、ビジネス・ルールに別のビジネス・ルール(および埋込みビジネス・ルール)が含まれる場合は、テキスト文字列は埋込みビジネス・ルールでは置換されません。

テキスト文字列を置換するビジネス・ルールに変数が含まれる場合、変数はテキスト文字列で置換されます。

4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールの別のアプリケーションへのコピー

システム・ビューからビジネス・ルールを別のアプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースにコピーできます。ビジネス・ルールを別のアプリケーションにコピーすると、別の名前でも新規ビジネス・ルールが作成されます。ビジネス・ルールで使用される変数も、新しいアプリケーションにコピーされます。

注： ビジネス・ルールを同じアプリケーションにコピーできません。アプリケーションに同じ名前のビジネス・ルールが2つ存在しないように、ルール・デザイナーから「名前を付けて保存」を使用してビジネス・ルールのコピーを作成します。

▶ ビジネス・ルールを別のアプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースにコピーするには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

2 コピーするルールを右クリックして、「コピー先」を選択します。

3 「コピー先」に、ビジネス・ルールの新しい名前を入力するか、デフォルト名を受け入れて、アプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを選択します。

注： 複数のアプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースにコピーすることはできません。

4 共有コンポーネントを含むビジネス・ルールを別のアプリケーションにコピーし、その共有コンポーネントもアプリケーションにコピーする場合は、「共有コンポーネントのコピー」を選択します。これにより、コピーされたアプリケーションに共有コンポーネントが作成され、コピーされたビジネス・ルールは、アプリケーションおよびプラン・タイプから共有コンポーネントを使用するようになります。「共有コンポーネントのコピー」を選択しない場合、共有コンポーネントはルールにコピーされますが、コピーされたルールは、元のルールのアプリケーションおよびプラン・タイプから共有コンポーネントを使用します。

注： 変数を含むビジネス・ルールをあるアプリケーションから別のアプリケーションにコピーすると、コピー先のアプリケーションに変数が作成されます。コピー先のアプリケーションにすでに変数が存在する場合、変数はコピー時に、ルール・レベルの変数として作成されます。

5 共有コンポーネントをコピーする場合は、「既存のオブジェクトの置換」を選択し、オブジェクトを同じ名前の上書きします。

ビジネス・ルール・コンポーネントの子のコピーおよび貼付け

コンポーネントを含むビジネス・ルールを操作するとき、コンポーネントの子(つまり、フロー・チャートでコンポーネントの下にグループ化されたコンポーネント)をコピーする場合があります。

ビジネス・ルールが属しているアプリケーション・タイプが同じであれば、コンポーネントの子をコピーして、別のアプリケーションの同じビジネス・ルールまたは異なるビジネス・ルールに貼り付けることができます。Financial Management ビジネス・ルールおよびコンポーネントの場合にコンポーネントの子をコピーす

る際には、同じ計算タイプまたは汎用計算タイプのビジネス・ルールのみ貼り付ける必要があります。

▶ ビジネス・ルール・コンポーネントの子をコピーして貼り付けるには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。次のいずれかのタスクを行います:

注: Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- コピーして貼り付ける子を持つコンポーネントが含まれるルールを右クリックして、「開く」を選択します。
 - コピーして貼り付ける子を持つコンポーネントが含まれるルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
- 2 「ルール・デザイナー」・フロー・チャートで、メンバー範囲、データ範囲(Financial Management ユーザーのみ)固定ループ、またはその子をコピーして貼り付ける条件コンポーネントを選択します。
- 3 「編集」、「グループのコピー」の順に選択します。
- 4 次のいずれかのタスクを行います:
- コンポーネントの子を同じビジネス・ルールに貼り付ける場合は、コンポーネントの子をフロー・チャートで表示する位置の左にあるコンポーネントを選択します。(選択したコンポーネントの右にコンポーネントの子が表示されます。)
 - コンポーネントの子を異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合は、コンポーネントの子を貼り付けるビジネス・ルールを開いて、その子をフロー・チャートで表示する位置の左にあるコンポーネントを選択します。
- 5 「編集」、「貼付け」の順に選択します。
- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

注: コンポーネントの子をコピーして貼り付けると、共有されているコンポーネントもコピーされます。

ビジネス・ルールの式またはスクリプト・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け

ビジネス・ルールのスクリプトまたは式コンポーネントの参照をコピーして貼り付ける場合、コンポーネント自体はコピーされず、コンポーネントへのショートカットがコピーされて貼り付けられます。コンポーネントのコピーは、参照のコピー元のビジネス・ルールに1つのみ存在します。参照は、コンポーネントが含まれるビジネス・ルールへのポインタとして機能します。

ビジネス・ルールが属しているアプリケーション・タイプが同じであれば、式またはスクリプト・コンポーネントへの参照をコピーして、別のアプリケーション

ンの同じビジネス・ルールまたは異なるビジネス・ルールに貼り付けることができます。

注： Financial Management ビジネス・ルールおよびコンポーネントの場合に、コンポーネントへの参照をコピーする際には、同じ計算タイプまたは汎用計算タイプのビジネス・ルールに貼り付ける必要があります。

▶ 式またはスクリプト・コンポーネントへの参照をコピーして貼り付けるには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。次のいずれかのタスクを行います:

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- コピーして貼り付ける参照の式またはスクリプト・コンポーネントが含まれるルールを右クリックし、「開く」を選択します。
 - コピーして貼り付ける参照の式またはスクリプト・コンポーネントが含まれるルールを選択し、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
- 2 「ルール・デザイナ」・フロー・チャートで、コピーして貼り付ける参照への式またはスクリプト・コンポーネントを選択します。
- 3 「編集」、「参照のコピー」の順に選択します。
- 4 次のいずれかのタスクを行います:
- コンポーネントの参照を同じビジネス・ルールに貼り付ける場合は、フロー・チャートにそのコンポーネントの参照を表示する場所の左にあるコンポーネントを選択します。(選択したコンポーネントの右にコンポーネントの参照が表示されます。)
 - コンポーネントの参照を異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合は、その参照を貼り付けるビジネス・ルールを開き、フロー・チャートにそのコンポーネントの参照を表示する位置の左にあるコンポーネントを選択します。

注： 同じアプリケーションに属するビジネス・ルールか、同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属していれば異なるアプリケーションに属するビジネス・ルールに参照をコピーして貼付けできます。

5 「編集」、「貼付け」の順に選択します。

6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールの保存

ビジネス・ルールを作成または編集したら保存する必要があります。ビジネス・ルールを保存すると、作成対象のアプリケーションおよびアプリケーション・タイプに保存されます。保存後には、配置、検証および起動できます。これを Calculation Manager で配置および検証できます;起動は、Planning 内(Planning ビジネス・ルールの場合)、Operational Planning 内(Operational Planning ビジネス・ルールの場合)、Oracle General Ledger 内(Oracle General Ledger ビジネス・ルールの場合)、および Calculation Manager 内または Administration Services 内(Essbase ビジネス・ルールの場合)から行うことができます。

注： Financial Management から起動できるのはビジネス・ルールセットのみです。ビジネス・ルールは起動できません。

▶ ビジネス・ルールを作成または編集した後に保存するには、「ファイル」、「保存」の順に選択します。

注： 保存したビジネス・ルールをシステム・ビューで確認する際、アプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。このためには、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。

ルール、ルールセット、式またはスクリプト・コンポーネントの異なる名前での保存

このダイアログを使用してオブジェクトのコピーを異なる名前で保存します。次のトピックを参照してください:

- ビジネス・ルールのコピーを保存するには、[76 ページの「異なる名前でのビジネス・ルールの保存」](#)
- ビジネス・ルールセットのコピーを保存するには、[94 ページの「異なる名前でのビジネス・ルールセットの保存\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- 式またはスクリプト・コンポーネントのコピーを保存するには、[234 ページの「式コンポーネントとスクリプト・コンポーネントを異なる名前での保存\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
-

異なる名前でのビジネス・ルールの保存

「名前を付けて保存」を使用すると、異なる名前でのビジネス・ルールを保存できます。「名前を付けて保存」を使用すると、同じルールセット・タイプ内のあるルールセットから別のルールセットにコピーすることもできます。「名前を付けて保

存」では、元のビジネス・ルールと区別するために異なる名前のコピーが作成されます。

▶ 異なる名前でビジネス・ルールを保存するには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注: Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

2 異なる名前で保存するルールを右クリックして、「開く」を選択します。

3 「ルール・デザイナ」で、「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。

4 「名前を付けて保存」で、新しいルール名を入力し、「アプリケーション名」を選択します。

5 次のいずれかのタスクを行います。

- ルールが Financial Management ルールの場合、「計算タイプ」を選択します。
- ルールが Planning または Operational Planning ルールの場合、「プラン・タイプ」を選択します。
また、Operational Planning ルールを使用する場合は、「計算タイプ」を選択します。
- ルールが Essbase または Oracle General Ledger ルールの場合、「データベース」を選択します。

注: 異なる名前で保存するルールのアプリケーション・タイプ、あるいは計算、プラン・タイプまたはデータベースはいずれも変更できません。ルールを異なる名前で保存するときに変更できるのは、ルールが属するアプリケーションです。

6 「OK」をクリックします。

新規ルールは、システム・ビューのアプリケーション・リストに追加されます。

ビジネス・ルールへのショートカットの作成

ショートカットを利用すると、アプリケーションごとにビジネス・ルールのコピーを作成しなくても複数のアプリケーション間でビジネス・ルールを共有できます。ルールへのショートカットを作成する場合、ショートカットではルールへの相互参照が提供されます。

ショートカットを使用して、ビジネス・ルールが作成されたアプリケーションのみではなく、その他のアプリケーションにそのルールを配置することもできます。デフォルトでは、ビジネス・ルールを配置するとそのルールが作成されたアプリケーションに配置されます。

注: ショートカットを作成できるのはビジネス・ルールのみです。

▶ ビジネス・ルールのショートカットを作成するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 ショートカット先のルールを右クリックして、「ショートカットの作成」を選択します。
- 3 「ショートカットの作成」で、ルールへのショートカットを作成する対象のアプリケーションを展開します。
- 4 ショートカットを作成する計算タイプ、プラン・タイプおよびデータベースの横にあるオプション・ボタンを選択します。同じアプリケーション・タイプに属する複数のアプリケーションの複数の計算タイプ、プラン・タイプおよびデータベースを選択できます。

注： ビジネス・ルールの名前は、アプリケーション内で一意の名前にする必要があります。そのため、ビジネス・ルールが作成されたアプリケーションは、「ショートカットの作成」ダイアログに表示されません。ビジネス・ルールのショートカットは、別のアプリケーション内でのみ作成できます。また、ショートカットを作成するビジネス・ルールと同名のビジネス・ルールがアプリケーションに含まれている場合、そのアプリケーションは「ショートカットの作成」ダイアログに表示されません。

- 5 「OK」をクリックします。

ルールへのショートカットは、選択された計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースにコピーされます。ショートカットは、ルール・アイコンの左下に上向き矢印として表示されます。

ビジネス・ルールの削除

ビジネス・ルールは、システム・ビューで削除します。ビジネス・ルールは、他のルールまたはルールセットによって使用されていない場合のみ削除できます。ルールが使用されている場合は、削除する前に、そのルールを使用しているルールおよびルールセットから除去するか、これらのルールおよびルールセットのコピーを作成する必要があります。ルールが他のルールおよびルールセットによって使用されているかどうかを確認するには、ルールの使用状況を表示します。(97ページの「[ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示](#)」を参照してください。)

▶ ビジネス・ルールを削除するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

- 注：** Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。
- 2 削除しようとするルールが他のルールセットにもルールにも使用されていないことを確認してください。(97 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示」を参照してください。)
 - 3 削除するルールを右クリックして、「削除」を選択します。
 - 4 「OK」をクリックしてルールの削除を確定します。

ビジネス・ルールの印刷

ビジネス・ルールのプロパティ、フロー・チャートおよびコンポーネントの詳細を印刷できます。たとえば、配賦費用の式コンポーネントが含まれるビジネス・ルールを印刷すると、式の構文、式を構成する関数および変数、ルールのフロー・チャートの手順要約(図ではない)、およびルールのプロパティが出力されます。

注： ビジネス・ルールセット、テンプレートおよびコンポーネントはいずれも印刷できません。印刷できるテンプレートとコンポーネントは、印刷するビジネス・ルールで使用されている場合のみです。

▶ ビジネス・ルールを印刷するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。

注： Operational Planning ビジネス・ルールを開く場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 2 印刷するルールを選択します。
- 3 「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

注： ルール・デザイナー内から「ファイル」、「印刷」の順に選択してルールを印刷することもできます。

- 4 「印刷プレビュー」で、次のことを行います:

1. 「印刷」オプションを選択します:

- 用紙サイズを選択します。
- 「縦長」または「横長」の印刷方向を選択します。

2. 「ルール情報」オプションを選択します:

- 「プロパティ」タブからルールの説明、ルール名、ルールが属するアプリケーション、所有者、作成日、最終変更日などその他の詳細を印刷する場合は、「一般ルール情報」を選択します。
- フロー・チャートを印刷して、コンポーネント詳細を展開または縮小した状態にする場合は、「フロー・チャート」および「展開済」または「縮小済」を選択します。

- コンポーネントを横(水平)方向に印刷するページ数を選択します。
- コンポーネントを下(垂直)方向に印刷するページ数を選択します。

3. 「ページの順序」 オプションを選択します:

- 「縦の次に横」: フロー・チャート内のコンポーネントは、前の手順で指定したページ数を下方向(行のように垂直方向)に印刷してから横方向(列のように水平方向)に印刷します。
- 「横の次に縦」: フロー・チャート内のコンポーネントは、前の手順で指定したページ数を横方向(列のように水平方向)に印刷してから下方向(行のように垂直方向)に印刷します。

4. 残りの「ルール情報」 オプションを選択します:

- フロー・チャートのコンポーネントの要約を印刷する場合は、「要約」を選択します。
- ルールで使用されている変数の情報を印刷する場合は、「変数セクション」を選択します。
- ルール内のコンポーネントについての詳細情報を印刷する場合は、「詳細セクション」を選択します。
- 要約、変数および詳細セクションの間に改ページを作成する場合は、「セクションの前に改ページ」を選択します。(このオプションはデフォルトで選択されています。)
- 他のルールに含まれているルールを印刷する場合は、「ネストされたルール」を選択します。

5 「PDFの生成」を選択します。

ビジネス・ルールの PDF ファイルが Adobe Acrobat で開きます。

注: スクリプトのビジネス・ルールのみ印刷する場合、次のようになります: 1) PDF ファイルの「ルールの詳細」セクションにはビジネス・ルール・スクリプトが含まれます。2) PDF ファイルの「フロー・チャート」セクションには「開始」および「終了」ノードのみが含まれます。3) PDF ファイルのフロー要約セクションは空です。

6 Adobe Acrobat を「印刷」アイコンをクリックします。

7 「印刷」ダイアログで、使用しているプリンタ特定のオプションを選択して、「印刷」をクリックします。

ビジネス・ルールセットについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

同時または順次起動できる複数のビジネス・ルール(またはビジネス・ルールセット)を組み合わせることでビジネス・ルールセットを作成します。

Financial Management、Planning、Operational Planning または Oracle General Ledger アプリケーションのビジネス・ルールセットを作成します。(ユーザーがルールセットを作成できるかどうかは、Shared Services で割り当てられた役割によって決まります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割管理ガイド』を参照してください。)ルールおよびルールセットは、対象のルールセットにドラッグ・アンド・ドロップして追加します。

ルールセットを作成および保存すると、検証および配置できます。ルールセットは、Financial Management (Financial Management ルールセットの場合)、Planning (Planning ルールセットの場合)、Operational Planning (Operational Planning ルールセットの場合)または Oracle General Ledger (Oracle General Ledger で使用される Essbase ルールセットの場合)で起動できます。

注： ルールセットは、Essbase 集約ストレージまたはブロック・ストレージ・アプリケーションではサポートされません。ルールセットは、Oracle General Ledger で使用される Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでサポートされています。

ビジネス・ルールセットの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

システム・ビューからビジネス・ルールセットを作成できます。ビジネス・ルールは、リスト・ビュー、カスタム・ビューおよび配置ビューからも、ルールセット・デザイン、テンプレート・デザインおよびコンポーネント・デザイン内からも作成できます。

▶ ビジネス・ルールセットを作成するには:

- 1 ルールセットの名前を入力します。
- 2 「アプリケーション・タイプ」(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。

Oracle General Ledger または Operational Planning アプリケーションで Essbase 集約ストレージ・アプリケーションを操作している場合は、「Essbase」アプリケーション・タイプを選択します。

- 3 「アプリケーション」を選択します。
- 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - Financial Management アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを選択した場合は、「計算タイプ」を選択します。
 - Planning アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを選択した場合は、「プラン・タイプ」を選択します。
 - Essbase アプリケーション・タイプおよび Operational Planning アプリケーションを選択した場合は、「計算タイプ」を選択します。

注： システム・ビューから、ルールセットを右クリックし、「新規」を選択して新規ビジネス・ルールセットを作成すると、「新規ルールセット」ダイアログにアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび使用している計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースが移入されません。

5 「OK」をクリックします。

新規ルールセットがルールセット・デザイナに表示されます。ビジネス・ルールセットを設計するには、[82 ページの「ビジネス・ルールセットの設計 \(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。

ビジネス・ルールセットの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

「新規ルールセット」ダイアログでルールセットを作成すると、ルールセット・デザイナに表示されます。

▶ ビジネス・ルールセットを設計するには:

- 1 [81 ページの「ビジネス・ルールセットの削除\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)の手順を実行します。
- 2 「ルールセット・デザイナ」でルールセットを作成するには、「ルールセット・パレット」から既存のルールおよびルールセットをドラッグしてフロー・チャートにドロップします。

ヒント： 「ナビゲート」メニューの下にある上下矢印ボタンを使用してルールセット内のルールを並べ替えできます。上下に移動するには、ルールを選択して、正しい位置にくるまで上下矢印ボタンをクリックします。Financial Management アプリケーション内のルールはルールセット内で連続して起動されるため、ルールの順序は重要です。

注： Planning、Operational Planning および Essbase ルールセットには、異なるアプリケーションで作成して配置されたルールおよびルールセットを含められます。Financial Management ルールおよびルールセットは、同じ計算タイプに属するか、汎用計算タイプに属している必要があります。

- 3 「プロパティ」で、ルールセットのプロパティを入力します。(「ルールセット・デザイナ」で、作成しているルールセット内のルールまたはルールセットを選択すると、新規ルールセットのプロパティではなくそのプロパティが「プロパティ」に表示されます。)
 - オプション: 50 文字までの新規名前を入力して、名前を編集します。(「新規ルールセット」ダイアログ・ボックスの名前がデフォルトになります。)
 - オプション: 255 文字以下のルール説明を入力します。

- **オプション:** ルールセット内のルールおよびルールセットを同時に起動する場合は、「並列実行の使用可能」を選択します。デフォルトでは、1つのルールセットに属するルールおよびルールセットは連続して起動します。そのルールセット内の各ルールまたはルールセットの実行でエラーが発生すると、次のルールまたはルールセットは起動されません。

ネストされた複数のルールセットがルールセットに含まれ、これらのネストされたルールセットの「並列実行の使用可能」設定が親のルールセットと異なる場合は、ネストされたルールセットの設定が適用されます。たとえば、ルールセット 1(並列処理のフラグが付いている)があり、それにルール 1、ルール 2 およびルールセット 2(連続処理のフラグが付いている)が含まれる場合、ルールセット 1 に並列処理のフラグが付いていても、ルールセット 2 内のルールおよびルールセットは連続して処理されます。

- **オプション:** ルールセットのコメントを入力します。たとえば、ビジネス・ルールセットの機能を説明するコメントを入力できます。
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - ルールセットのルールにログ・テキストがある場合は、ルールセットの起動時にこのログ・テキストがログ・ファイルに含められるように、「ロギングの使用可能」を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注: ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- ルールセットの起動時にログ・ファイルにルールセットの処理に要した時間が記録されるように、「タイマーの使用可能」を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な3つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- ルールセットを Financial Management で起動できるように、「起動の使用可能」を選択します。

注: ビジネス・ルールは Financial Management では起動できません。

- **Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「開始日」および「終了日」機能を使用して、ビジネス・ルールセットを起動する日付範囲を指定します。この日付範囲外でビジネス・ルールセットを起動できません。
 - ビジネス・ルールセットを起動する際の開始日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「開始日」を選択します。
 - ビジネス・ルールセットを起動する際の終了日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「終了日」を選択します。

4 「用途」には、そのルールを使用するルールセットがあれば確認できます。(このタブで情報は変更できません。)これが、このルールセットを使用するルールセットについて確認できる情報です:

- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの名前
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの計算、プラン・タイプまたはデータベース
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの説明

注: デフォルトでは、作成中のルールセットは他のルールセットによって使用されません。

5 **Financial Management ユーザーのみ:** 「スクリプト」でテキスト文字列を検索するには、次を実行します。

- 「検索」アイコンをクリックしてスクリプト内のテキスト文字列を検索します。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 4. 「検索」をクリックします。
- スクリプト内のテキスト文字列を検索および置換する場合には、「検索/置換」アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 検索したテキストを置換するテキストを入力します。
 3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 5. テキスト文字列の1つのインスタンスを検索して、一度に置換する場合には、「置換」をクリックします。
 6. テキスト文字列のすべてのインスタンスを検索して、一度に置換する場合には、「すべて置換」をクリックします。

- 「コメントの表示」 および 「コメントの非表示」 アイコンをクリックして、スクリプト内のシステム生成のコメントを表示または非表示します。(デフォルトでは、スクリプト内にシステム生成のコメントが表示されません。)

注： 「コメントの表示」 および 「コメントの非表示」 の機能は、自身および他のユーザーがスクリプトに追加するコメントには影響しません。Calculation Manager で、ビジネス・ルールをグラフィカル・フォーマットに変換するために使用するコメントにのみ影響します。

- 6** Planning、Operational Planning、Essbase または Oracle General Ledger 変数を使用している場合は、ルールの起動時に各変数の最初のインスタンスのみが表示されるように、「変数」で「変数のマージ」を選択して、そのルールセット内のルールで使用される同じ変数のすべてのインスタンスをマージします。このチェック・ボックスを選択しない場合は、各変数のすべてのインスタンスが表示されます。

注： 「変数のマージ」を選択する場合、ユーザーが実行時プロンプトで入力する最初の値が、検証および起動時に、後続のすべての実行時プロンプトで使用されます。

次のタスクは、「変数」で実行できます：

- ビジネス・ルールセットで使用される変数の名前を表示します。
- 変数を使用されるアプリケーションの範囲を表示します。
- 変数が実行時プロンプトとして使用される際に、変数をユーザーに表示するか非表示にするかを指定します。
- メンバー・セレクタを使用して、変数に値を選択します。
- メンバー・セレクタを使用して、変数に検証値を選択します。これにより、変数に異なる値を使用して、ビジネス・ルールセットのビジネス・ルールを検証できます。
- メンバー・タイプの Planning 実行時プロンプト変数のセキュリティ設定を選択します：
 - 「デフォルトの使用」：Planning で、メンバーへのアクセスが「なし」に設定されていない場合、デフォルトのセキュリティ設定が有効になります。
 - 「読取り」：Planning でビジネス・ルールを起動する際に、実行時プロンプトに選択できるメンバーをユーザーが表示できます。
 - 「書込み」：Planning でビジネス・ルールを起動する際に、実行時プロンプトに選択できるメンバーをユーザーが変更できます。
 - 「承認」：メンバーに対する書込みアクセス権があり、メンバーが Planning でプランニング・ユニットに属する場合に、実行時プロンプトに選択できるメンバーをユーザーが変更できます。

- 7** 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールセットを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

システム・ビュー内から、ビジネス・ルールセットを開きます。ルールセットは、ルール・デザイナー、コンポーネント・デザイナーおよびテンプレート・デザイナー内で「ファイル」、「開く」の順に選択して開くこともできます。

▶ ビジネス・ルールセットを開くには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開し、開くルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットが含まれる計算タイプを展開します。ルールセットを右クリックして、「開く」をクリックします。

ビジネス・ルールセット内のビジネス・ルールを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

システム・ビューまたはルールセット・デザイナーでビジネス・ルールセット内からビジネス・ルールを開くことができます。

▶ ビジネス・ルールセット内でビジネス・ルールを開くには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプ、「ルールセット」の順に展開し、開くルールを含むルールセットを展開します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールを含むルールセットを展開します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ：**「ルールセット」を展開し、計算タイプを展開し、開くルールが含まれるルールセットを展開します。

3 開くルールを右クリックして、「開く」を選択します。

ヒント： ビジネス・ルールに属するルールはルールセット・デザイナー内で開くこともできます。これを行うには、ルールセット・デザイナー内でルールを右クリックし、「開く」を選択します。

ビジネス・ルールセットへのビジネス・ルールの追加(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルールは、同じアプリケーション・タイプに属するビジネス・ルールセットに追加できます。ルールセット内のルールは Financial Management で順次に起動されるため、ルールセット内でのルールの順序は重要です。他のアプリケーション・タイプに属するルールセットでは、ルールセットのルールは順次または同時に起動できます。

▶ ビジネス・ルールをビジネス・ルールセットに追加するには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ：** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開し、開くルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
- **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ：** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ：** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットが含まれる計算タイプを展開します。ルールセットを右クリックして、「開く」をクリックします。

3 「ルールセット・デザイナー」の「既存のオブジェクト」で、アプリケーションと、追加するルールが含まれるプラン・タイプ、計算タイプまたはデータベースを展開します。

- 4 ルールを追加するには、「ルールセット・デザイナー」にルールをドラッグ・アンド・ドロップします。
- 5 ルールセットに追加する各ルールに対して[手順 4](#)を繰り返します。
- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールセットからのビジネス・ルールの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルールをビジネス・ルールセットから除去しても、そのルールは消去されません。ルールセットとは関係なくデータベース内に存在します。

▶ ビジネス・ルールをビジネス・ルールセットから除去するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開し、開くルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
- 注:** Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。
- **Operational Planning ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットが含まれる計算タイプを展開します。ルールセットを右クリックして、「開く」をクリックします。
- 3 「ルールセット・デザイナー」で、除去するルールを右クリックして、「除去」を選択します。
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールセットの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [89 ページの「ビジネス・ルールセットの編集\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)

- 92 ページの「別のアプリケーションへのビジネス・ルールセットのコピー (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)」

ビジネス・ルールセットの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルールセットの次のプロパティを編集できます:

- ビジネス・ルール・コンポーネント
- ビジネス・ルールの名前
- ビジネス・ルールの説明
- ビジネス・ルール・コメント
- Financial Management アプリケーションの場合は、ビジネス・ルールにログ・ファイルおよびタイマーがあるかどうか
- Planning アプリケーション、変数をマージする必要があるかどうか

▶ ビジネス・ルールセットを編集するには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開し、編集するルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
- **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、編集するルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットが含まれる計算タイプを展開します。ルールセットを右クリックして、「開く」をクリックします。

3 「ルールセット・デザイナー」で、新規ルールおよびルールセットを追加、コピー、削除、順序変更するには:

- ルールまたはルールセットをルールセットから削除するには、ルールまたはルールセットを選択して右クリックし、「除去」します。
- ルールまたはルールセットをルールセットに追加するには、「既存のオブジェクト」で、既存のルールとルールセットを「ルールセット・デザイナー」にドラッグ・アンド・ドロップします。

注： ルールセットに追加するルールおよびルールセットは編集しているルールセットと同じアプリケーション・タイプに属している必要があります。Financial Management ルールおよびルールセットは、同じ計算タイプに属するか、汎用計算タイプに属している必要があります。

- ルールセット内のルールまたはルールセットを開くには、そのルールまたはルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
- ルールセット内でルールまたはルールセットを並べ替えるには、「ナビゲート」メニューの下にある上下矢印ボタンを使用します。ルールまたはルールセットを上下させるには、そのルールまたはルールセットをクリックして、正しい位置にくるまで上下矢印ボタンをクリックします。

4 「プロパティ」で、ルールセットのプロパティを編集します。(「ルールセット・デザイナー」で、このルールセットに追加したルールを選択すると、ルールのプロパティが「プロパティ」タブを表示されます。)

- **オプション:** 50 文字までの新規名前を入力して、名前を編集します。(「新規ルールセット」ダイアログ・ボックスの名前がデフォルトになります。)
- **オプション:** 255 文字以下の新規説明を入力して説明を編集します。
- **Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「並列実行の使用可能」の選択を編集します。ルールセット内のルールおよびルールセットを同時に起動するには、このオプションを選択します。連続して実行する場合は、このオプションを選択解除します。デフォルトでは、ルールセット内のルールおよびルールセットが連続して実行されます。ルールセット内の各ルールまたはルールセットがエラーなく実行されない、次は実行されません。

ネストされた複数のルールセットがルールセットに含まれ、これらのネストされたルールセットの「並列実行の使用可能」設定が親のルールセットと異なる場合は、ネストされたルールセットの設定が適用されます。たとえば、ルールセット 1(並列処理のフラグが付いている)があり、それにルール 1、ルール 2 およびルールセット 2(連続処理のフラグが付いている)が含まれる場合、ルールセット 1 に並列処理のフラグが付いていても、ルールセット 2 内のルールおよびルールセットは連続して処理されます。

- コメントの編集
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - ルールにログ・テキストがある場合は、ルールの起動時にこのテキストがログ・ファイルに含められるように「ロギングの使用可能」を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注： ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- ルールセットの起動時にログ・ファイルにルールセットの処理に要した時間が記録されるように「タイマーの使用可能」を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な3つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- ビジネス・ルールセットを **Financial Management** で起動できるように「起動の使用可能」を選択します。

注： ビジネス・ルールは **Financial Management** では起動できません。

- **Oracle General Ledger ユーザーのみ：**「開始日」および「終了日」機能を使用して、ビジネス・ルールセットを起動する日付範囲を指定します。この日付範囲外でビジネス・ルールセットを起動できません。
 - ビジネス・ルールセットを起動する際の開始日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「開始日」を選択します。
 - ビジネス・ルールセットを起動する際の終了日を選択できるカレンダーにアクセスするには、「終了日」を選択します。
- 5 「用途」には、そのルールを使用するルールセットがあれば確認できます。(このタブの情報は編集できません。)これが、このルールセットを使用するルールセットについて確認できる情報です：**
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの名前
 - そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ
 - そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットのアプリケーション名
 - そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
 - そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
 - そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの説明

- 6 Planning、Oracle General Ledger および Operational Planning ユーザーのみ：**ルールの起動時に各変数の最初のインスタンスのみが表示されるように、「変数」で「変数のマージ」を選択して、そのルールセットのルールで使用される同じグローバル変数のすべてのインスタンスをマージします。このチェック・ボックスを選択しない場合は、各変数のすべてのインスタンスが表示されます。

注：「変数のマージ」を選択する場合、ユーザーが実行時プロンプトで入力する最初の値が、検証および起動時に、後続のすべての実行時プロンプトで使用されます。

マージできるのはグローバル変数のみです。

- 7 「ファイル」、「保存」の順に選択します。**

別のアプリケーションへのビジネス・ルールセットのコピー (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

システム・ビューで、ビジネス・ルールセットを別のアプリケーションにコピーできます。これは、両方のアプリケーション・タイプと計算タイプ(Financial Management ルールセットの場合)、プラン・タイプ(Planning および Operational Planning ルールセットの場合)、またはデータベース(Oracle General Ledger で使用される Essbase ルールセットの場合)が同じ場合です。

注： ビジネス・ルールセットは、Oracle General Ledger で使用される集約ストレージ・アプリケーションを除き、Essbase 集約ストレージまたはブロック・ストレージ・アプリケーションではサポートされません。

▶ ビジネス・ルールセットを別のアプリケーションにコピーするには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、ルールセットが含まれる計算タイプを展開します。
- 3 コピーするビジネス・ルールセットを右クリックして、「コピー先」を選択します。

ヒント： ルールセット・デザイナーでの操作時にビジネス・ルールセットをコピーして、別のビジネス・ルールセットまたはビジネス・ルールに貼り付けることもできます。ルールセット名を選択して、「編集」、「コピー」の順に選択し、コピーするビジネス・ルールまたはルールセットを開いて、「編集」、「貼付け」の順に選択します。

- 4 「コピー先」に、ビジネス・ルールセットの新しい名前を入力するか、デフォルト名を受け入れて、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを選択します。

注： 複数のアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプにビジネス・ルールセットをコピーできません。

- 共有コンポーネントをコピーするかどうか、および既存のコンポーネントを同じ名前のオブジェクトで置換するかどうかを選択します。

注： これらのオプションを選択できるのは、新しいアプリケーションにコピーするビジネス・ルールセットに共有コンポーネントがある場合のみです。

- 「OK」をクリックします。

選択したアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプに新規ビジネス・ルールセットが追加されます。これをシステム・ビューで確認する際、アプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。アプリケーション・リストをリフレッシュするには、ツールバーの「リフレッシュ」アイコンをクリックします。「ルールセット」またはアプリケーション・リストのその上のレベルをリフレッシュして新規ルールセットを確認することもできます。95 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ」を参照してください。

ビジネス・ルールセットの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルールセットを作成または編集したら保存する必要があります。ビジネス・ルールセットを保存すると、作成対象のアプリケーションおよびアプリケーション・タイプに保存されます。保存後には、配置、検証および起動できます。

Calculation Manager でビジネス・ルールセットの配置と検証を行うことができます; Financial Management (Financial Management ルールセットの場合)、Planning (Planning ルールセットの場合)、Operational Planning (Operational Planning ルールセットの場合)または Oracle General Ledger (Oracle General Ledger で使用される Essbase ルールセットの場合のみ)から起動できます。

- ▶ ビジネス・ルールセットを作成または編集した後に保存するには、「ファイル」、「保存」の順に選択するか、「保存」アイコンをクリックします。

注： ビジネス・ルールセットを保存した後にシステム・ビュー内で確認する際、アプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。これを行うには、システム・ビューで任意のノードまたはオブジェクトを右クリックし、「リフレッシュ」を選択します。ツールバーの「リフレッシュ」アイコンをクリックしてシステム・ビューのアプリケーション・リスト全体をリフレッシュすることもできます。

異なる名前でのビジネス・ルールセットの保存 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

「名前を付けて保存」を使用すると、異なる名前でビジネス・ルールセットを保存できます。異なる名前で保存するとそのルールセットのコピーが作成されます。

▶ 異なる名前でのビジネス・ルールセットを保存するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開します。
- 3 異なる名前での保存するルールセットを右クリックして、「開く」を選択します。
- 4 「ルールセット・デザイナー」で、「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。
- 5 「名前を付けて保存」で、新しいルールセット名を入力し、アプリケーションおよび計算タイプまたはプラン・タイプを選択します。「OK」をクリックします。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、開くルールセットが含まれる計算タイプを展開します。

注: 異なる名前での保存したルールセットのアプリケーション・タイプは変更できません。新規ルールセットのアプリケーション・タイプは、作成元のルールセットのアプリケーション・タイプと同じである必要があります。ルールセットが Financial Management ルールセットの場合、計算タイプを変更できません。新規ルールセットの計算タイプは、元のルールセットと同じである必要があります。

新規ルールセットがシステム・ビューのアプリケーション・リストに追加されます。

ビジネス・ルールセットの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルールセットは、システム・ビューで削除します。ビジネス・ルールセットを削除できるのは、他のビジネス・ルールセットによって使用されていない場合のみです。あるルールセットが他のルールセットによって使用されているかどうかを確認するには、ルールセットの使用状況を表示します。(97 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示」を参照してください。)ビジネス・ルールセットが使用されている場合は、それを使用しているビジネス・ルールセットから除去するか、使用側のビジネス・ルールセット用のコピーを作成しないと、そのビジネス・ルールセットは削除できません。

▶ ビジネス・ルールセットを削除するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよび「ルールセット」を展開します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開します。
- 注:** Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。
- **Operational Planning ユーザーのみ:** 「ルールセット」を展開し、削除するルールセットが含まれる計算タイプを展開します。
- 3 ルールセットが別のルールセットに使用されていないことを確認するには、そのルールセットを右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。(97 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示」を参照してください。)
 - 4 削除するルールセットを右クリックして、「削除」を選択します。
 - 5 「OK」をクリックしてルールセットの削除を確認します。

ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ

システム・ビューでは、アプリケーション・リストのレベルをリフレッシュできます。アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、複数の

ルールセットやルール、あるいは1つのルールセットやルールをリフレッシュできます。

デフォルトで、アプリケーション、アプリケーション・タイプ、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースをリフレッシュする場合は、属するすべてのルール、ルールセット、コンポーネントおよびテンプレートがリフレッシュされます。ただし、アプリケーション内でルールセットまたはルールをリフレッシュしても、アプリケーション・リストまたは他のアプリケーションに属するルールセットやルールの上位レベルはリフレッシュされません。たとえば、Planning アプリケーションとプラン・タイプ内のルールをリフレッシュすると、そのアプリケーションとプラン・タイプ内のすべてのルールもリフレッシュされますが、他のプラン・タイプや他の Planning アプリケーション内のルールはリフレッシュされません。

注： ツールバーの「リフレッシュ」アイコンをクリックしてシステム・ビュー内のアプリケーション・リスト全体をリフレッシュすることもできます。

▶ ビジネス・ルールまたはルールセットをリフレッシュするには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプとアプリケーションを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ルールセットをリフレッシュするには、計算タイプを展開し、「ルールセット」を右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。
 - **Planning、Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning ユーザーのみ:** ルールセットをリフレッシュするには、「ルールセット」を右クリックして「リフレッシュ」を選択します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、プラン・タイプと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- ルールをリフレッシュするには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開して、「ルール」を右クリックし、「リフレッシュ」を選択します。

ヒント： アプリケーション・タイプ、アプリケーション、またはリフレッシュするビジネス・ルールを含む計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを右クリックして、「リフレッシュ」を選択することもできます。

ルール、ルールセット、テンプレート、式またはスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示

このダイアログ・ボックスを使用してビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、カスタム定義テンプレートおよび式またはスクリプト・コンポーネントを使用しているオブジェクトを確認します。次のトピックを参照してください:

- ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用に関する情報を表示するには、[97 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示」](#)
- カスタム定義テンプレートの使用に関する情報を表示するには、[160 ページの「カスタム定義テンプレートの使用状況の表示\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- Financial Management、Planning または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションの式またはスクリプト・コンポーネントの使用に関する情報を表示するには、[236 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- Essbase 集約ストレージ・アプリケーションの式コンポーネントの使用に関する情報を表示するには、[258 ページの「式コンポーネントの使用状況の表示\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)

ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用状況の表示

ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用しているビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットを表示できます。ルールまたはルールセットの使用状況の表示は、ルールまたはルールセットを削除する場合やこれを使用しているオブジェクトを確認する場合に役立ちます。

- ▶ ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用を表示するには:
- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ルールセットの使用を表示するには、計算タイプおよび「ルールセット」を展開し、使用を確認するルールセットを右クリックして、「使用状況の表示」を選択します。
 - **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** ルールセットの使用を表示するには、「ルールセット」を展開し、使用を確認するルールセットを右クリックして、「使用状況の表示」を選択します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning アプリケーションの場合、プラン・タイプと同じレベルのアプリケーションごとに「ルールセット」ノードが1つだけあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ:** ルールセットの使用状況を表示するには、「ルールセット」を展開し、使用を確認するルールセットが含まれる計算タイプを展開します。
- ルールの使用状況を表示するには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。(Operational Planning ユーザーの場合、「ルール」ノードを展開した後で、使用するルールが含まれる「計算タイプ」も展開する必要があります。)使用を確認するルールを右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。

3 ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットについて次の情報を表示できません:

- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの名前
- ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの説明

注： ルールまたはルールセットの使用は、「使用」タブのルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーから確認することもできます。

4 情報を確認した後、「OK」をクリックします。

オブジェクトの所有者の変更

オブジェクト(すなわち、ルール、ルールセット、テンプレート、式またはスクリプト・コンポーネント)が属するアプリケーションが配置済であれば、システム・ビューでオブジェクトの所有者を変更できます。デフォルトでは、オブジェクトを作成したユーザーが所有権を変更しないかぎり、そのユーザーがオブジェクトの所有者です。ユーザーが編集できるのは自分が所有しているオブジェクトのみですが、管理者は例外でどのオブジェクトでも編集できます。

▶ オブジェクトの所有者を変更するには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** ルールセットの所有権を変更するには、計算タイプおよび「ルールセット」を展開します。
- **Planning、Essbase および Oracle General Ledger ユーザーのみ:** ルールセットの所有権を変更するには、「ルールセット」を展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning、Essbase および Oracle General Ledger アプリケーションの場合、各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- **Operational Planning ユーザーのみ:** ルールセットの所有権を変更するには、「ルールセット」を展開し、所有者を変更するルールセットが含まれる計算タイプを展開します。
- ルールの所有権を変更するには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。
- 式コンポーネント、スクリプト・コンポーネントまたはカスタム定義テンプレートの所有権を変更するには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開して、所有権を変更するオブジェクトに応じて、「式」、「スクリプト」または「テンプレート」を展開します。

3 オブジェクトを右クリックして、「所有者の変更」を選択します。

4 「所有者の変更」で、オブジェクトの所有権を移す先の所有者を選択します。

5 「OK」をクリックします。

所有権を割り当てられたユーザーはオブジェクトを編集できます。

3

テンプレートの操作 (Financial Management、 Planning、Operational PlanningおよびEssbaseブロッ ク・ストレージ・アプリケー ションのユーザーのみ)

この章の内容

テンプレートについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	102
システム・テンプレートの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	102
カスタム・定義テンプレートの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	140
カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	161
ビジネス・ルールのフロー・チャートへのカスタム定義テンプレートの挿入 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)	162
ビジネス・ルールのフロー・チャートからのカスタム定義テンプレートの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	163
カスタム定義テンプレートでのテキストの検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	164
設計時プロンプトのテキストの検索および置換.....	165
テンプレートの検索(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	167

テンプレートについて(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションの ユーザーのみ)

テンプレートはビジネス・ルール内の計算を実行します。Calculation Manager にはシステム・テンプレートおよびカスタム定義テンプレートが含まれます。システム・テンプレートを使用すると、データの割当て、集約、コピーおよび消去などの計算を実行できます。カスタム定義テンプレートは、ビジネスのニーズに応じて管理者が作成するテンプレートです。

システムおよびカスタム定義のテンプレートは、既存のオブジェクト・パレットからドラッグし、ルール・フロー・チャートにドロップすることで、ビジネス・ルールに含めることができます。ビジネス・ルールのコンポーネントのように、テンプレートには、パラメータを入力できる一連の手順が含まれます。これらのパラメータをテンプレート・ロジックと組み合わせて、ビジネス・ルール内で計算を行います。

ルール・デザイナーからカスタム定義テンプレートを作成するには、ルール・フロー・チャート内のコンポーネントを選択し、テンプレートとして保存します。カスタム定義テンプレートは、テンプレート・デザイナーを使用して、システム・ビューで「ファイル」、「新規テンプレート」の順に選択することで作成することもできます。

注： テンプレートは、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでサポートされていません。

システム・テンプレートの操作(Planning、 Operational Planning および Essbase ブロック・ ストレージ・アプリケーションのユーザーの み)

次のトピックを参照してください:

- 103 ページの「[Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージのシステム・テンプレートについて](#)」
- 105 ページの「[ビジネス・ルールでのシステム・テンプレートの使用 \(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」
- 138 ページの「[システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」
- 139 ページの「[ビジネス・ルール・フロー・チャートへのシステム・テンプレートの挿入\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」

- 140 ページの「ビジネス・ルールのフロー・チャートからのシステム・テンプレートの除去(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージのシステム・テンプレートについて

Calculation Manager では、すべてのシステム・テンプレートをウィザードとして使用できます。ウィザードでシステム・テンプレートを使用すると、ビジネス・ルールでのテンプレートの使用が容易になり、計算スクリプトの潜在的な構文エラーを減らせます。

システム・テンプレートで使用可能な設計時プロンプトは、ウィザードに従って行う選択に基づいてフィルタされます。たとえば、集約システム・テンプレートは、集約する密次元を選択する手順を表示しますが、集約に使用可能な密次元がない場合、その手順でドロップダウン・リストから選択可能な密次元はありません。この状況は、上位の FIX ステートメントですべての密次元が使用されている場合に起こる可能性があります。

テンプレートは、テンプレートをドロップするビジネス・ルールのメンバー範囲でどの次元が使用されているかを検出できます。たとえば、集約テンプレートをルールのメンバー範囲にドロップし、このメンバー範囲にすべての密次元が含まれている場合、テンプレートの密次元集約の手順は表示されません。これにより、計算スクリプト・エラーを回避できます。Essbase スクリプトでは、この次元がすでに使用されている場合は、FIX ステートメント内で次元の集約ができないためです。たとえば、ビジネス・ルールでメンバー範囲が子(YearTotal)で構成されている場合、期間での集約はできません。

上位メンバー範囲にシステム・テンプレートを含めると、システム・テンプレートはこれを検出できます。システム・テンプレートがメンバー範囲コンポーネント(つまり Fix ステートメント)にドロップされると、そのメンバー範囲で使用される次元は式で使用されないことになり、これらの次元はウィザードに表示されません。その結果、システム・テンプレート使用時の計算スクリプト構文ステートメント・エラーの可能性が減ります。たとえば、割当てシステム・テンプレートが、エンティティで構成されたメンバー範囲コンポーネントで使用される場合、エンティティ次元は、割当てを実行できる次元として表示されません。

Calculation Manager には、次のような Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのシステム・テンプレートが含まれています:

- 「データの消去」テンプレート: データベース内のある場所からデータを削除できます。割り当てる前にデータを消去できます。107 ページの「ビジネス・ルールでの「データの消去」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「データのコピー」テンプレート: データベース内のある場所から別の場所にデータをコピーできます。108 ページの「ビジネス・ルールでの「データのク

ピー」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

- 「金額-単価-レート」テンプレート: 3つの変数のうち2つを入力して、3番目の変数を計算できます。たとえば、販売されたアイテムのレートと単価を入力すると、Calculation Manager がそのアイテムの金額を計算します。109 ページの「ビジネス・ルールでの「金額-単価-レート」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「割当て - レベル間」テンプレート: データベース・アウトラインの複数のレベルでメンバーから集約されたデータを配布できます。110 ページの「ビジネス・ルールでの「割当て - レベル間」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「割当て - 単純」テンプレート: データベース・アウトラインの1つのレベルのメンバーのデータを配布できます。112 ページの「ビジネス・ルールでの「割当て - 単純」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 集約テンプレート: 次元の密度に従って次元を集約するために最適化されたスクリプトを生成できます。次元は全体または一部を集約して、子孫、子または祖先に集約できます。116 ページの「ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- データのエクスポート-インポート・テンプレート: データベース内のある場所からリレーショナル・リポジトリ内のファイルまたはテーブルにデータをエクスポートまたは逆にデータをインポートできます。また、バイナリ・ファイル・オプションを使用して以前にエクスポートしたデータもインポートできます。120 ページの「ビジネス・ルールでのデータのエクスポート-インポート・テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「SET コマンド」テンプレート: 計算スクリプトの実行を最適化するスクリプト・コマンドを入力できます。データ・ボリューム、データ処理、メモリー使用、スレッド・スクリプト・コマンドおよびロギング・スクリプト・コマンドを含められます。118 ページの「ビジネス・ルールでの「SET コマンド」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「割当て - 単純除外」テンプレート: データの割当て時に、割当て範囲からメンバーを除外できます。122 ページの「ビジネス・ルールでの「割当て - 単純除外」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「通貨換算」テンプレート: Planning のシステム・タイプの勘定科目(または選択した勘定科目)、および Essbase のユーザー定義属性を使用して、勘定科目の値をレポート通貨に換算できます。131 ページの「「通貨換算」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

ビジネス・ルールでのシステム・テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

システム・テンプレートを使用してビジネス・ルールを設計できます。ルール・デザイナーでビジネス・ルールを開いた後、アプリケーションを展開し、「システム・テンプレート」ノードからシステム・テンプレートをドラッグしてビジネス・ルールのフロー・チャートにドロップすると、「既存のオブジェクト」の下にシステム・テンプレートが表示されます。

▶ ビジネス・ルールでシステム・テンプレートを使用するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」を展開します。

注: Essbase 集約ストレージ・アプリケーションにはシステム・テンプレートはありません。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- システム・テンプレートを追加するルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- システム・テンプレートを追加するルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
- 「ファイル」、「新規」、「ルール」の順に選択して、システム・テンプレートをドラッグ・アンド・ドロップできる新規ビジネス・ルールを作成します。

3 ルール・デザイナーにルールが開いたら、「既存のオブジェクト」から「システム・テンプレート」ノードを展開します。

4 ビジネス・ルールに追加するシステム・テンプレートをドラッグして、フロー・チャートにドロップします。

システム・テンプレートをフロー・チャートにドロップすると、「要約」タブがアクティブになり、テンプレート・ウィザードが表示されます。

5 テンプレート・ウィザードでテンプレートの情報を入力します。

- 「データの消去」テンプレートの情報を追加するには、[107 ページの「ビジネス・ルールでの「データの消去」テンプレートの使用\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
- 「データのコピー」テンプレートの情報を追加するには、[108 ページの「ビジネス・ルールでの「データのコピー」テンプレートの使用\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
- 「金額-単価-レート」テンプレートの情報を追加するには、[109 ページの「ビジネス・ルールでの「金額-単価-レート」テンプレートの使用](#)

(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

- 「割当て - レベル間」テンプレートの情報を追加するには、110 ページの「ビジネス・ルールでの「割当て - レベル間」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「割当て - 単純」テンプレートの情報を追加するには、112 ページの「ビジネス・ルールでの「割当て - 単純」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 集約テンプレートの情報を追加するには、116 ページの「ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「SET コマンド」テンプレートの情報を追加するには、118 ページの「ビジネス・ルールでの「SET コマンド」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- データのエクスポート-インポート・テンプレートの情報を追加するには、120 ページの「ビジネス・ルールでのデータのエクスポート-インポート・テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「割当て - 単純除外」テンプレートの情報を追加するには、122 ページの「ビジネス・ルールでの「割当て - 単純除外」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 「通貨換算」テンプレートの情報を追加するには、131 ページの「「通貨換算」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

6 「プロパティ」で、テンプレートのキャプションを入力します。

7 「要約」に、テンプレート・ウィザードで入力した情報が表示されます。「編集」をクリックすると、情報を編集できます。

8 「スクリプト」では、グラフィカルでないフォーマットでテンプレートを表示できます。

注： このタブでは変更できません。テンプレート・スクリプトを変更する場合は、ビジネス・ルールを保存し、「編集」、「スクリプト」の順に選択してビジネス・ルールとそのコンポーネントをスクリプトに変換します。

9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールでの「データの消去」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ビジネス・ルールで「データの消去」テンプレートを使用してデータベース内の場所からデータを削除します。データを削除するには、削除するデータの場所(すなわち、アプリケーション、次元およびメンバー)を指定します。1つのメンバーまたは定義するメンバーのブロックに対応するデータを削除できます。

たとえば、ビジネス・ルールで「データの消去」テンプレートを使用して、データを実績から予測にコピーして変更する前に予測データを削除できます。

▶ ビジネス・ルールで「データの消去」テンプレートを使用するには:

- 1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。
- 2 「データの消去」テンプレート・ウィザードの「データの選択」で、次のいずれかのタスクを行います:

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

事前に定義されている選択には、作成する変数が移入されます。各タブで、表示される変数のタイプは異なる場合があります。メンバー選択があるタブでは、事前に定義されている選択を使用できます。事前に定義されている選択を使用する場合は、移入されたメンバーを変更することもできます。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

注: メンバー・セレクトでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 6 章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

- 3 「データの選択」で、次のタスクを行います:

1. 次のオプションを選択して、データの消去方法を指定します:

- 「すべて」:セルのみを消去。
- 「上位」:すべてのブロックを消去。
- 「動的」:動的計算および保管ブロックを消去。
- 「非入力」:未入力ブロックを消去。
- 「該当なし」:上位のブロックを消去。

2. ウィザードに対してデバッグ・ツールを有効にするかどうかを指定します。

- 4 HSP_Rates が疎に設定された複数通貨アプリケーションまたは単一通貨アプリケーションを使用している場合は、「設定」手順が表示されます。この手順には、「デー

「データの選択」タブで選択したメンバーが表示されます。単一メンバーが選択されている次元(密次元を推奨)を選択します。

注： 単一メンバーが選択されている次元を選択できない場合は、このテンプレートを使用できません。

5 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの「データのコピー」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「データのコピー」テンプレートは、データベースのある場所から指定した別の場所にデータをコピーするために使用します。

たとえば、「データのコピー」テンプレートを使用して、2007年度の勘定科目およびエンティティをコピーすることによって2008年度の予算を作成できます。この場合は、2007年度実績を2008年度予測にコピーします。

予算のあるバージョン(最悪の場合)があり、この予算のデータをコピーして、変更ができる最善の場合のバージョンを作成する場合にデータをコピーすることもできます。

▶ ビジネス・ルールで「データのコピー」テンプレートを使用するには:

- 1 **105 ページの手順 1** から **105 ページの手順 4** までを完了します。
- 2 「データのコピー」テンプレート・ウィザードの「視点(POV)」で、データのコピーを制限する次元とメンバーを選択します。「次へ」をクリックします。
- 3 「コピー元」で、次のタスクを行います:
 1. 「アクション」アイコンを使用して、データのコピー元となる次元のメンバーを選択します。
 2. 「次へ」をクリックします。
- 4 「コピー先」で、次のタスクを行います:
 1. 「アクション」アイコンを使用して、データのコピー先となる次元のメンバーを選択します。
 2. 「次へ」をクリックします。
- 5 「消去」で、新規データを宛先にコピーする前に、その宛先からデータを消去するかどうかを指定します。
- 6 「最適化」で、次のタスクを行います:
 1. コピーするデータが作成されていない場合は、「はい」を選択してデータのコピー・プロセスでこれらのブロックを作成します。データが作成されている場合は、「いいえ」を選択します。
 2. ブロックの作成を選択しない場合は、ブロックがすでに存在するかどうかを指定します。
 3. 「はい」を選択してブロックを作成する場合は、**109 ページの手順 7**に進みます。「いいえ」を選択する場合は、**109 ページの手順 6.4**に進みます。

4. 「コピー先-その他情報」で、前の手順で1つのメンバーのみを選択した次元を選択します。単一メンバーを選択した次元が見つからない場合は、「戻る」をクリックし、選択してかわりにブロックを作成します。
 5. 「オプション」で、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 「ブロックはすでに存在しますか?」: 「いいえ」を選択すると、欠落しているブロックが作成されます。
 - 「データをコピーするための条件を入力してください」: 条件を入力したら、[109 ページの手順 7](#)に進みます。条件を入力しない場合は、この手順の完了後に[109 ページの手順 6.6](#)に進みます。
 - 「コピー済データに適用するパーセンテージを入力してください(10%の場合は「10」を入力)または、その%増加しているメンバーを入力してください」
 6. 「消去」で、データをコピーする前に、宛先を消去するかどうかを指定します。
- 7 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの「金額-単価-レート」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「金額-単価-レート」テンプレートは、3つの変数のうち2つを指定した後に残りの1つを計算するために使用します。

たとえば、製品の収益をプランニングする場合に「金額-単価-レート」テンプレートを使用できます。製品によっては目標とする収益および数量がわかっているため、これらの2つの変数を使用して価格を決定します。

▶ ビジネス・ルールで「金額-単価-レート」テンプレートを使用するには:

- 1 [105 ページの手順 1](#) から [105 ページの手順 4](#) までを完了します。
- 2 「金額-単価-レート」テンプレート・ウィザードの「変数の入力」で、「アクション」アイコンを使用して、3つの変数のうちの2つについて値を選択します:
 - メンバー、変数、または関数を「金額」値として入力します。
 - メンバー、変数、または関数を「レート」値として入力します。
 - メンバー、変数、または関数を「単位」値として入力します。

[260 ページの「メンバーの操作」](#)、[279 ページの「変数の操作」](#) および [300 ページの「関数の操作」](#) を参照してください。

データベースで、#missing を示すメンバーが他の2つのメンバーの値に基づいて計算されます。

For Amount member input = Product Revenue

For Units member input = Quantity

For Rates member input = Price.

In the database, for Jan

Product Revenue = 500, Quantity = 10 and Price = # missing

This template calculates the Price based on Product Revenue / Quantity

注： このテンプレートは、メンバーの値が#missing でない場合は機能しません。

3 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの「割当て - レベル間」テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「割当て - レベル間」テンプレートは、データベース・アウトラインの2つの異なるレベルのメンバーからデータを配布するために使用します。

▶ ビジネス・ルールで「割当て - レベル間」テンプレートを使用するには:

- 1 **105 ページの手順 1** から **105 ページの手順 4** までを完了します。
- 2 「割当て - レベル間」テンプレート・ウィザードの「視点(POV)」で、割当て時に変更しないリスト内の次元ごとに次のいずれかのタスクを行い、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

注： メンバー・セクタでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 3 「ソース」で、リスト内の次元ごとに、次の3つのタスクのいずれかを行って割り当てるデータを所有するメンバーを選択します。

注： レベル間割当てに使用する次元は空にします。(次の手順でこの次元を選択します。)

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

4 「割当て範囲」で、次のタスクを行います:

1. データの割当て先の主次元を選択します。
2. 値を入力するか、「アクション」アイコンを使用して、データの割当て先の(主次元の)親メンバーを選択します。
3. 値を入力するか、「アクション」アイコンを使用して、割当てを開始する、データベース・アウトライン内のレベルの番号を選択します。
4. 値を入力するか、「アクション」アイコンを使用して、割当てを終了する、データベース・アウトライン内のレベルの番号を選択します。
5. 「次へ」をクリックします。

5 次のいずれかのタスクを行います:

- ソースのメンバーが、割当て範囲で使用される次元以外の次元のメンバーである場合、「ターゲット」で、「ソース」で選択したデータの割当て先となる次元のメンバーを選択します。(「ソース」で選択したメンバーがここにデフォルトで入力されます。)次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 割当て範囲で使用される次元と同じ次元をソースで使用する場合、「スクリプト」で、最適化のため、1つのメンバーのみの次元を表から選択します。(これは「オフセット」タブに表示される次元です。)

6 「ターゲット」で、テンプレートのパフォーマンスを最適化するために、前の手順で値を入力した次元のいずれかを選択します。

7 「オフセット」で、割り当てた値の合計数をオフセット・メンバーに書き込む場合は、リストにある次元から、合計を計算する割当て済メンバーを選択します。次の3つのタスクのいずれかを行い、「次へ」をクリックします:

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セクタ」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 「オフセット」タブで、1つの次元のみをソースとして選択した場合、割当て次元に対するオフセット・メンバーを定義します。
- 8 「ドライバ」で、次のいずれかのタスクを行って、割当て範囲の各メンバーに適用するパーセンテージを計算するための基準を指定します。「次へ」をクリックします。
- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セクタ」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 9 割当て次元に対するドライバの集約を更新するかどうかを指定します。
- 10 「他のオプション」で、次を指定します:
1. データを割り当てる前に割当て範囲を消去するかどうかを指定します。
 2. データを割り当てた後に割当て範囲を再集約するかどうかを指定します。
 3. 割り当てたデータ値の小数点以下の桁数を指定するには、「四捨五入メンバーを定義します」を選択します。
 4. ウィザードにデバッグ・ツールを使用するかどうかを指定します。
- 11 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの「割当て - 単純」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

データベース・アウトラインの1つのレベルで1つ以上のメンバーから別のメンバーにデータを配布するには、「割当て - 単純」テンプレートを使用します。

- ▶ ビジネス・ルールで「割当て - 単純」テンプレートを使用するには:
- 1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。
 - 2 「割当て - 単純」テンプレート・ウィザードの「視点(POV)」で、割当て時に変更しないリスト内の次元ごとに次の3つのタスクのいずれかを行い、「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

注： メンバー・セレクトでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

3 「割当て - 単純」テンプレート・ウィザードの「ソース」で、リストされる各次元について、次の3つのタスクのいずれかを行って、割り当てるデータを所有するメンバーを選択します。

注： リストされる次元ごとにメンバーを選択する必要があります。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

注： リストされる各次元について、事前定義済の選択に値が入力されない場合、空になっているすべての次元の値を入力する必要があります。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

4 割り当てるソース量のパーセンテージを入力するか、「アクション」アイコンをクリックして、このパーセンテージと同等のメンバー、変数または関数を選択します。(第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください)。「次へ」をクリックします。

5 「割当て範囲」で、次のタスクを行います:

1. データの割当て先の主次元を選択します。
2. メンバーを入力するか、「アクション」アイコンを使用してデータの割当て先の(主次元の)親メンバーを選択します。

データは、データベース・アウトラインの親メンバーの下のレベル0メンバー(つまり、下にメンバーのない、アウトライン内で最下位のメンバー)に割り当てられます。

3. 「次へ」をクリックします。

6 次のいずれかのタスクを行います:

- 「ソース」で複数の次元からメンバーを選択した場合、「宛先ターゲット」で、「ソース」で選択したデータの割当て先となる次元メンバーを選択します。(「ソース」で選択したメンバーがここにデフォルトで入力されます。)次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 前述の手順で選択した1つのメンバーから次元を選択します。
- 「ソース」タブで1つの次元からのみメンバーを選択した場合、「宛先 - オプション」で、最適化のため、この表で1つのメンバーのみを持つ次元を選択します。

7 次のいずれかのタスクを行います:

- 「ソース」タブで複数の次元からメンバーを選択した場合、「宛先オフセット」で、割り当てられた値の総量をオフセット・メンバーに書き込む場合は、リストにある次元から、合計を計算する割当て済メンバーを選択します。次のタスクのいずれかを実行し、「次へ」をクリックします:
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 割当てプロセスの前にオフセット・データを消去するかどうかを選択します。
- 「ソース」タブで1つの次元からのみメンバーを選択した場合、「宛先 - オフセット2」で、オフセットの次元を定義します。次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

- 割当てプロセスの前にオフセット・データを消去するかどうかを選択します。
- オフセットに使用する割当て範囲からのメンバーを指定します。

8 「ドライバ」で、次のタスクを行います:

1. 割当て方法を選択してデータを割り当てる方法を指定します。
 - 「均等に割当て」を選択して、データ値を割当て範囲に均等に割り当てます。
 - 「ドライバを使用して割当て」を選択して、割当て範囲の各メンバーに適用されるパーセンテージを計算します。
2. 次のタスクのいずれかを行って、「視点(POV)」で選択しなかった次元ごとにメンバーを選択します:
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
3. 「次へ」をクリックします。

9 「ドライバ・オプション」で、割り当てられたデータが正しいことを確認するために、データの割当て前にドライバのデータを再集約するかどうかを指定します。「次へ」をクリックします。

10 「他のオプション」で、次の手順を行います:

1. データを割り当てる前に割当て範囲からデータを消去するかどうかを指定します。
2. データを割り当てた後に割当て範囲を再集約するかどうかを指定します。新規値を確認する場合は、データを割り当てた後に値を再集約します。
3. データを四捨五入するかどうかを指定します。データを四捨五入するかどうかを指定します:
 - 割り当てたデータ値の小数点以下の桁数を指定するには、「四捨五入メンバーを定義します」を選択します。「四捨五入メンバーを定義します」を選択した場合は、「メンバーで四捨五入」で次のタスクを行います:
 1. この割当てに使用する小数点以下の桁数を入力します。(デフォルトの小数点以下の桁数は3です。)
 2. 割当ての四捨五入差異を適用するメンバーを、定義済選択を選択する、メンバーを選択する、またはリスト内の次元のメンバー、変数または関数を選択することによって入力します。
 - データ値を最大値に四捨五入するには、「最大値の使用」を選択します。「最大値の使用」を選択した場合は、「最大で四捨五入」で次のタスクを行います:

注：「最大値の使用」を使用すると、視点メンバーおよびオフセット・メンバーの両方にオフセットが書き込まれる場合があります。これは次の場合に起こります。1) 視点のメンバーがオフセットのメンバーと異なる場合。2) 「最大で四捨五入します。」タブで、「上のグリッドで選択したメンバーの次元を選択する」タスクの次元を選択し、その視点およびオフセット・メンバーが異なる場合。オフセット・メンバーのみにオフセットを書き込む必要がある場合は、「最大値の使用」タブで、視点およびオフセットの両方について同じメンバーを使用する次元を選択します。

1. この割当てに使用する小数点以下の桁数を入力します。(3 がデフォルトです。)または、「アクション」をクリックしてメンバー、関数または変数を選択します。
2. 一時的な計算に使用するメンバーを入力します。すでに選択されているメンバーを使用し、非計算メンバーを選択します。または、「アクション」をクリックしてメンバー、関数または変数を選択します。
3. 前述のグリッドで1つのメンバーを選択した次元を選択します。

注： 視点に疎メンバーがない場合は、次元を選択しません。

- 割り当てたデータ値をそのまま使用する場合は、「四捨五入なし」を選択します。
4. 欠落しているブロックを自動的に作成するかどうかを指定します。
 5. ウィザードでデバッグ・ツールを実行するかどうかを指定します。

11 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

集約テンプレートは、指定したメンバーのデータ値を集約するために使用します。これらの値のみがユーザーに対して表示されるように制限付きリストを定義できます。その他の設定で、データ値を現地通貨に集約するか、欠落した値を集約するかを指定することもできます。

たとえば、集約テンプレートを使用してレベル0のデータ次元を集約できます。レベル0を集約するには、集約テンプレートを実行してデータ次元内のメンバーの合計および小計を計算する必要があります。

▶ ビジネス・ルールで集約テンプレートを使用するには:

- 1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。
- 2 集約テンプレート・ウィザードの「視点(POV)」で、次のいずれかのタスクを行って集約を制限するメンバーを定義します。「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 3 「全次元集約」で、完全に集約する次元を5つまで選択します。3つの疎次元および2つの密次元を選択できます。「次へ」をクリックします。
- 4 「部分次元集約(密)」で、次のことが行えます:
1. 集約する密次元を2つまで選択します。
 2. 集約する各密次元ごとに、「アクション」アイコンを使用して集約するメンバーを選択します。
 3. 集約する密次元ごとに、集約する集約レベルを選択します。その子孫、子または祖先を集約できます。
 4. 「次へ」をクリックします。
- 5 「部分次元集約(疎)」で、次のことが行えます:
1. 集約する疎次元を3つまで選択します。
 2. 集約する各疎次元ごとに、「アクション」アイコンを使用して集約するメンバーを選択します。
 3. 集約する疎次元ごとに、集約する集約レベルを選択します。その子孫、子または祖先を集約できます。
 4. 「次へ」をクリックします。
- 6 「設定」で、データを現地通貨に集約するか、欠落した値を集約するかの設定およびその他の設定を指定します。
1. 現地通貨にデータを集約するには、「オン」を選択します。「オフ」を選択すると、データベースに入力された通貨にデータが集約されます。
 2. 集約で欠落した値を含めるには、「オン」を選択します。「オフ」を選択すると、欠落した値は集約されません。
 3. 疎に入力された次元で集約を最適化するには、「オフ」を選択します。「オフ」を選択すると、疎次元で計算が最適化されます。
 4. 計算機キャッシュに対して次のいずれかの値を選択します。計算機キャッシュは、計算操作中にデータ・ブロックを作成して追跡するために使用されるメモリー内のバッファです。計算機キャッシュの最適なサイズは集約する疎次元の数および密度によって異なります。(『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。)
 - 「高」: バイト数が最大の計算機キャッシュが使用されます。
 - 「デフォルト」: バイト数がデフォルトの計算機キャッシュが使用されます。
 - 「低」: バイト数が最小の計算機キャッシュが使用されます。

- 「オフ」: 計算機キャッシュは使用されません。
- 「すべて」: 1つの疎次元全体が計算されていなくても計算機キャッシュが使用されます。

7 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの「SET コマンド」テンプレートの使用 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「SET コマンド」テンプレートは、計算スクリプトの実行を最適化するスクリプト・コマンドを入力するために使用します。データ・ボリューム、データ処理、メモリー使用、スレッド・スクリプト・コマンドおよびロギング・スクリプト・コマンドを含められます。

▶ ビジネス・ルールで「SET コマンド」テンプレートを使用するには:

1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。

2 「SET コマンド」テンプレート・ウィザードの「データ・ボリューム」で:

1. すべてのデータ・ブロックを計算するか、使用済としてマークされたブロックのみを計算するかを指定します。高機能計算を使用すると、更新されたデータ・ブロックやそれに従属する親などの使用済ブロックのみが計算されます。したがって、計算が非常に効率的になります。
2. データをクリーンとしてマークする時点を指定します。
3. FIX コマンドの評価結果が空のメンバー・セットの場合に、計算を停止するかどうかを指定します。
4. 大きなデータベース・アウトライン内の疎次元に対する複雑な式の計算を最適化するかどうかを指定します。

Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

5. 「次へ」をクリックします。

3 「データ処理」では、次のことが行えます:

1. 欠落したデータ値を連結するかどうかを指定します。
2. 計算式により定数以外のものが疎次元のメンバーに割り当てられた場合に新規データ・ブロックを作成するかどうかを指定します。
3. メモリーにブロックを作成するかどうか、および欠落したデータ・ブロックを保管するかどうかを指定します。
4. 実行時依存の関数が保管されたメンバーの式に含まれている場合、バッチ計算中に密の動的計算メンバーの計算をオフにするかどうかを指定します。
5. 透過パーティションのあるアプリケーションに対して、ソースへのリモート計算をオンにするかどうかを指定します。

Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

6. 「次へ」をクリックします。

4 「メモリーの使用」では、次のことが行えます:

1. 計算機キャッシュのサイズを指定します。
 - 「高」: バイト数が最大の計算機キャッシュが使用されます。
 - 「デフォルト」: バイト数がデフォルトの計算機キャッシュが使用されます。
 - 「低」: バイト数が最小の計算機キャッシュが使用されます。
 - 「オフ」: 計算機キャッシュは使用されません。
 - 「すべて」: 1つの疎次元全体が計算されていなくても計算機キャッシュが使用されます。
 - 「変更しない(システム・デフォルトを使用)」: システムがデフォルトで使用する設定が使用されます。

注: このオプションは、ルールのスクリプトに表示されません。

2. 疎メンバー式の計算時にロックできるブロックの最大数を指定します。
 - 「高」: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックの最大数
 - 「デフォルト」: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックのデフォルト数
 - 「低」: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックの最小数
 - 「変更しない(システム・デフォルトを使用)」: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックの数

注: このオプションは、ルールのスクリプトに表示されません。

3. 「次へ」をクリックします。

5 「スレッド」では、次のことが行えます:

1. 並列計算に使用できるスレッド数を選択することによって、並列計算を使用可能にするかどうかを指定します。(デフォルトでは、シリアル計算が使用されますが、並列計算を使用すると計算を最適化できる場合があります。)
 - 32ビット・プラットフォームでブロックを格納するために、1から4の整数を1つ選択します。
 - 64ビット・プラットフォームでブロックを格納するために、1から8の整数を1つ選択します。
- 注:** 「オフ」を選択すると、シリアル計算が使用されます。並列計算は行われません。
- 集約ストレージの場合は、1-8の整数を1つ選択します。デフォルト値は2です。
2. 並列で実行できる潜在的タスクを識別するために使用するアウトラインの疎次元の数を指定します。値を入力するか、「アクション」アイコンを使用して、この値を保持するメンバーまたは変数を選択します。

- タスクの識別にアウトラインの最後の疎次元のみ使用することを示すにはデフォルト値の1を選択します。
- たとえば、アウトラインの最後から2番目までの疎次元を使用することを示す場合には値2を入力します。
- アウトラインのすべての次元を使用することを示すには、疎次元の総数である最大値を入力します。

3. 「次へ」をクリックします。

6 「ロギング」では、次のことが行えます:

1. 計算のエラー・レポートのレベルを選択します:

- 「要約」: 計算の設定が表示され、作成済、読取り済および書込み済データ・ブロックの数および計算済のデータ・セルの数に関する統計情報が示されます。
- 「詳細」: 同じ情報を要約として示します。さらに、データ・ブロックの計算ごとに詳細な情報メッセージが表示されます。
- 「エラー」: エラー・メッセージのみが表示されます。
- 「情報」: 情報、警告およびエラー・メッセージのみが表示されます。
- 「なし」: 計算スクリプトの実行中はメッセージが表示されません。ただし、エラー・メッセージに関しては、重要な情報が含まれている可能性があるため表示されます。
- 「のみ」: シミュレート計算のみが実行されます。コマンドが認識されないことを示すエラー・メッセージが検証中に表示されても無視できます。

2. 計算中に一定の間隔で完了通知を生成することにより計算の進行状況を監視するかどうかを指定します。

- 「高」: 最大数の完了通知が生成されます。
- 「デフォルト」: デフォルト数の完了通知が生成されます。
- 「低」: 最小数の完了通知が生成されます。

7 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでのデータのエクスポート-インポート・テンプレートの使用(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

データのエクスポート-インポート・テンプレートは、データベース・アウトライン内のある場所に対してデータをエクスポートまたはインポートするために使用します。バイナリ・ファイルをエクスポートすると、「データのエクスポート」テンプレートを使用してこのファイルをインポートすることもできます。

▶ ビジネス・ルールでデータのエクスポート-インポート・テンプレートを使用するには:

1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。

- 2 データのエクスポート・インポート・テンプレート・ウィザードで、「モード」からデータをエクスポートまたはインポートするかどうかを指定します。「次へ」をクリックします。
- 3 「データ範囲のエクスポート」で、次の3つのタスクのいずれかを行い、エクスポートするデータの範囲を指定します。「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 4 「データ範囲のエクスポート」で、データをエクスポートするファイルのタイプを選択し、「次へ」をクリックします。
 - フラット・ファイル
 - データベース・テーブル
 - バイナリ・ファイル

注： ファイルをエクスポートした後にインポートする場合、ファイルはバイナリ・ファイルである必要があります。
- 5 「出力 - ファイル」で、エクスポートするファイル・タイプに応じて次のいずれかを行い、「次へ」をクリックします。
 - フラット・ファイルをエクスポートする場合:
 1. 二重引用符で囲んだファイル名およびパスを入力します。
 2. 列区切り記号を選択します。
 3. **オプション:** 二重引用符で囲んだテキスト文字列を入力して欠落したデータ値を示すか、「アクション」アイコンを使用して選択します。
 - データベース・テーブルをエクスポートする場合:
 1. 二重引用符で囲んだデータ・ソース名を入力します。
 2. 二重引用符で囲んだデータ・ソース・テーブル名を入力します。
 3. 二重引用符で囲んだデータ・ソース・ログオン名およびパスワードを入力します。
 - バイナリ・ファイルをエクスポートする場合は、二重引用符で囲んだファイル名およびパスを入力します。
- 6 「プロセス中」で、次のことを行えます:
 1. 列または非列フォーマットのどちらでデータをエクスポートするかを指定します。
 2. エクスポートする小数点以下の桁数を指定します。(最大桁数は16です。)
 3. エクスポート後のデータの桁数を指定します。(デフォルトは16です。)

4. エクスポートされたファイルの始めにヘッダー行を含めるかどうかを指定します。
5. 他のデータをまとめる列ヘッダーとして使用する次元を選択します。
6. リレーショナル・データベースにインポートできるように、エクスポートされたファイルをフォーマットするかどうかを指定します。
7. エクスポートするファイルと、場所および名前が同じファイルがある場合
に上書きするかどうかを指定します。
8. データをエクスポートするか、データをエクスポートしないでエクスポート・コマンドを実行するテストを実行するかどうかを指定します。

7 「終了」をクリックします。

ビジネス・ルールでの「割当て - 単純除外」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「割当て - 単純除外」テンプレートを使用して、データの割当て時に、割当て範囲からメンバーを除外できます。

▶ ビジネス・ルールで「割当て - 単純除外」テンプレートを使用するには:

- 1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。
- 2 「割当て - 単純除外」テンプレート・ウィザードの「視点(POV)」で、割当て時に変更しないリスト内の次元ごとに次の 3 つのタスクのいずれかを行い、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
- 3 「割当て - 単純除外」テンプレート・ウィザードの「ソース」で、リストされる各次元について、次の 3 つのタスクのいずれかを行って、割り当てるデータを所有するメンバーを選択します。

注： リストされる次元ごとにメンバーを選択する必要があります。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 4 また、「ソース」で、割り当てるソース量のパーセンテージを入力するか、「アクション」アイコンをクリックして、このパーセンテージと同等のメンバー、変数または関数を選択します。(第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください)。「次へ」をクリックします。
- 5 「割当て範囲」で、次のタスクを行います:
1. データの割当て先の主次元を選択します。
 2. メンバーを入力するか、「アクション」アイコンを使用してデータの割当て先の(主次元の)親メンバーを選択します。
データは、データベース・アウトラインの親メンバーの下のレベル0メンバー(つまり、下にメンバーのない、アウトライン内で最下位のメンバー)に割り当てられます。
 3. 「次へ」をクリックします。
- 6 次のいずれかのタスクを行います:
- 「ソース」で複数の次元からメンバーを選択した場合、「宛先ターゲット」で、「ソース」で選択したデータの割当て先となる次元メンバーを選択します。(「ソース」で選択したメンバーがここにデフォルトで入力されます。)次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 前述の手順で選択した1つのメンバーから次元を選択します。
 - 「ソース」タブで1つの次元からのみメンバーを選択した場合、「宛先 - オプション」で、最適化のため、この表で1つのメンバーのみを持つ次元を選択します。
- 7 次のいずれかのタスクを行います:
- 「ソース」タブで複数の次元からメンバーを選択した場合、「宛先オフセット」で、割り当てられた値の総量をオフセット・メンバーに書き込む場合は、リストにある次元から、合計を計算する割当て済メンバーを選択します。次のタスクのいずれかを実行し、「次へ」をクリックします:
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 割当てプロセスの前にオフセット・データを消去するかどうかを選択します。
 - 「ソース」タブで1つの次元からのみメンバーを選択した場合、「宛先 - オフセット 2」で、オフセットの次元を定義します。次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 割当てプロセスの前にオフセット・データを消去するかどうかを選択します。
 - オフセットに使用する割当て範囲からのメンバーを指定します。
- 8 「除外」で、リストされる各次元について、次の3つのタスクのいずれかを行って、割当て範囲から除外するデータを所有するメンバーを選択します。
- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 注：** 除外するメンバーを選択する必要はありません。この手順を空のままにすることができます。その場合、割当て範囲のすべてのメンバーが割当てを受け入れます。リストされる次元について、事前定義済の選択にメンバーが入力されず、割当てからメンバーを除外する場合、除外するメンバーを入力します。入力するメンバーは、割当て範囲に含まれている必要があります。
- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 9 すべての次元のメンバーであるがPOV内で唯一のメンバーを使用する場合、次に「単一ソースの除外」タブが表示されます。ソースと割当て範囲は同じ次元からのもので、単一のソース割当てを生成します。
- 10 「ドライバ」で、次のタスクを行います：
1. 割当て方法を選択してデータを割り当てる方法を指定します。

- 「均等に割当て」を選択して、データ値を割当て範囲に均等に割り当てます。
 - 「ドライバを使用して割当て」を選択して、割当て範囲の各メンバーに適用されるパーセンテージを計算します。
2. 視点(POV)のメンバーをドライバとして使用する場合、これらの次元を空のままにして、POV で選択されていない各次元について、次のタスクのいずれかを行って、メンバーを選択します。(または、視点(POV)と異なるメンバーをドライバとして使用する場合、各次元について、次のタスクのいずれかを行って、メンバーを選択します。)
- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セクタ」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

注： 次元ごとに1つのメンバーのみを選択します。

3. 「次へ」をクリックします。

11 「ドライバ・オプション」で、割り当てられたデータが正しいことを確認するために、データの割当て前にドライバのデータを再集約するかどうかを指定します。「次へ」をクリックします。

12 「他のオプション」で、次の手順を行います：

1. データを割り当てる前に割当て範囲からデータを消去するかどうかを指定します。
2. データを割り当てた後に割当て範囲を再集約するかどうかを指定します。新規値を確認する場合は、データを割り当てた後に値を再集約します。
3. データを四捨五入するかどうかを指定します。次の四捨五入メソッドのいずれかを選択します：
 - 割り当てたデータ値の小数点以下の桁数を指定するには、「四捨五入メンバーを定義します」を選択します。「四捨五入メンバーを定義します」を選択した場合は、[126 ページの手順 15](#)に進みます。
 - データ値を最大値に四捨五入するには、「最大値の使用」を選択します。「最大値の使用」を選択した場合は、[126 ページの手順 14](#)に進みます。
 - 割り当てたデータ値をそのまま使用する場合は、「四捨五入なし」を選択します。
 - データを最小値に四捨五入するには、「最小値の使用」を選択します。「最小値の使用」を選択した場合は、[126 ページの手順 13](#)に進みます。
4. 欠落しているブロックを自動的に作成するかどうかを指定します。

5. ウィザードでデバッグ・モードをアクティブ化するかどうかを指定します。「デバッグ・ウィザード・オン」を選択すると、ルールのスクリプトに、テンプレート内の設計時プロンプト用に入力した内容を示すコメントが追加されます。「デバッグ・ウィザード・オフ」を選択すると、ルールのスクリプトにコメントは追加されません。
- 13 「最小で四捨五入」で、割当てに使用する小数点以下の桁数を入力するか、「アクション」をクリックして、メンバー、関数または変数を選択します。次に、[126 ページの手順 16](#)に進んで、ウィザードを終了します。
- 14 「最大で四捨五入」で、割当てに使用する小数点以下の桁数を入力するか、「アクション」をクリックして、メンバー、関数または変数を選択します。次に、[126 ページの手順 16](#)に進んで、ウィザードを終了します。
- 15 「メンバーで四捨五入」で、次のタスクを行います
 1. この割当てに使用する小数点以下の桁数を入力します。
 2. 定義済選択を選択する、メンバーを選択する、または、リスト内の次元のメンバー、変数または関数を選択することによって、割当ての四捨五入差異を適用するメンバーを入力します。
- 16 「終了」をクリックします。

「割当て - 単純除外」テンプレートの例

この例では、クラシックで複数通貨の Planning アプリケーションを使用しています。給与を実績からプランに割り当て、110%に増やします。ソースおよび促進要因/基準の実績を使用します。親の合計エンティティの下のレベル 0 のエンティティのプランに割り当てます。

1. 手順 1 - 視点(POV): このルールに対して変更されないメンバーを入力します:
 - 期間 - 1 月
 - 通貨 - ローカル
2. 「次へ」をクリックします。
3. 手順 2 - ソース:
 - 勘定科目 - 給与
 - HSP_Rates
 - 年 - FY08
 - シナリオ - 実績
 - バージョン - 作業中
 - エンティティ - South
 - 積 - 000
 - 国 - USA

割り当てるソースのパーセンテージを入力します - 110

4. 「次へ」をクリックします。
5. 手順 3 - 割当て範囲:

1. 次元を選択します - エンティティ。
2. この次元の親メンバーを入力します - 合計エンティティ。
 ルールでは、合計エンティティのレベル 0 のメンバーに割り当てます。エンティティは次のとおりです:

```

        California
      Washington
    West
      Connecticut
        South New York
        West New York
    New York
    East
      Florida
      Tennessee
    South
      North Dakota
    North
    Total Entities
      Florida
      North Dakota
      Tennessee
    North_South
      Operations
      Corporate Finance
      Sales & Marketing
      Finance
    Enterprise US
    Enterprise Global
    Transit Entity
    Entities_All_T1
  
```

割当て範囲の合計エンティティを使用しているため、エンティティの移動、事業、企業財務、営業とマーケティング、および財務は、合計エンティティのレベル 0 にはないため、どの割当ても受け入れられません。

6. 「次へ」をクリックします。
7. 手順 4 - 宛先ターゲット:
 1. 表示される次元に対して割当てを書き込むメンバーを入力します:
 - 勘定科目 - Alloc_In
 - 年 - FY10
 - シナリオ - プラン
 - バージョン - ターゲット
 - 積 - G100
 - 国 - USA
 2. 前述の手順でメンバーを選択した次元を選択します - 勘定科目。
8. 「次へ」をクリックします。

9. 手順 5 - 宛先オフセット:

- 勘定科目 - Alloc_Out
- 年 - FY10
- シナリオ - プラン
- バージョン - ターゲット
- エンティティ - Tennessee
- 積 - G100
- 国 - USA

1. 割当てプロセスが開始する前にオフセット・データを消去しますか?: 「はい」を選択します。

10. 「次へ」をクリックします。

11. 手順 6 - 除外:

1. オプション: 割当て範囲から除外するメンバー (Florida エンティティ、South New York エンティティ) を選択します。

これらのメンバーは、割り当てられたどのデータも受け入れません。割当て範囲のメンバーを割当ての受入れから除外しない場合、この手順を空のままにします。

12. 「次へ」をクリックします。

13. 手順 7 - ドライバ:

1. ドライバを定義して、割当て範囲の各メンバーに適用するパーセンテージを計算するために使用します。
2. 割当てメソッドを選択します - ドライバを使用して割当て。

「均等に割当て」を選択して、ドライバのデータを使用して、割当て範囲に均等に割り当てることもできます。

- 勘定科目 - 人数
- HSP_Rates
- 期間 -
- 年 - FY08
- シナリオ - 実績
- バージョン - 作業中
- 通貨 -
- 積 - G100

空のままの次元は、視点(POV)およびビジネス・ルールで定義された上位メンバー範囲から継承されます。

14. 「次へ」をクリックします。

15. 手順 8 - ドライバ・オプション:

正しい割当て結果を得るには、ドライバの保管集約データを再計算する必要があります。

1. ドライバを再集約しますか?: ドライバを再集約するよう選択します。
16. 「次へ」をクリックします。
17. 手順 9 - その他オプション:
 - 割当てプロセスの前に割当て範囲を消去しますか?: 「はい」を選択します。
 - 割当てプロセス後に割当て範囲を再集約しますか?: 「はい」を選択します。
 - 四捨五入メソッドを選択してください: 最大値を使用します。
 - 欠落ブロックを自動的に作成しますか?: 「はい」を選択します。
 - このウィザードのデバッグ・モードをアクティブ化しますか?: 「デバッグ・ウィザード・オン」を選択します。「デバッグ・ウィザード・オン」を選択すると、スクリプトに、設計時プロンプト用に入力した内容を示すコメントが入力されます。
18. 「次へ」をクリックします。
19. 手順 10 - 最大で四捨五入:

割当てに使用する小数点以下の桁数(4)を入力します。
20. 「完了」をクリックします。
21. ビジネス・ルールを保存します。
22. ビジネス・ルールを検証します。
23. ルールを Planning にデプロイします。
24. Planning または Oracle Hyperion Smart View for Office で、データを参照するためのデータ・フォームを作成します。(次の表を参照してください。)

表 9 ソース

ソース	給与	米国	ローカル	HSP_InputValue	000	実績	作業中	FY08
	1 月							
South	31800.88							

表 10 ドライバ

ドライバ	人数	米国	ローカル	HSP_InputValue	G100	実績	作業中	FY08
	1 月							
Washington	1200							
California	350							
West	1550							
West New York	2250							
South New York	1375							

ドライバ	人数	米国	ローカル	HSP_InputValue	G100	実績	作業中	FY08
New York	3625							
Connecticut	0							
East	3625							
Tennessee	1100.88							
Florida	1345							
South	2445.88							
North Dakota	196							
North	196							
合計エンティティ	7816.88							
North_South	2641.88							
Tennessee	1100.88							
North Dakota	196							
Florida	1345							
Entities_All_T1	8176.88							
事業	110							
企業財務	150							
営業とマーケティング	25							
財務	75							
企業(US)	360							
企業(グローバル)	360							
エンティティの移動	0							

表 11 ルール起動前後の割当て範囲

割当て	Alloc_In	米国	ローカル	HSP_InputValue	G100	プラン	ターゲット	FY10
	ルール起動前			ルール起動後				
	1 月			1 月				
Washington	#Missing			8235.8544				
California	#Missing			2402.1242				
West	#Missing			10637.9786				
West New York	#Missing			15442.227				

テンプレートの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケー

割当て	Alloc_In	米国	ローカル	HSP_InputValue	G100	プラン	ターゲット	FY10
South New York	#Missing			#Missing				
New York	#Missing			15442.227				
Connecticut	#Missing			0				
East	#Missing			15442.227				
Tennessee	#Missing			7555.5728				
Florida	#Missing			#Missing				
South	#Missing			7555.5728				
North Dakota	#Missing			1345.1896				
North	#Missing			1345.1896				
合計エンティティ	#Missing			34980.968				
Tennessee	#Missing			7555.5728				
North Dakota	#Missing			1345.1896				
Florida	#Missing			#Missing				
North_South	#Missing			#Missing				
Entities_All_T1	#Missing			#Missing				
事業	#Missing			#Missing				
企業財務	#Missing			#Missing				
営業とマーケティング	#Missing			#Missing				
財務	#Missing			#Missing				
企業(US)	#Missing			#Missing				
企業(グローバル)	#Missing			#Missing				
エンティティの移動	#Missing			#Missing				

「通貨換算」テンプレートの使用(Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

アプリケーションで複数通貨を使用せずに作成された Planning アプリケーション、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションで、「通貨換算」テンプレートを 사용할 ことができます。「通貨換算」テンプレートを 使用すると、Planning のシステム・タイプの勘定科目(または選択した勘定科目)、および Essbase のユーザー定義属性を使用して、勘定科目の値をレポート通貨に換算します。

注： Planning アプリケーションが複数通貨で作成されている場合、「通貨換算」テンプレートは、「システム・テンプレート」のリストに表示されません。

▶ ビジネス・ルールで「通貨換算」テンプレートを使用するには:

1 105 ページの手順 1 から 105 ページの手順 4 までを完了します。

2 「為替レート・オプション」で、次のタスクを行います:

1. アプリケーションのカスタム次元のドロップダウン・リストから、通貨メンバーを含むカスタム次元を選択します。
2. レポート通貨メンバーを選択します。
3. 入力通貨を含む親次元メンバーを選択します。
4. このレポート通貨に使用する為替レートを選択します。(たとえば、レポート通貨メンバーとして EUR レポートを選択した場合、EUR が為替レートです。)
5. Planning アプリケーションで、通貨換算に勘定科目タイプを使用するかどうかを指定します。
 - 「費用」または「収益」タイプのすべての勘定科目に対する平均為替レートを使用する場合、および「資産」、「負債」または「資本」タイプのすべての勘定科目に対する終了為替レートを使用する場合、「はい」を選択します。
 - 勘定科目を選択して、平均為替レートおよび終了為替レートを使用する場合、「いいえ」を選択します。
6. Essbase アプリケーションで、通貨換算に必須の勘定科目 UDA がアプリケーションにあるかどうかを指定します:
 - UDA、平均および終了を、勘定科目次元内のメンバーに作成し、割り当てる場合、「はい」を選択します。
 - 勘定科目を選択して、平均為替レートおよび終了為替レートを使用する場合、「いいえ」を選択します。

3 「視点(POV)」で、リストされる各次元について、次のタスクのいずれかを実行して、前の手順で選択したレポート通貨に換算するメンバーを選択します:

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

注： リストされる各次元について、事前定義済の選択に値が入力されない場合、空になっているすべての次元の値を入力する必要があります。次元を空のままにする場合、その次元のすべてのメンバーが使用されます。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 6 章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

4 次のいずれかのタスクを行います:

- 132 ページの手順 2 で「はい」を選択した場合、133 ページの手順 5 に進みます。
- 132 ページの手順 2 で「いいえ」を選択した場合、「勘定科目 AVG/END」で、次のタスクを実行します:

注: 手順 2 で「はい」を選択して、勘定科目が通貨換算に必須の UDA を使用することを指定した場合、「勘定科目 AVG/END」は表示されません。

1. 「アクション」アイコンを使用して、平均為替レートに使用する勘定科目を選択します。
2. 「アクション」アイコンを使用して、終了為替レートに使用する勘定科目を選択します。

5 「FX_Average」で、リストされる各次元について、次のタスクのいずれかを実行して、平均為替レートを含むメンバーを選択します。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

注: リストされる各次元について、事前定義済の選択に値が入力されない場合、空になっているすべての次元の値を入力する必要があります。次元を空のままにする場合、POV の手順で指定したメンバーが使用されます。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 6 章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

6 「FX_Ending」で、リストされる各次元について、次のタスクのいずれかを実行して、終了為替レートを含むメンバーを選択します。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

注: リストされる各次元について、事前定義済の選択に値が入力されない場合、空になっているすべての次元の値を入力する必要があります。次元を空のままにする場合、POV の手順で指定したメンバーが使用されます。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 6 章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

7 「終了」をクリックします。

「通貨換算」テンプレートの例

1. 通貨を使用しない、単一通貨を使用、複数通貨を使用のいずれかで作成された Planning アプリケーションで、既存の次元に加えて、「通貨」という名前のカスタム次元を作成し、次のメンバーを追加します:
 - 通貨
 - 入力通貨
 - USD
 - CAD
 - EUR
 - GBP
 - INR
 - レポート通貨
 - EUR レポート
 - US レポート
 - CAN レポート
2. 勘定科目次元で、次のメンバーを追加します:
 - FX_Rates
 - FX_Average
 - FX_Ending
3. エンティティ次元で、エンティティ「会社仮定」を追加します。
4. Oracle Hyperion Smart View for Office または Planning フォームを使用して、次のセルに為替レートを入力します:
 - 勘定科目 - FX_Average および FX_Ending
 - 期間 - 月ごとのレートを入力します
 - 年 - FY12
 - シナリオ - 現在
 - バージョン - BU Version_1
 - エンティティ - 会社仮定
 - 積 - 000
 - 通貨 - 通貨ごとに、その通貨の為替レートを入力します
5. 「変数」で、次のタスクを行います:
 1. アプリケーション・レベルの実行時プロンプト、「Reporting_Currency」という名前の通貨次元のメンバー変数を作成し、「EUR レポート」のデフォルト値を入力します。

2. アプリケーション・レベルの実行時プロンプト、「入力通貨」という名前の通貨次元のメンバー変数を作成し、「EUR」のデフォルト値を入力します。
3. この Planning アプリケーションにビジネス・ルールを作成し、「通貨換算」システム・テンプレートをビジネス・ルールのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップします。

「通貨換算」ウィザードが表示されます。

6. 「通貨換算」ウィザードで、次の手順を実行します:

1. 手順 1 - 為替レート・オプション:

- ユーザーの通貨はどの次元にありますか?: ドロップダウンをクリックし、前述の手順で作成した通貨次元を選択します。
- レポート通貨を選択: 「アクション」アイコンをクリックし、「変数」を選択し、Reporting_Currency 変数を選択します。

この例では、レポート通貨ごとの Planning でルールを起動できるように、レポート通貨の変数を使用しています。

- ユーザーの通貨メンバーを含む親メンバーを選択: 「アクション」アイコンをクリックし、入力通貨の親メンバーを選択します。

通貨メンバーにはここで選択した親が含まれる必要がある理由は、今後通貨を追加する場合に、Planning でこのビジネス・ルールのみを再配置および再起動する必要があるようにするためです。テンプレートのスクリプトによって、新しい通貨がスクリプトに追加され、レポート通貨が正しく計算されます。

- このレポート通貨にどの為替レート(通貨)が使用されるか: 「アクション」アイコンをクリックし、「入力通貨」変数を選択します。

この例では、レポート通貨ごとの Planning でルールを起動できるように、レポート通貨の変数を使用しています。

- 通貨換算の勘定科目タイプを使用しますか?: ドロップダウンを使用して、「はい」を選択します。

「いいえ」を選択すると、どの勘定科目で「平均/終了」を使用するかを指定する手順で、後から要求されます。

- このウィザードのデバッグ・モードをアクティブ化しますか?: 「デバッグ・ウィザード・オン」を選択します。

ビジネス・ルールのスクリプト内のコメントとしてウィザードの手順で選択したとおりにプロンプトの詳細を確認するには、「デバッグ・ウィザード・オン」を選択し、それ以外の場合は、「デバッグ・ウィザード・オフ」を選択します。

2. 「次へ」をクリックします。

3. 手順 2 - POV によって、次元ごとに次が入力されます:

- 期間 - すべての期間に書き込まれるように、期間は空のままにします
- 年 - 「FY12」
- シナリオ - 「現在」

- バージョン - 「BU Version_1」
- エンティティ - @Relative(“South” ,0)
- 積 - @Relative(“Tennis” ,0),@Relative(“Golf” ,0)

4. 「次へ」をクリックします。

5. 手順 3 - FX_Average:

- 平均為替レートを含むメンバーを選択:
 - 勘定科目 - 「FX_Average」
 - 期間
 - 年
 - シナリオ
 - バージョン
 - エンティティ - 「会社仮定」
 - 積 - 「000」
- 各期間の為替レートを使用するように、期間次元は空のままにします。
- 年、シナリオおよびバージョンは、これらの次元の POV 入力からのメンバーを使用するように、空のままにします。

6. 手順 4 - FX_Ending:

- 平均為替レートを含むメンバーを選択:
 - 勘定科目 - 「FX_Average」
 - 期間
 - 年
 - シナリオ
 - バージョン
 - エンティティ - 「会社仮定」
 - 積 - 「000」
- 各期間の為替レートを使用するように、期間次元は空のままにします。
- 年、シナリオおよびバージョンは、これらの次元の POV 入力からのメンバーを使用するように、空のままにします。

7. ビジネス・ルールを Planning に保存、検証およびデプロイします。

この例でのアプリケーションには、次のデータが含まれています:

表 12 データの例 パート 1

			FY12	現在	BU Version_1
		Tennessee	Tennessee	Florida	Florida
		1 月	1 月	1 月	1 月

テンプレートの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

		G400	G100	G400	G100
総売上	USD	10750	13450	9500	9699
総売上	CAD	10450	10000	14450	13000
総売上	EUR	40000	41450	42450	65000
総売上	GBP	13250	16750	172000	16300
総売上	INR	750000	750000	750000	750000
総売上	US レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
総売上	CAN レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
総売上	EUR レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
給与	USD	5000	5000	5000	5000
給与	CAD	4500	4500	4500	4500
給与	EUR	5500	5500	5500	5705
給与	GBP	1200	1200	1200	1200
給与	INR	100000	100,000	100,000	100,000
給与	US レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
給与	CAN レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
給与	EUR レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing

この表では、レポート通貨に値がありません。

8. Planning で、ルールを起動します。レポート通貨変数には EUR レポートを入力し、入力通貨には EUR を入力します。「起動」をクリックします。
9. Planning の各勘定科目に対して、EUR レポートはユーロの合計勘定科目を示していることを確認します:

表 13 データの例 パート 2

			FY12	現在	BU Version_1
		Tennessee	Tennessee	Florida	Florida
		1 月	1 月	1 月	1 月
		G400	G100	G400	G100
総売上	USD	10750	13450	9500	9699
総売上	CAD	10450	10000	14450	13000
総売上	EUR	40000	41450	42450	65000
総売上	GBP	13250	16750	172000	16300

総売上	INR	750000	750000	750000	750000
総売上	US レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
総売上	CAN レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
総売上	EUR レポート	52161391	52168683	52170600	52190796.69
給与	USD	5000	5000	5000	5000
給与	CAD	4500	4500	4500	4500
給与	EUR	5500	5500	5500	5705
給与	GBP	1200	1200	1200	1200
給与	INR	100000	100000	100000	100000
給与	US レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
給与	CAN レポート	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
給与	EUR レポート	6963318	6963318	6963318	6965471.887

10. Planning でビジネス・ルールを再起動できます。US レポートと USD 通貨の変数入力、およびアプリケーションで使用可能な各レポート通貨の変数入力を変更できます。

システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

システム・テンプレートのコンテンツをカスタマイズできます。システム・テンプレートは編集できませんが、「名前を付けて保存」を使用すれば、システム・テンプレートに新規名前を付けて保存できます。新規名前で保存すると、カスタマイズ可能なカスタム定義テンプレートになります。元のシステム・テンプレートはそのまま変更されません。

注： Essbase システム・テンプレートで「名前を付け保存」を実行し、カスタム定義テンプレートとして保存すると、新規カスタム定義テンプレートにアプリケーションという設計時プロンプトが表示されます。ただし、Essbase の新規カスタム定義テンプレートを作成する場合は、テンプレートにアプリケーション設計時プロンプトは表示されません。カスタム定義テンプレートとして保存するシステム・テンプレートではアプリケーション設計時プロンプトを無視してください。

▶ システム・テンプレートをカスタム定義テンプレートとして保存するには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」を展開します。
- 2 カスタム定義テンプレートとして保存するシステム・テンプレートが含まれるビジネス・ルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」のフロー・チャートで、システム・テンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 システム・テンプレートが開いたら、「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。
- 5 「名前を付けて保存」に、テンプレートの情報(テンプレート名とアプリケーション名)がデフォルトで表示されます。新しいテンプレート名を入力します。次に、アプリケーションおよびプラン・タイプまたはデータベースを入力します。
- 6 「OK」をクリックします。

新規カスタム定義テンプレートが、「名前を付けて保存」で選択したアプリケーションおよびプラン・タイプまたはデータベースの「テンプレート」ノードに表示されます。これを開いてカスタマイズできます。

注: 新規テンプレートを確認するために、システム・ビューでアプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。「テンプレート」ノード(あるいは計算またはプラン・タイプ、アプリケーションまたはアプリケーション・タイプ)を右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。

ビジネス・ルールのフロー・チャートへのシステム・テンプレートの挿入(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルール・デザイナー内からシステム・テンプレートをビジネス・ルールに挿入できます。

注: システム・テンプレートをカスタム定義テンプレートに挿入できません。

▶ システム・テンプレートをビジネス・ルールに挿入するには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」を展開します。
- 2 テンプレートを挿入するビジネス・ルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」の「既存のオブジェクト」で、「システム・テンプレート」ノードを展開します。

- 4 ルールに挿入するシステム・テンプレートをドラッグし、ルールのフロー・チャート内の表示する位置にドロップします。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「追加を元に戻す」の順に選択します。

- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールのフロー・チャートからのシステム・テンプレートの除去(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ビジネス・ルールのフロー・チャートからシステム・テンプレートを除去するには、フロー・チャートでそのテンプレートを右クリックし、「除去」をクリックします。フロー・チャートから除去しても、データベースからは削除されません。データベースには別のオブジェクトとして存在します。

▶ システム・テンプレートをフロー・チャートから除去するには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」を展開します。
- 2 システム・テンプレートを除去するビジネス・ルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」のフロー・チャートで、除去するシステム・テンプレートを右クリックして、「除去」を選択します。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「削除を元に戻す」の順に選択します。

- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

カスタム・定義テンプレートの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [141 ページの「カスタム定義テンプレートについて\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

- 142 ページの「カスタム定義テンプレートの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 156 ページの「テンプレートまたはビジネス・ルールのコンポーネントからのカスタム定義テンプレートの作成(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 157 ページの「カスタム定義テンプレートの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 158 ページの「カスタム定義テンプレートの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 161 ページの「カスタム定義テンプレートの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 161 ページの「カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 162 ページの「ビジネス・ルールのフロー・チャートへのカスタム定義テンプレートの挿入(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 163 ページの「ビジネス・ルールのフロー・チャートからのカスタム定義テンプレートの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 167 ページの「テンプレートの検索(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

カスタム定義テンプレートについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートはビジネス・ルールおよびその他のテンプレートで使用するために管理者が設計します。カスタム定義テンプレートには、システム・ビューの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース内の「テンプレート」ノードから、およびルール・デザイナ内の「既存のオブジェクト」からアクセスできます。カスタム定義テンプレートは、Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのビジネス・ルールで使用できます。

注： カスタム定義テンプレートは、Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでサポートされていません。

カスタム定義テンプレートの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートは、システム・ビューまたはルール・デザイナー、コンポーネント・デザイナーあるいはテンプレート・デザイナー内から作成できます。

カスタム定義テンプレートを別のカスタム定義テンプレートに含めることができます。カスタム定義テンプレートには、ビジネス・ルールおよび共有オブジェクトを含めることもできます。

▶ カスタム定義テンプレートを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase および Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 「テンプレート」を右クリックし、「新規」を選択します。
- 3 テンプレートの名前を入力します。
- 4 「アプリケーション・タイプ」(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
- 5 「アプリケーション」を選択します。アプリケーションは、有効な Performance Management Architect アプリケーション、Financial Management または Planning アプリケーション管理を使用して作成されたアプリケーション、Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション、または Operational Planning アプリケーションであることが必要です。
- 6 次のいずれかのタスクを行います:
 - Financial Management を選択した場合は、「計算タイプ」を選択します。
 - Planning を選択した場合は、「プラン・タイプ」を選択します。
 - Essbase または Operational Planning を選択した場合、「データベース」を選択します。

注： 「テンプレート」を右クリックして、新規テンプレートを作成するために「新規」を選択すると、「新規テンプレート」ダイアログにシステム・ビュー内で操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースが取り込まれます。

- 7 「OK」をクリックします。

テンプレートがテンプレート・デザイナーに表示されます。テンプレートを設計するには、143 ページの「カスタム定義テンプレートの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

カスタム定義テンプレートの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートはシステム・ビューから作成します。カスタム定義テンプレートには、スクリプト、式、ビジネス・ルールおよびその他のカスタム定義テンプレートを含められます。

▶ カスタム定義テンプレートを作成するには:

1 システム・ビューで、次のタスクのいずれかを実行します:

- 「ファイル」、「新規」、「カスタム定義テンプレート」の順に選択します。
- Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。「テンプレート」を右クリックし、「新規」を選択します。

2 名前、アプリケーション・タイプ、およびカスタム定義テンプレートが属するアプリケーションを入力します。次に、次のいずれかを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management アプリケーションのテンプレートを作成する場合は、計算タイプを入力します。
- **Planning ユーザーのみ:** Planning アプリケーションのテンプレートを作成する場合には、プラン・タイプを入力します。
- **Essbase および Operational Planning ユーザーのみ:** Essbase または Operational Planning アプリケーションのテンプレートを作成する場合は、データベースを入力します。

3 「OK」をクリックします。

テンプレート・デザイナーに新規テンプレートが表示されます。

4 テンプレートを設計するには、「テンプレート・パレット」から新規および既存のオブジェクトをドラッグして、「テンプレート・デザイナー」内のテンプレートのフロー・チャートにドロップします。

注: テンプレートとは別に式およびスクリプトなどの新規オブジェクトを作成して、後でテンプレートに追加することもできます。

「新規オブジェクト」から次のコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップして、新規コンポーネントをテンプレートのフロー・チャートに挿入します:

- 式: 171 ページの「式コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- スクリプト: 185 ページの「スクリプト・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 条件: 193 ページの「条件コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー・ブロック: 198 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー範囲: 203 ページの「メンバー範囲コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- **Financial Management ユーザーのみ:** データ範囲: 209 ページの「データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。
- 固定ループ: 214 ページの「固定ループ・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- メタデータ・ループ: 219 ページの「メタデータ・ループ・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- DTP 割当て: 224 ページの「DTP 割当てコンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

「既存のオブジェクト」で、Financial Management、Planning、Essbase または Operational Planning アプリケーションの既存のルール、式、スクリプトおよび テンプレートを、テンプレートのフローチャートにドラッグ・アンド・ドロップします。

式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップすると、コンポーネントはデフォルトで共有オブジェクトになります(それがまだ共有オブジェクトでない場合)。オブジェクトを共有しない場合は、式またはスクリプト・コンポーネントの「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスの選択を解除します。230 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

注： システム・テンプレートをカスタム定義テンプレートで使用できません。システム・テンプレートのプロパティをカスタム定義テンプレートで使用する場合には、「名前を付けて保存」を使用してそのシステム・テンプレートをカスタム定義テンプレートとして保存します。138 ページの「システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

ヒント： テンプレートにコンポーネントを追加する際、フロー・チャートに表示されるコンポーネント・アイコンのサイズや詳細の程度を増減できます。このためには、フロー・チャート内でズーム・バーを使用してズーム・インおよびズーム・アウトができます。「プロパティ」タブでコンポーネントを選択してそのプロパティを表示し、コンポーネントを編集できます。

- 5 テンプレートにコンポーネントを挿入し、コンポーネントを無効化する場合は、テンプレートのフロー・チャートでコンポーネントを選択し、コンポーネントの「プロパティ」タブで「使用不可」を選択します。(メンバー範囲コンポーネントの場合、「使用不可」チェック・ボックスは「メンバー範囲」タブにあります。)

コンポーネントを無効化し、テンプレートを保存すると、テンプレートのフロー・チャートでコンポーネントのアイコンがグレーになります。

テンプレートでどのコンポーネントが検証エラーの原因になっているかを分析する際に、検証からコンポーネントを除外するために、コンポーネントの無効化が必要になる場合があります。

注： 条件コンポーネントを使用不可にすることはできません。

共有されているコンポーネントを無効化すると、そのコンポーネントを無効化したテンプレートでのみ使用不可になります。

- 6 **オプション:** テンプレートをユーザーが使用する際に情報を入力するように求める設計時プロンプトを入力するには、「テンプレート・デザイナー」・フロー・チャートの下にあるテーブルを使用します。147 ページの「カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

Planning ユーザーのみ: カスタム定義テンプレートを開くと、デフォルトで2つのシステム設計時プロンプトが含まれています:

- **アプリケーション:** アプリケーション設計時プロンプトは、アプリケーションが複数通貨アプリケーションかどうかを判別します。
- **上位 POV:** ビジネス・ルールで使用される上位メンバー範囲からメンバーのリストを取得するメンバー範囲設計時プロンプト。

Essbase ユーザーのみ: カスタム定義テンプレートを開くと、デフォルトでパスワード設計時プロンプトが含まれています。Essbase の機能には、タイプ・パスワードのパラメータを要求するものがあります。

- 7 「プロパティ」で、テンプレートのプロパティを入力します。テンプレートのフロー・チャートでコンポーネント間を移動していくと、タブの数およびコンテン

ツが変わります。テンプレートのコンポーネントのプロパティおよびその他の情報を入力するには、フロー・チャートでコンポーネントを選択します。[第4章「ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

- **オプション:** 50 文字以下の新規名前を入力してテンプレート名を編集します。(「新規テンプレート」ダイアログの名前がデフォルトになります。)
- **オプション:** 255 文字以下のテンプレートの説明を入力します。
- **オプション:** テンプレートのキャプションを入力します。キャプションはフロー・チャートでテンプレートの下に表示されます。
- **オプション:** テンプレートのコメントを入力します。たとえば、テンプレートの使用目的などを説明する際に入力します。
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - テンプレートで使用されているルールにログ・テキストがある場合は、テンプレートの起動時にこのログ・テキストがログ・ファイルに含まれるように「ロギングの使用可能」を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注: ロギングがテンプレートに対して使用可能でなく、テンプレートに属するルールおよびコンポーネントに対して使用可能な場合、ログ・ファイルは作成されません。これは、テンプレートのログ設定がルールおよびコンポーネントの設定を上書きするためです。

- ログ・ファイルにテンプレートの処理に要した時間が記録されるように「タイマーの使用可能」を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能なテンプレートがあり、このテンプレートにタイマーが使用可能な3つのルールが含まれている場合、テンプレートとこのテンプレートの各ルールの処理に要した時間が記録されます。

8 「使用」では、テンプレートに関する次の情報を表示できます:

- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの名前
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートのアプリケーション名
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが配置されているかどうか
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが検証されているかどうか

- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの説明
- 9 「スクリプト」では、グラフィカルでないフォーマットでテンプレートを表示できません。

注： このタブでは変更できません。テンプレート・スクリプトを変更するには、ビジネス・ルールを保存して「編集」、「スクリプト」の順に選択し、ビジネス・ルール、そのテンプレートおよびそのコンポーネントをスクリプトに変換します。

- 10 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ユーザーがテンプレートを使用してビジネス・ルールを設計するときに適切な情報の入力を求めるプロンプトが表示されるように、カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトを入力できます。

▶ カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトを作成するには:

- 1 143 ページの手順 1 から 143 ページの手順 4 までを完了します。
- 2 設計時プロンプト・テーブルの「名前」に設計時プロンプトの名前を入力します。
- 3 「タイプ」の矢印をクリックし、設計時プロンプト・タイプをドロップダウン・リストから選択します:

注： アプリケーション・タイプに応じて、使用可能な設計時プロンプト・タイプが異なります。

- 属性 - テンプレートが属するアプリケーションの属性の入力を求めるプロンプトが表示されます。「属性」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - 1 「ユーザー入力」をクリックして、設計時プロンプトの属性を選択します。
 - 2 **オプション:** 「次元限界の選択」をクリックして、次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- ブール - ブール値の入力を求めるプロンプトが表示されます。
- 次元間 - テンプレートが属するアプリケーションの次元の範囲の入力を求めるプロンプトが表示されます。「次元間」を選択した場合、次のタスクを行います:

- オプション: 「依存関係」をクリックして、依存関係を定義します。
155 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- オプション: 「次元限界の選択」をクリックして、次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 条件 - 条件を入力するよう求めます。178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 次元 - テンプレートが属するアプリケーションの次元の入力を求めるプロンプトが表示されます。「次元」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 「依存関係」をクリックして、依存関係を定義します。
155 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - オプション: 「次元限界の選択」をクリックして、次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 次元 - テンプレートが属するアプリケーションの次元の入力を求めるプロンプトが表示されます。「次元」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 「依存関係」をクリックして、依存関係を定義します。
155 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - オプション: 「次元限界の選択」をクリックして、次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー - アプリケーションで選択した次元のメンバーの入力を求めるプロンプトが表示されます。「メンバー」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 「依存関係」をクリックして、依存関係を定義します。
155 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブ

ロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

- オプション: 「次元限界の選択」をクリックして、メンバーが属する次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー - アプリケーションで選択した次元の複数のメンバーの入力を求めるプロンプトが表示されます。「メンバー」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 「依存関係」をクリックして、依存関係を定義します。155 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - オプション: 「次元限界の選択」をクリックして、メンバーが属する次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー範囲 - アプリケーションで選択した次元のメンバー範囲の入力を求めるプロンプトが表示されます。「メンバー範囲」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 「依存関係」をクリックして、依存関係を定義します。155 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - オプション: 「次元限界の選択」をクリックして、メンバー範囲が属する次元に対する限界を選択します。153 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 数値 - アプリケーションで選択した次元の数値の入力を求めるプロンプトが表示されます。
- 制限リスト - メンバーの制限リストのメンバーの入力を求めるプロンプトが表示されます。「制限リスト」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - 「ユーザー入力」をクリックして、メンバーの制限リストを定義します。154 ページの「次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義(Financial Management、Planning

または [Operational Planning](#)、および [Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ](#)」を参照してください。

- 区切り記号 - 区切り記号の入力を求めるプロンプトが表示されます。
 - 文字列 - テキスト文字列の入力を求めるプロンプトが表示されます。
 - パスワード - パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます
- 4 そのテンプレートを使用したときに設計時プロンプトを表示する場合には、「プロンプトしますか?」を選択します。
 - 5 その設計時プロンプトでユーザーが情報を入力する必要がある場合は、「必須」を選択します。
 - 6 ユーザーがプロンプトを読む必要があるが情報を入力する必要がない場合は、「読み取り専用」を選択します。
 - 7 「DTP テキスト」に設計時プロンプトのテキストを入力します。設計時プロンプトがパスワードの場合は、そのパスワードを入力します。
 - 8 「デフォルト値」で設計時プロンプトのデフォルト値を入力または選択します。

設計時プロンプトが次元間設計時プロンプトの場合、次のタスクを行います:

- 「ユーザー入力」をクリックして、次元間選択を定義します。154 ページの「次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義([Financial Management、Planning](#) または [Operational Planning](#)、および [Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ](#))」を参照してください。
- 「DTP をソースとして選択」をクリックして、既存の設計時プロンプトを選択します。153 ページの「カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの選択([Financial Management、Planning、Operational Planning](#) および [Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ](#))」を参照してください。

設計時プロンプトがメンバー範囲設計時プロンプトの場合、次のタスクを行います:

- 「ユーザー入力」をクリックして、次元のメンバー範囲を定義します。154 ページの「次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義([Financial Management、Planning](#) または [Operational Planning](#)、および [Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ](#))」を参照してください。
 - 「DTP をソースとして選択」をクリックして、既存の設計時プロンプトを選択します。153 ページの「カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの選択([Financial Management、Planning、Operational Planning](#) および [Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ](#))」を参照してください。
- 9 テンプレート用に作成する設計時プロンプトごとに [147 ページの手順 1](#) から [150 ページの手順 8](#) を繰り返します。作成する設計時プロンプトの数が増えると、設計時プロンプトを手順に整理したり、テーブルで行を追加、コピーまたは順序変更したりする必要があります。

- テーブルの行の順序を変更するには、行を選択し、上矢印または下矢印を使用してテーブル内の目的の位置に行を移動します。
- 行を挿入または削除するには、「行の挿入」アイコンおよび「行の削除」アイコンを使用します。
- テーブル内で設計時プロンプトを整理するには、「ウィザードの作成/編集」をクリックします。151 ページの「[テンプレート・ウィザードでの設計時プロンプトの編成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
- 設計時プロンプト・テーブルに新規の行を挿入するには、最終行を右クリックして、「行の挿入」を選択します。
- 設計時プロンプト・テーブルから行を削除するには、その行を右クリックして、「行の削除」を選択します。
- テーブルの行をコピーするには、その行を右クリックして、「コピー」を選択します。
- テーブル全体をコピーするには、任意の行を右クリックして、「グリッドのコピー」を選択します。
- コピーした 1 つまたは複数の行を貼り付けるには、コピーする行または表示する行のすぐ下の行を右クリックして、「貼付け」を選択します。

注： 設計時プロンプトをコピーして表に貼り付けると、アクティブな行の 1 つ下の行(カーソルの 1 つ下の行)に貼り付けられます。

10 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

テンプレート・ウィザードでの設計時プロンプトの編成 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザー のみ)

テンプレート・ウィザード・デザイナを使用して、カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトを編成できます。このウィザードを使用すると、各手順で表示する設計時プロンプトを決定したり、定義した条件に基づき手順の表示/非表示を選択したりすることによって、テンプレート内での設計時プロンプトの表示を編成できます。

これらの条件は、ウィザードの前の手順で選択するメンバーや次元に基づいて、またはテンプレートが使用されるルールの上位 FIX ステートメントで選択したメンバーや次元に基づいて作成できます。たとえば、UpperPOV 設計時プロンプトを使用すると、すべての密次元が上位の設計時プロンプトに含まれているかどうかをテストできます。含まれている場合、密次元集約手順は表示されません。含まれていない場合、密次元集約手順は表示されます。

▶ 設計時プロンプトを編成するには:

- 1 143 ページの手順 1 から 145 ページの手順 6 までを完了します。
- 2 設計時プロンプト・テーブルで、「ウィザードの作成/編集」をクリックします。

注： 設計時プロンプトを手順に編成するには、まずテンプレート・フロー・チャートの下の設計時プロンプト・グリッドに設計時プロンプトを作成する必要があります。

3 テンプレート・ウィザード・デザイナーで、「ステップの追加(+)」をクリックしてウィザードに手順を作成します。次のタスクを行います：

1. 手順に名前を付けます。例: 手順 1。
2. すでに存在する手順の前または後に手順を表示する場合は、「前」または「後」を選択し、次に手順番号を選択します。
3. 手順のコメントを入力します。たとえば、手順でどの設計時プロンプトが表示されるかを記述できます。
4. 「OK」をクリックします。

テンプレート・ウィザード・デザイナーの「手順」ドロップダウン・リストに手順が表示されます。「手順」ドロップダウン・リストからそれぞれの手順を選択すると、「選択した DTP」リストでその手順にどの設計時プロンプトが表示されるかを確認できます。

4 作成した手順について、「使用可能な DTP」から手順で表示する設計時プロンプトを選択し、右矢印を使用して「選択した DTP」に移動します。

ヒント： 「使用可能な DTP」で、連続した複数の設計時プロンプトを選択するには[Shift]を押しながらクリックし、連続していない複数の設計時プロンプトを選択するには[Ctrl]を押しながらクリックします。「選択した DTP」で設計時プロンプトの順序を変更するには、上矢印および下矢印キーを使用します。

5 オプション: コメントを追加する設計時プロンプトの行を選択し、「コメント」アイコンをクリックして、設計時プロンプトに任意のコメントを追加します。

6 設計時プロンプトの条件を作成するには、次のタスクを行います：

1. 条件グリッドの「DTP」の下で、設計時プロンプトを選択します。システム設計時プロンプト、「上位 POV」および「アプリケーション」がデフォルトで「DTP」ドロップダウン・リストに表示されます。それらのデフォルト値は次のとおりです：
 - 上位 POV: 「空です」および「空ではありません」。設計時プロンプトが空かどうかをテストします
 - アプリケーション: 「複数通貨」および「単一通貨」。アプリケーションが複数通貨アプリケーションか、単一通貨アプリケーションかをテストします
2. 「演算子」で、「==」(等号)または「<>」(大なりまたは小なり)を選択します。
3. 「値」で、設計時プロンプト条件の値を選択します。
4. 前述の手順を繰り返し、条件のすべてのステートメントを定義します。行を追加するには、最後の行のプラス記号(+)をクリックします。

条件の最初の行は IF ステートメントです。その他のそれぞれの行は AND ステートメントです。たとえば、「アプリケーションが複数通貨アプリケー

ションであり、かつ(AND)、メンバー範囲が空ではない場合、この手順を表示します。」といった条件を定義できます。

- 7 これらの手順を繰り返し、ウィザードで表示するすべての設計時プロンプトの手順を作成します。
 - さらに手順を追加するには、「ステップの追加(+)」をクリックします。
 - 手順を編集するには、「ステップの編集」をクリックします。
 - 手順を削除するには、「ステップの削除」をクリックします。
- 8 「OK」をクリックします。

カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの選択 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザー のみ)

既存の設計時プロンプトを選択して、カスタム定義テンプレートに挿入できます。

▶ 設計時プロンプトを選択するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 設計時プロンプトを挿入する対象のカスタム定義テンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 設計時プロンプト・テーブルでプロンプト・タイプを選択します。
- 4 「デフォルト値」で「DTP をソースとして選択」アイコンをクリックします。
- 5 「DTP セレクタ」で設計時プロンプトを選択し、「OK」をクリックします。
- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートに対して次元間、次元、次元(複数)、メンバー、またはメンバー範囲の設計時プロンプトを作成する場合は、プロンプトを密次元および疎次元に対して表示するか、密次元のみまたは疎次元のみに対して表示するかを指定する必要があります。

▶ 次元間、次元、次元(複数)、メンバー、またはメンバー範囲の設計時プロンプトを表示する対象の次元のタイプを選択するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン

ン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。

- 2 上限を作成するカスタム定義テンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 設計時プロンプト・テーブルで、次の設計時プロンプト・タイプのいずれかを選択します:
 - 「次元間」
 - 「次元」
 - 「次元(複数)」
 - 「メンバー」
 - 「メンバー範囲」
- 4 「タイプ」列の右の列で、「次元限界の選択」アイコンをクリックします。
- 5 「次元タイプの定義」で、次のオプションのいずれかを選択します:
 - 「疎を表示」:疎次元のみを表示する場合
 - 「密を表示」:密次元のみを表示する場合
 - 「両方」:密次元および疎次元の両方を表示する場合
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプト・タイプのデフォルト値を定義するには、メンバーをデフォルト値として選択します。

- ▶ 次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトを定義するには:
- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
 - 2 デフォルトの設計時プロンプト値を定義する対象のカスタム定義テンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
 - 3 設計時プロンプト・テーブルで、次の設計時プロンプト・タイプのいずれかを選択します:
 - 「次元間」
 - 「メンバー範囲」
 - 「制限付きリスト」

- 4 「ユーザー入力」アイコンをクリックします。
- 5 次のいずれかのタスクを行います:
 - 次元間またはメンバー範囲の設計時プロンプトのデフォルト値を定義する場合は、「アクション」アイコンをクリックして、リストされた次元ごとに値を選択します。
 - 変数を入力するには、279 ページの「変数の操作」を参照してください。
 - メンバーを入力するには、260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、300 ページの「関数の操作」を参照してください。
 - 制限付きリストのデフォルト値を定義する場合は、「ルール・ビルダー値」および「代替値」を入力します。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

設計時プロンプトの依存関係の定義(Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

設計時プロンプトに対して「含む」と「排他的」の依存関係を定義できます。プロンプトを「含む」と指定すると、表示されるプロンプトでユーザーが実行できる選択は、「含む」プロンプトでの選択に依存します。たとえば、プロンプト 1 を「含む」と指定し、ユーザーがプロンプト 1 の勘定科目次元を選択すると、プロンプト 1 の後のプロンプトの選択には、勘定科目次元のみが表示されます。

プロンプトを「排他的」と指定すると、表示されるプロンプトでユーザーが実行できる選択は、「排他的」プロンプトでの選択に依存しません。たとえば、プロンプト 1 を「排他的」と指定し、ユーザーがプロンプト 1 のエンティティ次元を選択すると、プロンプト 1 の後のプロンプトの選択には、エンティティ次元を除くすべての次元が表示されます。

- ▶ 次元間、次元、次元(複数)、メンバー、メンバー(複数)およびメンバー範囲の設計時プロンプト・タイプを定義するには:
 - 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
 - 2 依存関係を定義するカスタム定義テンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
 - 3 設計時プロンプト・テーブルで、次の設計時プロンプト・タイプのいずれかを選択します:

- 「次元間」
 - 「次元」
 - 「次元(複数)」
 - 「メンバー」
 - 「メンバー」
 - 「メンバー範囲」
- 4 「依存関係」アイコンをクリックします。
 - 5 依存関係を定義する設計時プロンプトを選択します。
 - 6 次のいずれかのタスクを行います:
 - 「排他的」を選択すると、このプロンプトの後のプロンプトでユーザーの選択から、このプロンプトで選択した内容が除外されます。
 - 「含む」を選択すると、このプロンプトの後のプロンプトでユーザーの選択に、このプロンプトで選択した内容が含まれます。
 - このプロンプトに依存関係を持たせない場合は、「なし」を選択します。(これはデフォルトの選択です。)
 - 7 「OK」をクリックします。
 - 8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

テンプレートまたはビジネス・ルールのコンポーネントからのカスタム定義テンプレートの作成 (Financial Management、Planning または Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートでコンポーネントを選択することで、カスタム定義テンプレートを作成できます。

- ▶ ビジネス・ルールまたはテンプレートのコンポーネントからカスタム定義テンプレートを作成するには:
 - 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
 - 2 テンプレートとして保存するコンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
 - 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャートで、テンプレートとして保存するコンポーネントを選択し、右クリックして、「テンプレートとして保存」を選択します。
 - 4 「名前を付けて保存」で、「OK」をクリックします。

ヒント: 新規テンプレートを表示するには、システム・ビューのリフレッシュが必要な場合があります。「リフレッシュ」ツールバー・アイコンをクリックして、アプリケーション・リスト全体をリフレッシュします。「テンプレート」ノードまたはアプリケーション・リスト内でそれより上の任意のレベルをリフレッシュして、新規テンプレートを参照することもできます。159 ページの「カスタム定義テンプレートのリフレッシュ(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

カスタム定義テンプレートを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートは、システム・ビューから開くか、ビジネス・ルールのフロー・チャートでダブルクリックすることによりルール・デザイナーから開くことができます。

▶ カスタム定義テンプレートを開くには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 開くカスタム定義テンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
テンプレート・デザイナーにカスタム定義テンプレートが表示されます。

カスタム定義テンプレートの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートの次のプロパティを編集できます:

- テンプレートの名前、説明、キャプションおよびコメント
- テンプレートを構成するコンポーネント
- テンプレートの手順
- テンプレートの設計時プロンプト
- **Financial Management ユーザーのみ:** ログギング・オプションおよびタイマー・オプションが使用可能かどうか

カスタム定義テンプレートの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートを作成または変更した後に保存します。

- ▶ 作成または編集後にカスタム定義テンプレートを保存するには、「ファイル」、「保存」の順に選択します。

注： システム・ビューでアプリケーション・リストをリフレッシュすると、保存後にカスタム定義テンプレートを表示できます。これを行うには、システム・ビューのアプリケーション・リストで任意のノードまたはオブジェクトを右クリックし、「リフレッシュ」を選択します。

異なる名前でのカスタム定義テンプレートの保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートは、「名前を付けて保存」を使用して異なる名前で保存できます。「名前を付けて保存」を使用すると、あるルールから同じアプリケーション・タイプ内の別のルールにカスタム定義テンプレートをコピーすることもできます。「名前を付けて保存」では、元のテンプレートのコンテンツのコピーが、元のファイルと区別するために異なる名前で作成されます。

- ▶ カスタム定義テンプレートを異なる名前で保存するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 異なる名前で保存するカスタム定義テンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 「テンプレート・デザイナ」で、「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。
- 4 「新規カスタム定義テンプレート」で次のタスクを行います:
 1. テンプレートの新規名と「アプリケーション」を入力します。アプリケーションは、有効な Performance Management Architect アプリケーション、Financial Management または Planning アプリケーション管理を使用して作成されたアプリケーション、Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション、または Operational Planning アプリケーションであることが必要です。

2. カスタム定義テンプレートが Financial Management カスタム定義テンプレートの場合は「計算タイプ」を選択し、Planning カスタム定義テンプレートの場合は「プラン・タイプ」を選択し、Essbase または Operational Planning カスタム定義テンプレートの場合は「データベース」を選択します。

注：異なる名前で保存したカスタム定義テンプレートのアプリケーション・タイプまたは計算タイプは変更できません。異なる名前でカスタム定義テンプレートを保存する場合、カスタム定義テンプレートが属するアプリケーション・タイプとプラン・タイプは変更できません。

3. 「OK」をクリックします。

新規カスタム定義テンプレートは、システム・ビューのアプリケーション・リストに追加されます。場合によっては、アプリケーション・リストをリフレッシュして、新規テンプレートを参照する必要があります。159 ページの「カスタム定義テンプレートのリフレッシュ(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

カスタム定義テンプレートのリフレッシュ(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートを作成した後、システム・ビューのアプリケーション・リストをリフレッシュして、「テンプレート」ノードの新規テンプレートを参照できます。カスタム定義テンプレートが属するアプリケーション・タイプ、アプリケーション、または計算タイプやプラン・タイプをリフレッシュする場合は、デフォルトで「テンプレート」ノードをリフレッシュします。ただし、「テンプレート」ノードをリフレッシュしても、アプリケーション・リストのそれより上位のレベル(つまり、計算タイプやプラン・タイプ、アプリケーション、またはアプリケーション・タイプ)はリフレッシュされません。

▶ カスタム定義テンプレートをリフレッシュするには:

- 1 システム・ビューで、リフレッシュするカスタム定義テンプレートを含む Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。
- 2 「テンプレート」を右クリックし、「リフレッシュ」を選択します。

注：データベース・アウトラインの上位のレベルをリフレッシュすることで、カスタム定義テンプレートもリフレッシュできます(たとえば、Financial Management テンプレートの計算タイプ、Planning テンプレートのプラン・タイプ、Essbase または Operational Planning テンプレートのデータベースなど)。

カスタム定義テンプレートの使用状況の表示 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ア プリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートを使用するビジネス・ルールを表示できます。カスタム定義テンプレートの使用を表示することは、カスタム定義テンプレートを削除するときに、どのオブジェクトがそのテンプレートを使用しているか(該当する場合)を知る必要がある場合に役立ちます。テンプレートを削除するには、そのテンプレートを使用しているすべてのオブジェクトからテンプレートを除去する必要があります。163 ページの「ビジネス・ルールのフロー・チャートからのカスタム定義テンプレートの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

▶ カスタム定義テンプレートの使用を表示するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 使用を表示するカスタム定義テンプレートを右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。
- 3 カスタム定義テンプレートに関する次の情報を表示できます:
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールの名前
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールの計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールのアプリケーション名
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールが配置されているかどうか
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールが検証されているかどうか
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールの説明
 - このテンプレートを含んでいるカスタム・ビュー内のフォルダ
- 4 情報を確認した後、「OK」をクリックします。

カスタム定義テンプレートの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

システム・ビューからカスタム定義テンプレートを削除できます。カスタム定義テンプレートを削除する前に、どのビジネス・ルールまたはカスタム・フォルダでも使用されていないことを確認します。カスタム定義テンプレートがビジネス・ルールまたはカスタム・フォルダにより使用されているかどうかを調べるには、システム・ビューからその使用を表示します。160 ページの「カスタム定義テンプレートの使用状況の表示(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。テンプレートがビジネス・ルールにより使用されている場合は、削除する前にそのビジネス・ルールからそのテンプレートを除去する必要があります。163 ページの「ビジネス・ルールのフロー・チャートからのカスタム定義テンプレートの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

▶ カスタム定義テンプレートを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 削除するテンプレートを右クリックし、「使用状況の表示」を選択して、そのテンプレートがビジネス・ルールまたはテンプレートにより使用されていないことを確認します。
- 3 削除するテンプレートを右クリックし、「削除」を選択します。
- 4 「OK」をクリックしてテンプレートの削除を確認します。

カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートをコピーして、別のビジネス・ルールに貼り付けられます。コピー先のルールは、同じアプリケーション・タイプおよび計算またはプラン・タイプに属する必要があります。たとえば、Planning アプリケーション内のプラン1プラン・タイプのルールからカスタム定義テンプレートを、Planning アプリケーション内のプラン1プラン・タイプの別のルールにコピーすることはできますが、資本資産プラン・タイプのルールにコピーできません。

▶ カスタム定義テンプレートをコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 コピーするテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 「テンプレート・デザイナ」で、「編集」、「コピー」の順に選択します。
- 4 システム・ビューで、コピーしたテンプレートを貼り付けるルールまたはテンプレートを開きます。
- 5 カスタム定義テンプレートを貼り付けるテンプレートまたはルールでの「テンプレート・デザイナ」または「ルール・デザイナ」のフロー・チャートで、「編集」、「貼り付け」の順に選択します。

注: 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールのフロー・チャートへのカスタム定義テンプレートの挿入(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートを、挿入先のビジネス・ルールのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップすることにより、カスタム定義テンプレートのコピーをビジネス・ルールに挿入できます。

▶ カスタム定義テンプレートをビジネス・ルールに挿入するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。

注: Operational Planning アプリケーションを使用している場合、使用するルールが含まれる計算タイプも展開する必要があります。

- 2 「ルール」ノードを展開します。
- 3 テンプレートを挿入するビジネス・ルールを右クリックして、「開く」を選択します。
- 4 「ルール・デザイナ」の「既存のオブジェクト」で、「テンプレート」ノードを展開します。

- 5 ルールで挿入するテンプレートをドラッグし、表示する位置でルールのフロー・チャートにドロップします。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「追加を元に戻す」の順に選択します。

- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ビジネス・ルールのフロー・チャートからのカスタム定義テンプレートの除去(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ビジネス・ルールのフロー・チャートからカスタム定義テンプレートを除去するには、フロー・チャートでそのテンプレートを右クリックし、「除去」をクリックします。フロー・チャートから除去しても、データベースからは削除されません。データベースには別のオブジェクトとして存在します。

▶ フロー・チャートからテンプレートを除去するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」を展開します。
- 2 ビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナ」のフロー・チャートで、除去するテンプレートを右クリックして、「除去」を選択します。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「削除を元に戻す」の順に選択します。

- 4 「はい」を選択して、コンポーネントを除去することを確認します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

カスタム定義テンプレートでのテキストの検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレート内でテキスト文字列を検索できます。文字列を検索する場合、Calculation Manager は、テンプレートのフロー・チャートで選択されているコンポーネントの直後のコンポーネントから検索を開始し、フロー・チャートの最後まで検索して、フロー・チャートで選択されているコンポーネントに到達するまで、フロー・チャートの最初から再度検索を開始します。一致するテキスト文字列が1つ見つかった後に、別の場所を検索する場合は、再度検索を開始して次の一致を探す必要があります。

カスタム定義テンプレートで、テキスト文字列のすべてのインスタンスを置換することもできます。

▶ カスタム定義テンプレートでテキストを検索および置換するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - 検索するテキスト文字列が含まれるテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
 - 検索するテキスト文字列が含まれるテンプレートを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
テンプレートがテンプレート・デザイナに表示されます。
- 3 次のタスクを実行できます:
 - テキスト文字列の最初または後続の一致を検索するには、「編集」、「検索」の順に選択するか、「編集」、「次を検索」の順に選択して、次のタスクを実行します:
 - 1 「検索項目」に、検索するテキスト文字列を入力します。
 - 2 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 - 3 ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 - 4 テンプレート名、説明、コメント、およびキャプションを検索に含める場合は、「基本プロパティを含める」を選択します。
 - 5 「検索」をクリックします。

- テキスト文字列のすべての一致を置換するには、「編集」、「すべて置換」の順に選択し、次のタスクを実行します:

注: 「すべて置換」では、埋込みビジネス・ルールまたはテンプレートのテキスト文字列は置換されません。テンプレート参照の場合、「すべて置換」では、テンプレートの設計時プロンプトのテキスト文字列(設計時プロンプトの名前は除く)が置換され、テンプレート・フローは置換されません。

1. 「検索項目」に、検索するテキスト文字列を入力します。
2. 「置換後の文字列」に、「検索項目」のテキスト文字列のすべての一致を置換するテキスト文字列を入力します。
3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
5. テンプレート名、説明、コメント、およびキャプションを検索に含める場合は、「基本プロパティを含める」を選択します。
6. 「すべて置換」をクリックして、テキスト文字列のすべての一致を置換します。

注: 「検索」、「次を検索」、および「すべて置換」の機能は、カスタム定義テンプレートのフロー・チャート内でのみ機能します。これらの機能で、テンプレートの設計時プロンプトまたは手順のテキストを検索および置換することはできません。設計時プロンプトのテキストを置換するには、[165 ページの「設計時プロンプトのテキストの検索および置換」](#)を参照してください。

- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

設計時プロンプトのテキストの検索および置換

カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトで、テキスト文字列を検索および置換できます。

注意 設計時プロンプトを置換する順序および場所は、非常に重要です。「設計時プロンプト」タブとテンプレート・フロータブの両方で、設計時プロンプト名を検索および置換する場合、まず「設計時プロンプト」タブで検索し、テンプレートを保存してから、テンプレート・フロータブで検索および置換する必要があります。この順序で検索を実行しない場合、設計時プロンプト名はテンプレート・フロータブで置換されません。

▶ 設計時プロンプト内のテキストを検索および置換するには:

1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「テンプレート」を展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- 検索するテキスト文字列を含む設計時プロンプトを使用したテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 検索するテキスト文字列を含む設計時プロンプトを使用したテンプレートを選択し、「ファイル」、「開く」の順に選択します。

テンプレートがテンプレート・デザイナに表示されます。

3 「設計時プロンプト」を選択して、テンプレート内の設計時プロンプトのリストを参照します。

4 「検索」アイコンをクリックします。

1. 「検索項目」に、検索するテキスト文字列を入力します。
2. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
4. すべての行を検索できるように、グリッド内の選択した行で検索を開始し、同じ行で検索を終了する場合は、「検索の折返し」を選択します。行が選択されていない場合、最初の行から検索が開始されます。
5. 「検索」をクリックします。

5 「検索」アイコンをクリックします。

1. 「検索項目」に、検索するテキスト文字列を入力します。
2. 「置換後の文字列」に、「検索項目」のテキスト文字列のすべての一致を置換するテキスト文字列を入力します。
3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、「大文字/小文字の一致」を選択します。
4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
5. すべての行を検索できるように、グリッド内の選択した行で検索を開始し、同じ行で検索を終了する場合は、「検索の折返し」を選択します。
6. 「検索」をクリックして、テキスト文字列のそれぞれの一致を検索します。
7. 「置換」をクリックして、テキスト文字列の1つのインスタンスを一度に置換します。
8. 「すべて置換」をクリックして、テキスト文字列のすべての一致を置換します。

6 カスタム定義テンプレートを保存します。

テンプレートの検索(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションの ユーザーのみ)

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の詳細検索機能を使用して、Calculation Manager のテンプレート(またはオブジェクト)を検索できます。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

4

ビジネス・ルールとテンプレート を設計するためのコンポーネントの使用 (Financial Management、Planning、 Operational Planningおよび Essbaseブロック・ストレージ・ アプリケーションのユーザーのみ)

この章の内容

コンポーネントについて.....	170
式コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	171
スクリプト・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	185
条件コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	193
メンバー・ブロック・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	198
メンバー範囲コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	203
データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ).....	209
固定ループ・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	214
メタデータ・ループ・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	219
DTP 割当てコンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	224
スクリプトおよび式コンポーネントの共有(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ).....	230
コンポーネントの保存.....	232

式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケー ションのユーザーのみ).....	235
式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示(Financial Management、 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケー ションのユーザーのみ).....	236
フロー・チャート内でのコンポーネントの操作.....	236
コンポーネントの検索.....	240

コンポーネントについて

ビジネス・ルールとカスタム定義テンプレートは、式、スクリプト、条件、メン
バー・ブロック、メンバー範囲、データ範囲(Financial Management ユーザーのみ)
およびループなどのコンポーネントで構成されます。また、メタデータ・ループ・
コンポーネントと DTP 割当てコンポーネントを使用すると、カスタム定義テンプレ
ートを作成できます。これらのコンポーネントについて次に説明します。

- 式コンポーネントには、メンバー、関数、およびオプションで条件ステート
メントを使用して記述または設計可能な計算ステートメントが含まれます。
- スクリプト・コンポーネントには、Visual Basic (Financial Management の場合)
または Essbase (Planning、Operational Planning および Essbase の場合)計算スクリ
プト・ステートメントのみが含まれます。
- 条件コンポーネントには、true または false である条件ステートメント(つま
り、If...Then ステートメント)が含まれます。
- メンバー・ブロック・コンポーネントには、指定された 1 つのメンバーが含
まれます(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・
アプリケーションのユーザーのみ)。
- メンバー範囲コンポーネント、つまりメタデータ・ループには、メタデータ・
メンバーのリスト(勘定科目のリストなど)が含まれます。
- データ範囲コンポーネント(Financial Management ユーザーのみ)、つまりデー
タ・ループには、データ・レコードのリスト(勘定科目の値のリストなど)が含
まれます。
- 固定ループ・コンポーネントには、メタデータ・ループ(たとえば、勘定科目
などのメタデータ・メンバーのリスト全体でのループ)が含まれます。Financial
Management の固定ループには、データ・ループ(たとえば、Financial
Management データ全体での固定回数のループ)も含まれます。
- メタデータ・ループ・コンポーネント(カスタム定義のテンプレート・ユーザ
ーのみ)には、親次元の子に適用可能な 1 つ以上のパラメータが含まれています。
- DTP 割当てコンポーネント(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)に
は、定義した設計時プロンプトおよび条件が含まれます。

式およびスクリプト・コンポーネントは、これらのコンポーネントを使用するルー
ルおよびテンプレートとは別個に作成できます。式およびスクリプトは別個のオ
ブジェクトであるため、システム・ビュー内で開いたり、保存、編集、削除、お
よびエクスポートできます(その他のアクションを含む)。その他のコンポーネン
ト・タイプは、式およびスクリプトとは異なり、ルールおよびテンプレート内で

作成する必要があります。ルールおよびテンプレートに属するそれらのコンポーネントを、別個に開いたり、保存、削除、またはエクスポートしたりできません。

式コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- 172 ページの「式コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 172 ページの「式コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 173 ページの「式コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 180 ページの「式ステートメントのロギング情報の入力(Financial Management ユーザーのみ)」
- 180 ページの「式ステートメントのコメントの入力(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 181 ページの「クイック編集を使用したコンポーネントのキャプションの入力(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 182 ページの「式コンポーネントを開く(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 182 ページの「式コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 183 ページの「式コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

- 184 ページの「式コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

式コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式コンポーネントは、式の計算ステートメントで構成されています。式の計算ステートメントを作成するには、メンバー、関数および条件を入力または選択します。式を作成する際、コンポーネント・デザイナーのグリッド内の行にその各計算ステートメントがリストされます。

式コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールおよびテンプレートで式コンポーネントを使用できます。

▶ 式コンポーネントを作成するには:

- 1 式の名前を入力します。
- 2 「アプリケーション・タイプ」に入力します。
- 3 「アプリケーション」を選択します。アプリケーションは、有効な Performance Management Architect アプリケーション、Financial Management または Planning アプリケーション管理を使用して作成されたアプリケーション、Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション、または Operational Planning アプリケーションであることが必要です。
- 4 次のいずれかのタスクを行います:
 1. Financial Management を選択した場合は、「計算タイプ」を選択します。
 2. Planning を選択した場合は、「プラン・タイプ」を選択します。
 3. Essbase または Operational Planning を選択した場合、「データベース」を選択します。

注: システム・ビューから、式を右クリックし、「新規」を選択して新しい式を作成すると、「新規式」ダイアログにアプリケーション・タイプ名、アプリケーション名、および使用している計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース名が移入されます。

- 5 「OK」をクリックします。

コンポーネント・デザイナーに式が表示されます。式コンポーネントを設計するには、173 ページの「式コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

式コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールやテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナー内で式コンポーネントを作成することもできます。ビジネス・ルールおよびテンプレートで式コンポーネントを使用できます。

▶ 式コンポーネントを作成するには:

1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「式」を展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- 「ファイル」、「新規」、「式コンポーネント」の順に選択します。
- 「式」を右クリックし、「新規」を選択します。

注: 新しい式コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドラッグして、ビジネス・ルールまたはテンプレート内で式コンポーネントを作成することもできます

3 名前、アプリケーション・タイプ、および式コンポーネントが属するアプリケーションを入力します。次に、次のいずれかを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management 式コンポーネントを作成する場合には、計算タイプを入力します。
- **Planning ユーザーのみ:** Planning 式コンポーネントを作成する場合には、プラン・タイプを入力します。
- **Essbase および Operational Planning ユーザーのみ:** Essbase または Operational Planning 式コンポーネントを作成している場合は、データベースを入力します。

4 「OK」をクリックします。

5 「プロパティ」で、次の手順を実行します:

1. **ビジネス・ルール用に式コンポーネントを作成しているユーザーのみ:** 式コンポーネントを作成する場合、「共有」は選択できません。式コンポーネントをドラッグしてルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドロップすると、「共有」はデフォルトで選択されます。かわりにルールま

たはテンプレート内に式コンポーネントのコピーを作成するには、「共有」の選択を解除します。

2. **オプション:** 新規名前を 50 文字以下で入力することにより、式の名前を編集します。(デフォルトの名前は「新規式」ダイアログで指定されます。)
3. **オプション:** 式の説明を 255 文字以下で入力します。
4. 式のキャプションを入力します。キャプションは、「ルール・デザイナ」および「テンプレート・デザイナ」のフロー・チャートで式の下に表示されます。

注: キャプションを入力しない場合、フロー・チャートではコンポーネントの名前が表示されます。

5. 式のコメントを入力します。たとえば、式の用途をユーザーに伝えられます。

- 6 **Financial Management ユーザーのみ:** 「ロギングの使用可能」を選択して、式にログ・テキストがある場合は、ルールが起動されたときにログ・ファイルにそのテキストを追加するようにします。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、追加するログ・テキストがある場合は、ビジネス・ルールの式ステートメントでそのテキストを指定します。

注: ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- 7 **Financial Management ユーザー:** 「タイマーの使用可能」を選択して、ルールが起動されたときに、式の処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている 3 つの式が含まれている場合、ルールおよびルール内の各式の処理に要する時間が記録されます。

- 8 **ビジネス・ルール用の式コンポーネントを作成している Financial Management ユーザーのみ:** 「使用不可」を選択し、スクリプトの作成中に、その式コンポーネントを使用するすべてのビジネス・ルール内で式コンポーネントを一時的に使用不可にします。

- 9 **オプション:** 「式」で、次のタスクを実行できます:

- 「グリッドの追加」をクリックし、「グリッドの挿入(前)」、「グリッドの挿入(後)」または「末尾にグリッドを挿入」を選択して、グリッドを追加します。デフォルトでは、「式」タブに 1 つのグリッドが表示されます。
- 「グリッドの削除」をクリックして、選択したグリッドを削除します。
- 「検索」アイコンをクリックして、使用中の式グリッドのテキストを検索します。次のタスクを実行します:
 1. 「検索項目」に、式グリッドで検索するテキストを入力します。
 2. 「検索項目」のテキストと大文字/小文字を一致させるには、「大文字/小文字の一致」を選択します。

3. 「検索項目」に入力したテキストに完全に一致する単語を検索するには、「完全に一致する単語」を選択します。
 4. グリッド内の選択した行で検索を開始し、同じ行で検索を終了する場合は、「検索の折返し」を選択します。たとえば、グリッドの行数が5行で、「検索の折返し」を選択し、3行目から検索を開始するとします。この場合、4行目と5行目に該当する項目が見つからないと、引き続き1行目と2行目が検索され、開始した3行目で検索を終了します。この例で、「検索の折返し」を選択しない場合、行3、4および5のみが検索されます。
 5. 「検索」をクリックします。
- スクリプト内のテキストを検索して置換する場合は、「検索/置換」アイコンをクリックします。
 1. 「検索項目」に、スクリプトで検索するテキストを入力します。
 2. 「置換後の文字列」に、置換後の文字列を入力します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力するテキストの大文字小文字が一致するテキストを検索する場合は、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 5. グリッド内の選択した行で検索を開始し、同じ行で検索を終了する場合は、「検索の折返し」を選択します。
 6. テキスト文字列のインスタンスを検索して、一度に1つを置換する場合は、「置換」をクリックします。
 7. テキスト文字列のインスタンスを検索して、同時にすべてを置換する場合は、「すべて置換」をクリックします。

10 「式」に、式のキャプションを入力します。

11 テンプレート用に式コンポーネントを作成しているユーザーのみ: 式コンポーネント内で設計時プロンプトを使用する場合は、「設計プロンプトの使用」を選択します。次に条件グリッドで、次のタスクを行って設計時プロンプトの条件を定義します:

1. 「DTP」で設計時プロンプトを選択します。
2. 「演算子」で、演算子「==」または「<>」を選択します。
3. 「値」で、設計時プロンプトの値を入力または選択します。
4. これらの手順を繰り返し、条件に必要な数のステートメントを作成します。

ヒント: 行を追加または削除するには、プラス(+)アイコンまたはマイナス(-)アイコンをクリックします。

12 Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ: デフォルトでは、グリッドで入力した最初のメンバーを使用して式コンポーネントの計算処理が開始されます。別のメンバーを使用して式コンポーネントの計算処理を開始するには、「メンバー・ブロック」にメンバーまたは関数名を入力するか、「省略記号」アイコン

をクリックしてメンバー・セレクタからメンバーを選択します。[260 ページの「コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について」](#)を参照してください。

- 13 「コメント」に、作成する条件ステートメントおよび式ステートメントのコメントを入力します。
- 14 **オプション:** 式コンポーネントの条件ステートメント(つまり IF ステートメント)を作成するには、「条件の追加」をクリックします。[178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
- 15 **オプション:** 表示された IF 行に、条件ステートメントのテキストを入力するか、行の右側の列で「条件の追加/編集」アイコンをクリックして条件ビルダーにアクセスします。条件ビルダーを使用すると、条件ステートメントをグラフィカルに設計できます。

注: 下矢印から IF、ELSE IF、および ELSE を選択できますが、デフォルトでは最初のステートメントは IF ステートメントにする必要があります。

- 16 **オプション:** 条件ビルダーを使用して、IF 条件ステートメントを設計します。[178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
- 17 「式」行で、式ステートメントを作成するには、等号の左側にある行内をクリックします。「アクション」アイコンを選択して、次を選択します:

注: [手順 14](#) から [手順 16](#) で条件ステートメント(つまり IF ステートメント)を作成した場合、この手順で作成する式ステートメントは条件の THEN ステートメントとなります。

- 変数([279 ページの「変数の操作」](#)を参照してください。)
- メンバー([260 ページの「メンバーの操作」](#)を参照してください。)
- 関数([300 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。)
- スマート・リスト([303 ページの「スマート・リストの操作\(Planning ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。)

- 18 「式」行で、式ステートメントを完了するには、等号の右側にある行内をクリックします。「アクション」アイコンをクリックして、次を選択します:

- 変数([279 ページの「変数の操作」](#)を参照してください。)
- メンバー([260 ページの「メンバーの操作」](#)を参照してください。)
- 関数([300 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。)
- スマート・リスト([303 ページの「スマート・リストの操作\(Planning ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。)

- 19 **Financial Management ユーザーのみ:** 文ごとに、「ロギング情報」アイコンをクリックしてログのオプション条件文を入力します。ログ情報は、条件に合致する場合のみログ・ファイルに記録されます。ロギング情報を保存すると、ログ・テキスト

ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用(Financial Management、Planning、Operational

トが存在することを示す横線の付いた「コメント」アイコンが表示されます。[180ページの「式ステートメントのロギング情報の入力\(Financial Management ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。

注： ログ・テキストをログ・ファイルに含めるには、「ロギングの使用可能」を選択する必要があります。

20 「コメント」アイコンをクリックし、計算ステートメント行に関するコメントを入力します。「OK」をクリックします。

21 オプション: 別の IF ステートメント、または ELSE IF ステートメントや ELSE ステートメントを作成する場合は、次の手順を実行します:

1. 「条件の追加」をクリックします。

2. 「下矢印」をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します:

- 「IF」: IF 条件ステートメントを作成するには、これを選択します。IF ステートメントが TRUE の場合、アクションが実行されます。IF ステートメントが FALSE の場合、他のアクションが実行されます。
- 「ELSE IF」: ELSE IF 条件ステートメントを作成するには、これを選択します。関連付けられた IF ステートメントが存在し、IF ステートメントが FALSE の場合、このステートメントのアクションが実行されます。
- 「ELSE」: ELSE 条件ステートメントを作成するには、これを選択します。関連付けられた ELSE IF ステートメントが存在し、ELSE IF ステートメントが FALSE の場合、このステートメントのアクションが実行されます。

注： IF ブロックまたは ELSE IF ブロックから条件ステートメントを除去する場合で、次のブロックに ELSE IF ステートメントが含まれている場合は、次のブロックが IF ブロックに変更されます。ただし、次のブロックに ELSE ステートメントが含まれている場合は、このブロック内の条件ステートメントが除去されます。

3. [176 ページの手順 14](#) から [177 ページの手順 20](#) を繰り返して、式コンポーネントの追加のステートメントを設計します。式グリッドは、式ステートメントのコレクションを含む 1 つ以上の式ブロックで構成される場合があります。さらに、ブロックのコメントおよび条件を入力することもできますが、これはオプションです。

ヒント： 必要に応じて、「+」アイコンをクリックして式の行をさらに追加します。

22 ビジネス・ルール用に式コンポーネントを作成しているユーザーのみ: 「用途」で、式コンポーネントを使用するルールを表示できます。

注： このタブの情報はどれも編集できません。

23 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

条件ビルダーを使用すると、式および条件コンポーネントの条件ステートメントを作成できます。条件ステートメントは、If...Then ステートメントとも呼ばれます。条件ステートメントの最初の部分(If 部)が TRUE の場合、ステートメントの 2 番目の部分(Then 部)も TRUE になります。条件ステートメントの最初の部分が FALSE の場合、2 番目の部分は TRUE の場合とそうでない場合があります。

▶ 条件ステートメントを作成するには:

1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「式」を展開します。次のいずれかのタスクを行います:

- 条件ステートメントを作成する式を右クリックし、「開く」を選択します。
- 条件ステートメントを作成する式を選択し、「ファイル」、「開く」の順に選択します。

2 「コンポーネント・デザイナ」で、「条件の追加」アイコンをクリックします。

3 表示された IF 行に、条件ステートメントのテキストを入力するか、行の右側にある「条件の追加/編集」アイコンをクリックして条件ビルダーにアクセスします。条件ビルダーを使用すると、条件ステートメントをグラフィカルに設計できます。

注: 下矢印から IF、ELSE IF、および ELSE を選択できますが、デフォルトでは最初のステートメントは IF ステートメントにする必要があります。

4 条件ビルダーで、「メタデータの条件」または「データの条件」を選択します。

5 次のいずれかのタスクを行います:

- 「関数」(メタデータの条件の場合)または「式」(データの条件の場合)に値を入力します。
- 「関数」または「式」行内をクリックし、「アクション」アイコンを表示します。「アクション」アイコンをクリックし、式または関数を作成するオプションを選択します:
 - 変数(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)
 - メンバー(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。)
 - 関数(300 ページの「関数の操作」を参照してください。)

6 次の演算子のいずれかを入力します:

- =(等しい)
- <(より大きい)
- >(より小さい)
- <>(より大きいか、より小さい)
- >=(以下)

- <= (以上)

7 次のいずれかのタスクを行います:

- 「値」に値を入力します。
- 「値」行内をクリックし、「アクション」アイコンを表示します。「アクション」をクリックし、式または関数の値を作成するオプションを選択します:
 - 変数(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)
 - メンバー(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。)
 - 関数(300 ページの「関数の操作」を参照してください。)

8 条件のコメントを入力します。

9 「条件」グリッドに条件を追加するには、「+」アイコンをクリックします。(「+」アイコンを使用し、選択した行のコピーを作成して「条件」グリッドに追加することもできます。) 「条件」グリッドの選択した行を、メタデータまたはデータの条件と置換するには、「-」アイコンを使用します。

ヒント: グリッド内で条件ステートメントを並べ替えるには、上矢印および下矢印を使用します。

10 「OK」をクリックします。

IF ステートメントに条件が挿入されます。

11 オプション: 作成する条件ステートメントごとに、手順 2 から手順 10 を繰り返します。

12 オプション: 追加の条件ステートメントごとに、最初の列をダブルクリックしてドロップダウン・リストを表示し、各条件ステートメントを開始するための演算子を選択できます:

- IF: IF が付いた最初の条件ステートメントだけを開始できます。(これは、作成した最初の条件ステートメントにだけ表示されるデフォルトです。)
- NOT IF: NOT IF が付いた最初の条件ステートメントだけ開始できます。
- AND: 2 つ以上の条件ステートメントが複合したものを作成する場合に、AND が付いた任意の条件ステートメント(最初のステートメントを除く)を開始できます。
- OR: 2 つ以上の条件ステートメントが複合したものを作成する場合に、OR が付いた任意の条件ステートメント(最初のステートメントを除く)を開始できます。
- AND NOT: その後に式コンポーネントが続く条件ステートメントを含める場合に、AND NOT が付いた任意の条件ステートメント(最初のステートメントを除く)を開始できます。
- OR NOT: その後に式コンポーネントが続く条件ステートメントを除外する場合に、OR NOT が付いた任意の条件ステートメント(最初のステートメントを除く)を開始できます。

ヒント： 条件ステートメントに丸カッコを追加および除去するには、「グループ」アイコンと「グループ解除」アイコンを使用します。複数の条件ステートメントをグループ化またはグループ解除するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックするか、[Shift]キーを押しながらクリックして、グループ化またはグループ解除する条件ステートメントを選択します。

13 「OK」 をクリックします。

条件ステートメントが条件行に挿入されます。

式ステートメントのロギング情報の入力(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management 式ステートメントのロギング情報を入力できます。

▶ ロギング情報を入力するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプおよび「式」を展開します。ロギング情報を追加する式を右クリックして、「開く」を選択します。
 - 2 「コンポーネント・デザイナ」で、ステートメントごとに「ロギング情報」アイコンをクリックして、ログのオプションの条件ステートメントを入力します。ログ情報は、条件に合致する場合のみログ・ファイルに書き込まれます。ロギング情報を保存すると、ログ・テキストが存在することを示す横線の付いた「コメント」アイコンが表示されます。
- 注：** 「ロギングの使用可能」を選択して、ログ・テキストをログ・ファイルに含めます。
- 3 変数を使用する場合は、「変数の使用」を選択します。次に、「変数」から変数を選択します。
 - 4 ログ・テキストを標準フォーマットで表示する場合は、「標準表示フォーマットの使用」を選択します。
 - 5 「ログ・テキスト」に、ログの条件ステートメントを入力するか、「条件の追加/編集」アイコンをクリックし、条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - 6 「ログ式」に式を入力します。
 - 7 「OK」 をクリックします。

式ステートメントのコメントの入力(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式ステートメントのコメントを入力できます。

▶ 式ステートメントのコメントを入力するには:

- 1 システム・ビューで、**Financial Management**、**Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ**、**アプリケーション**、**計算タイプ**(**Financial Management** の場合)、**プラン・タイプ**(**Planning** の場合)または**データベース**(**Essbase** または **Operational Planning** の場合)を展開し、「式」を展開します。
- 2 コメントを追加する式を右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 次のいずれかのタスクを行います:
 - コメントを追加する式が**ビジネス・ルール**に含まれている場合、「ルール」を展開し、式コンポーネントが含まれているルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - コメントを追加する式が**テンプレート**に含まれている場合、「テンプレート」ノードを展開し、式コンポーネントが含まれているルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - 式を単独で開く場合は、「式」ノードを展開し、式を右クリックして「開く」を選択します。
- 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - **ビジネス・ルール**内の式にコメントを追加する場合は、「ルール・デザイナー」のフロー・チャートで、式コンポーネント、「式」タブ、および「コメント」アイコンの順に選択します。
 - **テンプレート**内の式にコメントを追加する場合は、「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで、式コンポーネント、「式」タブおよび「コメント」アイコンの順に選択します。
 - 式コンポーネントのコメントを単独で追加する場合は、「コンポーネント・デザイナー」で、式ステートメントごとに「コメント」アイコンをクリックします。
- 5 「コメント」ダイアログで、式ステートメントのコメントを入力します。
- 6 「OK」をクリックします。

クイック編集を使用したコンポーネントのキャプションの入力(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

コンポーネントを**ビジネス・ルール**または**テンプレート**のフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップする場合、「プロパティ」タブでキャプションを入力するのではなく、クイック編集を使用してコンポーネントのキャプションを入力できます。

▶ コンポーネントのキャプションを入力するには:

- 1 システム・ビューで、**Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ**、**アプリケーション**、**プラン・タイプ**(**Planning** の場合)または**データベース**(**Essbase** または **Operational Planning** の場合)を展開し、**ビジネス・ルール**または**テンプレート**のいずれかにコンポーネントのキャプションを入力するかに応じて、「ルール」または「テンプレート」を展開します。

- 2 キャプションを追加するコンポーネントが含まれているルールまたはテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナで、まだ選択していない場合は「ツール」、「クイック編集」の順に選択してクイック編集を有効にします。
- 4 「新規オブジェクト」から、コンポーネント・アイコンをドラッグしてフロー・チャートにドロップします。
- 5 フロー・チャート内のコンポーネントの下に表示されたフィールドに、キャプションを入力します。
- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

式コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式コンポーネントは、システム・ビューから、またはルール・デザイナやテンプレート・デザイナのフロー・チャート内から開くことができます。

▶ 式コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。
- 2 「式」を展開し、次のいずれかのタスクを実行します:
 - 開く式を右クリックし、「開く」を選択します。
 - 開く式を選択し、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
 - 開く式をダブルクリックします。

注: 式コンポーネントがビジネス・ルールで使用されている場合、式コンポーネントを右クリックして「開く」を選択するか、式コンポーネントをダブルクリックして、ルール・デザイナでルールのフロー・チャート内から開くこともできます。

式コンポーネントの編集 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式コンポーネントの計算結果をログ・ファイルに含めるかどうか(Financial Management アプリケーションの場合のみ)、および式コンポーネントのコメント、キャプション、名前および説明で構成されるステートメントを編集できます。

▶ 式コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、**Financial Management、Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)**を展開し、「式」を展開します。
- 2 編集する式コンポーネントを選択します。
- 3 次のいずれかのタスクを行います:
 - 「ファイル」、「開く」の順に選択します。
 - 式を右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 「コンポーネント・デザイナー」で、式コンポーネントの次のプロパティを編集できます。[173 ページの「式コンポーネントの設計\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#) および [178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#) を参照してください。
 - キャプション
 - 条件ステートメント
 - 式ステートメント
 - 名前
 - 説明
 - コメント
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ログおよびタイマーのオプション
 - **テンプレート・ユーザーのみ:** 式コンポーネントに条件を作成するときに使用する設計時プロンプト
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

式コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式コンポーネントは、ルールまたはテンプレートで使用されていない場合にのみ削除できます。ルールまたはテンプレートで式コンポーネントが使用されているかどうかを確認するには、使用状況を表示します。([236 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#) を参照してください。)式コンポーネントがルールまたはテンプレートで使用されているが、そのルールまたはテンプレートでの使用が必要でない場合は、ルールまたはテンプレートから除去した後、式コンポーネントを削除できます。ルールまたはテンプレートを削除すると、それに含まれる式コンポーネントも削除されます。

▶ 式コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「式」を展開します。
- 2 削除する式を右クリックし、「使用状況の表示」を選択して、ルールまたはテンプレートで式コンポーネントが使用されていないことを確認します。使用されている場合は、ルールまたはテンプレートから式を除去する必要があります。[237 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」](#)を参照してください。
- 3 削除する式を右クリックし、「削除」を選択します。
- 4 式の削除を確認します。

式コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートから式コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。式コンポーネント内のグリッドのコンテンツをコピーして、同じ式コンポーネントや異なる式コンポーネントに貼り付けることもできます。式コンポーネントをコピーして、別の式コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けることはできません。

▶ 式コンポーネントをコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 コピーする式コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで、コピーする式コンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。

注: コピーするコンポーネントが共有されている場合、コンポーネント自体をコピーするかわりに、「編集」、「参照のコピー」を使用して参照を共有コンポーネントにコピーできます。(74 ページの「ビジネス・ルールの式またはスクリプト・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」を参照してください。)

コピーするコンポーネントに他のコンポーネント(子)が含まれている場合は、「グループのコピー」を選択して、グループのすべてのコンポーネントをコピーできます。(240 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付け」を参照してください。)

4 次のいずれかのタスクを行います:

- 式コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートに貼り付ける場合、フロー・チャートの式コンポーネントを貼り付ける場所で右クリックし、「貼付け」を選択します。
- 式コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの式コンポーネントを貼り付ける場所で右クリックして「貼付け」を選択します。

注: 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

スクリプト・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [185 ページの「スクリプト・コンポーネントの作成」](#)
- [186 ページの「スクリプト・コンポーネントの設計\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [190 ページの「スクリプト・コンポーネントを開く\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [190 ページの「スクリプト・コンポーネントの編集\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [192 ページの「スクリプト・コンポーネントのコピーおよび貼付け\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [191 ページの「スクリプト・コンポーネントの削除\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

スクリプト・コンポーネントの作成

スクリプト・コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールおよびテンプレートでスクリプト・コンポーネントを使用できます。

▶ スクリプト・コンポーネントを作成するには:

- 1 スクリプトの名前を入力します。
- 2 「アプリケーション・タイプ」(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
- 3 「アプリケーション名」を選択します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、Financial Management または Planning アプリケーション管理を使用して作成されたアプリケーション、Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション、または Operational Planning アプリケーションであることが必要です。
- 4 次のいずれかのタスクを行います:
 1. Financial Management を選択した場合は、「計算タイプ」を選択します。
 2. Planning を選択した場合は、「プラン・タイプ」を選択します。
 3. Essbase または Operational Planning を選択した場合、「データベース」を選択します。

注: システム・ビューで、スクリプトを右クリックし、「新規」を選択する場合、「新規スクリプト」ダイアログ・ボックスには、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、および使用している計算タイプ(Financial Management スクリプトの場合)、プラン・タイプ(Planning スクリプトの場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning スクリプトの場合)が移入されます。

- 5 「OK」をクリックします。

コンポーネント・デザイナーにスクリプトが表示されます。スクリプトを設計するには、[186 ページの「スクリプト・コンポーネントの設計\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照してください。

スクリプト・コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ビジネス・ルールおよびテンプレートでスクリプト・コンポーネントを使用できます。スクリプト・コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールやテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナー内でスクリプト・コンポーネントを作成することもできます。

▶ スクリプト・コンポーネントを設計するには:

- 1 次のいずれかのタスクを行います:
 - 「ファイル」、「新規」、「スクリプト・コンポーネント」の順に選択します。

- Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、および計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開します。

2 「スクリプト」を右クリックし、「新規」を選択します。

注： ビジネス・ルールまたはテンプレート内でスクリプト・コンポーネントを作成することもできます。

3 スクリプトの名前、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを入力します。その後、次のタスクのいずれかを行います：

- **Financial Management ユーザーのみ：** Financial Management スクリプトを作成する場合には、計算タイプを入力します。
- **Planning ユーザーのみ：** Planning スクリプトを作成する場合には、プラン・タイプを入力します。
- **Essbase および Operational Planning ユーザーのみ：** Essbase または Operational Planning スクリプトを作成している場合は、データベースを入力します。

4 「OK」をクリックします。

5 「コンポーネント・デザイナ」で、スクリプト・コンポーネントを設計するアイコンを使用します。Financial Management スクリプトは、Visual Basic に存在する必要があります。Planning、Operational Planning および Essbase スクリプトは Essbase に存在する必要があります。

注： ルール、テンプレートおよび他のコンポーネントとは異なり、スクリプトを開くときは、グラフィカル・フォーマットで(フロー・チャートとして)表示できません。スクリプト・フォーマットでのみ表示できます。

スクリプトを使用して、次のタスクを実行できます：

- スクリプトに関数を挿入するには、「関数とそのパラメータの挿入」アイコンをクリックします。300 ページの「関数の操作」を参照してください。
- スクリプトにメンバーを挿入するには、「次元から選択したメンバーの挿入」アイコンをクリックします。260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
- スクリプトに変数を挿入するには、「変数の挿入」アイコンをクリックします。279 ページの「変数の操作」を参照してください。

注： Visual Basic スクリプトは、自己完結している必要があります。スクリプトで、ルールセットに定義された置換変数や実行変数を参照できません。スクリプトで変数を使用する必要がある場合、スクリプト・コンポーネント内で宣言する必要があります。

- **Planning ユーザーのみ：** スクリプトにスマートリストを挿入するには、「スマートリストの挿入」をクリックします。303 ページの「スマート・リストの操作(Planning ユーザーのみ)」を参照してください。

- スクリプト内のテキスト文字列を検索するには、「検索」アイコンをクリックします。70 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- スクリプト内のテキスト文字列を検索して置換するには、「検索/置換」アイコンをクリックします。70 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- スクリプトの行番号を非表示にする(または表示する)には、「行番号の非表示」アイコンをクリックします。行番号はデフォルトで表示されています。
- スクリプトへのコメント行の追加および削除を行うには、「コメント」および「コメント解除」アイコンをクリックします。
- コード補完の提案を抑制するには、「コード補完を OFF に設定」アイコンをクリックします。(このアイコンはトグルとして機能します。コード補完をオンにするには、アイコンを再度クリックします。コード補完はデフォルトでオンに設定されています。)
- スクリプトの行をフォーマットするには、「フォーマット・コード」アイコンをクリックします。
- スクリプトの構文にエラーがあるかどうかを確認するには、「構文の確認」アイコンをクリックします。

注： 構文エラーがある場合、エラー・メッセージは表示されず、エラーのあるコードのテキストが赤くなります。構文エラーがない場合は、「構文エラーは見つかりませんでした。」というメッセージが表示されます。

- コピーするスクリプトの行を選択し、「クリップボードにコピー」アイコンをクリックします。
- 切り取るスクリプトの行を選択し、「クリップボードに切り取り」アイコンをクリックします。
- 貼り付けるスクリプトの場所にカーソルを置き、「クリップボードから貼付け」アイコンをクリックします。

6 「プロパティ」で、次の手順を実行します：

1. スクリプト・コンポーネントを作成する場合、「共有」は選択できません。スクリプト・コンポーネントをドラッグしてルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドロップすると、「共有」はデフォルトで選択されます。かわりにルールまたはテンプレート内にスクリプト・コンポーネントのコピーを作成するには、「共有」の選択を解除します。
2. **オプション:** 新規名前を 50 文字以下で入力することにより、スクリプトの名前を編集します。(デフォルトの名前は「新規スクリプト」ダイアログで指定されます。)
3. スクリプトの説明を 255 文字以下で入力します。

4. スクリプトのキャプションを入力します。キャプションは、「ルール・デザイン」および「テンプレート・デザイン」のフロー・チャートでスクリプトの下に表示されます。
5. スクリプトのコメントを入力します。たとえば、スクリプトの用途をユーザーに伝えられます。
- 7 Financial Management ユーザーのみ:** 「タイマーの使用可能」を選択して、ルールが起動されたときに、スクリプトの処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つのスクリプトが含まれている場合、ルールおよびルール内の各スクリプトの処理に要する時間が記録されます。
- 8 Financial Management ユーザーのみ:** 「埋込み」を選択し、スクリプト・コンポーネントのコンテンツを、Visual Basic スクリプトを生成するときそのコンテンツを使用するルール内に埋め込みます。
- 9 Financial Management ユーザーのみ:** 「パラメータ」に、スクリプト・パラメータを入力します。
- 10 Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ユーザーのみ:** 「スクリプト」に、スクリプト・コンポーネントのキャプションを入力します。
- 11 テンプレートのスクリプト・コンポーネントを作成するユーザーのみ:** スクリプト・コンポーネントで設計時プロンプトを使用する場合は、「設計プロンプトの使用」を選択します。次に条件グリッドで、次のタスクを行って設計時プロンプトの条件を定義します:
 1. 「DTP」で設計時プロンプトを選択します。
 2. 「演算子」で、演算子「==」または「<>」を選択します。
 3. 「値」で、設計時プロンプトの値を入力または選択します。
 4. これらの手順を繰り返し、条件に必要な数のステートメントを作成します。

ヒント: 行を追加または削除するには、プラス(+)アイコンまたはマイナス(-)アイコンをクリックします。

- 12 ビジネス・ルールのスクリプト・コンポーネントを作成するユーザーのみ:** 「用途」では、スクリプト・コンポーネントを使用するルールを表示できます。

注: このタブで情報は編集できません。

- 13 「ファイル」、「保存」の順に選択します。**

スクリプト・コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

スクリプト・コンポーネントは、システム・ビューから開くことができます。ビジネス・ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーやテンプレート・デザイナーのフロー・チャート内からスクリプト・コンポーネントを開くこともできます。

▶ スクリプト・コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合) または データベース (Essbase または Operational Planning の場合) を展開します。
- 2 「スクリプト」を展開し、次のいずれかのタスクを実行します:
 - 開くスクリプトを右クリックし、「開く」を選択します。
 - 開くスクリプトを選択し、「ファイル」、「開く」の順に選択します。

注: スクリプト・コンポーネントがビジネス・ルールで使用されている場合、スクリプト・コンポーネントを右クリックして「開く」を選択するか、スクリプト・コンポーネントをダブルクリックして、ルール・デザイナーでルールのフロー・チャート内から開くこともできます。

スクリプト・コンポーネントの編集 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

使用する関数、変数およびメンバーを編集して、スクリプト・コンポーネント (スクリプト・コンポーネント内の式ステートメントの計算結果をログ・ファイルに含めるかどうか (Financial Management アプリケーションの場合のみ)、およびスクリプト・コンポーネントのコメント、キャプション、名前および説明を記述できます。

▶ スクリプト・コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合) または データベース (Essbase または Operational Planning の場合) を展開し、「スクリプト」を展開します。
- 2 編集するスクリプト・コンポーネントを選択します。
- 3 次のいずれかのタスクを行います:

- 「ファイル」、「開く」の順に選択します。
 - スクリプトを右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 「コンポーネント・デザイナ」で、スクリプト・コンポーネントの次のプロパティを編集できます。186 ページの「スクリプト・コンポーネントの設計(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

注： ルール、テンプレートおよび他のコンポーネントとは異なり、スクリプトを開くときは、グラフィカル・フォーマットで(フロー・チャートとして)表示できません。スクリプト・フォーマットでのみ表示できます。

- スクリプトに含める関数、メンバーおよび変数
- 名前
- 説明
- キャプション
- コメント
- Financial Management ユーザーのみ: タイマー・オプション

- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

スクリプト・コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

スクリプト・コンポーネントは、ルールまたはテンプレートで使用されていない場合にのみ削除できます。ルールまたはテンプレートでスクリプト・コンポーネントが使用されているかどうかを確認するには、使用状況を表示します。(236 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)スクリプト・コンポーネントがルールまたはテンプレートで使用されているが、そのルールまたはテンプレートでの使用が必要でない場合は、ルールまたはテンプレートから除去した後、式コンポーネントを削除できます。ルールまたはテンプレートを削除すると、それに含まれるスクリプト・コンポーネントも削除されます。

▶ スクリプト・コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「スクリプト」を展開します。
- 2 スクリプトを右クリックし、「使用状況の表示」を選択して、ルールまたはテンプレートでスクリプト・コンポーネントが使用されていないことを確認します。使

用されている場合は、ルールまたはテンプレートからスクリプト・コンポーネントを除去する必要があります。[237 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」](#)を参照してください。

- 3 削除するスクリプトを右クリックし、「削除」を選択します。
- 4 スクリプト・コンポーネントの削除を確認します。

スクリプト・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートからスクリプト・コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。スクリプト・コンポーネント内のスクリプトをコピーして、同じスクリプト・コンポーネントや異なるスクリプト・コンポーネントに貼り付けることもできます。スクリプト・コンポーネントをコピーして、別のスクリプト・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ システム・ビューからスクリプト・コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
 - 2 コピーするスクリプト・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを選択します。
 - 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで、スクリプト・コンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。

注： コピーするコンポーネントが共有されている場合、コンポーネント自体をコピーするかわりに、「編集」、「参照のコピー」を使用して参照を共有コンポーネントにコピーできます。(74 ページの「ビジネス・ルールの式またはスクリプト・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」を参照してください。)

コピーするコンポーネントに他のコンポーネント(子)が含まれている場合は、コンポーネントを右クリックして「グループのコピー」を選択すると、グループのコンポーネントをコピーできます。

- 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - スクリプト・コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
 - スクリプト・コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、スクリプト・コンポーネントを貼り付けるビジネス

ス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

条件コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [193 ページの「条件コンポーネントについて\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [194 ページの「条件コンポーネントの作成」](#)
- [195 ページの「条件コンポーネントを開く\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [196 ページの「条件コンポーネントの編集\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [196 ページの「条件コンポーネントの削除\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [197 ページの「条件コンポーネントのコピーおよび貼付け\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

条件コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

条件コンポーネントは、TRUE または FALSE となる条件文(つまり、IF...THEN 文)で構成されます。条件が TRUE の場合、指定したアクションが実行されます。条件が FALSE の場合、指定した他のアクションが実行されます。条件は、メタデータの条件の場合とデータの条件の場合があります。条件コンポーネントは共有できません。

条件コンポーネントの作成

条件コンポーネントは、ビジネス・ルールまたはテンプレート内から作成できません。スクリプトおよび式コンポーネントとは異なり、条件コンポーネントを別個のオブジェクトとして作成できません。作成先のビジネス・ルールまたはテンプレートにリンクされます。これらは共有できません。

▶ 条件コンポーネントを作成するには:

1 システム・ビューで、**Financial Management**、**Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ**、**アプリケーション**、**計算タイプ**(**Financial Management** の場合)、**プラン・タイプ**(**Planning** の場合)または**データベース**(**Essbase** または **Operational Planning** の場合)を展開します。次に、ルールまたはテンプレートのどちらの条件を作成するかによって、次のいずれかのタスクを行います:

- ルールに作成する場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
- テンプレートに作成する場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。

2 フロー・チャート内の条件を作成する場所を決定したら、「新規オブジェクト・パレット」から「条件」コンポーネントをドラッグし、フロー・チャート内のその場所にドロップします。

フロー・チャートに、条件オブジェクトが疑問符の付いたひし形として表示されます。

3 「条件」で、条件コンポーネントを識別するキャプションを入力します。このキャプションは、その条件を使用するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの上に表示されます。

4 **テンプレートにのみ条件コンポーネントを作成する場合:** 条件コンポーネントで設計時プロンプトを使用する場合は、「設計プロンプトの使用」を選択します。次に条件グリッドで、次のタスクを行って設計時プロンプトの条件を定義します:

1. 「DTP」で設計時プロンプトを選択します。
2. 「演算子」で、演算子「=」または「<>」を選択します。
3. 「値」で、設計時プロンプトの値を入力または選択します。
4. これらの手順を繰り返し、条件に必要な数のステートメントを作成します。

ヒント: 行を追加または削除するには、プラス(+)アイコンまたはマイナス(-)アイコンをクリックします。

注: 設計時プロンプトを使用して条件を定義する際、「条件」ボックスに条件を入力したり、条件ビルダーを使用して条件を作成したりできません。

5 **Financial Management ユーザーのみ:** 「タイマーの使用可能」を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、条件コンポーネントの処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようになります。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能

になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つの条件コンポーネントが含まれている場合、ルールおよびルール内の各条件コンポーネントの処理に要する時間が記録されます。

- 6 **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ:** メンバー・ブロックを作成する場合、「省略記号」アイコンをクリックし、メンバーまたは関数を選択します。デフォルトではグリッドに入力した最初のメンバーから条件コンポーネント計算の処理が開始されます。別のメンバーから処理が開始されるようにするには、「メンバー・ブロック」にメンバー名または関数名を入力するか、「省略記号」アイコンをクリックして、メンバー・セレクトからメンバーを選択します。[260 ページの「コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について」](#)を参照してください。
- 7 次のいずれかのタスクを行います:
 - 「条件」フィールドに条件ステートメントを入力します。
 - 「条件の追加/編集」をクリックし、条件ビルダーを使用して条件ステートメントを作成します。[178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)を参照して[手順 4](#)から[180 ページの手順 13](#)を実行してください。
- 8 条件コンポーネントのコメントを入力します。
- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

条件コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

条件コンポーネントは、属するビジネス・ツールまたはテンプレートのフロー・チャート内から開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ 条件コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートの条件コンポーネントを選択して、条件プロパティを確認します。

条件コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

条件コンポーネントの作成に使用する関数、変数およびメンバー、条件コンポーネントの処理に要する時間をログ・ファイルに記録するかどうか(Financial Management アプリケーションの場合のみ)、および条件コンポーネントのコメントおよびキャプションを編集できます。

▶ 条件コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、プロパティを編集する条件を「条件」で選択します。次のいずれかのプロパティを編集できます。(194 ページの「条件コンポーネントの作成」を参照してください。)
 - キャプション
 - 条件ステートメント
 - 設計時プロンプト(条件がテンプレートのコンポーネントの場合)
 - コメント
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ログおよびタイマーのオプション
- 3 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

条件コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

条件コンポーネントは、属するルールまたはテンプレートから除去することにより削除できます。条件コンポーネントは1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ 条件コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらのコンポーネントであるかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内の削除する条件コンポーネントを選択します。
- 3 条件を右クリックし、「削除」を選択します。
- 4 コンポーネントの削除を確認します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

条件コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートから条件コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。条件コンポーネントをコピーして、別のスクリプト・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

▶ ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーから条件コンポーネントをコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらのコンポーネントであるかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで、コピーする条件コンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。

注: 「編集」、「コピー」の順に選択してコンポーネントをコピーすることができます。

3 次のいずれかのタスクを行います:

- 条件コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの条件コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
- 条件コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの条件コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。

注: 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー・ブロック・コンポーネントの操作 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションの ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [199 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントについて\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [199 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントの作成\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [200 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントを開く\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [200 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントの編集\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [201 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントの削除\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [202 ページの「メンバー・ブロック・コンポーネントのコピーおよび貼付け\(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

メンバー・ブロック・コンポーネントについて (Planning、Operational Planning および Essbase ブ ロック・ストレージ・アプリケーションのユーザー のみ)

メンバー・ブロック・コンポーネントは、計算する条件ステートメントのメンバーを定義します。メンバー・ブロックは、ビジネス・ルールおよびカスタム定義テンプレートで使用できます。

メンバー・ブロック・コンポーネントは、メンバー・ブロックが作成されたビジネス・ルールまたはテンプレートとは別個のデータベース・オブジェクトとして存在しません。メンバー・ブロック・コンポーネントは、それが属するテンプレートまたはビジネス・ルールの一部としてのみ存在します。メンバー・ブロックは、ルールおよびテンプレート間で共有できません。

メンバー・ブロック・コンポーネントの作成 (Planning、Operational Planning および Essbase ブ ロック・ストレージ・アプリケーションのユーザー のみ)

メンバー・ブロック・コンポーネントは、ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナー内で作成します。システム・ビュー内でメンバー・ブロック・コンポーネントを作成することはできません。

▶ メンバー・ブロック・コンポーネントを作成するには:

1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらにもメンバー・ブロックを作成するかに応じて、次のいずれかを行います:

- ルールに作成するには、「ルール」を展開し、作成先のルールを右クリックして「開く」を選択します。
- テンプレートに作成するには、「テンプレート」を展開し、作成先のテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。

2 フロー・チャート内のメンバー・ブロックを作成する場所を決定したら、「新規オブジェクト」からメンバー・ブロック・オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。

メンバー・ブロック・オブジェクトは、メンバー範囲と同様に、接続線の付いた2つの丸としてフロー・チャートに表示されます。

3 **オプション:** テンプレートのメンバー・ブロック・コンポーネントを作成する場合は、その設計時プロンプトも作成できます。147 ページの「[カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」を参照してください。

- 4 「メンバー・ブロック」で、「アクション」アイコンをクリックし、次のいずれかを行います:
 - 「変数」を選択して、変数を検索または作成してから、「OK」をクリックします。279 ページの「変数の操作」を参照してください。
 - 「メンバー」を選択して、メンバーを検索してから、「OK」をクリックします。260 ページの「コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について」を参照してください。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー・ブロック・コンポーネントを開く (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー・ブロック・コンポーネントは、そのメンバー・ブロックを使用するビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャート内から開きます。システム・ビューから開くことはできません。

▶ メンバー・ブロック・コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらのメンバー・ブロックであるかに応じて、次のいずれかを行います:
 - メンバー・ブロックがルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー・ブロックがテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 ルールまたはテンプレートを開いたら、フロー・チャートのメンバー・ブロック・コンポーネントを選択してメンバー・ブロックのプロパティを確認します。

メンバー・ブロック・コンポーネントの編集 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー・ブロック内のメンバー、メンバー・ブロック・コンポーネントの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうか(Financial Management アプリケーション・ユーザーのみ)、およびメンバー・ブロック・コンポーネントの設計時プロンプト(カスタム定義テンプレート・ユーザーのみ)を変更できます。

- ▶ メンバー・ブロック・コンポーネントを編集するには:
- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらのメンバー・ブロックであるかに応じて、次のいずれかを行います:
 - メンバー・ブロックがルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー・ブロックがテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
 - 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内のメンバー・ブロックを選択して、「メンバー・ブロック」のプロパティを編集します。

メンバー・ブロックのために選択したメンバーは、変更できます。
 - 3 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー・ブロック・コンポーネントの削除 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー・ブロック・コンポーネントを削除するには、それが属するビジネス・ルールまたはテンプレートから除去します。メンバー・ブロック・コンポーネントは、1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用でき、他のビジネス・ルールまたはテンプレート間で共有することはできません。

- ▶ メンバー・ブロック・コンポーネントを削除するには:
- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらのメンバー・ブロックであるかに応じて、次のいずれかを行います:
 - メンバー・ブロックがルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー・ブロックがテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
 - 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内の削除するメンバー・ブロック・コンポーネントを選択します。
 - 3 メンバー・ブロックを右クリックし、「削除」を選択します。
 - 4 コンポーネントの削除を確認します。

メンバー・ブロック・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートからメンバー・ブロック・コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。メンバー・ブロック・コンポーネントをコピーして、別のメンバー・ブロック・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナからメンバー・ブロック・コンポーネントをコピーするには:
- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらのメンバー・ブロックであるかに応じて、次のいずれかを行います:
 - メンバー・ブロックがルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー・ブロックがテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
 - 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内のコピーするメンバー・ブロック・コンポーネントを選択します。
 - 3 「編集」、「コピー」の順に選択します。
 - 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー・ブロック・コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付けるには、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、「貼り付け」を選択します。
 - メンバー・ブロック・コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付けるには、メンバー・ブロック・コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックして「貼り付け」を選択します。
- 注:** 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー範囲コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- 203 ページの「メンバー範囲コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 204 ページの「メンバー範囲コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 206 ページの「メンバー範囲コンポーネントを開く(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 206 ページの「メンバー範囲コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 207 ページの「メンバー範囲コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 208 ページの「メンバー範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

メンバー範囲コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning、および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー範囲コンポーネントは、Financial Management、Planning、Operational Planning または Essbase 次元からのメンバーの範囲で構成される一種のループです。メンバー範囲コンポーネントは共有できないため、ビジネス・ルールまたはテンプレートに新規メンバー範囲コンポーネントを追加するたびに新規メンバー範囲コンポーネントを作成する必要があります。

メンバー範囲コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー範囲コンポーネントは、ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで作成します。ビジネス・ルールおよびテンプレートから独立して存在するスクリプトおよび式コンポーネントとは異なり、メンバー範囲コンポーネントは、システム・ビューから作成できません。メンバー範囲コンポーネントは、それが属するビジネス・ルールおよびテンプレートにリンクされており、共有できません。

▶ メンバー範囲コンポーネントを作成するには:

1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらかにメンバー範囲を作成するかに応じて、次のいずれかを行います:

- ルールに作成する場合は、「ルール」を展開し、作成先のルールを右クリックして「開く」を選択します。
- テンプレートに作成する場合は、「テンプレート」を展開し、作成先のテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。

2 フロー・チャート内のメンバー範囲を作成する場所を決定したら、「新規オブジェクト」からメンバー範囲オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。

フロー・チャートに、メンバー範囲オブジェクトが接続線の付いた2つの丸として表示されます。

3 **オプション:** テンプレートのメンバー範囲コンポーネントを作成する場合、その設計時プロンプトを作成します。147 ページの「カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

4 **オプション:** メンバー範囲コンポーネントを識別するキャプションを入力します。キャプションは、そのコンポーネントが属するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの下に表示されます。

5 **Financial Management ユーザーのみ:** 「タイマーの使用可能」を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、メンバー範囲コンポーネントの処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つのメンバー範囲コンポーネントが含まれている場合、ルールとルール内の各メンバー範囲コンポーネントの処理に要する時間が記録されます。

6 ビジネス・ルールのメンバー範囲コンポーネントを作成する場合、次のいずれかのアクションを実行します:

- メンバーのかわりに変数を使用してメンバー範囲を定義する場合は、「変数セレクト」を選択します。次に、変数を入力するか選択します。279ページの「変数の操作」を参照してください。

注: このオプションを選択した場合は、次元のメンバー範囲を定義できません。

このオプションを選択した場合は、「変数に動的にリンク」を選択します。これを選択すると、変数に変更されたとき、ルールまたはテンプレートの変数にそれらの変更が適用されて更新されます。

- **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ:**

1. メンバー範囲を定義する各次元の「値」列にメンバーを入力するか、各行をクリックして「アクション」アイコンを表示します。

ヒント: 1行ごとに各次元のメンバーを選択するよりは、「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、グリッド内のすべての次元のメンバーを選択できます。メンバー・セレクトで「OK」をクリックすると、選択したメンバーのグリッドに、選択したメンバーが次元ごとに表示されます。

2. 「アクション」アイコンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択してメンバー範囲を定義します:

- 変数(279ページの「変数の操作」を参照してください。)
- メンバー(260ページの「メンバーの操作」を参照してください。)
- 関数(300ページの「関数の操作」を参照してください。)

- **Financial Management ユーザーのみ:**

1. 「次元」列の下にある最初の行をクリックし、次元を選択します。
2. 「値」列にメンバーを入力するか、行内をクリックして「アクション」アイコンを表示します。「アクション」アイコンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択してメンバー範囲を定義します:
 - 変数(279ページの「変数の操作」を参照してください。)
 - メンバー(260ページの「メンバーの操作」を参照してください。)
 - 関数(300ページの「関数の操作」を参照してください。)
3. 「変数」列に起動変数を入力するか、行内をクリックして「アクション」アイコンを表示します。「アクション」をクリックして起動変数を選択します。279ページの「変数の操作」を参照してください。
4. 「コメント」アイコンをクリックして、メンバー範囲のコメントを入力します。
5. メンバー範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。

- 7 **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ:** 「グリッド値を除外」を選択して、選択したメンバーを計算から除外します。
- 8 「グリッドをリセット」をクリックして、グリッドに入力したメンバー、変数および関数を消去します。
- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー範囲コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー範囲コンポーネントは、そのコンポーネントが使用されているビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートから開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ メンバー範囲コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、**Financial Management、Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合)** または **データベース (Essbase または Operational Planning の場合)** を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートのメンバー範囲コンポーネントを選択して、メンバー範囲プロパティを確認します。

メンバー範囲コンポーネントの編集 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー範囲コンポーネント、メンバー範囲コンポーネントの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうか (Financial Management アプリケーションのみ)、およびメンバー範囲コンポーネントのコメントとキャプションを定義するために使用する次元およびメンバー、または変数を編集できます。

▶ メンバー範囲コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、**Financial Management、Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合)** または **データベース (Essbase または Operational Planning**

ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用 (Financial Management、Planning、Operational

の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらにあるかによって、次のいずれかを行います:

- メンバー範囲がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、メンバー範囲を選択して、「メンバー範囲」でそのプロパティを編集します。メンバー範囲の次のプロパティを編集できます。(204 ページの「[メンバー範囲コンポーネントの作成 \(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」を参照してください。)
- キャプション
 - メンバー範囲を定義するために選択する変数
 - メンバー範囲に含める次元
 - 各次元のメンバー範囲を定義するメンバー
 - **Financial Management ユーザーのみ:** コンポーネントの処理に要した時間をログ・ファイルに含めるかどうか
 - メンバー範囲を定義する対象の次元のコメント
- 3 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー範囲コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メンバー範囲コンポーネントを削除するには、それが属するルールまたはテンプレートから除去します。メンバー範囲コンポーネントは、1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ メンバー範囲コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
- メンバー範囲がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内の削除するメンバー範囲コンポーネントを選択します。

- 3 メンバー範囲を右クリックして「除去」を選択します。
- 4 コンポーネントの削除を確認します。

メンバー範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートからメンバー範囲コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。メンバー範囲コンポーネントをコピーして、別のメンバー範囲コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナからメンバー範囲コンポーネントをコピーするには:
 - 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
 - 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内のコピーするメンバー範囲コンポーネントを選択します。
 - 3 「編集」、「コピー」の順に選択します。
 - 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
 - メンバー範囲コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、メンバー範囲コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。
- 注：** 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- 209 ページの「データ範囲コンポーネントについて(Financial Management ユーザーのみ)」
- 209 ページの「データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ)」
- 212 ページの「データ範囲コンポーネントを開く (Financial Management ユーザーのみ)」
- 212 ページの「データ範囲コンポーネントの編集(Financial Management ユーザーのみ)」
- 213 ページの「データ範囲コンポーネントの削除(Financial Management ユーザーのみ)」
- 213 ページの「データ範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management ユーザーのみ)」

データ範囲コンポーネントについて(Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲コンポーネントは、Financial Management アプリケーションのデータ値の範囲で構成されるループの一種です。データ範囲コンポーネントは共有できないため、ビジネス・ルールまたはテンプレートに新規データ範囲を追加するたびに新規データ範囲を作成する必要があります。

データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management ビジネス・ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナ内からデータ範囲コンポーネントを作成します。スクリプトまたは式コンポーネントとは異なり、データ範囲コンポーネントはそれが属するビジネス・ルールまたはテンプレートとしてのみ存在します。データ範囲コンポーネントは共有できません。

注： データ範囲を作成できるのは Financial Management ビジネス・ルールまたはテンプレート内のみです。

▶ データ範囲コンポーネントを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプの順に展開します。データ範囲をルールとテンプレートのどちらに作成するかに応じて、次のいずれかのタスクを実行します:

- ルールにデータ範囲を作成する場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - テンプレートにデータ範囲を作成する場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 フロー・チャート内のデータ範囲を作成する場所を決定したら、「新規オブジェクト」からデータ範囲オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。
フロー・チャートに、データ範囲オブジェクトが接続線の付いた2つの丸として表示されます。
 - 3 **オプション:** テンプレートのデータ範囲コンポーネントを作成する場合、その設計時プロンプトを作成します。147 ページの「カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - 4 **オプション:** データ範囲コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレートの計算から除外する場合、「使用不可」を選択します。
 - 5 **オプション:** 「プロパティ」タブで、データ範囲コンポーネントを識別するキャプションを入力します。キャプションは、そのコンポーネントが属するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの下に表示されます。
 - 6 **オプション:** データ範囲コンポーネントの説明およびコメントを入力します。
 - 7 「データ範囲」タブで、次のいずれかのタスクを行います:
 - ビジネス・ルールに対してデータ範囲を作成し、変数を使用してそのデータ範囲を定義する場合、次のことを実行します(279 ページの「変数の操作」を参照してください):
 1. 「変数セクタ」をクリックし、変数を入力または作成します。

注: このオプションを選択すると、グリッド内の次元に対してデータ範囲を定義できません。

2. 変数をデータ範囲コンポーネントに動的にリンクするかどうかを選択します。動的にリンクする場合、Calculation Manager の別の場所の変更があるたびに、データ範囲コンポーネントで変数が更新されます。
3. 「値変数」に、POV を含む置換文字列変数を選択します。(このボタンを使用して変数を選択した場合、グリッドの「値」列でメンバーを入力することと同様になります。)
4. **オプション:** 「次元のソート」で、ソートに使用する次元を選択します。
5. **オプション:** 前の手順でソートに使用する次元を選択した場合、「ソート方法」で、次元をソートする方法を選択します:
 - 「昇順」では、次元メンバーを A から Z の順にソートします。(これはデフォルト設定です。)
 - 「降順」では、次元メンバーを Z から A の順にソートします。

- テンプレートに対してデータ範囲を作成し、設計時プロンプトを使用してそのデータ範囲を定義する場合、次のことを実行します:
 1. 「変数セレクト」をクリックし、変数を入力または作成します。
 2. 変数をデータ範囲コンポーネントに動的にリンクするかどうかを選択します。動的にリンクする場合、Calculation Manager の別の場所に変更があるたびに、データ範囲コンポーネントで変数が更新されます。
 3. 「値変数」に、「データ範囲」タイプの置換変数を選択します。(データ範囲変数には、完全なデータ範囲定義が含まれます。)
 4. オプション: 「次元のソート」で、ソートに使用する次元を選択します。
 5. オプション: 前の手順でソートに使用する次元を選択した場合、「ソート方法」で、次元をソートする方法を選択します:
 - 「昇順」では、次元メンバーを A から Z の順にソートします。(これはデフォルト設定です。)
 - 「降順」では、次元メンバーを Z から A の順にソートします。
 - ビジネス・ルールまたはテンプレートに対してデータ範囲を作成し、変数、メンバーおよび関数を使用してそのデータ範囲を定義する場合は、次のことを実行します。
 1. データ範囲を定義する対象の最初の次元に対して、「値」列にメンバーを入力するか、行をクリックして「アクション」アイコンを表示します。
 2. 「アクション」アイコンをクリックし、次のオプションのいずれかを選択してデータ範囲を定義します:
 - 変数(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)
 - メンバー(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。)
 - 関数(300 ページの「関数の操作」を参照してください。)
 3. 「変数」列に起動変数を入力するか、行内をクリックして「アクション」アイコンを表示します。「アクション」アイコンをクリックして、「変数」を選択して起動変数を選択します。279 ページの「変数の操作」を参照してください。

注: シナリオ、年、期間、エンティティ、または値次元に対して起動変数を含められません。

 4. 「コメント」アイコンをクリックして、データ範囲のコメントを入力します。
 5. データ範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。
- 8 ビジネス・ルールまたはテンプレートの計算時にログ・ファイルに含めるデータ範囲の処理に時間を要する場合、「タイマーの使用可能」を選択します。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている 3 つの固定ループ・コンポーネントが含ま

れている場合、ルールおよびルール内の各固定ループ・コンポーネントの処理に要した時間が記録されます。

- 9 「グリッドをリセット」をクリックして、デフォルト設定でグリッドを表示します。
- 10 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

データ範囲コンポーネントを開く (Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲コンポーネントは、そのコンポーネントが使用されているビジネス・ルールのフロー・チャートまたはテンプレートから開けます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ データ範囲コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプの順に展開します。データ範囲がルールとテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを実行します:
 - データ範囲がルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - データ範囲がテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートのデータ範囲コンポーネントを選択して、データ範囲プロパティを確認します。

データ範囲コンポーネントの編集 (Financial Management ユーザーのみ)

次元およびメンバー、変数、または設計時プロンプトを編集して、データ範囲コンポーネント、データ範囲コンポーネントの処理に要した時間をログファイルに記録するかどうか、およびデータ範囲のコメントおよびキャプションを定義できます。

▶ データ範囲コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプの順に展開します。データ範囲をルールとテンプレートのどちらに編集するかに応じて、次のいずれかのタスクを実行します:
 - ルールにデータ範囲を編集する場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - テンプレートにデータ範囲を編集する場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内のデータ範囲を選択して「データ範囲」でそのプロパティを編集します。次のい

いずれかのプロパティを編集できます。(209 ページの「データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。)

- キャプション
- データ範囲を定義するために選択する設計プロンプト(テンプレートのデータ範囲を作成している場合)
- データ範囲を定義するために選択する変数(ビジネス・ルール of データ範囲を作成している場合)
- データ範囲に含める次元
- 各次元のデータ範囲を定義するメンバー
- データ範囲の処理に要する時間をログファイルに含めるかどうか
- データ範囲を定義する対象の次元のコメント

3 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

データ範囲コンポーネントの削除(Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲コンポーネントを削除するには、それが属するルールまたはテンプレートから除去します。データ範囲コンポーネントは、1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ データ範囲コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプの順に展開します。データ範囲をルールおよびテンプレートのどちらに削除するかに応じて、次のいずれかのタスクを実行します:
 - ルールのデータ範囲を削除する場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - テンプレートのデータ範囲を削除する場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内の削除するデータ範囲コンポーネントを選択します。
- 3 データ範囲を右クリックして「除去」を選択します。
- 4 コンポーネントの削除を確認します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

データ範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management ユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートからデータ範囲コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。

データ範囲コンポーネントをコピーして、別のデータ範囲コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナからデータ範囲コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
- 1 システム・ビューで、**Financial Management アプリケーション・タイプ**、**アプリケーション**および**計算タイプ**の順に展開します。データ範囲をルールおよびテンプレートのどちらかにコピーするかに応じて、次のいずれかのタスクを実行します:
 - ルールのデータ範囲をコピーする場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - テンプレートのデータ範囲をコピーする場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
 - 2 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内のコピーするデータ範囲コンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。
 - 3 次のいずれかのタスクを行います:
 - データ範囲コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
 - データ範囲コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートのデータ範囲コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。
- 注:** 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

固定ループ・コンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [215 ページの「固定ループ・コンポーネントについて\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [215 ページの「固定ループ・コンポーネントの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [217 ページの「固定ループ・コンポーネントを開く\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

ビジネス・ルールとテンプレートを設計するためのコンポーネントの使用(Financial Management、Planning、Operational

- 217 ページの「固定ループ・コンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 218 ページの「固定ループ・コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 219 ページの「固定ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

固定ループ・コンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

固定ループ・コンポーネントは、メタデータ・メンバーまたはデータ・レコード (Financial Management アプリケーションのみ) のリストを固定回数サイクル・スルーするオブジェクトです。たとえば、勘定科目リストを 10 回ループする固定ループを作成できます。

固定ループ・コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

固定ループ・コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレート内で作成するには、そのアイコンをドラッグしてルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナのフロー・チャートにドロップします。固定ループ・コンポーネントは、そのために作成したビジネス・ルールまたはテンプレート内にもみ存在します。固定ループ・コンポーネントはビジネス・ルールまたはテンプレート間で共有できません。

▶ 固定ループ・コンポーネントを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合) またはデータベース (Essbase または Operational Planning の場合) を展開し、ビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらのコンポーネントを作成するかに応じて、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 固定ループ・コンポーネントを挿入するルールまたはテンプレートを開きます。
- 3 フロー・チャート内の固定ループを作成する場所を決定したら、「新規オブジェクト」から、「固定ループ」オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。

固定ループは、点線でつながった2つの丸として表示されます。

- 4 **オプション:** テンプレートの固定ループ・コンポーネントを作成する場合、その設計時プロンプトを入力します。147 ページの「カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
- 5 **オプション:** 固定ループ・コンポーネントを識別するキャプションを入力します。キャプションは、そのコンポーネントが属するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの下に表示されます。
- 6 **Financial Management ユーザーのみ:** 「タイマーの使用可能」を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、固定ループ・コンポーネントの処理に要した時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つの固定ループ・コンポーネントが含まれている場合、ルールおよびルール内の各固定ループ・コンポーネントの処理に要した時間が記録されます。
- 7 **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザーのみ:** 次のタスクを行います:
 1. 「値」で、ループがメタデータまたはデータでサイクル・スルーする回数を入力します。
 2. 「ブレイク変数」で、変数を入力するか「ブレイク変数」フィールドをクリックして「変数の挿入」アイコンを表示します。
 3. 「変数の挿入」をクリックして、固定ループを終了する数値変数を選択するか作成します。ブレイク変数の値は1つにする必要があります。279 ページの「変数の操作」を参照してください。
- 8 **Financial Management のみ:** 次のことを実行します:
 1. 「値」で、ループをメタデータまたはデータでサイクル・スルーする回数を入力するか、フィールドをクリックして「アクション」アイコンを表示します。
 2. 「アクション」アイコンをクリックして、「変数」または「関数」を選択して、変数または関数を選択できるダイアログにアクセスします。279 ページの「変数の操作」および300 ページの「関数の操作」を参照してください。
 3. 「変数」で、変数を入力するか「ブレイク変数」フィールドをクリックして「変数の挿入」アイコンを表示します。
 4. 「変数の挿入」アイコンをクリックして、新規変数を選択または作成できるダイアログにアクセスします。279 ページの「変数の操作」を参照してください。
- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

固定ループ・コンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

固定ループ・コンポーネントは、属するビジネス・ツールまたはテンプレートのフロー・チャート内から開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ 固定ループ・コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、**Financial Management、Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合)** または **データベース (Essbase または Operational Planning の場合)** を展開します。次に、固定ループがルールまたはテンプレートのいずれに含まれているかによって、次のいずれかのタスクを行います:
 - 固定ループがルールに含まれている場合は、「ルール」を展開し、開くルールを右クリックして「開く」を選択します。
 - 固定ループがテンプレートに含まれている場合は、「テンプレート」を展開し、開くテンプレートを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートの固定ループ・コンポーネントを選択して、固定ループ・プロパティを確認します。

固定ループ・コンポーネントの編集 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

固定ループ・コンポーネントに割り当てた値およびそれに対して選択した変数は編集できます。固定ループをビジネス・ルールに対して作成する場合は、キャプションも編集できます。固定ループを **Financial Management** のビジネス・ルールに対して作成する場合は、固定ループの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうかを編集できます。固定ループを **Planning、Operational Planning** または **Essbase** のビジネス・ルールに対して作成する場合は、ブレイク変数を編集できます。ブレイク変数は、固定ループを終了する時点を指定するものです。

▶ 固定ループ・コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、**Financial Management、Planning** または **Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合)** または **データベース (Essbase または Operational Planning の場合)** を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらの一部であるかによって「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 編集する固定ループ・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。

- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内の固定ループを選択して「固定ループ」でそのプロパティを編集します。次のいずれかのプロパティを編集できます。215 ページの「固定ループ・コンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase のビジネス・ルールおよびテンプレートの固定ループ・コンポーネントの場合: 固定ループに指定した値およびそれに対して選択した変数
 - Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase のビジネス・ルールの固定ループ・コンポーネントの場合: キャプション
 - Planning、Operational Planning および Essbase のビジネス・ルールの固定ループ・コンポーネントの場合: ブレーク変数
 - Financial Management ビジネス・ルールの固定ループ・コンポーネントの場合: 固定ループの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうか
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

固定ループ・コンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

固定ループ・コンポーネントを削除するには、それが属するルールまたはテンプレートから除去します。固定ループ・コンポーネントは、1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

- ▶ 固定ループ・コンポーネントを削除するには:
- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、固定ループ・コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
 - 2 削除する固定ループ・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
 - 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内の削除する固定ループ・コンポーネントを選択します。
 - 4 固定ループ・コンポーネントを右クリックして「除去」を選択します。
 - 5 コンポーネントの削除を確認します。

固定ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートから固定ループ・コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。固定ループ・コンポーネントをコピーして、別の固定ループ・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナから固定ループ・コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
 - 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、固定ループ・コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
 - 2 コピーする固定ループ・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
 - 3 「ルール・デザイナ」または「テンプレート・デザイナ」で、フロー・チャート内のコピーする固定ループ・コンポーネントを右クリックし、「コピー」選択します。
 - 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - 固定ループ・コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
 - 固定ループ・コンポーネントを異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールを開き、フロー・チャートの固定ループ・コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」ます。
- 注：** 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メタデータ・ループ・コンポーネントの操作(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- 220 ページの「メタデータ・ループ・コンポーネントの作成(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 222 ページの「メタデータ・ループ・コンポーネントを開く(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 222 ページの「メタデータ・ループ・コンポーネントの編集(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 223 ページの「メタデータ・ループ・コンポーネントの削除(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 224 ページの「メタデータ・ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

メタデータ・ループ・コンポーネントについて (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メタデータ・ループ・コンポーネントを使用すると、親次元の子にパラメータを繰り返し割り当てることができます。たとえば、プロパティ#missing を会社(親次元)のすべての勘定科目(子)に割り当てることができます。

メタデータ・ループ・コンポーネントの作成 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メタデータ・ループ・コンポーネントを作成するには、アイコンをドラッグして、カスタム定義テンプレートのフロー・チャートにドロップします。メタデータ・ループ・コンポーネントは、そのコンポーネントを作成するテンプレート内のみ存在します。メタデータ・ループ・コンポーネントをテンプレート間で共有することはできません。

▶ メタデータ・ループ・コンポーネントを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。

注： メタデータ・ループは、カスタム定義テンプレートにのみ作成できます。

- 2 **メタデータ・ループ・コンポーネント**を挿入するテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。

注： メタデータ・ループ・コンポーネントが存在するのは、そのコンポーネントの作成時に指定したカスタム定義テンプレートのみです。

- 3 **メタデータ・ループ**を作成するフロー・チャート内の場所を決定したら、「新規オブジェクト」から、「メタデータ・ループ」オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。

- 4 **オプション:**メタデータ・ループが含まれているテンプレートをユーザーが使用する際に、情報の入力を求める設計時プロンプトを入力するには、「テンプレート・デザイナー」・フロー・チャートの下にあるテーブルを使用します。

- 5 「メタデータ・ループ」で、次のタスクのいずれかまたはすべてを実行します。

- **オプション:** 検証および計算のために、テンプレートからメタデータ・ループ・コンポーネントを除外するには、「使用不可」を選択します。ビジネス・ルールの検証が行われず、検証エラーの原因を特定する際には、コンポーネントを使用不可にすることが必要な場合があります。コンポーネントを使用不可にすると、フロー・チャートではグレーで表示されます。
- **オプション:** メタデータ・ループのキャプションを入力します。フロー・チャート内のメタデータ・ループ・コンポーネントのアイコンの下にキャプションが表示されます。
- **オプション:** メタデータ・ループのインデックスとして機能する既存の手順の設計時プロンプトを選択する場合は、「インデックス DTP」を選択します。メタデータ・ループの開始前に、選択した設計時プロンプトの値がゼロにリセットされ、ループごとに1ずつ増加します。

- 6 テーブルにリストされた次元ごとに、次のタスクを実行します:

- **メンバー・セレクト**を使用して、「メンバー」列に、メタデータ・ループを適用する親メンバーを選択します。260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。

注： 同じ次元からメンバーを複数選択することはできません。

- 「関数」列に、次のいずれかの関数を選択し、次元メンバーに変数を適用する方法を指定します:
 - 「子孫(含む)」: 指定されたメンバー、および指定されたメンバーのすべての子孫に関数が適用されます。
 - 「子孫」: 指定されたメンバーの子孫に関数が適用されます。
 - 「子(含む)」: 指定されたメンバーとその子に関数が適用されます。
 - 「子」: 指定されたメンバーの子に関数が適用されます。
- 「変数」列に、関数で指定された各メンバーに置き換えられる変数として機能するメンバー・タイプの設計時プロンプトを選択します。

- 7 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メタデータ・ループ・コンポーネントを開く (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メタデータ・ループ・コンポーネントは、そのコンポーネントが含まれるカスタム定義テンプレートのフロー・チャートから開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ メタデータ・ループ・コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 開くメタデータ・ループ・コンポーネントを含むカスタム定義テンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 テンプレートを開いた後、コンポーネントのプロパティを表示するには、フロー・チャートでメタデータ・ループ・コンポーネントを選択します。

メタデータ・ループ・コンポーネントの編集 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メタデータ・ループ・コンポーネントは、そのコンポーネントが含まれるカスタム定義テンプレートから編集します。キャプション、次元、ループ変数が適用されている子、およびループで使用されている変数を編集できます。

▶ メタデータ・ループ・コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 メタデータ・ループ・コンポーネントが含まれているカスタム定義テンプレートを開きます。
- 3 オプション: メタデータ・ループが含まれているテンプレートをユーザーが使用する際に、情報の入力を求める設計時プロンプトを入力するには、「テンプレート・デザイナー」・フロー・チャートの下にあるテーブルを使用します。
- 4 「メタデータ・ループ」で、次のタスクのいずれかまたはすべてを実行します。
 - オプション: 検証および計算のために、テンプレートからメタデータ・ループ・コンポーネントを除外する場合、または含める場合には、「使用不可」を選択するか選択を解除します。ビジネス・ルールの検証が行われず、検証エラーの原因を特定するには、コンポーネントを使用不可にすることが必要な場合があります。コンポーネントを使用不可にすると、フロー・

チャートではグレーで表示されます。(コンポーネントはデフォルトで含まれています。)

- **オプション:** メタデータ・ループのキャプションを編集します。フロー・チャート内のメタデータ・ループ・コンポーネントのアイコンの下にキャプションが表示されます。
- **オプション:** 既存の設計時プロンプトを選択するには、「インデックス DTP」を選択します。

5 テーブルにリストされた次元ごとに、次のタスクを実行します:

- メンバー・セレクタを使用して、「メンバー」列に、メタデータ・ループを適用するメンバーを選択します。260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
- 「関数」列に、次のいずれかの関数を選択し、次元の子に変数を適用する方法を指定します:
 - 「子孫(含む)」: 各メンバーとその子孫、または指定されたレベルまでの子孫に変数が適用されます。
 - 「子孫」: 各メンバーの子孫、または指定されたレベルまでの子孫に変数が適用されます。
 - 「子(含む)」: 各メンバーとその子に変数が適用されます。
 - 「子」: 各メンバーの子に変数が適用されます。
- 「変数」列に、次元メンバーに適用されるたびに置き換えられる変数として機能するメンバー・タイプの設計時プロンプトを選択します。

6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メタデータ・ループ・コンポーネントの削除 (Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

メタデータ・ループ・コンポーネントは、そのコンポーネントが含まれるカスタム定義テンプレートから削除します。

▶ メタデータ・ループ・コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 削除するメタデータ・ループ・コンポーネントを含むテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャートで削除するメタデータ・ループ・コンポーネントを選択します。
- 4 メタデータ・ループ・コンポーネントを右クリックし、「削除」を選択します。
- 5 コンポーネントの削除を確認します。

メタデータ・ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け(Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

カスタム定義テンプレートからメタデータ・ループ・コンポーネントをコピーして、同じまたは異なるカスタム定義テンプレートに貼り付けられます。メタデータ・ループ・コンポーネントをコピーして、別のメタデータ・ループ・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けることはできません。

- ▶ テンプレート・デザイナー内から、メタデータ・ループ・コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
 - 1 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
 - 2 コピーするメタデータ・ループ・コンポーネントを含むテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
 - 3 「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内のコピーするメタデータ・ループ・コンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。
 - 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - メタデータ・ループ・コンポーネントを同じテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャート内の貼り付ける場所を右クリックし、「貼り付け」を選択します。
 - メタデータ・ループ・コンポーネントを異なるテンプレートに貼り付ける場合、メタデータ・ループ・コンポーネントを貼り付けるテンプレートを開き、フロー・チャート内のメタデータ・ループ・コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼り付け」を選択します。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

DTP 割当てコンポーネントの操作(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [225 ページの「DTP 割当てコンポーネントについて\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

- 225 ページの「DTP 割当てコンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 227 ページの「DTP 割当てコンポーネントを開く(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 228 ページの「DTP 割当てコンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 228 ページの「DTP 割当てコンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」
- 229 ページの「DTP 割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」

DTP 割当てコンポーネントについて(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントを使用するカスタム定義テンプレートの設計時プロンプトに値を割り当てられます。このコンポーネントを、テンプレート・フロー・チャートの条件コンポーネント内に配置すると、定義する条件に基づいて、設計時プロンプトの値を割り当てられます。DTP 割当てコンポーネントを使用すると、テンプレート・フロー・チャートの複雑さが軽減され、テンプレートのロジックを開発および維持しやすくなります。

注： DTP 割当てコンポーネントは、カスタム定義テンプレートでのみ使用できます; システム・テンプレートまたはビジネス・ルールでは使用できません。

DTP 割当てコンポーネントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

テンプレート内で DTP 割当てコンポーネントを作成するには、アイコンをドラッグしてテンプレート・デザイナー・フロー・チャートにドロップします。DTP 割当てコンポーネントは、そのコンポーネントを作成するテンプレート内にも存在します。DTP 割当てコンポーネントはテンプレート間で共有できません。

▶ DTP 割当てコンポーネントを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 DTP 割当てコンポーネントを挿入するテンプレートを開きます。
- 3 DTP 割当てコンポーネントを作成するフロー・チャート内の場所を決定したら、「新規オブジェクト」から「DTP 割当て」オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。

DTP 割当てコンポーネントは、四角形として表示され、その内側に割合が表示されます。

- 4 **オプション:** コンポーネントの設計時プロンプトを入力します。147 ページの「[カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトの作成\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
- 5 「プロパティ」で、次のタスクのいずれか、またはすべてを行います。
 - オプション: 最大 50 文字の名前を入力します。
 - オプション: 最大 255 文字の説明を入力します。
 - オプション: キャプションを入力します。フロー・チャート内の DTP 割当てコンポーネントのアイコンの下にキャプションが表示されます。
 - オプション: コメントを入力します。
- 6 **Financial Management ユーザーのみ:** テンプレートを含んでいるビジネス・ルールの起動時に DTP 割当ての処理に要した時間がログ・ファイルに記録されるようにする場合は、「タイマーの使用可能」を選択します。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっているカスタム定義テンプレートが含まれていて、そのテンプレートにタイマーが使用可能になっている 3 つの DTP 割当てコンポーネントが含まれている場合、ルール、カスタム定義テンプレート、およびテンプレート内の各 DTP 割当ての処理に要した時間が記録されます。
- 7 **Financial Management ユーザーのみ:** テンプレートを含んでいるビジネス・ルールにログ・テキストがある場合、ルールの起動時にログ・ファイルにそのテキストが記録されるようにするには、「ロギングの使用可能」を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、記録するログ・テキストがある場合は、テンプレートの式ステートメントでそのテキストを指定します。
- 8 「式」で、テンプレートの設計時プロンプトの条件を定義します。
 1. 等号の左側のドロップダウンから、値を定義する設計時プロンプトを選択します。

注: ドロップダウンに設計時プロンプトがない場合は、作業中のテンプレートにプロンプトが作成されていません。

2. 等号の右側にあるテキスト・ボックスに値を入力するか、ボックス内をクリックして「アクション」アイコンを表示します。
 - 変数を入力するには、「変数」を選択します。279 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。
 - メンバーを入力するには、「メンバー」を選択します。260 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照してください。
 - 関数を入力するには、「関数」を選択します。300 ページの「[関数の操作](#)」を参照してください。
 - スマート・リストを入力するには、「スマート・リスト」を選択します。303 ページの「[スマート・リストの操作\(Planning ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
3. これらの手順を繰り返し、必要な数の設計時プロンプトに値を割り当てます。

ヒント： さらに設計時プロンプトの値を定義するための行を追加するには、プラス(+)アイコンをクリックします。行を削除するには、マイナス(-)アイコンをクリックします。

- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

DTP 割当てコンポーネントを開く (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントは、そのコンポーネントが含まれるテンプレートのフロー・チャート内から開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ DTP 割当てコンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 開くテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 テンプレートを開いた後、DTP 割当てプロパティを表示するには、フロー・チャートで DTP 割当てコンポーネントを選択します。

DTP 割当てコンポーネントの編集(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントの名前、説明、キャプションおよびコメントを編集できます。DTP 割当てコンポーネントを使用して、テンプレートの設計時プロンプトに割り当てる値も編集できます。

▶ DTP 割当てコンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 編集する DTP 割当てコンポーネントを含むテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャートの DTP 割当てを選択し、「プロパティ」または「式」のプロパティを編集します。次のプロパティを編集できます:
 - 名前
 - 説明
 - キャプション
 - コメント
 - Financial Management ユーザーのみ: タイマーが使用可能かどうか
 - Financial Management ユーザーのみ: ロギングが使用可能かどうか
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

DTP 割当てコンポーネントの削除(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントは、そのコンポーネントが含まれるテンプレートから開きます。DTP 割当てコンポーネントは 1 つのテンプレートでのみ使用できるため、テンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ DTP 割当てコンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラ

- ン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
- 2 削除する DTP 割当てコンポーネントを含むテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
 - 3 「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャートで削除する DTP 割当てコンポーネントを選択します。
 - 4 DTP 割当てコンポーネントを右クリックし、「削除」を選択します。
 - 5 コンポーネントの削除を確認します。

DTP 割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・ア プリケーションのユーザーのみ)

テンプレートから DTP 割当てコンポーネントをコピーして、同じまたは異なるテンプレートに貼り付けられます。DTP 割当てコンポーネントをコピーして、別の DTP 割当てコンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けることはできません。

- ▶ DTP 割当てコンポーネントをテンプレート・デザイナーからコピーして貼り付けるには:
- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning、Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「テンプレート」を展開します。
 - 2 コピーする DTP 割当てコンポーネントを含むテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
 - 3 「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内のコピーする DTP 割当てコンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。
 - 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - DTP 割当てコンポーネントを同じテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャート内の貼り付ける場所を右クリックし、「貼り付け」を選択します。
 - DTP 割当てコンポーネントを異なるテンプレートに貼り付ける場合、DTP 割当てコンポーネントを貼り付けるテンプレートを開き、フロー・チャート内の DTP 割当てコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼り付け」を選択します。
- 注：** 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

スクリプトおよび式コンポーネントの共有 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属するビジネス・ルールおよびテンプレート全体で、式およびスクリプト・コンポーネントを共有できます。

注： 範囲、条件、ループ、ブロックまたは DTP 割当てコンポーネントは共有できません。

共有された式またはスクリプト・コンポーネントは、そのコンポーネントを作成した元のルールまたはテンプレートにのみ存在します。コンポーネントを共有すると、元のコンポーネントへの相互参照が作成されます。元のコンポーネントのコピーではなく相互参照を作成することにより、データベースの使用量が減少し、処理時間が短縮される場合があります。

式およびスクリプト・コンポーネントの共有から非共有への変更 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

共有された式またはスクリプト・コンポーネントを非共有に変更するには、その前に、複数のビジネス・ルールまたはテンプレートで使用されていないことを確認する必要があります。使用状況の表示機能を使用して、式またはスクリプト・コンポーネントがどのビジネス・ルールおよびテンプレートで使用されているかを確認できます。(236 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。)次に、ルールおよびテンプレート内からコンポーネントの「共有」チェック・ボックスを選択解除して、使用されている各ビジネス・ルールおよびテンプレートに対して共有コンポーネントのコピーを作成できます。

▶ 式またはスクリプト・コンポーネントを共有から非共有に変更するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、共有式またはスクリプト・コンポーネントがルールとテンプレートのどちらにあるかによって、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。

3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、次のいずれかのタスクを実行します:

- フロー・チャートに追加する式またはスクリプト・コンポーネントを共有しない場合は、そのコンポーネントをフロー・チャートにドラッグした後、「プロパティ」で「共有」の選択を解除します。
- フロー・チャートにすでにある式またはスクリプト・コンポーネントを共有しない場合は、フロー・チャート上でそのコンポーネントを選択し、「プロパティ」で「共有」の選択を解除します。

これによってルールまたはテンプレート内のコンポーネントのコピーが作成されます。

4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

式およびスクリプト・コンポーネントの非共有から共有への変更(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式またはスクリプト・コンポーネントを非共有から共有に変更する場合は、同じアプリケーション・タイプ内(Financial Management、Planning または Essbase)に、同じ名前を持つ別の共有または非共有の式またはスクリプト・コンポーネントがないことを確認する必要があります。共有オブジェクトの名前はアプリケーション間で一意にする必要があるため、すでに使用されている名前を持つ共有オブジェクトは作成できません。

式またはスクリプト・コンポーネントを共有するには、既存のコンポーネントをルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップするときに、その「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスを選択します。(「共有」チェック・ボックスはデフォルトで選択されています。)

▶ 式またはスクリプト・コンポーネントを非共有から共有に変更するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、ルールまたはテンプレートのどちらの共有の式またはスクリプト・コンポーネントを作成するかに応じて、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、次のいずれかのタスクを実行します:
 - フロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップするときに、既存の式またはスクリプト・コンポーネントを共有する場合
 1. 「既存のオブジェクト」で、アプリケーション、計算またはプラン・タイプ、および共有する式またはスクリプトが含まれる「式」ノードまたは「スクリプト」ノードを展開します。

2. 式またはスクリプトをドラッグして、フロー・チャート内の必要な場所にドロップします。デフォルトでは、「共有」がコンポーネントの「プロパティ」タブで選択されます。
- すでにフロー・チャートにある式またはスクリプト・コンポーネントを共有する場合
 1. フロー・チャート内でコンポーネントを選択します。
 2. そのコンポーネントの「プロパティ」タブで、「共有」を選択します。

4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

コンポーネントの保存

すべてのデザイナー内でコンポーネントを保存できます。Financial Management、Planning、Operational Planning または Essbase ブロック・ストレージのコンポーネントを操作している場合、カスタム定義テンプレートとして保存できます。式またはスクリプト・コンポーネントを扱う場合には、異なる名前で保存できます。

次のトピックを参照してください:

- [232 ページの「コンポーネントの保存」](#)
- [233 ページの「テンプレートとしてのコンポーネントの保存\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)
- [234 ページの「式コンポーネントとスクリプト・コンポーネントを異なる名前で保存\(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ\)」](#)

コンポーネントの保存

式およびスクリプト・コンポーネントをコンポーネント・デザイナーで設計してから保存します。条件コンポーネント、範囲コンポーネントおよび固定ループ・コンポーネントが属するビジネス・ルールまたはテンプレートを、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで保存すると、これらのコンポーネントも保存されます。

- ▶ コンポーネント・デザイナー、テンプレート・デザイナー、またはルール・デザイナーでコンポーネントの設計を終了した後に保存するには、「ファイル」、「保存」の順に選択するか、または「保存」アイコンをクリックします。

テンプレートとしてのコンポーネントの保存 (Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

ビジネス・ルールのコンポーネントをその他のビジネス・ルールで再利用する場合は、1つ以上のコンポーネントをテンプレートとして保存できます。ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャート内からコンポーネントをテンプレートとして保存します。

- ▶ コンポーネントをテンプレートとして保存するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 テンプレートとして保存するコンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで、テンプレートとして保存するコンポーネントを選択し、「ファイル」、「テンプレートとして保存」の順に選択します。

注： コンポーネントまたはコンポーネント・グループのみをテンプレートとして保存できます。コンポーネントをテンプレートとして保存すると、そのコンポーネントの子もテンプレートに保存されます。フロー・チャート内のすべてのビジネス・ルールとテンプレートはそのテンプレートに保存されません。

- 4 「新規カスタム定義テンプレート」ダイアログで、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを入力し、「OK」をクリックします。

ヒント： 新規テンプレートを表示するには、システム・ビューのリフレッシュが必要な場合があります。「テンプレート」ノードを右クリックし、「リフレッシュ」を選択します。

式コンポーネントとスクリプト・コンポーネントを異なる名前で保存(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

「名前を付けて保存」を使用して、スクリプトおよび式コンポーネントに別の名前を付けて保存できます。「名前を付けて保存」では、式またはスクリプト・コンポーネントのコピーが作成されます。共有コンポーネントの場合、コンポーネントのコピーを作成して、コンポーネントを共有させないことも可能です。230 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

▶ スクリプトまたは式コンポーネントを異なる名前で保存するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「スクリプト」または「式」を展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 式を異なる名前で保存する場合は、その式を右クリックして「開く」を選択します。
 - スクリプトを異なる名前で保存する場合は、そのスクリプトを右クリックして「開く」を選択します。
- 2 コンポーネント・デザイナーで式またはスクリプトが開いたら、「ファイル」、「名前を付けて保存」を順に選択します
- 3 「名前を付けて保存」に式またはスクリプトの新しい名前を入力し、アプリケーションを選択します。次に、次のいずれかを行います:
 - Financial Management の式またはスクリプトであれば、「計算タイプ」を選択します
 - Planning の式またはスクリプトであれば、「プラン・タイプ」を選択します
 - Essbase または Operational Planning の式またはスクリプトであれば、「データベース」を選択します。

注: 異なる名前で保存した式またはスクリプトのアプリケーション・タイプは変更できません。新規の式またはスクリプトのアプリケーション・タイプは元の式またはスクリプトと同じにする必要があります。また、式またはスクリプトの対象が Financial Management の場合は、計算タイプを変更できません。新規の式またはスクリプトの計算タイプは、元の式またはスクリプトと同じにする必要があります。

- 4 「OK」をクリックします。

保存後、式またはスクリプト・コンポーネントを表示するには、システム・ビューでアプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。235 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。

式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

式またはスクリプト・コンポーネントを作成した後、「式」ノードまたは「スクリプト」ノードで確認するために、システム・ビューでアプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。アプリケーション・タイプ、アプリケーション、あるいは式またはスクリプト・コンポーネントが属する計算またはプラン・タイプをリフレッシュする場合、デフォルトでは式およびスクリプト・コンポーネントをリフレッシュします。ただし、式またはスクリプト・コンポーネントをリフレッシュしても、アプリケーション・リストのより上位のレベル(すなわち、計算またはプラン・タイプ、アプリケーション、あるいはアプリケーション・タイプ)はリフレッシュされません。

▶ 式またはスクリプト・コンポーネントをリフレッシュするには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、およびスクリプトまたは式コンポーネントを含む計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase および Operational Planning の場合)を展開します。
- 2 「スクリプト」または「式」を右クリックして「リフレッシュ」を選択します。

注: また、データベース・アウトラインの上位レベルをリフレッシュして、その中のオブジェクトをリフレッシュすることもできます。たとえば、アプリケーションのスクリプトと式をリフレッシュするには、アプリケーション名を右クリックして「リフレッシュ」を選択します。

式およびスクリプト・コンポーネントの使用状況の表示(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

スクリプトおよび式コンポーネントを使用するビジネス・ルールおよびテンプレートを表示できます。スクリプトまたは式の使用を表示すると、次の情報が表示されます:

- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの名前
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートのアプリケーション名
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが配置されているかどうか
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが検証されているかどうか
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの説明

▶ スクリプトまたは式コンポーネントの使用を表示するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase または Operational Planning の場合)を展開し、「スクリプト」または「式」を展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - 使用を確認するスクリプトを右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。
 - 使用を確認する式を右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。
式またはスクリプトが使用されるオブジェクトの情報は、用途ウィンドウに表示されます。
- 3 「用途」で情報を確認した後、「OK」をクリックします。

フロー・チャート内でのコンポーネントの操作

フロー・チャート内で、コンポーネントを展開および縮小して詳細を表示または非表示にする、コンポーネントを除去する、コンポーネントをテンプレートとして保存する、コンポーネントをコピーして貼り付ける、コンポーネント・グループ

プおよびコンポーネント参照をコピーして貼り付けるなどのアクションを行えます。テンプレート・デザイナーおよびルール・デザイナーのフロー・チャートでの作業中に、コンポーネントに対して行った変更の多くを元に戻すことができます。

次のトピックを参照してください:

- [237 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネントの縮小および展開」](#)
- [237 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」](#)
- [238 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネントのコピーおよび貼付け」](#)
- [239 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」](#)
- [240 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付け」](#)

フロー・チャート内でのコンポーネントの縮小および展開

ビジネス・ルールまたはテンプレートに多数の複合コンポーネントがある場合、フロー・チャートでその一部を縮小または展開できます。フロー・チャートのコンポーネントの縮小および展開により、操作するコンポーネントの表示スペースを拡大し、使用しないコンポーネントの表示スペースを縮小できます。

▶ コンポーネントをフロー・チャートで縮小するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning の場合)と、ビジネス・ルールとテンプレートのどちらを開くかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで、コンポーネントに対していずれかのアクションを実行します:
 - コンポーネントを展開する場合は、そのコンポーネントを右クリックし、「展開」を選択します。
 - コンポーネントを縮小する場合は、そのコンポーネントを右クリックし、「縮小」を選択します。
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

コンポーネントのフロー・チャートからの除去

条件、メンバー範囲、データ範囲または固定ループ・コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートから除去すると、そのコンポーネントは削除されます。これらのコンポーネントは、共有できないため、1つのビジネス・ルールまたはテンプレートにのみ存在します。

式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートから除去しても、そのコンポーネントが完全に削除される場合とされない場合があります。式またはスクリプト・コンポーネントが共有されていない場合は、コンポーネントを除去すると完全に削除されます。式またはスクリプト・コンポーネントが共有されている場合は、除去元のビジネス・ルールまたはテンプレートからのみ削除されます。

▶ コンポーネントをフロー・チャートから除去するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning の場合)と、ビジネス・ルールとテンプレートのどちらを開くかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートで除去するコンポーネントを右クリックして、「除去」を選択します。

注: 行った変更を元に戻すには、「編集」、「削除を元に戻す」の順に選択します。

- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

フロー・チャート内でのコンポーネントのコピーおよび貼付け

ビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャート内のコンポーネントをコピーすると、同じビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャート内の別の場所に貼り付けられるか、同じアプリケーション・タイプに属する場合は、異なるビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートに貼り付けられます。

▶ コンポーネントをコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning の場合)と、ビジネス・ルールとテンプレートのどちらを開くかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」のフロー・チャートでコピーするコンポーネントを右クリックして、「コピー」を選択します。

ヒント: 「編集」、「コピー」を順に選択して使用もできます。

- 4 次のいずれかのタスクを行います:

- コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートのコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。

- コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートのコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。

ヒント：「編集」、「貼付け」を順に選択して使用もできます。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

フロー・チャート内でのコンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け

コンポーネント自体とは異なり、コンポーネントへの参照をコピーすると、そのコンポーネントへのポインタのみがコピーされます。コンポーネントへの参照をコピーすると、コンポーネント自体は作成した元の場所にのみ存在します。

コンポーネントへの参照をコピーするとき、同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付けることも、同じアプリケーション・タイプに属する別のビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付けることもできます。

▶ フロー・チャート内でコンポーネントへの参照をコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning の場合)と、ビジネス・ルールとテンプレートのどちらを開くかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内のコピーするコンポーネントの参照を右クリックして、「参照のコピー」を選択します。

ヒント：「編集」、「参照のコピー」を順に選択して使用もできます。

4 次のいずれかのタスクを行います:

- コンポーネントの参照を同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャート内の参照を貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
- コンポーネントの参照を異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、ビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャート内の参照を貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。

ヒント：「編集」、「貼付け」を順に選択して使用もできます。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付け

コンポーネントに他のコンポーネントが含まれている(すなわち、コンポーネント内にコンポーネントがある)場合は、コンポーネントのグループをコピーして、同じフロー・チャート内の別の場所に貼り付ける、または別のフロー・チャートに貼り付けることができます。

▶ フロー・チャート内でコンポーネント・グループをコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning の場合)と、ビジネス・ルールとテンプレートのどちらを開くかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。
- 2 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
- 3 「ルール・デザイナー」または「テンプレート・デザイナー」で、フロー・チャート内のコピーするコンポーネント・グループを右クリックして、「グループのコピー」を選択します。

ヒント： 「編集」>「グループのコピー」も使用できます。

4 次のいずれかのタスクを行います:

- コンポーネント・グループを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートのコンポーネント・グループを貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
- コンポーネント・グループを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネント・グループを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートのコンポーネント・グループを貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

コンポーネントの検索

詳細検索機能を使用して、コンポーネントまたは他のオブジェクトを検索できます。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

5

Essbase集約ストレージ・コンポーネントを使用したビジネス・ルール設計(Essbase集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよびOracle General Ledgerユーザーのみ)

この章の内容

視点(POV)コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	242
割当てコンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	245
視点(POV)または割当てコンポーネンを開く(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	250
視点(POV)または割当てコンポーネンの削除(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	250
視点(POV)または割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	251
視点(POV)または割当てコンポーネントの保存(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	252
式コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)	252

Essbase 集約ストレージ・アプリケーション(Oracle General Ledger で使用するアプリケーションを含む)のビジネス・ルールは、Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーション内のビジネス・ルールとは異なるコンポーネントから構成されています。Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでのビジネス・ルールの設計には、次のコンポーネントを使用します:

- 視点(POV)コンポーネントには、メタデータ・メンバーのリストが含まれます(勘定科目のリストなど)。

注: 視点(POV)コンポーネントを別の視点(POV)コンポーネント内部にネストできます。

- 割当てコンポーネントには、データベース・アウトラインの1つのレベルにあるメンバーからアウトラインの他のメンバーにデータを配布するための計算が含まれます。
- 式コンポーネントには、メンバー、関数および変数を使用して設計する計算ステートメントが含まれます。

視点(POV)コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [242 ページの「視点\(POV\)コンポーネントの作成\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [244 ページの「視点\(POV\)コンポーネントの編集\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [250 ページの「視点\(POV\)または割当てコンポーネンを開く\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [250 ページの「視点\(POV\)または割当てコンポーネンの削除\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [251 ページの「視点\(POV\)または割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [252 ページの「視点\(POV\)または割当てコンポーネントの保存\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)

視点(POV)コンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルール内から視点(POV)コンポーネントを作成します。

▶ 視点(POV)コンポーネントを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 開くルールを右クリックして、「開く」を選択します。

ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。

- 3 ビジネス・ルールのフロー・チャート内の視点(POV)コンポーネントを作成する場所を決定したら、「新規オブジェクト・パレット」から「視点(POV)」コンポーネントをドラッグし、フロー・チャート内のその場所にドロップします。

視点(POV)オブジェクトが内部に矢印の付いた2つの丸として表示されます。

- 4 「視点(POV)」で、視点(POV)コンポーネントを識別するキャプションを入力します。このキャプションは、その視点(POV)を使用するルールのフロー・チャート内で、コンポーネントの上に表示されます。
- 5 **オプション:** 視点(POV)のグローバル範囲を定義するには、次のいずれかのタスクを行います:

注: 視点(POV)コンポーネントを作成する対象のビジネス・ルールにグローバル範囲が定義されている場合、「視点(POV)」タブにはビジネス・ルールのメンバー選択がデフォルトで表示されます。グローバル範囲がビジネス・ルールに定義されているかどうかを確認するには、フロー・チャートで「開始」または「終了」タブを選択します。次に、「グローバル範囲」タブをクリックして、メンバー、関数または変数が定義されているかどうかを確認します。

- 「変数セクタ」をクリックして、視点(POV)を定義する変数を選択または作成します。変数を選択する場合、「変数に動的にリンク」を選択すると、変更が行われる際に変数が動的に確実に更新されます。
- 「メンバー・セクタ」をクリックして、視点(POV)を定義するメンバーを選択します。
- 「値」列で次元の行をクリックして、視点(POV)を定義するメンバーの名前を入力します。
- 次元の行をクリックし、「アクション」アイコンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択してメンバーを入力します:

- [メンバー\(260 ページの「メンバーの操作」](#)を参照してください。)
- [変数\(279 ページの「変数の操作」](#)を参照してください。)

変数を使用して視点(POV)コンポーネントを入力できます。変数はデータベース・レベルで定義され、「メンバー範囲」タイプである必要があります。

- [関数\(300 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。)

入力する関数はレベル0のメンバーのみを戻し、関数名の前に@記号が含まれる必要があります。入力できる関数は次のとおりです:

- @Level0Descendant
- @Sibling
- @UDA
- @Attribute

Level0Descendant 関数および Sibling 関数には、メンバー名がパラメータとして必要です。

- 6 次元の選択したメンバーにコメントを入力する場合は、「コメント」をクリックします。
- 7 グリッドに作成したすべてのエントリを消去するには、「グリッドをリセット」をクリックします。
- 8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

視点(POV)コンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

視点(POV)コンポーネントのグローバル範囲を構成するメンバー、変数および関数を編集できます。また、フロー・チャートのコンポーネントおよび視点(POV)の次元ごとに選択した値に入力されたコメントの上に表示されるキャプションを編集できます。

▶ 視点(POV)コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 編集する視点(POV)コンポーネントが含まれるビジネス・ルールを選択します。
- 3 ビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 ルール・デザイナーで、編集する視点(POV)コンポーネントをフロー・チャートで選択してそのプロパティを表示します。次の視点(POV)コンポーネントのプロパティを編集できます。(242 ページの「[視点\(POV\)コンポーネントの作成\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。)
 - ビジネス・ルールのフロー・チャートで視点(POV)コンポーネントの上に表示されるキャプション
 - 視点(POV)を定義するメンバー、変数および関数
 - 変数に変更された場合、視点(POV)コンポーネントに使用されている変数を動的に更新するかどうか
 - 視点(POV)のグローバル範囲を定義する次元およびメンバーにコメントを入力するかどうか
 - 属するビジネス・ルールが検証または起動された場合、視点(POV)コンポーネントのメンバーの値を計算するかどうか
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

割当てコンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- 245 ページの「割当てコンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」
- 249 ページの「割当てコンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」
- 250 ページの「視点(POV)または割当てコンポーネンを開く (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」
- 250 ページの「視点(POV)または割当てコンポーネンの削除(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」
- 251 ページの「視点(POV)または割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」
- 252 ページの「視点(POV)または割当てコンポーネントの保存(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」

割当てコンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

割当てコンポーネントを使用すると、メンバーからメンバーのレベル 0 の子孫にデータを配布できます。割当てコンポーネントはビジネス・ルール内から作成します。これはそのビジネス・ルールのみが存在し、ビジネス・ルール間で共有することはできません。

▶ 割当てコンポーネントを作成するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 開くルールを右クリックして、「開く」を選択します。
ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。
- 3 割当てコンポーネントを作成するビジネス・ルールのフロー・チャート内の場所を決定し、「新規オブジェクト」パレット」から「割当て」コンポーネントをドラッグし、フロー・チャート内の該当する場所にドロップします。

注： 視点(POV)コンポーネントを別の視点(POV)コンポーネント内にドロップすると、最初(上位)の視点のメンバー、変数および関数が 2 番目の視点に継承されます。

4 割当てウィザードの「視点(POV)」で、割当て時に変更しないリスト内の次元ごとに次のいずれかのタスクを行い、「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 「メンバー・セクタ」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと変数を選択します。

注： メンバー・セクタでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

選択したすべてのメンバーが有効なレベル 0 のメンバーであることを確認してください。

- リスト内の次元を選択し、「アクション」をクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第 6 章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

5 割当てウィザードの「ソース」で、リスト内の次元ごとに、次のタスクのいずれかを行って、割り当てるデータを所有するメンバーを選択します。

注： リストされる次元ごとにメンバーを選択する必要があります。

ソース・メンバーにはレベル 0 以外のメンバーを指定できます。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

注： リストされる各次元について、事前定義済の選択に値が入力されない場合、空になっているすべての次元の値を入力する必要があります。

- 「メンバー・セクタ」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーを選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」をクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第 6 章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

注： 割当てコンポーネントのこの手順に関数を使用できません。

- 「オプション:」特定の値を割り当てる場合は、前述の選択内容のかわりに割り当てる量を入力します。

6 割り当てるソース金額がゼロの場合、ドロップダウンで次のいずれかのオプションを選択します。

- 次のプール・レコードを選択します。
- 割当ての処理を停止します。

「次へ」をクリックします。

7 「割当て範囲」に、割当てに使用する次元の親メンバーを入力します。親メンバーを入力するには、次のタスクのいずれかを実行して「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックして、データの割当て先の次元の親メンバーを選択します。
- 親メンバーを入力するか、リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてデータの割当て先の(主次元の)親メンバーを選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
データは、データベース・アウトラインの親メンバーの下のレベル0メンバー(つまり、下にメンバーのない、アウトライン内で最下位のメンバー)に割り当てられます。

8 残りの次元の「ターゲット」で、データの割当て先のレベル0のメンバーを選択します。次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーを選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

9 「オフセット」で、次のいずれかのタスクを実行して「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーを選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

注： オフセットのメンバー指定する必要があります。空のままにすることはできません。

10 オプション: 「除外」で、割当てから除外するメンバーを選択します。次のいずれかのタスクを実行し、「次へ」をクリックします。

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

- 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーを選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

11 「基準」で、次のタスクを行います:

1. 割当て方法を選択してデータを割り当てる方法を指定します。
 - 「均等に割当て」を選択して、データ値を割当て範囲に均等に割り当てます。次に、「均等方法の基準オプション」で、基準が負、ゼロ、値がない、またはすべてのメンバーが除外されている場合に実行する処理を指定します。
 - 「ドライバを使用して割当て」を選択して、割当て範囲の各メンバーに適用されるパーセンテージを計算します。「基準オプション」に、基準が負またはゼロに等しい場合に実行する操作を指定します。
2. 指定していない次元メンバーは事前に定義した POV から継承されますが、次のいずれかのタスクを実行すると、POV の選択肢を上書きできます:
 - 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーを選択します。
 - リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
3. 「次へ」をクリックします。

12 「四捨五入」で、次の手順に従います:

1. この割当てに使用する小数点以下の桁数を入力するか、「アクション」アイコンをクリックして、この値を示すメンバーまたは変数を選択します。
2. 四捨五入差異を適用する場所を選択します。
 - 四捨五入差異を適用するメンバーを指定するには、「場所の定義」を選択します。248 ページの手順 13 に進みます。
 - データ値を最大値に四捨五入するには、「最大値の使用」を選択します。249 ページの手順 14 に進みます。
 - データ値を最小値に四捨五入するには、「最小値の使用」を選択します。249 ページの手順 14 に進みます。
 - 割り当てたデータ値をそのまま使用する場合は、「四捨五入エラーの破棄」を選択します。249 ページの手順 14 に進みます。

13 前の手順で「場所の定義」を選択した場合、「四捨五入メンバー」で、次のいずれかのタスクを行います:

- 「事前に定義されている選択項目の使用」から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

- 「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーを選択します。
- リスト内の次元を選択し、「アクション」アイコンをクリックしてメンバーまたは変数を選択します。第6章「メンバー選択、変数、関数および (Planning ユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

注： この手順で選択するメンバーは割当て範囲に含まれている必要があります。

14 「終了」をクリックします。

割当てコンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ビジネス・ルールを開いて、そのルールに属する割当てコンポーネントを編集できます。ルール・デザイナーにビジネス・ルールが表示されたら、ビジネス・ルールのフロー・チャートでコンポーネントを選択して、割当てコンポーネントのプロパティを表示できます。

▶ 割当てコンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 編集する割当てコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを選択します。
- 3 ビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 ルール・デザイナーで、フロー・チャート内の編集する割当てコンポーネントを選択して、そのプロパティを表示します。次の割当てコンポーネントのプロパティを編集できます。(245 ページの「割当てコンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。)
 - 割り当てるデータを所有するメンバー
 - データを割り当てるレベル 0 のメンバー
 - 割り当てるデータおよびデータ量
 - 割り当てたデータの合計数をオフセット・メンバーに書き込むかどうか
 - ドライバを使用して、データを等分に割り当てるか、様々な量で割り当てるか
 - 割り当てられたデータを四捨五入するかどうか。実行する場合の四捨五入の方法
- 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

視点(POV)または割当てコンポーネンを開く (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

視点(POV)または割当てコンポーネントは、それらが属するビジネス・ルールのフロー・チャート内から開きます。システム・ビューで開くことはできません。

▶ 視点(POV)または割当てコンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 開くコンポーネントが含まれるルールを右クリックし、「開く」を選択します。
ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。
- 3 ルールを開いたら、ルールのフロー・チャートで、視点(POV)コンポーネントをクリックする、または割当てコンポーネントをダブルクリックして、コンポーネントを開きます。

視点(POV)または割当てコンポーネンの削除 (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

視点(POV)または割当てコンポーネントを削除するには、それが属するビジネス・ルールから除去します。視点(POV)および割当てコンポーネントは1つのビジネス・ルールでのみ使用できるため、ビジネス・ルールに属するこれらのコンポーネントをビジネス・ルールから除去すると、コンポーネントは削除されます。

▶ 視点(POV)または割当てコンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 削除する視点(POV)または割当てコンポーネントが含まれるルールを右クリックし、「開く」を選択します。
ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。
- 3 「ルール・デザイナー」で、フロー・チャートで削除する視点(POV)または割当てコンポーネントを選択します。
- 4 視点(POV)または割当てコンポーネントを右クリックし、「削除」を選択します。
- 5 コンポーネントの削除を確認します。

注： 割当てコンポーネントが視点(POV)コンポーネント内に含まれる場合、視点コンポーネントを削除すると、割当てコンポーネントが削除されません。

6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

視点(POV)または割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

視点(POV)または割当てコンポーネントは、それが使用されているビジネス・ルール内からコピーできます。コピーしたコンポーネントは、同じまたは異なるビジネス・ルールに貼り付けることができます。

▶ ビジネス・ルールのフロー・チャートで視点(POV)または割当てコンポーネントをコピーして貼り付けるには:

1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、集約ストレージ・アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。

2 コピーして貼り付ける視点(POV)または割当てコンポーネントが含まれるルールを右クリックし、「開く」を選択します。

ビジネス・ルールがルール・デザイナーに表示されます。

3 「ルール・デザイナー」で、ビジネス・ルールのフロー・チャートにコピーする視点(POV)または割当てコンポーネントを右クリックし、コンポーネントのみをコピーする場合は「コピー」を選択し、コンポーネントおよびそれに含まれるすべてのコンポーネントをコピーする場合は「グループのコピー」を選択します。

4 次のいずれかのタスクを行います:

- コンポーネントを同じビジネス・ルールに貼り付ける場合、フロー・チャートのコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックし、「貼付け」を選択します。
- コンポーネントを異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールを開き、フロー・チャートのコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして「貼付け」を選択します。

ヒント： 「編集」、「貼付け」を順に選択して使用もできます。

注： 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

視点(POV)または割当てコンポーネントの保存 (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ルール・デザイナーでビジネス・ルールを保存する際、そのルールに属する視点(POV)または割当てコンポーネントが保存されます。式コンポーネントとは異なり、視点(POV)または割当てコンポーネントは、それらが属するビジネス・ルールから独立して存在することはできません。

- ▶ 視点(POV)または割当てコンポーネントを保存するには、コンポーネントを設計した後、「ファイル」、「保存」の順に選択するか、「保存」アイコンをクリックします。

式コンポーネントの操作(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [253 ページの「式コンポーネントの作成\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [255 ページの「式コンポーネントを開く\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [255 ページの「式コンポーネントの編集\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [256 ページの「式コンポーネントの削除\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [256 ページの「式コンポーネントのコピーおよび貼付け\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [257 ページの「別のアプリケーションまたはデータベースへの式コンポーネントのコピー\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)
- [258 ページの「式コンポーネントの使用状況の表示\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)

式コンポーネントの作成(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

式コンポーネントは、式の計算ステートメントで構成されています。式の計算ステートメントを作成するには、メンバーおよび変数を入力または選択します。式を作成する際、コンポーネント・デザイナのグリッド内の行にその各計算ステートメントがリストされます。

式コンポーネントは、システム・ビューまたはルール・デザイナで作成できます。式コンポーネントは独立したオブジェクトとしてデータベースに存在するため、ビジネス・ルール間で共有できます。

▶ Essbase 集約ストレージ・アプリケーション用の式コンポーネントを作成する手順は、次にとおりです:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、集約ストレージ・アプリケーションおよびデータベースを展開します。次に、「式」を右クリックし、「新規」を選択します。
- 2 式の名前を入力します。
- 3 「アプリケーション・タイプ」(Essbase)を入力します。
- 4 「アプリケーション」を選択します。アプリケーション名は、有効な Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーションであることが必要です。
- 5 「データベース」を選択します。

注: 「式」を右クリックし、「新規」を選択して新しい式を作成する場合、システム・ビュー内で操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよびデータベースが「新規式」ダイアログに挿入されます。

- 6 「OK」をクリックします。

コンポーネント・デザイナに式が表示されます。

- 7 コンポーネント・デザイナの「プロパティ」で、次の手順に従います:

1. **オプション:** 式は、作成時にデフォルトで共有されます。「共有」チェック・ボックスを選択する、または選択解除することはできません。

ヒント: 共有でない式を作成するには、ビジネス・ルールを開いて、新しい式コンポーネントをビジネス・ルールのフロー・チャートにドラッグします。「共有」チェック・ボックスは選択されていません。式を共有する場合は、「共有」チェック・ボックスを選択します。

2. **オプション:** 新規名前を 50 文字以下で入力することにより、式の名前を編集します。(デフォルトの名前は「新規式」ダイアログで指定されます。)

注： Essbase 集約ストレージ・アプリケーションおよび Oracle General Ledger アプリケーションのメンバーの名前は一意である必要はありません。一意ではない名前がある場合、メンバーが使用されているオブジェクトが検証される際に、その名前がフラグ付けされます。これが発生した場合は、メンバーのフル・パスを入力する必要があります。フル・パスの構文は、[次元名].[親名].[メンバー名]です。

3. **オプション:** 式の説明を 255 文字以下で入力します。
4. **オプション:** 式のキャプションを入力します。キャプションは、「ルール・デザイナ」のフロー・チャートで式の下に表示されます。

注： キャプションを入力しない場合、フロー・チャートではコンポーネントの名前が表示されます。

5. **オプション:** 式のコメントを入力します。たとえば、式コンポーネントの使用方法をユーザーに伝えられます。
- 8 「式」に、式のキャプションを入力します。
- 9 **オプション:** 「オフセット・メンバー」から、オフセット・メンバーまたは次元間メンバーに書き込まれる式コンポーネントの式のすべての合計金額が必要な場合、「省略記号」アイコンをクリックしてメンバーを選択します。

注： オフセット・メンバーは、下で作成する式内に手動で定義できます。式コンポーネントで定義されたオフセットは、すべての計算済金額の合計として計算されます。

- 10 式ステートメントを作成するには、等号の左側にある 1 番目の式ステートメントの行内をクリックします。次に、メンバーまたは次元間メンバーの選択を入力するか、「アクション」をクリックして、次を選択します：

- 変数(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)
- メンバー(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。)

注： 次元間メンバーの選択を入力する場合は、各メンバー名を右矢印で区切って入力します。たとえば、mem1->mem2->mem3 のようになります。

- 11 式ステートメントを完成するには、等号の右側にある行内をクリックします。次に、メンバーまたは次元間メンバーの選択を入力するか、「アクション」をクリックして、次を選択します：

- 変数(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)
- メンバー(260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。)

- 12 **オプション:** 式ステートメント行ごとに、「コメント」アイコンをクリックし、式ステートメントに関するコメントを入力します。「OK」をクリックします。

- 13 「用途」では、式コンポーネントを使用するルールを参照できます。

注： このタブの情報はどれも編集できません。

- 14 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

式コンポーネントを開く (Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

式コンポーネントは、システム・ビューから、または式コンポーネントを使用するビジネス・ルールのルール・デザイナのフロー・チャート内から開くことができます。

▶ 式コンポーネントを開くには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーション、およびデータベースの順に展開します。
- 2 「式」を展開し、次のいずれかのタスクを実行します:
 - 開く式を右クリックし、「開く」を選択します。
 - 開く式をダブルクリックします。

式コンポーネントがコンポーネント・デザイナで開かれます。

注: 式コンポーネントをビジネス・ルール内で開くには、式コンポーネントを右クリックして「開く」を選択するか、そのコンポーネントをダブルクリックして、ルールのフロー・チャート内から開きます。

式コンポーネントの編集(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

式コンポーネント、式コンポーネントのコメント、キャプション、名前および説明で構成される式ステートメントを編集できます。

▶ 式コンポーネントを編集するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーション、データベースおよび「式」の順に展開します。
- 2 編集する式コンポーネントを選択します。
- 3 式コンポーネントを右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 コンポーネント・デザイナで、式コンポーネントの次のプロパティを編集できます。[253 ページの「式コンポーネントの作成\(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - キャプション
 - 式ステートメント
 - 名前
 - 説明

- コメント

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

式コンポーネントの削除(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

式コンポーネントは、どのビジネス・ルールでも使用されていない場合のみ削除できます。ビジネス・ルールが式コンポーネントを使用しているかどうかを調べるには、式コンポーネントの使用状況を表示します。258 ページの「式コンポーネントの使用状況の表示(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。

式コンポーネントがビジネス・ルールで使用されているが、そのルールで使用する必要がなくなった場合は、ルールから除去した後に、式コンポーネントを削除します。式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールが不要になった場合は、ビジネス・ルールを削除できます。

ビジネス・ルールで使用されていない式コンポーネントは、削除できます。

▶ 式コンポーネントを削除するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーション、データベースおよび「式」の順に展開します。
- 2 削除する式を右クリックし、「使用状況の表示」を選択してどのビジネス・ルールも式コンポーネントを使用していないことを確認します。258 ページの「式コンポーネントの使用状況の表示(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)」を参照してください。
- 3 式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールから式コンポーネントを削除します。237 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」を参照してください。
- 4 システム・ビューで、削除する式を右クリックし、「削除」を選択します。
- 5 式の削除を確認します。

式コンポーネントのコピーおよび貼付け(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

ルールから式コンポーネントをコピーして、同じルールや異なるルールに貼り付けられます。式コンポーネント内のグリッドのコンテンツをコピーして、同じ式コンポーネントや異なる式コンポーネントに貼り付けることもできます。式コンポーネントをコピーして、別の式コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けることはできません。

▶ 式コンポーネントをコピーして貼り付けるには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーション、データベースおよび「ルール」の順に展開します。
- 2 コピーする式コンポーネントが含まれるルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ルール・デザイナのフロー・チャートで、コピーする式コンポーネントを右クリックし、「コピー」を選択します。

注: コピーするコンポーネントが共有されている場合、コンポーネント自体をコピーするかわりに、「編集」、「参照のコピー」を使用して参照を共有コンポーネントにコピーできます。(74 ページの「ビジネス・ルールの式またはスクリプト・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」を参照してください。)

4 次のいずれかのタスクを行います:

- 式コンポーネントを同じビジネス・ルールのフロー・チャートに貼り付ける場合、フロー・チャート内の貼り付ける場所で右クリックし、「貼付け」を選択します。
- 式コンポーネントを異なるビジネス・ルールのフロー・チャートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールを開き、貼り付ける場所で右クリックして「貼付け」を選択します。

注: 行った変更を元に戻すには、「編集」、「貼付けを元に戻す」の順に選択します。

5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

別のアプリケーションまたはデータベースへの式コンポーネントのコピー(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

1つのアプリケーションから別のアプリケーションおよびデータベースに、または同じアプリケーション内で1つのデータベースから別のデータベースに、式コンポーネントをコピーできます。

▶ 式コンポーネントをコピーするには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーション、データベースおよび「式」の順に展開します。
- 2 コピーする式コンポーネントを右クリックして、「コピー先」を選択します。
- 3 「名前を付けて保存」で、次のタスクのいずれかを行います:

- 式コンポーネントを別のアプリケーションにコピーする場合、「アプリケーション」に名前を入力します。
- 式コンポーネントを別のアプリケーションおよびデータベースにコピーする場合、「アプリケーション」および「データベース」に名前を入力します。
- 式コンポーネントを同じアプリケーション内の別のデータベースにコピーする場合、「データベース」に名前を入力します。

4 「OK」をクリックします。

式コンポーネントがコピー先のアプリケーションおよびデータベースの「式」ノードに表示されます。

注： 式コンポーネントのコピー先のアプリケーション・ノードまたはデータベース・ノードのリフレッシュが必要な場合があります。アプリケーション・ノードまたはデータベース・ノードを右クリックして「リフレッシュ」を選択します。

式コンポーネントの使用状況の表示(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーおよび Oracle General Ledger ユーザーのみ)

式コンポーネントを使用しているビジネス・ルール、およびビジネス・ルールに関するその他の情報を確認するには、システム・ビューで式コンポーネントの使用状況を表示します。

▶ 式コンポーネントの使用状況を表示するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、Essbase 集約ストレージまたは Oracle General Ledger アプリケーション、データベースおよび「式」の順に展開します。
- 2 使用を確認する式を右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。
- 3 式コンポーネントに関する次の情報を表示できます。
 - その式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールの名前
 - その式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールのアプリケーション名
 - その式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールのデータベース名
 - 式コンポーネントの所有者
 - その式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールを配置するかどうか
 - その式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールを検証するかどうか
 - その式コンポーネントを使用しているビジネス・ルールの説明

注： 式コンポーネントの使用は、「用途」タブのコンポーネント・デザイナーから確認することもできます。

6

メンバー選択、変数、関数および(Planningユーザーのみ)スマート・リストを使用したコンポーネントの設計

この章の内容

メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストについて	259
メンバーの操作	260
変数の操作.....	279
関数の操作.....	300
コンポーネントへの関数の挿入	301
スマート・リストの操作(Planning ユーザーのみ).....	303
スマート・リストの挿入(Planning ユーザーのみ).....	303

メンバー選択、変数、関数および(Planning ユーザーのみ)スマート・リストについて

コンポーネントを使用してビジネス・ルールを設計するのと同様に、メンバー、変数および関数を使用してコンポーネントを設計します。

式、スクリプト、条件、メンバーおよびデータ範囲、およびメンバー・ブロックの各コンポーネントでメンバー選択を使用して、メンバーのリスト(Planning および Essbase アプリケーションの場合)またはメンバーおよびメンバー・リスト(Financial Management アプリケーションの場合)に戻すメンバーおよび関数を選択します。260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。

変数は、式、ループおよび条件の各コンポーネントに対して式を構築するために使用します。ビジネス・ルールが起動されると計算される実行変数と、より複雑な式または関数を代替する置換変数の 2 種類の変数があります。(279 ページの「変数の操作」を参照してください。)次の種類の変数を作成できます:

- アプリケーション・タイプに属するすべてのアプリケーションで使用するグローバル変数(Financial Management および Planning でグローバル変数を作成できます。)
- 1つのアプリケーションのみで使用するアプリケーション変数(Financial Management、Planning および Essbase でアプリケーション変数を作成できます。)

- 1つのプラン・タイプまたはデータベースで使用するプラン・タイプまたはデータベース変数(Planning および Essbase でプラン・タイプまたはデータベース変数を作成できます。)
- 1つのビジネス・ルールのみで使用するルール変数(Planning および Essbase でルール変数を作成できます。)

関数は、ループ、条件および式の各コンポーネントで使用できる事前に定義された式です。コンポーネントで使用できる関数は、Financial Management、Planning および Essbase アプリケーションで異なります。(Financial Management、Planning および Essbase アプリケーションで使用可能な関数の種類については、[300 ページ](#)の「[関数の操作](#)」を参照。Financial Management コンポーネントで使用できる関数の詳細なリストおよび説明については『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照。Planning および Essbase アプリケーションで使用できる関数の詳細なリストおよび説明については『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。)関数を使用して次のような計算を実行できます:

- 日付文字列から数字への変換
- 範囲をまたがったメンバーの平均値の計算
- ある期間における資産の減価償却の計算
- 時間次元のメンバーの期間累計値の計算

Planning ユーザーのみ: データ・フォーム・セルでオプションを入力するかわりに、スマート・リストを使用して事前定義済のオプションを選択します。

メンバーの操作

次のトピックを参照してください:

- [260 ページ](#)の「[コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について](#)」
- [261 ページ](#)の「[1つ以上の次元から1つのコンポーネントへのメンバーまたは関数の追加](#)」
- [269 ページ](#)の「[1つ以上の次元から1つのコンポーネントへの複数のメンバーまたは関数の追加](#)」
- [276 ページ](#)の「[コンポーネントからのメンバーおよび関数の除去](#)」
- [277 ページ](#)の「[メンバーの検索](#)」
- [278 ページ](#)の「[名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索](#)」

コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について

式コンポーネント、スクリプト・コンポーネント、条件コンポーネント、メンバー範囲コンポーネントおよびデータ範囲コンポーネントにメンバーを追加できます。式コンポーネント、スクリプト・コンポーネントおよび条件コンポーネントにメンバーのリストを戻す関数も追加できます。コンポーネントが属するアプリケーションの次元からメンバーおよび関数を選択できます。

操作するコンポーネントによって、1つの次元から1つ以上のメンバーまたは関数を選択するか、複数の次元から1つ以上のメンバーまたは関数を選択できます。

- 複数の次元に対して1つのメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - 式コンポーネントの式グリッド内
 - 必要なパラメータが1つのメンバーである関数内
- 複数の次元に対して複数のメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - タイプがメンバーである変数値の定義内
- 1つの次元に対して複数のメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - Planning または Essbase のビジネス・ルールのグローバル範囲内
 - 設計時プロンプト・タイプがスライスであるテンプレート内
 - タイプがメンバーである変数値の定義内
 - タイプがメンバーである変数制限の定義内
 - ループ・コンポーネント内
 - パラメータがメンバーであるすべての関数内
- 1つの次元に対して1つのメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - タイプがメンバーである変数値の定義内
 - パラメータがメンバーであるすべての関数内

1つ以上の次元から1つのコンポーネントへのメンバーまたは関数の追加

メンバー・セレクタによって、次元内のメンバーおよび関数を選択できます。次元内のメンバーを展開および縮小するときは、「+」および「-」を使用します。

「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスには3つのタブがあり、選択した次元のすべてのメンバーおよび関数は「メンバー」タブおよび関数」タブに表示されます。3つ目の「検索」タブは、メンバーまたはメンバーの説明を検索するために使用します。選択するメンバーおよび関数は右側の「選択」にリストされます。

▶ 1つ以上の次元をコンポーネントに追加するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning の場合)と、コンポーネントがビジネス・ルールとテンプレートのどちらに含まれるかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。さらに、Operational Planning ビジネス・ルールを使用する場合は、「ルール」ノードを選択した後で、ビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを選択する必要があります。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。

- メンバーを追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、メンバーを追加するコンポーネントを選択します。

注： メンバーをループ・コンポーネントに追加できません。

- 4 「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックします。
- 5 「メンバー・セレクタ」で、「次元」から次元を選択します。

選択する次元のメンバーが「メンバー」に表示され、作業しているアプリケーションの関数が「関数」に表示されます。

6 次のいずれかのタスクを行います：

- 「メンバー」でメンバーを選択し、「右矢印」ボタンをクリックして「選択」リストに移動します。このテーブルのオプションを使用してさらに選択を定義することもできます。

表 14 メンバー・セレクタ・ボタン

ボタン	説明
特殊項目の追加	<p>(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ) 次のいずれかを選択して、タブで選択したメンバーまたは関数に関連する追加メンバーまたは関数を追加します：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー ○ 子 ○ iChildren ○ 子孫 ○ iDescendants ○ 兄弟 ○ iSiblings ○ 親 ○ iParent ○ 祖先 ○ iAncestors ○ 相対 ○ レベル 0(ベース) ○ 含む <p>(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーのみ) 次のいずれかを選択して、タブで選択したメンバーまたは関数に関連するメンバーまたは関数を追加します：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 兄弟 ○ レベル 0 の子孫
選択	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストに移動します。
選択解除	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストから除去されます。
すべて選択解除	選択すると、すべてのメンバーおよび関数が選択リストから除去されます。

- Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ: 「関数」で、次のタスクを行います:
 1. 関数を選択します。
 2. このテーブルに従って、関数の必要な値を入力します:

表 15 Planning、Operational Planning および Essbase のブロック・ストレージ関数および値

関数	入力する値	説明
@ALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名を入力するか、「メンバー」をクリックしてメンバーを選択します。
@ANCEST	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ 世代レベル番号 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「次元」で選択した次元名を入力します。 2. 祖先値が戻る元の世代またはレベルの番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。 3. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@ANCESTORS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 ○ 世代レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@ATTRIBUTE	属性メンバー名	入力した次元に対して、選択に含める属性メンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@CHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@CURRMBR	次元名	次元名を入力します。
@DESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 ○ 世代レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@GENMBRS	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ genName 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. dimName から世代名を入力します。正の整数は世代番号を表します。
@IALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。

関数	入力する値	説明
@ANCESTORS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@CHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@DESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@LSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IRDESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@IRSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@SIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@LEVMBRS	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. レベルの番号を定義するレベル名または整数値を入力します。整数値は0 または正の整数にする必要があります。
@LIST	引数	親関数によって処理できるように、1つの引数として収集および処理される引数のリストを入力します。引数として使用できるのは、メンバー名、メンバーの組合せ、メンバー・セット関数、範囲関数および数値式です。
@LSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。

関数	入力する値	説明
@MATCH	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー、世代 ○ genName ○ 一致するパターン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選択の基準となるメンバーのデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。システムは、指定されたメンバーおよびその子孫のメンバー名および別名を検索します。 2. 選択の基準となる世代のデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。システムは、その世代のすべてのメンバー名およびメンバー別名を検索します。 3. ワイルドカード文字(*または?)を含めた検索対象の文字パターンを入力します。?は任意の1文字を表します。?はパターン内の任意の場所で使用できます。*は任意の数の文字を表します。*を使用できるのはパターンの末尾のみです。文字パターンにスペースを含めるには、二重引用符("")でパターンを囲みます。
@MEMBER	文字列	文字列(二重引用符で囲まれている)または文字列を戻す関数を入力します。
@MERGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト1 ○ リスト2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マージするメンバーの第1リストを入力します。 2. マージするメンバーの第2リストを入力します。
@PARENT	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@RANGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 範囲リスト 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバー名のカンマ区切りリスト、メンバー・セット関数または範囲関数を入力します。rangeListが指定されていない場合、システムは時間としてタグ付けされた次元のレベル0のメンバーを使用します。
@RDESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。
@RELATIVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。
@REMOVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト1 ○ リスト2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マージするメンバーの第1リストを入力します。 2. マージするメンバーの第2リストを入力します。
@RSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。

関数	入力する値	説明
@SHARE	範囲リスト	メンバーのカンマ区切りリスト、メンバーを戻す関数またはメンバーの範囲を入力します。rangeList のすべてのメンバーが同じ次元からのものである必要があります。
@SIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@UDA	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ ユーザー定義の属性 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザー定義属性が関連付けられる次元の名前を入力します。 2. データベース・アウトラインに表示されるユーザー定義属性の名前を入力します。
@WITHATTR	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ 演算子 ○ 値 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 属性次元の名前を入力します。 2. 演算子仕様を二重引用符("")で囲んで入力します。 3. 満たす必要がある条件を演算子と組み合わせて定義する値を入力します。値として使用できるのは、属性メンバー仕様、定数または日付フォーマット関数(すなわち@TODATE)です。
@XRANGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 1 ○ メンバー名 2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。mbrName1 が次元をまたぐメンバー(実績>1月など)である場合は、mbrName2 も同じにする必要があります、次元の順序が mbrName1 で使用する順序と一致させる必要があります。

Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションでサポートされる関数タイプのリストについては、[300 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。

3. 「右矢印」ボタンをクリックして関数を「選択」リストに移動します。[表 14](#) のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。
- 「検索」で、メンバーを検索するために次のタスクを行います:
 1. 「次元」から、メンバーを検索する次元を選択します。
 2. 「検索」で、検索するメンバーのタイプ、メンバー名またはその説明を選択します。
 3. 検索するメンバー名またはその説明を入力するか、次元のすべてのメンバーを表示するため、デフォルトのワイルドカード(*)を受け入れます。
 4. 「検索」を選択すると、フィールドに入力したメンバーが検索されます。([277 ページの「メンバーの検索」](#) を参照してください。)
 5. 「詳細検索」を選択すると、詳細検索オプションにアクセスできます。([277 ページの「メンバーの検索」](#) を参照してください。)
 6. メンバーを選択し、「右矢印」をクリックして「選択」リストに移動します。[表 14](#) のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。

- **Financial Management ユーザーのみ:** 「リスト」では、次のタスクを行います:
 1. 選択した次元のメンバー・リストを選択して、このテーブルに従ってリストのパラメータを入力します:

表 16 Financial Management メンバー・リストおよびパラメータ

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムにはパラメータを入力しません。
エンティティ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、次のパラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 調整エンティティおよび親調整エンティティには値を入力しません。
ICP	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムには値を入力しません。
期間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親および子に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 第1世代、第2世代、第3世代、第4世代、第5世代および第6世代には値を入力しません。

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先および親に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ サポート・プロセス管理には値を入力しません。
値	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 入力、調整、合計およびデフォルト通貨には値を入力しません。
表示	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間

2. 「右矢印」をクリックしてメンバー・リストを「選択」リストに移動します。表 14 のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。

7 次のいずれかのタスクを行います:

- 次のいずれかのメンバー、関数またはメンバー・リストを選択する場合は、手順 8 に進みます。
 - タイプがメンバーである変数値
 - パラメータがメンバーである関数
- 次のいずれかのメンバー、関数またはメンバー・リストを選択する場合は、各次元のメンバー、関数またはメンバー・リストを選択するまで手順 5 および手順 6 を繰り返します。次に手順 8 に進みます。
 - Planning または Essbase ビジネス・ルールのグローバル範囲
 - 設計時プロンプト・タイプがスライスであるテンプレート
 - タイプがメンバーである変数値

- タイプがメンバーである変数制限
- ループ・コンポーネント
- パラメータがメンバーである関数

8 「OK」をクリックします。

1 つ以上の次元から 1 つのコンポーネントへの複数のメンバーまたは関数の追加

メンバー・セレクタによって、次元内のメンバーを選択できます。次元内のメンバーを展開および縮小するときは、「+」および「-」を使用します。

「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスには 3 つのタブがあり、選択した次元のすべてのメンバーおよび関数は「メンバー」タブおよび関数」タブに表示されます。3 つ目の「検索」タブは、メンバーまたはメンバーの説明を検索するために使用します。選択するメンバーおよび関数は右側の「選択」にリストされま

す。複数のメンバーが選択可能なコンポーネントの場合は、[Shift] キーを押しながらクリックするか、[Ctrl] キーを押しながらクリックして、連続または非連続のメンバーを選択できます。

▶ 1 つ以上の次元から複数のメンバーを 1 つのコンポーネントに追加するには:

- 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning の場合)を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらに含まれるかによって「ルール」または「テンプレート」を展開します。さらに、Operational Planning ビジネス・ルールを使用する場合は、「ルール」ノードを選択した後で、ビジネス・ルールが含まれる「計算タイプ」ノードを選択する必要があります。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、メンバーを追加するコンポーネントを選択します。

注: メンバーをループ・コンポーネントに追加できません。

- 4 「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックします。
- 5 「メンバー・セレクタ」で、「次元」から次元を選択します。

選択する次元のメンバーが「メンバー」に表示され、作業しているアプリケーションの関数が「関数」に表示されます。

- 6 次のいずれかのタスクを行います:

- 「メンバー」で、「[Ctrl]キーを押しながらクリック」するか、または「[Shift]キーを押しながらクリック」してメンバーを選択します。メンバーを「選択」リストに移動するには「右矢印」をクリックします。このテーブルのオプションを使用して選択項目を詳細に定義することもできます。

表 17 メンバー・セレクタ・ボタン

ボタン	説明
特殊項目の追加	<p>(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)次のいずれかを選択して、タブで選択したメンバーまたは関数に関連する追加メンバーまたは関数を追加します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー ○ 子 ○ iChildren ○ 子孫 ○ iDescendants ○ 兄弟 ○ iSiblings ○ 親 ○ iParent ○ 祖先 ○ iAncestors ○ 相対 ○ レベル 0(ベース) ○ 含む <p>(Essbase 集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーのみ) 次のいずれかを選択して、タブで選択したメンバーまたは関数に関連するメンバーまたは関数を追加します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 兄弟 ○ レベル 0 の子孫
選択	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストに移動します。
選択解除	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストから除去されます。
すべて選択解除	選択すると、すべてのメンバーおよび関数が選択リストから除去されます。

- **Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ:** 「関数」で、次のタスクを行います:
 1. 関数を選択するには、「[Ctrl]キーを押しながらクリック」するか、または「[Shift]キーを押しながらクリック」します。
 2. このテーブルに従って、関数の必要な値を入力します:

表 18 Planning、Operational Planning および Essbase のブロック・ストレージ関数および値

関数	入力する値	説明
@ALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名を入力するか、「メンバー」をクリックしてメンバーを選択します。

関数	入力する値	説明
@ANCEST	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ 世代レベル番号 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「次元」で選択した次元名を入力します。 2. 祖先値が戻る元の世代またはレベルの番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。 3. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@ANCESTORS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 ○ 世代レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@ATTRIBUTE	属性メンバー名	入力した次元に対して、選択に含める属性メンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@CHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@CURRMBR	次元名	次元名を入力します。
@DESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 ○ 世代レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@GENMBRS	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ genName 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. dimName から世代名を入力します。正の整数は世代番号を表します。
@IALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IANCESTORS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。
@ICCHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。

関数	入力する値	説明
@DESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@LSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IRDESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@IRSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@SIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@LEVMBRS	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. レベルの番号を定義するレベル名または整数値を入力します。整数値は 0 または正の整数にする必要があります。
@LIST	引数	親関数によって処理できるように、1 つの引数として収集および処理される引数のリストを入力します。引数として使用できるのは、メンバー名、メンバーの組合せ、メンバー・セット関数、範囲関数および数値式です。
@LSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@MATCH	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー、世代 ○ genName ○ 一致するパターン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選択の基準となるメンバーのデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。システムは、指定されたメンバーおよびその子孫のメンバー名および別名を検索します。 2. 選択の基準となる世代のデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。システムは、その世代のすべてのメンバー名およびメンバー別名を検索します。 3. ワイルドカード文字(*または?)を含めた検索対象の文字パターンを入力します。?は任意の 1 文字を表します。?はパターン内の任意の場所で使用できます。*は任意の数の文字を表します。*を使用できるのはパターンの末尾のみです。文字パターンにスペースを含めるには、二重引用符(" ")でパターンを囲みます。
@MEMBER	文字列	文字列(二重引用符で囲まれている)または文字列を戻す関数を入力します。
@MERGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト 1 ○ リスト 2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マージするメンバーの第 1 リストを入力します。 2. マージするメンバーの第 2 リストを入力します。

関数	入力する値	説明
@PARENT	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@RANGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 範囲リスト 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバー名のカンマ区切りリスト、メンバー・セット関数または範囲関数を入力します。rangeListが指定されていない場合、システムは時間としてタグ付けされた次元のレベル0のメンバーを使用します。
@RDESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。
@RELATIVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。
@REMOVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト1 ○ リスト2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マージするメンバーの第1リストを入力します。 2. マージするメンバーの第2リストを入力します。
@RSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@SHARE	範囲リスト	メンバーのカンマ区切りリスト、メンバーを戻す関数またはメンバーの範囲を入力します。rangeListのすべてのメンバーが同じ次元からのものである必要があります。
@SIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@UDA	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ ユーザ定義の属性 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザー定義属性が関連付けられる次元の名前を入力します。 2. データベース・アウトラインに表示されるユーザー定義属性の名前を入力します。
@WITHATTR	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ 演算子 ○ 値 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 属性次元の名前を入力します。 2. 演算子仕様を二重引用符("")で囲んで入力します。 3. 満たす必要がある条件を演算子と組み合わせて定義する値を入力します。値として使用できるのは、属性メンバー仕様、定数または日付フォーマット関数(すなわち@TODATE)です。

関数	入力する値	説明
@XRANGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 1 ○ メンバー名 2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。mbrName1 が次元をまたぐメンバー(実績->1月など)である場合は、mbrName2 も同じにする必要があります、次元の順序が mbrName1 で使用する順序と一致させる必要があります。

3. 「右矢印」をクリックして「選択」リストに移動します。表 17 のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。
- 「検索」で、メンバーを検索するために次のタスクを行います:
 1. 「次元」から、メンバーを検索する次元を選択します。
 2. 「検索」で、検索するメンバーのタイプ、メンバー名またはその説明を選択します。
 3. 検索するメンバー名またはその説明を入力するか、次元のすべてのメンバーを表示するため、デフォルトのワイルドカード(*)を受け入れます。
 4. 「検索」を選択すると、フィールドに入力したメンバーが検索されます。(277 ページの「メンバーの検索」を参照してください。)
 5. 「詳細検索」を選択すると、詳細検索オプションにアクセスできます。(277 ページの「メンバーの検索」を参照してください。)
 6. メンバーを選択し、「右矢印」をクリックして「選択」リストに移動します。表 17 のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 「リスト」では、次のタスクを行います:
 1. 選択した次元のメンバー・リストを選択して、このテーブルに従ってリストのパラメータを入力します:

表 19 Financial Management メンバー・リストおよびパラメータ

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムにはパラメータを入力しません。

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
エンティティ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、次のパラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 調整エンティティおよび親調整エンティティには値を入力しません。
ICP	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムには値を入力しません。
期間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親および子に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 第1世代、第2世代、第3世代、第4世代、第5世代および第6世代には値を入力しません。
シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先および親に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ サポート・プロセス管理には値を入力しません。
値	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 入力、調整、合計およびデフォルト通貨には値を入力しません。

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
表示	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間

2. 右矢印ボタンをクリックしてメンバー・リストを「選択」リストに移動します。表 17 のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。

7 次のいずれかのタスクを行います:

- タイプがメンバーである変数を定義するために、メンバー、関数、またはメンバー・リストを選択する場合は、次元ごとにメンバー、関数またはメンバー・リストを選択するまで、手順 5 および手順 6 を繰り返します。次に手順 8 に進みます。
- これらのいずれかのメンバー、関数またはメンバー・リストを選択する場合は、手順 8 に進みます。
 - Planning または Essbase ビジネス・ルールのグローバル範囲
 - 設計時プロンプト・タイプがメンバー交差部であるテンプレート
 - タイプがメンバーである変数値
 - タイプがメンバーである変数制限
 - ループ・コンポーネント
 - パラメータがメンバーである関数

8 「OK」をクリックします。

コンポーネントからのメンバーおよび関数の除去

式、スクリプト、条件、メンバーおよびデータ範囲のコンポーネントからメンバーを除去できます。式、スクリプトおよび条件のコンポーネントから関数を除去できます。

コンポーネントからメンバーおよび関数を除去しても、データベースからは削除されません。共有コンポーネントからメンバーおよび関数を除去する場合は、最初にコンポーネントを非共有にする必要があります。

▶ コンポーネントからメンバーまたは関数を除去するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning の場合)と、コンポーネントがビジネス・ルールとテンプレートのどちらに含まれるかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。さらに、Operational Planning ビジネス・ルールを使用する場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するルールが含まれる計算タイプを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、除去するメンバーまたは関数を含むコンポーネントを選択します。
- 4 「アクション」アイコンをクリックして、「メンバー」を選択します。
- 5 「メンバー・セレクタ」で、「次元」から、除去するメンバーまたは関数を含む次元を選択します。
- 6 「選択」からメンバーまたは関数を「メンバー」または「関数」に移動するには左矢印を使用します。表 14 を参照してください。
- 7 複数の次元からメンバーを除去する場合は、「次へ」をクリックして、手順 5 および手順 6 を繰り返します。
- 8 「OK」をクリックします。
- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバーの検索

「メンバー・セレクタ」内でメンバーを検索できます。

▶ メンバーを検索するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)、またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning の場合)と、コンポーネントがビジネス・ルールとテンプレートのどちらに含まれるかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。さらに、Operational Planning ビジネス・ルールを使用する場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するルールが含まれる計算タイプを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバーを検索するコンポーネントを含むテンプレートを右クリックして、「開く」を選択します。
 - メンバーを検索するコンポーネントを含むビジネス・ルールを右クリックして、「開く」を選択します。

- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、メンバーを検索するコンポーネントを選択します。
- 4 「アクション」アイコンをクリックして、「メンバー」を選択します。
- 5 「メンバー・セレクタ」で、「次元」から、検索するメンバーを含む次元を選択します。
- 6 **オプション:** 「メニュー」アイコンから、次のタスクを実行して、ダイアログのメンバーの表示をカスタマイズできます:
 - メンバーの名前、別名、説明および数を表示または非表示にするには、「表示」のオプションを選択または選択解除します。(デフォルトでは、メンバーの名前および別名が表示されます。)
 - 選択した次元のメンバーを非表示にするには、「すべて縮小」を選択します。(デフォルトでは、次元を選択するとアウトラインが縮小します。)
- 7 「検索」タブを選択します。
 1. 「検索」で、検索するメンバーのタイプ、メンバー名またはその説明を選択します。
 2. 検索するメンバー名またはその説明を入力するか、次元のすべてのメンバーを表示するため、デフォルトのワイルドカード(*)を受け入れます。
 3. 「検索」をクリックして、メンバーまたはその説明を検索します。

メンバーが検索されると「結果」のアウトラインに強調表示されます。複数のメンバーが検索条件に一致する場合は、左および右矢印を使用してアウトラインを上下に移動し、検索条件に一致するすべてのメンバーを参照します。
 4. **オプション:** メンバーをその名前、別名、またはそのプロパティの1つで検索するには、「詳細検索」をクリックします。278 ページの「名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索」を参照してください。
 5. メンバーを選択し、「右矢印」をクリックして「選択」リストに移動します。表 17 のオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。
- 8 「OK」をクリックします。

名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索

「メンバー・セレクタ」内の「詳細検索」を使用して、メンバーをその名前、別名、またはプロパティの1つで検索できます。

- ▶ 名前、別名、またはプロパティでメンバーを検索するには:
- 1 「メンバー・セレクタ」から、「検索」タブを選択して「詳細検索」をクリックします。
 - 2 「メンバーの検索」で、「検索基準」から、次のオプションのいずれかを選択します:
 - 「名前」: メンバーをその名前で検索する場合。手順 4 に進みます。
 - 「別名」: メンバーをその別名で検索する場合。手順 4 に進みます。

- 「プロパティ」:メンバーをそのプロパティの1つで検索する場合。手順3に進みます。
- 3 「プロパティ」を選択した場合は、「プロパティ名」を入力または選択します。Planning および Financial Management のメンバー・プロパティについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。Essbase メンバー・プロパティ(Oracle General Ledger および Operational Planning アプリケーションで使用されるものも含む)の詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。
 - 4 名前、別名、またはプロパティの値を入力します。
 - 5 「OK」をクリックします。
- 別名、名前、またはプロパティが検索されたら、「メンバー」のアウトラインに強調表示されます。
- 注:** 別名でメンバーを検索する場合、他の言語の別名を持つメンバーを含む、検索条件に一致する別名を持つすべてのメンバーがアウトラインに強調表示されます。ただし、使用されている言語のメンバーの別名のみが「メンバー・セレクタ」に表示されます。
- 6 **オプション:**複数のメンバーが検索条件に一致する場合は、左および右矢印を使用してアウトラインを上下に移動し、検索条件に一致するすべてのメンバーを参照します。

変数の操作

変数は、それらに対して定義する値を想定します。ビジネス・ルールおよびテンプレートの設計時にコンポーネントで変数を使用します。

変数デザイナを起動して、システム・ビューおよびコンポーネント・デザイナ内から新規変数を作成できます。コンポーネント・デザイナ内から変数を作成する場合、その変数は、変数を作成したコンポーネントを含むビジネス・ルールに関連付けられます。システム・ビューから直接変数を作成し、選択するビジネス・ルール、計算タイプやプラン・タイプ、データベースまたはアプリケーションに関連付けることもできます。

変数には、次の2つのタイプがあります:

- **実行:**ビジネス・ルールを起動すると、変数に対して定義された計算が実行されます。式、条件、またはループのコンポーネントで実行変数を使用できます。

注: 実行変数は、Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでサポートされていません。

- **置換:**ビジネス・ルールの設計または起動時に、変数は計算に置換できます。式コンポーネントで置換変数を使用できます。

作成できるいくつかのタイプの実行および置換変数があります。

注： 作成できる変数は、使用するアプリケーション・タイプと、実行変数と置換変数のどちらを作成するかに応じて異なります。

- すべてのユーザー: 数値 - 数字
- すべてのユーザー: 文字列 - テキスト文字列
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: Essbase - Essbase 代替変数。
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: 次元間 - 次元の選択
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: 次元 - 次元
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: メンバー - メンバー
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: メンバー - 複数のメンバー
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: パーセント - パーセント
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: 整数 - 整数
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーション・ユーザーのみ: メンバー範囲 - 1つ以上の次元のメンバー範囲
- Planning ユーザーのみ: 数値としての文字列 - テキスト文字列
- Planning ユーザーのみ: 数値としての日付 - 日付
- メンバー範囲 - 1つ以上の次元のメンバー範囲
- Financial Management ユーザーのみ: データ範囲 - データ値の範囲
- Financial Management ユーザーのみ: ログ情報 - ログ・ファイルからの情報
- Financial Management ユーザーのみ: ブール - TRUE 値または FALSE 値を戻す条件
- Financial Management、Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ: 配列 - 値のリスト

ビジネス・ルールを起動する際にユーザーに情報を入力するよう求める変数を作成できます。これらの実行時プロンプト変数は、メンバー、テキスト、日付または数値などの情報の入力ユーザーに求めます。これらのプロンプトは、どのデータ型が必要かをユーザーに示します。

例:

- 月を選択します。
- 四半期ごとの予想顧客数を入力します。
- 翌月に予測される収益変化のパーセンテージは何ですか?

変数を作成するアプリケーション・タイプに応じて、最大4つのデータベース・オブジェクトに変数を関連付けられます。変数は同時に複数のオブジェクトに存在し、各オブジェクトで同じ名前を使用できます。

- **(Financial Management および Planning ユーザーのみ)グローバル:** グローバルを選択すると、同じアプリケーション・タイプ内のすべてのアプリケーションで変数を使用できます。
- **(すべてのユーザー)アプリケーション:** アプリケーションを選択すると、変数の作成時に使用しているアプリケーション内で変数を使用できます。
- **(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)プランまたはデータベース:** プランまたはデータベースを選択すると、変数を作成するときに使用しているプラン・タイプまたはデータベース内で変数を使用できます。
- **(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)ルール:** ルールを選択すると、変数の作成時に使用しているビジネス・ルール内で変数を使用できます。

注: すべてのレベル(グローバル、アプリケーション、プランおよびルール)の実行時プロンプト変数がビジネス・ルールで使用されている場合、これらの変数を非表示にできます。

システム・ビューからの変数の作成

システム・ビューから、またはコンポーネント・デザイナー内からは、「ツール」メニューから変数デザイナーを起動することによって変数を作成できます。

▶ システム・ビューから変数を作成するには:

- 1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。
- 2 変数ナビゲータで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプを展開します。
- 3 次のタスクを行います:
 - **Financial Management および Planning ユーザー:** 同じアプリケーション・タイプの任意のアプリケーションで使用できる変数を作成するには、「<グローバル>」を右クリックして、「新規」を選択します。(これはデフォルトの選択です。)
 - **すべてのユーザー:** そのアプリケーションのみで使用できる変数を作成するには、アプリケーションを右クリックして、「新規」を選択します。
 - **Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ:** そのプラン・タイプまたはデータベースでのみ使用できる変数を作成するには、プラン・タイプまたはデータベースを右クリックし、「新規」を選択します。
 - **Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ:** そのルールでのみ使用できる変数を作成するには、ビジネス・ルールを右クリックし、「新規」を選択します。

4 置換変数を作成する場合は、「置換」を選択して、次のいずれかのタスクを行います:

- Financial Management の置換変数を作成するには、[手順 5](#)に進みます。
- Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の置換変数を作成するには、[手順 6](#)に進みます。

5 **Financial Management ユーザーのみ:** 「置換」で、Financial Management の置換変数を作成するには、次のタスクを行います:

1. 変数の名前を入力します。
2. 変数の型を選択します:
 - 数値 - 数字
 - 文字列 - テキスト文字列
 - メンバー範囲 - 1 つ以上の次元のメンバー範囲
 - **Financial Management ユーザーのみ:** データ範囲 - データ値の範囲
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ログ情報 - ログ・ファイルからの情報

注: タブのオプションは、選択した変数のタイプによって変わります。

3. 変数の説明を入力します。
4. この変数をグループに含める場合は、グループ名を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、グループ列の下に表示されます。
5. 「値」テーブルで、変数の値を入力します。
 - 数値変数の値の入力については、[285 ページ](#)の「[数値変数の変数値の入力](#)」を参照してください。
 - 文字列変数の値の入力については、[286 ページ](#)の「[文字列変数の変数値の入力](#)」を参照してください。
 - メンバー範囲変数の値の入力については、[290 ページ](#)の「[メンバー変数またはメンバー\(複数\)変数の変数値の入力\(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - データ範囲変数の値の入力については、[292 ページ](#)の「[データ範囲変数の値の入力\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - ログ情報変数の値の入力については、[293 ページ](#)の「[ログ情報変数の値の入力\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。

6 **Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ:** 置換変数を作成する場合は、「置換」で次のタスクを行います:

1. 変数の名前を入力します。
2. 変数の型を選択します:

- 数値 - 数字
- 文字列 - テキスト文字列
- Essbase - Essbase 代替変数

注： Essbase 代替変数は、Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションのビジネス・ルールのコンポーネントでは使用できません。

- 次元間 - 複数の次元を選択
- 次元 - 次元
- メンバー - メンバー
- メンバー(複数) - 複数のメンバー
- パーセント - パーセンテージ
- 整数 - 整数
- **Planning ユーザーのみ:** 数値としての文字列 - テキスト文字列
- **Planning ユーザーのみ:** 数値としての日付 - 日付
- メンバー範囲 - 1 つ以上の次元のメンバー範囲

注： タブのオプションは、選択した変数のタイプによって変わります。

3. 変数の説明を入力します。
4. この変数をグループに含める場合は、グループ名を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、「グループ」列の下に表示されます。
5. **Planning ユーザーのみ:** 変数が実行時プロンプト変数の場合、プロンプトを表示するためにユーザーが最後に入力した値をプロンプトが次回発生する場合のデフォルト値とする場合には、「最後に入力した値の使用」を選択します。

注： このオプションは、変数に実行時プロンプトがある場合にのみ選択できます。

6. 「値」テーブルで、変数の値を入力します。入力する値は上記に選択する変数タイプによって変わります。次のトピックを参照してください：
 - 数値変数の値の入力については、[285 ページの「数値変数の変数値の入力」](#)。
 - 文字列変数の値の入力については、[286 ページの「文字列変数の変数値の入力」](#)。
 - 次元間変数の値の入力については、[289 ページの「次元間変数の変数値の入力\(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ\)」](#) を参照してください。

- 次元変数の値の入力については、289 ページの「次元変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー変数、メンバー(複数)変数またはメンバー範囲変数の値の入力については、290 ページの「メンバー変数またはメンバー(複数)変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- パーセント、数値としての文字列、数値変数としての日付の値の入力については、291 ページの「パーセント変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- 整数変数の値の入力については、291 ページの「整数変数の値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- メンバー範囲変数の値の入力については、287 ページの「メンバー範囲変数の値の入力」を参照してください
- **Planning ユーザーのみ:** 数値変数としての文字列の値の入力については、292 ページの「数値としての文字列変数および数値としての日付変数の変数値の入力(Planning ユーザーのみ)」を参照してください
- **Planning ユーザーのみ:** 数値変数としての日付の値の入力については、292 ページの「数値としての文字列変数および数値としての日付変数の変数値の入力(Planning ユーザーのみ)」を参照してください

7 実行変数を作成する場合は、「実行」を選択して、次のいずれかのタスクを行います:

- Financial Management の実行変数を作成するには、手順 8 に進みます。
- 手順 9 に進み、Planning、Operational Planning または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションの実行変数を作成します。(実行変数は、Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでサポートされていません。)

8 Financial Management ユーザーのみ: 「実行」で、Financial Management の実行変数を作成する場合は、次のタスクを行います:

1. 変数の名前を入力します。
2. 変数タイプ: 数値、文字列、ブール、または配列を選択します。
3. 変数の説明を 255 文字以下で入力します。
4. 変数の値を入力します。
5. グループ内に変数を置く場合は、その名前を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、「グループ」列の下に表示されません。
6. 変数のスコープを入力します。これはルールまたはルールセットで使用できます。
7. 変数タイプが配列の場合:

1. 変数のサイズを入力します。
2. 文字列または数値データ型を選択します。

9 Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ: 実行変数を作成する場合は、「実行」で次のタスクを行います:

1. 変数の名前を入力します。
2. 変数が配列であるかどうかを指定します。このチェック・ボックスを選択する場合、次元も選択する必要があります。
3. 変数の値を入力します。
4. グループ内に変数を置く場合は、その名前を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、「グループ」列の下に表示されます。
5. 変数タイプとして「配列」を選択した場合は、Planning 次元、Operational Planning 次元または Essbase 次元を選択します。

10 作成する変数ごとに、**手順 5** から **手順 9** を繰り返します。

11 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

数値変数の変数値の入力

数値変数として、Planning、Operational Planning、Essbase、Oracle General Ledger または Financial Management の置換変数を使用できます。数値変数として Financial Management の実行変数を使用することもできます。

▶ Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の数値変数の値を入力するには:

1 **281 ページの手順 1** から **282 ページの手順 4** までを完了します。

2 「タイプ」で、「数値」を選択します。

3 (Planning ユーザーのみ) 「値」テーブルで、「スマート・リスト」を選択します。

変数タイプとしてスマート・リストを使用する場合は、「スマート・リスト」チェック・ボックスを選択します。(このリリースについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。)たとえば、値 1 から値 5、年次(1)、四半期ごと(2)、月次(3)、日次(4)および 1 時間ごと(5)を持つレポート・サイクルの整数のスマート・リストを設定できます。ユーザーが「月次」を選択する場合は数値 3 がデータベースに保管されます。これによりユーザーが数値を記憶する必要がなくなります。

スマート・リストの値としてテキスト文字列または日付を設定することもできます。

注: このチェック・ボックスを使用可能にするには、スマート・リストの使用をサポートする Planning アプリケーションを選択する必要があります。

4 (Planning ユーザーのみ) 「制限」で、スマート・リストの制限を選択します。

注： 実行時プロンプト値として Essbase 代替変数を使用し、その代替変数の値が変数制限外の場合、ルールを起動するとエラーが発生しないで正常に起動します。

- 5 変数のデフォルト値を入力します。
- 6 **(Planning ユーザーのみ)**デフォルトでは、「RTP」が選択されます。この変数の実行時プロンプトを作成しない場合は、「RTP」を選択解除します。

注： 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 7 **(Planning および Essbase ユーザーのみ)** 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 8 **(Planning ユーザーのみ)**欠落したデータ値が許可されているかどうかを指定します。
- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

▶ Financial Management の置換数値変数または実行数値変数に値を入力するには:

- 1 **281 ページの手順 1** から **282 ページの手順 4** を実行します。
- 2 値を入力するか、「値」フィールド内をクリックして、「アクション」アイコンを表示します。
- 3 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバーを入力するには、「メンバー」を選択します。260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、「関数」を選択します。300 ページの「関数の操作」を参照してください。
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

文字列変数の変数値の入力

文字列変数として、Financial Management、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の置換変数を使用できます。文字列変数として Financial Management の実行変数を使用することもできます。文字列変数は英数字で、255 文字以内にする必要があります。NULL 値を含められますが、値に前方 &(アンパサンド)文字を含められません。

▶ Planning、Operational Planning または Essbase の置換文字列変数の値を入力するには:

- 1 **281 ページの手順 1** から **282 ページの手順 4** までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「文字列」を選択します。
- 3 「値」テーブルで、変数に値を入力します。
- 4 **(Planning ユーザーのみ)**デフォルトでは、「RTP」が選択されます。この変数の実行時プロンプトを作成しない場合は、「RTP」を選択解除します。

注： 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 5 (Planning および Essbase ユーザーのみ) 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
 - 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。
- ▶ Financial Management の置換変数または実行文字列変数に値を入力するには:
- 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。
 - 2 「タイプ」で、「文字列」を選択します。
 - 3 値を入力するか、「値」フィールド内をクリックして、「アクション」アイコンを表示します。
 - 4 次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバーを入力するには、「メンバー」を選択します。260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、「関数」を選択します。300 ページの「関数の操作」を参照してください。
 - 5 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

配列変数の値の入力

配列変数として、Financial Management、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の実行変数を使用できます。配列には多次元の値のリストが含まれます。

通常、配列はメンバー式の一部として変数を格納するために使用されます。配列変数のサイズは、対応する次元のメンバー数によって決まります。たとえば、シナリオ次元に 4 つのメンバーがある場合、次のコマンドに 4 つのエントリを持つ Discount と呼ばれる配列が作成されます。一度に複数の配列を使用できます。

```
ARRAY Discount[Scenario];
```

- ▶ 配列変数に値を入力するには:
- 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。
 - 2 「タイプ」で、「配列」を選択します。
 - 3 「値」フィールドで、変数の値を入力します。
 - 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー範囲変数の値の入力

メンバー範囲変数として、Financial Management、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の置換変数を使用できます。メンバー範囲変数は指定された 2 つのメンバーの間のメンバー範囲(2 つのメンバーを含む)を含んでいる必要があります。

- ▶ メンバー範囲変数の値を入力するには:
- 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。

- 2 「タイプ」で、「メンバー範囲」を選択します。
 - 3 「値」テーブルで、Financial Management、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger、または Essbase のいずれのメンバー範囲を作成しているかによって、次のいずれかを行います。
 1. Financial Management のメンバー範囲変数を作成する場合は、次の手順に従います:
 1. メンバー選択を制限する次元を選択します。次元を選択すると、メンバー・セレクトタにその次元のメンバーのみが表示されます。次元を選択しないと、メンバー・セレクトタにすべての次元が表示されます。
 2. 「値」に、変数の値を入力するか、「アクション」アイコンを選択して、メンバー、変数、または変数値の関数を入力します。
 - 変数を入力するには、279 ページの「変数の操作」を参照してください。
 - メンバーを入力するには、260 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、300 ページの「関数の操作」を参照してください。
 3. 「変数」で、「変数」アイコンを選択して、メンバー範囲の変数を選択します。
 4. 「コメント」アイコンをクリックして、変数のコメントを入力します。
 5. メンバー範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。
 2. Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase のメンバー範囲変数を作成する場合は、次の手順に従います:
 1. メンバー範囲を定義するテーブルの次元ごとに、メンバー・セレクトタに入力するかこれを使用してメンバー範囲の制限を選択します。(表示される次元は変数を作成しているアプリケーションに属する次元です。)

注： (Planning および Essbase ユーザーのみ) 「制限」フィールドにテキストを入力する前に、RTP を選択する必要があります。
 2. メンバー・セレクトタに入力するかこれを使用してメンバー範囲の値を選択します。表示される次元ごとに複数のメンバーおよび関数を選択できます。
 3. (Planning および Essbase ユーザーのみ) 変数を使用して起動時に情報を求めるプロンプトを表示する場合は、リストされた次元ごとに「RTP」を選択します。

注： 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。
 4. (Planning および Essbase ユーザーのみ) 「RTP」を選択した次元ごとに、その次元の変数が起動されるたびにユーザーに対して表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

次元間変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)

次元間変数として、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の置換変数を使用できます。これには、ビジネス・ルールを次元間で起動できる複数の次元からのメンバー範囲が含まれます。

▶ 次元間変数の値を入力するには:

- 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「次元間」を選択します。
- 3 表示される次元ごとに、「値」テーブルで、メンバー・セレクタに入力するかこれを使用して変数の制限を選択します。

注: 「制限」フィールドにテキストを入力する前に、「RTP」を選択する必要があります。

- 4 メンバー・セレクタに入力するかこれを使用して、変数の値を選択します。メンバーまたは関数を選択できます。
- 5 (Planning および Essbase ユーザーのみ)変数に実行時プロンプトがある場合、「RTP」を選択します。

注: 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 6 (Planning および Essbase ユーザーのみ)ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 7 次のすべてに対して値を選択するには、手順 3 から手順 6 を繰り返します。
- 8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

次元変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)

次元変数として、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger または Essbase の置換変数を使用できます。この変数には、選択する次元が含まれます。

▶ 次元変数の値を入力するには:

- 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「次元」を選択します。
- 3 「値」テーブルで、次元を選択します。表示される次元は変数を作成するアプリケーションに属する次元です。
- 4 (Planning ユーザーのみ)デフォルトでは、「RTP」が選択されます。変数に実行時プロンプトが必要ない場合は、「RTP」を選択解除します。

注: 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 5 **(Planning および Essbase ユーザーのみ)** 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 6 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバー変数またはメンバー(複数)変数の変数値の入力 (Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)

メンバー変数およびメンバー(複数)変数は Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase 置換変数です。これらの変数には、選択した次元から1つのメンバーまたは複数のメンバーが含まれます。

▶ 1つまたは複数のメンバー変数の値を入力するには:

- 1 **281 ページの手順 1** から **282 ページの手順 4** までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「メンバー」または「メンバー(複数)」を選択します。
- 3 「値」テーブルで、次元を選択します。表示される次元は変数を作成するアプリケーションに属する次元です。
- 4 メンバー・セレクタに入力するかこれを使用して、変数の制限を選択します。**手順 3** で選択した次元からのみメンバーを選択できます。関数を選択することもできます。**300 ページの「関数の操作」**を参照してください。
- 5 メンバー・セレクタに入力するかこれを使用して、変数のデフォルト値を選択します。1つのメンバー変数に対して1つのメンバーまたは関数を選択できます。また、1つのメンバー変数に対して複数のメンバーおよび関数も選択できます。
- 6 **(Planning ユーザーのみ)**デフォルトでは、「RTP」が選択されます。実行時プロンプト変数を作成しない場合は、「RTP」を選択解除します。

注： 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 7 **(Planning および Essbase ユーザーのみ)** 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 8 **Workforce Planning、Capital Asset Planning、Public Sector Budgeting および Project Financial Planning のプラン・タイプの Planning ユーザー:** 「動的メンバーの作成」および/または「動的メンバーの削除」設定が有効なビジネス・ルールでメンバー・タイプ変数を使用している場合、「動的メンバーの親」列に、デフォルトの動的親メンバーを入力します。これらのオプションの両方を使用すると、Planning では、ルールの起動前にこの親のメンバーを動的に作成したり、ルールの起動後にこの親のメンバーを削除したりします。

注： Planning データベース・アウトライン内で、動的な子に対して動的メンバーの親を使用可能にする必要があります。この設定を使用可能にした後で、データベースをリフレッシュする必要があります。

- 9 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

パーセント変数の変数値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)

パーセント変数として、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase の置換変数を使用できます。パーセント変数として、Planning および Essbase ブロック・ストレージの実行変数を使用することもできます。この変数には、指定するパーセンテージが含まれます。

▶ パーセント変数の値を入力するには:

- 1 **281 ページの手順 1** から **282 ページの手順 4** までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「パーセント」を選択します。
- 3 「値」テーブルで、「制限」内をクリックして、変数の最小値および最大値を定義します。
- 4 変数の数値を入力します。
- 5 **(Planning ユーザーのみ)**デフォルトでは、「RTP」が選択されます。実行時プロンプトを作成しない場合は、「RTP」を選択解除します。

注: 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 6 **(Planning および Essbase ユーザーのみ)** 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 7 欠落しているデータ値を許可するかどうかを選択します。
- 8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

整数変数の値の入力(Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase ユーザーのみ)

整数変数として、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase の置換変数を使用できます。

▶ 整数変数に値を入力するには:

- 1 **281 ページの手順 1** から **282 ページの手順 4** までを完了します。
- 2 「タイプ」から、「整数」を選択します。
- 3 **オプション:** 変数の最大および最小の整数値を定義するには、「値」テーブルで「制限」をクリックします。
- 4 デフォルト値をクリックし、変数に整数を入力します。
- 5 **(Planning ユーザーのみ)**デフォルトでは、「RTP」が選択されます。この変数の実行時プロンプトを作成しない場合は、「RTP」を選択解除します。

注: 「RTP」を選択しない場合は、変数にデフォルト値を入力する必要があります。

- 6 **(Planning および Essbase ユーザーのみ)** 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。

- 7 欠落しているデータ値を許可するかどうかを選択します。
- 8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

数値としての文字列変数および数値としての日付変数の変数値の入力(Planning ユーザーのみ)

数値としての文字列変数および数値としての日付変数は Planning の置換または実行変数です。

▶ 数値としての文字列変数、または数値としての日付変数の値を入力するには:

- 1 [281 ページの手順 1](#) から [282 ページの手順 4](#) までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「数値としての日付」、「パーセント」、または「数値としての文字列」を選択します。
- 3 「値」テーブルで、「制限」内をクリックして、変数の最小値および最大値を定義します。
- 4 変数の数値を入力します。
- 5 デフォルトでは、「RTP」が選択されます。実行時プロンプトを作成しない場合は、「RTP」を選択解除します。

注：「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 6 「RTP」を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 7 欠落しているデータ値を許可するかどうかを選択します。
- 8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

データ範囲変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲変数は、Financial Management の置換変数です。選択する次元からのデータ値の範囲が含まれます。

▶ データ範囲変数の値を入力するには:

- 1 [281 ページの手順 1](#) から [282 ページの手順 4](#) までを完了します。
- 2 「タイプ」で、「データ範囲」を選択します。
- 3 「値」テーブルで、表示される次元ごとに、「アクション」アイコンを選択して変数の値を入力します。
 - 変数を入力するには、[279 ページの「変数の操作」](#)を参照してください。
 - メンバーを入力するには、[260 ページの「メンバーの操作」](#)を参照してください。
 - 関数を入力するには、[300 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。
- 4 「変数」で、「変数」アイコンをクリックして、データ範囲の変数を選択します。
- 5 「コメント」アイコンをクリックして、変数のコメントを入力します。

- 6 データ範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。
- 7 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ブール変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)

ブール変数は、Financial Management の実行変数です。ブール変数は TRUE または FALSE 値を持つ変数です。

- ▶ ブール変数の値を入力するには:
 - 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。
 - 2 「タイプ」で、「ブール」を選択します。
 - 3 「値」フィールドで、変数の値を入力します。
 - 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

ログ情報変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)

ログ情報変数は、Financial Management の置換変数であります。

- ▶ ログ情報変数の値を入力するには:
 - 1 281 ページの手順 1 から 282 ページの手順 4 までを完了します。
 - 2 「タイプ」で、「ログ情報」を選択します。
 - 3 「値」表に、ログ・テキストおよびログ式を入力するか、「条件の追加/編集」をクリックして条件ビルダーを使用します。178 ページの「条件ビルダーを使用した条件ステートメントの作成(Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」を参照してください。
 - 4 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

実行時プロンプト変数の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

ビジネス・ルールの検証、デバッグ、デプロイ、分析および(Essbase ユーザーのみ)起動を行う場合、実行時プロンプト変数の値を入力または編集できます。ビジネス・ルールセットの検証およびデプロイを行う場合にも、実行時プロンプト変数を入力または編集できます。

- ▶ 実行時プロンプト変数の値を入力するには:
 - 1 ビジネス・ルールの検証、デバッグ、デプロイ、分析または(Essbase ユーザーのみ)起動を行うとき、または、ビジネス・ルールセットの検証またはデプロイを行うとき、エラーがない場合は、「RTP 値の入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注： ビジネス・ルールの検証、デバッグ、デプロイまたは分析を行うとき、または、ビジネス・ルールセットの検証またはデプロイを行うとき、「RTP 値の入力」ダイアログが表示されるのは、ビジネス・ルール(またはビジネス・ルールセット)が使用している 1 つ以上の実行時プロンプト変数に、欠落した値がある場合のみです。すべての実行時プロンプト変数に値がある場合は、「RTP 値の入力」ダイアログは表示されません。

Essbase のビジネス・ルールを起動するときは、実行時プロンプト変数に値があるかどうかにかかわらず、起動するたびに「RTP 値の入力」ダイアログが表示されます。値がある場合、その値が「RTP 値の入力」ダイアログにデフォルトで表示されます。

- 2 リストされる実行時プロンプトごとに、値を入力するか 1 つを選択します。
- 3 **オプション:** ビジネス・ルールを使用している場合、「ルールに値を適用」チェック・ボックスを選択すると、指定した値が変数の値で動的に更新され、ルール・デザイナー内の「変数」タブの「値」列で表示できるようになります。

注： システム・ビューからビジネス・ルールを起動している場合、このチェック・ボックスは使用できません。

- 4 「OK」または(Essbase ユーザーのみ)「起動」をクリックします。
- 5 検証エラーがある場合、それを修正し、実行時プロンプト変数の値を入力するタスクを繰り返します。

変数の選択

様々な場所から変数を選択できます。コンポーネント・デザイナー内からコンポーネントを作成する際、テンプレート・デザイナー内から設計時プロンプトを作成する際、あるいはその他の場所から変数を選択できます。

▶ 変数を選択するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースの順に展開し、ビジネス・ルールまたはテンプレートのコンポーネントに変数を選択するかどうかに応じて「ルール」または「テンプレート」を展開します。さらに、Operational Planning ルールを使用する場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するルールが含まれる計算タイプを展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - 変数を追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、「開く」を選択します。
 - 変数を追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、変数を挿入するコンポーネントを選択します。
- 4 フロー・チャートの下のタブで、次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲、データ範囲および固定ループの各コンポーネントの場合、「変数」フィールドで、「変数」アイコンを選択します。

- 式コンポーネントの場合、「アクション」アイコンをクリックして、「変数」を選択します。
- スクリプト・コンポーネントの場合、「変数の挿入」アイコンをクリックします。
- 条件コンポーネントの場合、条件ビルダーを起動して、「アクション」アイコンをクリックして、「変数」を選択します。

5 「変数の選択」で、次のいずれかのタスクを行います:

- 新規変数を作成する場合は、「作成」をクリックして、変数デザイナーにアクセスします。281 ページの「システム・ビューからの変数の作成」を参照してください。
- 「カテゴリ」から、既存の変数を選択する場合は、変数を関連付けるオブジェクトを選択します。デフォルトでは、変数はそれを作成するアプリケーションに関連付けられています。次のオブジェクトを選択できます:
 - (Financial Management および Planning ユーザーのみ) グローバル: 変数はアプリケーション・タイプ内のすべてのアプリケーションに適用されます。
 - (すべてのユーザー) アプリケーション: 変数はそれを作成するアプリケーションに適用されます。
 - (Planning、Operational Planning、General Ledger および Essbase ユーザーのみ) プラン・タイプまたはデータベース: 変数はそれを作成するプラン・タイプまたはデータベースに適用されます。
 - (Planning、Operational Planning、General Ledger および Essbase ユーザーのみ) ルール: 変数はそれを作成するルールに適用されます。

注: Planning および Essbase ユーザーのみ: 式および条件コンポーネントに対して、選択したスコープで使用可能なすべての変数は、デフォルトで表示されません。選択したスコープで使用可能なすべての変数を参照する場合、「すべての変数の表示」チェック・ボックスを選択します。

6 「置換」または「実行」で、1 つまたは複数の変数を選択してそれをコンポーネントに挿入します。

ヒント: 複数の変数を選択するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックするか、または[Shift]キーを押しながらクリックします。

7 「OK」をクリックします。

変数はコンポーネントに挿入されます。

8 「ファイル」、「保存」の順に選択します。

変数の編集

変数デザイナーから変数の任意のプロパティを編集できます。前に検証した変数に変更を加える場合は、その変数を使用するコンポーネントは検証されません。もう一度各コンポーネントを検証する必要があります。第7章「ルール、ルールセッ

ト、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置」を参照してください。

変数の削除

変数がコンポーネントまたはメンバー式で使用されない場合には、変数デザイナー内から削除できます。変数がコンポーネントで使用される場合は、変数を削除する前にコンポーネントから除去する必要があります。

▶ 変数を削除するには:

- 1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。
- 2 変数ナビゲータで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかのタスクを行います:
 - Financial Management および Planning ユーザーのみ: 変数がグローバル変数である場合は、「<グローバル>」を選択します。
 - (すべてのユーザー)変数がアプリケーション変数である場合は、変数が関連付けられているアプリケーションを選択します。
 - Planning、Operational Planning、General Ledger および Essbase ユーザーのみ: 変数がプラン・タイプまたはデータベース変数である場合は、変数が関連付けられているプラン・タイプまたはデータベースを選択します。
 - Planning、Operational Planning、General Ledger および Essbase ユーザーのみ: 変数がビジネス・ルール変数の場合、変数が関連付けられているビジネス・ルールを選択します。

アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、およびビジネス・ルールに関連付けられている変数は、「置換」または「実行」に表示されます。

- 4 「置換」または「実行」で、削除する変数を右クリックして、「削除」を選択します。
- 5 「確認の削除」で、「はい」を選択して変数の削除を確認します。

変数のリフレッシュ

変数ナビゲータで変数のリストをリフレッシュして、変数を追加、削除、または変更を加えた後で、最新のリストを表示できます。

▶ 変数ナビゲータで、変数のリストをリフレッシュするには:

- 1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。
- 2 変数ナビゲータで、変数を作成、編集、または削除します。次のトピックを参照してください:
 - [281 ページの「システム・ビューからの変数の作成」](#)
 - [295 ページの「変数の編集」](#)

- 296 ページの「変数の削除」

3 「置換」、または「実行」で、右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。

変数のコピー

コピーおよび貼付けを使用して、同じ変数スコープや異なる変数スコープ(グローバル・レベル、アプリケーション・レベル、連結、プランまたはデータベース・レベル、ルール・レベル)に、変数をコピーできます。コピーしようとする変数と同じ名前の変数がコピー先の場所にある場合、コピーしようとする変数に新しい名前を付けるか、変数のコピーをスキップするか、変数のコンテンツを上書きすることができます。

▶ 変数をコピーして貼り付けるには:

1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。

2 変数ナビゲータで、次のタスクのいずれかを実行します:

- **Financial Management ユーザーのみ:** 連結を展開し、コピーする変数を含んでいるかどうかに応じて、アプリケーションまたはグローバルを選択します。
- **Planning ユーザーのみ:** Planning を展開し、グローバル、またはコピーする変数に関連付けられているアプリケーション、プラン・タイプ、またはビジネス・ルールを選択します。
- **Essbase、General Ledger および Operational Planning ユーザーのみ:** Essbase を展開し、コピーする変数に関連付けられているアプリケーション、データベースまたはビジネス・ルールを選択します。

選択したオブジェクトに関連付けられた変数は、「置換」タブまたは「実行」タブ(あるいはその両方)に表示されます。

3 コピーする変数を右クリックし、「コピー」を選択します。

4 コピーした変数を貼り付ける場所または変数を右クリックし、「貼付け」を選択します。(たとえば、Planning のグローバル変数をコピーする場合、Planning の別のグローバル変数としてコピーすることも、プラン・タイプの変数としてコピーすることもできます。)

- 変数をコピーして、同じ名前の変数が含まれる場所に貼り付けようとする
と、「競合の解決」ダイアログが表示されます。次のいずれかのタスクを行います:
 - 変数に新しい名前を付けます。(同じ場所に、同じ名前の変数を2つ含めることはできません。)
 - 変数のコピーをスキップするよう指定します。(コピーされた変数のコンテンツは、新しい場所に貼り付けられません。)
 - 変数を上書きするよう指定します。(コピーされた変数のコンテンツは、新しい場所に貼り付けられ、コピー先の変数のコンテンツは上書きされます。)

- 変数をコピーして、同じ名前の変数が含まれない場所に貼り付けようとすると、変数は新しい場所に貼り付けられます。

変数デザイナーでの検索

変数デザイナーの検索機能で、変数の名前を入力することによって、変数を検索できます。変数のテキスト文字列を検索することもできます。(たとえば、検索に基本プロパティを含める場合、デフォルト値を含む文字列変数を検索できます。)

デフォルトでは、Calculation Manager では、変数のデフォルト値を使用して検索します。検索に変数の基本プロパティを含める場合、Calculation Manager では、デフォルト値と、変数の名前、タイプ、説明およびグループの両方を使用して検索を行います。

▶ 変数デザイナーで変数を検索するには:

- 1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。
- 2 「検索」フィールドに、検索する変数の名前を入力します。

注: Calculation Manager では、変数ナビゲータで選択したタイプ(グローバル、アプリケーション、計算、プランまたはデータベース、ビジネス・ルール)内でのみ、変数を検索します。すべての変数タイプ内で変数を検索するには、各タイプ内で個別に検索を実行する必要があります。タイプを選択しない場合、検索機能は無効になります。

3 次のいずれかのアクションを実行します:

- 1 「検索」をクリックして、変数を検索します。
- 2 「オプション:」 次の「詳細検索」オプションのいずれかを選択します:
 - 検索するテキストの大文字と小文字の区別と、「検索」フィールドに入力するテキストの大文字と小文字の区別を一致させる場合は、「大文字/小文字の一致」を選択します。
 - グリッド内の選択した行で検索を開始し、同じ行で検索を終了する場合は、「検索の折返し」を選択します。
 - 「検索」フィールドに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、「完全に一致する単語」を選択します。
 - 変数名および説明を検索に含める場合は、「基本プロパティを含める」を選択します。

4 検索を繰り返して、変数のすべてのインスタンスを検索します。

変数の使用状況の表示

変数を使用するビジネス・ルールおよびテンプレートを表示できます。変数の使用を表示すると、次の情報が表示されます:

- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの名前

- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートのアプリケーションの名前
- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの所有者
- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが配置されているかどうか
- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが検証されているかどうか
- その変数を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの説明

▶ 変数の使用を表示するには:

- 1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。
- 2 変数ナビゲータで、使用を確認する変数を含むデータベース・オブジェクトを選択します。オブジェクトに定義した変数は変数デザイナーのタブに表示されます。
- 3 使用を確認する変数を右クリックし、「使用状況の表示」を選択します。
- 4 情報を確認した後、「OK」をクリックします。

Financial Management アプリケーションへの事前定義済システム変数のロード(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management システム・テンプレートを使用するには、まずシステム・テンプレートを使用するアプリケーションに事前定義済システム変数をロードする必要があります。これらのシステム変数は、システム・テンプレートを使用できるようにする実行および置換変数です。

注： これらのシステム変数を変更または削除しないでください。変更または削除すると、システム・テンプレートは指定どおりに動作しません。システム変数を誤って変更または削除した場合は、システム変数をアプリケーションに再ロードできます。

事前定義済システム変数をアプリケーションにロードしたら、別のアプリケーションにコピーし、アプリケーション変数として使用できます。このようにコピーされたバージョンはシステム変数にリンクされていないため変更または削除できません。

▶ 事前定義済システム変数を Financial Management アプリケーションにロードするには:

- 1 システム・ビューで、「ツール」、「変数」の順に選択します。
- 2 変数ナビゲータで、「連結」を展開し、アプリケーションを表示します。

3 システム・テンプレートを使用するアプリケーションを右クリックし、「システム変数のロード」を選択します。

システム変数がアプリケーションに正常にロードされたことを通知するメッセージが表示されます。ロード先のアプリケーションを選択すると、事前定義済システム変数がアプリケーション変数とともに「実行」および「置換」タブに表示されます。

注： システム・テンプレートを使用する各アプリケーションに対してこの手順を実行する必要があります。

関数の操作

Financial Management、Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションを使用している場合は、式、スクリプト、条件およびメンバー範囲の各コンポーネントで関数を使用します。Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションを含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションを使用している場合は、視点(POV)コンポーネントでのみ関数を使用します。

関数を使用して、データ値またはメンバーを戻すメンバー式を定義します。たとえば、関数(および算術演算子や論理演算子)を使用して、指定したメンバーの兄弟、親、または子のリストを戻したり、指定した値より大きいまたは小さいデータ値のリストを戻したり、指定したメンバーからデータ値を割り当てられます。関数を選択すると、正しいパラメータを入力するようにプロンプト表示されます。

計算で使用できる関数は、Financial Management、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase アプリケーションでは異なります。

以下に Financial Management コンポーネントで使用できる関数のタイプのリストを示します。Financial Management の関数は、使用できるルールタイプによって分類されます(Financial Management アプリケーションのコンポーネントで使用できる関数の、完全なリストおよび説明については、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

- 計算
- 換算
- 連結
- 割当て
- 動的計算
- トランザクション

Planning、Operational Planning および Essbase ブロック・ストレージ・コンポーネントで使用できる関数のタイプのリストを次に示します。(関数の完全なリストおよび説明については、『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。)

- ブール
- リレーションシップ
- 計算演算子

- 制御フロー
- データの宣言
- 機能
- 算術
- メンバー・セット
- 範囲(財務)
- 割当て
- 予測
- 統計
- 日付/時刻
- その他
- カスタム定義

注： 関数は、メンバー・セレクタおよび関数セレクタで使用できます。

Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションおよびコンポーネントでは、メンバー・セット関数のみ使用します。(メンバー・セット関数の完全なリストおよび説明は、『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。)

コンポーネントへの関数の挿入

Financial Management、Planning、Operational Planning または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションを使用している場合、式、スクリプト、条件およびメンバー範囲の各コンポーネントに関数を挿入できます。選択できる関数のタイプは使用しているアプリケーションのタイプおよびコンポーネントのタイプによって異なります。(このトピックの最初の手順を参照してください。)

Oracle General Ledger で使用される Essbase 集約ストレージ・アプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションを使用する場合は、視点(POV)コンポーネントにのみ関数を挿入できます。Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでは、メンバー・セット関数タイプから選択する関数タイプは1つのみです。(このトピックの2番目の手順を参照してください。)

- ▶ 式、スクリプト、条件およびメンバー範囲のコンポーネントに関数を挿入するには:
 - 1 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、関数を挿入するオブジェクトに応じて、「ルール」、「テンプレート」、「式」または「スクリプト」を展開します。さらに、Operational Planning ビジネス・ルールを使用する場合は、「ルール」ノードを展開した後で、使用するルールが含まれる計算タイプを展開します。
 - 2 次のいずれかのタスクを行います:

- 関数を挿入するコンポーネントを含むビジネス・ルールを開きます。次にビジネス・ルールのフロー・チャートに関数を挿入するコンポーネントを選択します。
- 関数を挿入するコンポーネントを含むテンプレートを開きます。次にテンプレートのフロー・チャートに関数を挿入するコンポーネントを選択します。
- 関数を挿入する式コンポーネントを開きます。
- 関数を挿入するスクリプト・コンポーネントを開きます。

3 次のいずれかのタスクを行います:

- 式コンポーネントに関数を挿入する場合は、「式」タブで、「式」行内をクリックして、「アクション」アイコンを選択し、「関数」を選択します。
- スクリプト・コンポーネントに関数を挿入する場合は、「スクリプト」タブで、「関数とそのパラメータの挿入」アイコンをクリックします。
- メンバー範囲コンポーネントに関数を挿入する場合は、「メンバー範囲」タブで、次元の「値」列内をクリックして、「アクション」アイコンを選択し、「関数」を選択します。
- 条件コンポーネントに関数を挿入する場合は、「条件」タブで、「条件ビルダー」アイコンをクリックします。条件ビルダーで、「式」、「関数」または「値」から、「アクション」アイコンを選択して、「関数」を選択します。

4 「関数セレクト」で、次のいずれかのタスクを行います:

注: 関数セレクトを開くコンテキストに応じて、使用できる関数タイプは、[300 ページの「関数の操作」](#)で説明される関数タイプより多くの制限がある場合があります。

- 「カテゴリ」から、関数タイプを選択できる場合は、1つの関数を選択するか、または「すべての関数」を選択してすべての関数タイプの関数を表示します。カテゴリの関数、またはすべての関数がカテゴリの選択の下の一覧に表示されます。
- 「カテゴリ」の関数タイプ内で選択できない場合は、[手順 5](#)に進みます。

5 関数のリストから関数を選択します。

6 関数のパラメータを入力します。(Planning および Essbase コンポーネントで使用できる関数とパラメータ(Operational Planning および Oracle Fusion General Ledger アプリケーションで使用されるものを含む)の詳細は、『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。Financial Management コンポーネントで使用できる関数およびパラメータの説明については、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。)

7 「OK」をクリックします。

▶ 視点(POV)コンポーネントに関数を挿入するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、データベース、「ルール」と展開します。

- 2 関数を挿入する視点(POV)コンポーネントを含むビジネス・ルールを開きます。次にビジネス・ルールのフロー・チャートに関数を挿入する視点(POV)コンポーネントを選択します。
 - 3 視点(POV)コンポーネントに関数を挿入する場合は、「視点(POV)」タブで、次元の「値」列内をクリックして、「アクション」アイコンを選択し、「関数」を選択します。
 - 4 「関数セレクタ」で、次の関数のリストから関数を選択します:
 - @Attribute
 - @Level0Descendants
 - @Siblings
 - @UDA
- 注：** Oracle General Ledger で使用されるアプリケーションも含めて、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションを使用する場合、メンバー・セット関数のみ使用できます。
- 5 関数のパラメータを入力します。(関数およびパラメータの詳細は、『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。)
 - 6 「OK」をクリックします。

スマート・リストの操作(Planning ユーザーのみ)

スマート・リストは Planning アプリケーションの Planning データ・フォームのセルからアクセスできるカスタムのドロップ・ダウン・リストです。データを入力するデータ・フォームのセルをクリックすると、セルに入力するかわりにドロップ・ダウン・リストからアイテムを選択できます。スマート・リストを含むセルには入力できません。

Calculation Manager では、式、スクリプト、条件およびメンバー範囲のコンポーネントにスマート・リストを挿入できます。

スマート・リストの挿入(Planning ユーザーのみ)

Planning ビジネス・ルール、式コンポーネントまたはスクリプト・コンポーネントでスマート・リストを使用できます。スマート・リストは、Planning 管理者が指定する特定のデータ・セル内の Planning データ・フォームで使用可能です。スマート・リストは、ユーザーが選択できるオプションを含む、カスタマイズされたドロップダウン・リストです。

▶ スマート・リストを挿入するには:

- 1 システム・ビューで、Planning アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよびプラン・タイプの順に展開し、スマート・リストを挿入するビジネス・ルール、テンプレート、式またはスクリプト・コンポーネントに応じて、「ルール」、「テンプレート」、「式」または「スクリプト」を展開します。
- 2 次のいずれかのタスクを行います:
 - スマート・リストを挿入するコンポーネントを含むビジネス・ルールを開きます。次に、ビジネス・ルールのフロー・チャートで、スマート・リストを挿入する式またはスクリプト・コンポーネントを選択します。
 - スマート・リストを挿入する式コンポーネントを開きます。
 - スマート・リストを挿入するスクリプト・コンポーネントを開きます。
- 3 次のいずれかのタスクを行います:
 - ビジネス・ルールにスマート・リストを挿入する場合は、「スクリプト」タブで、「スマート・リストの挿入」アイコンをクリックします。
 - 式コンポーネントにスマート・リストを挿入する場合は、「式」タブで、「式」行内をクリックして、「アクション」アイコンを選択し、「スマート・リスト」を選択します。
 - スクリプト・コンポーネントにスマート・リストを挿入する場合は、「スクリプト」タブで、「スマート・リストの挿入」アイコンをクリックします。
- 4 「保存」をクリックします。

7

ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置

この章の内容

システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証.....	305
ルール・デザイナからのビジネス・ルールの検証.....	307
ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置.....	308

システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証

ビジネス・ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントを検証して、構文が正しいことを確認してから、アプリケーションに配置します。検証プロセスにより、次のことが確認されます:

- すべての次元メンバーがアプリケーション内の次元に対して有効です。
- 存在するすべての関数には、正しいパラメータ数があり、アプリケーション・タイプに対して有効です。
- ビジネス・ルールのすべての変数参照が有効です。置換変数の場合、変数は最初に正しい文字列で置換されて検証されます。実行変数の場合、検証プロセスによって、アプリケーション、アプリケーション・タイプ内のアプリケーション、計算タイプ(Financial Management ユーザー)、プラン・タイプ(Planning ユーザー)またはデータベース(Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning ユーザー)、およびビジネス・ルール(Planning および Essbase ユーザーのみ)に対して、変数が定義されていることが確認されます。
- スクリプト世代には構文エラーはありません。

Planning ユーザーのみ: 実行時プロンプトを持つビジネス・ルールをデフォルト値で検証する場合、検証プロセスにより、実行時プロンプトのすべてのメンバーが選択したプラン・タイプおよびアプリケーションに対して有効であり、構文エラーがないことが確認されます。デフォルト値なしで実行時プロンプトを持つビジネス・ルールを検証する場合は、検証は実行されません。

注: 配置する前にルールおよびルールセットを検証しない場合は、構文が正しいことを確認するために配置プロセスの一部として検証されます。

▶ ビジネス・ルール、ルールセット、式またはスクリプト・コンポーネントを検証するには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- **Financial Management ユーザー:** ルールセットを検証するには、計算タイプおよび「ルールセット」を展開します。
- **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザー:** ルールセットを検証するには、「ルールセット」を展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」ノードがあります。Planning および Operational Planning アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」ノードが1つのみあります。

- ルール、式、スクリプトまたはテンプレートを検証するには、検証するオブジェクトに応じて、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」、「式」、「スクリプト」または「テンプレート」を展開します。

3 次のいずれかのタスクを行います:

- 検証するオブジェクトを右クリックして、「検証」を選択します。
- 検証するオブジェクトを選択して、「アクション」、「検証」の順に選択します。

4 **Planning ユーザーおよび Essbase ユーザーのみ:** 「検証オプション」で、Planning(Planning ルールの場合)と Essbase(Essbase ルールの場合)、Performance Management Architect のどちら(あるいはその両方)に対して検証するかを選択します。「OK」をクリックします。

注: Financial Management または Planning アプリケーション管理を使用して作成されたアプリケーションのオブジェクトを検証している場合は、Financial Management または Planning のみに対して検証できます。Financial Management または Planning アプリケーションのオブジェクトを、Performance Management Architect アプリケーションに対して検証することはできません。

5 次のいずれかのタスクを行います:

1. オブジェクトが正常に検証されたら、「OK」をクリックします。
2. エラーがある場合は、それが表示されます。エラーを修正して、オブジェクトをもう一度検証します。

ルール・デザイナからのビジネス・ルールの検証

ビジネス・ルールを作成またはデバッグする場合は、ルール・デザイナ内からすばやく検証できます。

- Performance Management Architect アプリケーションの Financial Management ビジネス・ルールは、Financial Management、Performance Management Architect、またはその両方に対して検証できます。
- Financial Management アプリケーション管理で作成された Financial Management ビジネス・ルールは、Financial Management のみに対して検証できます。
- Performance Management Architect アプリケーションの Planning ビジネス・ルールは、Planning、Performance Management Architect、またはその両方に対して検証できます。
- Planning アプリケーション管理で作成された Planning ビジネス・ルールは、Planning のみに対して検証できます。
- Essbase アプリケーションの Essbase ルールは、Essbase のみに対して検証できます。
- Oracle General Ledger アプリケーションの Oracle General Ledger ルールは、Essbase のみに対して検証できます。
- Operational Planning アプリケーションの Operational Planning ルールは、Essbase のみに対して検証できます。

▶ ルール・デザイナ内からビジネス・ルールを検証するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。
- 2 検証するルールを右クリックし、「開く」を選択します。
- 3 ルール・デザイナで、「アクション」、「検証」の順に選択し、次のいずれかのタスクを行います:

- Financial Management または Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、「連結」を選択します。
 - Planning ルールを使用している場合は、「Planning」を選択します。

注: Financial Management または Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーションのビジネス・ルールを使用している場合、そのルールが作成されたアプリケーションに対してのみ検証できます。

- Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、「EPMA」、「集計」または「両方」を選択します。「OK」をクリックします。

- Planning ルールを使用している場合は、「EPMA」、「Planning」または「両方」を選択し、「OK」をクリックします。
- Essbase アプリケーションおよびルール(Oracle General Ledger および Operational Planning アプリケーションのために作成されたものを含む)を使用している場合、「Essbase」を選択します。

ルールによって検証が正常に行われると、メッセージが表示されます。検証が行われない場合は、エラーが表示されます。

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置

ビジネス・ルールは、Planning、Operational Planning、Oracle General Ledger および Essbase に配置できます。ビジネス・ルールセットは、Financial Management、Planning、Oracle General Ledger および Operational Planning に配置できます。1 つ以上のビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置できます(部分配置と呼ばれる)。アプリケーションのすべてのビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置することもできます(完全配置と呼ばれる)。

注： 複数のレベルで存在する変数(グローバル、アプリケーション、プラン・タイプまたはルールのレベルにおいて複数のレベルに存在する変数)を含む Planning ビジネス・ルールがあり、最低レベルで変数を削除する場合、この削除が Planning でこの変数を使用するすべてのルールに適用されるように、Planning アプリケーションの完全再配置を実行する必要があります。部分再配置しか実行しないと、変数の削除が適用されず、Planning でそのまま使用される場合があります。

Financial Management にはビジネス・ルールセットのみを配置できます。アプリケーションの各計算タイプから 1 つのルールセットを配置できます。個々のルールは配置できません。

Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合は、Performance Management Architect のアプリケーション・ライブラリ内からルールとアプリケーションも配置できます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect 管理者ガイド』を参照してください。

ビジネス・ルールセットを Financial Management に配置した後は、データ・フォームまたはデータ・グリッド内から計算または連結を実行できます。ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを Planning に配置した後は、データ・フォーム内から起動したり、「起動」メニューから個別に起動したりできます。ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを Essbase に配置した後は、Administration Services からまたは直接 Calculation Manager から起動できます。ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを Oracle General Ledger に配置した後は、割当ての生成リンクを使用して Oracle General Ledger 内から起動できます。ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを Operational Planning に配置した後は、Operational Planning から起動できます。

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの起動の詳細は、次のリソースを参照してください:

- Oracle Hyperion Financial Management のユーザー・ガイド
- 『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』
- 『Oracle Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』
- このガイドの第 8 章「Essbase ビジネス・ルールの起動(Essbase 集約ストレージおよび Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)」。

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置可能にする、および配置可能にしない

アプリケーションでビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのサブセットを配置する場合、配置ビューで配置可能にする必要があります。ルールおよびルールセットを配置可能にするには、配置ビューのそれぞれの名前の横にあるチェック・ボックスを選択します。

注： 1 つのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのみ、またはアプリケーションのすべてのルールおよびルールセットを配置する場合は、配置ビューで配置可能にする必要はありません。

ビジネス・ルールまたはルールセットを配置した後に、アプリケーションからビジネス・ルールまたはルールセットを除去するには、配置ビューでその名前の横にあるチェック・ボックスの選択を解除して配置の対象外にします。次に、「配置」を右クリックして選択すると、アプリケーションの配置は正しく実行されます。

▶ ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置可能にするには:

- 1 システム・ビューの「表示」、「配置ビュー」の順に選択します。
- 2 配置ビューで、アプリケーション・タイプおよび配置するルールまたはルールセットを含むアプリケーションを展開します。
- 3 「配置予定」ノードを展開し、配置できるルールおよびルールセットの一覧を表示します。
- 4 配置の対象になるルールおよびルールセットの横にあるチェック・ボックスを選択します。

注： ルールまたはルールセットを配置する前に、構文が正しいかどうかを検証する必要があります。検証機能を使用すると、ルールおよびルールセットを手動で検証できます。305 ページの「システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証」を参照してください。ただし、配置する前に検証しない場合にも、ルールおよびルールセットは配置プロセスの一部として自動的に検証されます。

配置ビューからのビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットは、配置ビューから配置できます。ルール・デザイナー(ビジネス・ルールの場合)またはルールセット・デザイナー(ビジネス・ルールセットの場合)から Planning、Operational Planning、Essbase または Oracle General Ledger に 1 つのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置することもできます。311 ページの「[ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの配置](#)」を参照してください。

Financial Management に配置する場合は、アプリケーションのそれぞれの計算タイプに対して 1 つのビジネス・ルールセットを配置できます。Financial Management に複数のビジネス・ルールを配置できません。

▶ 配置ビューからビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置するには:

1 システム・ビューの「表示」、「配置ビュー」の順に選択します。

注: システム・ビューで、ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを右クリックして「配置」を選択して、配置することもできます。

2 配置ビューで、アプリケーション・タイプを展開します。

3 次のいずれかのタスクを行います:

- **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザー:** アプリケーション内のすべてのルールおよびルールセットを配置する(完全配置)には、アプリケーションを右クリックし、「すべて配置」を選択します。

注: アプリケーションのすべてのルールおよびルールセットを配置すると(完全配置)、ルールおよびルールセットを含むフォルダが配置ビューから削除されます。

- **Planning、Operational Planning および Essbase ユーザー:** ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのサブセットを配置する(部分配置)には、アプリケーションを展開し、「配置予定」を選択します。次の手順を実行します:

1. 配置するルールセットを選択していない場合は選択します。
2. 配置するルールを含むプラン・タイプを展開します。
3. 配置するルールを選択していない場合は選択します。
4. 右クリックして「配置」を選択します。

ヒント: 複数のルールまたはルールセットを配置する場合は、[Ctrl]キーおよび[Shift]キーを押しながらクリックして選択し、右クリックして「配置」を選択します。

注： 他のアプリケーションへのショートカットを含むビジネス・ルールを配置すると、ショートカットがあるそれぞれのアプリケーションにビジネス・ルールが配置されます。Performance Management Architect アプリケーションを使用し、ショートカットを含むルールが各アプリケーションに正しく配置されるようにするには、Performance Management Architect で、ライブラリ・ジョブ・コンソールを使用して配置の結果を確認します。

- **Financial Management ユーザーのみ:** ビジネス・ルールセットを配置するには:

1. 配置するルールセットを含むアプリケーション、「配置予定」ノード、および計算タイプを展開します。
2. 配置するルールセットを選択していない場合は選択します。計算タイプ当たり 1 つのルールセットを配置できます。

注： 配置には、必ず Generic_Ruleset を含めてください。

3. アプリケーションを右クリックし、「配置」を選択します。配置すると、.xml フォーマットのオブジェクトが.rle フォーマットに変換され、Financial Management アプリケーションにロードされます。

ヒント： 複数のルールを配置する場合は、[Ctrl]を押しながらクリックするか、[Shift]を押しながらクリックして選択し、右クリックして「配置」を選択します。

正常に配置されると、「配置されました」というメッセージが表示されます。問題の発生時に Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合は、Performance Management Architect の「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスにライブラリ・ジョブ・コンソールへのリンクが表示されます。

ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの配置

ビジネス・ルールまたはルールセットを設計した後に、直接ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーから検証および配置できます。

- ▶ ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置するには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプおよび配置するルールまたはルールセットを含むアプリケーションを展開します。

注： システム・ビューでルールとルールセットを配置することもできます。ルールまたはルールセットを右クリックし、「配置」を選択します。

- 2 次のいずれかのタスクを行います:

- ビジネス・ルールを配置する場合は、ルールを含むプラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。
- ビジネス・ルールセットを配置する場合は、「ルールセット」を展開します。

注： Operational Planning アプリケーションを使用する場合は、「ルール」または「ルールセット」ノードを展開した後で、使用するルールまたはルールセットが含まれる「計算タイプ」ノードを展開します。

- 3 配置するルールまたはルールセットを右クリックし、「開く」を選択します。
- 4 「ルール・デザイナー」または「ルールセット・デザイナー」から「アクション」、「配置」の順に選択します。

正常に配置されると、「配置されました」というメッセージが表示されます。問題の発生時に Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合は、Performance Management Architect の「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスにライブラリ・ジョブ・コンソールへのリンクが表示されません。

ショートカットを含むビジネス・ルールの配置

ショートカットを含むビジネス・ルールをアプリケーションに配置すると、ショートカットを作成したそれぞれのアプリケーションにルールのコピーが配置されます。

- ▶ ショートカットを含むビジネス・ルールを配置するには:
- 1 システム・ビューの「表示」、「配置ビュー」の順に選択します。
 - 2 配置ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、「配置予定」ノードと、プラン・タイプまたはデータベースを展開します。
 - 3 配置するルールを右クリックし、「すべて配置」を選択します。

ルール・デザイナーからのビジネス・ルールの配置

ルール・デザイナー内でビジネス・ルールを使用している場合は、アプリケーションにすぐに配置できます。これはルール・デザイナー内から行うことができます。

- ▶ ルール・デザイナー内からビジネス・ルールを配置するには:
- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、「ルール」を展開します。
 - 2 配置するルールを右クリックし、「開く」を選択します。

注： 右クリックして「配置」を選択し、システム・ビューからビジネス・ルールを配置することもできます。

- 3 ルール・デザイナーで、「アクション」、「配置」の順に選択し、次のいずれかのタスクを行います:

- Financial Management または Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、「連結」を選択します。
 - Planning ルールを使用している場合は、「Planning」を選択します。

注： Financial Management または Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーションのビジネス・ルールを使用している場合、そのルールが作成されたアプリケーションに対してのみ検証できます。

- Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、「EPMA」、「集計」または「両方」を選択します。「OK」をクリックします。
 - Planning ルールを使用している場合は、「EPMA」、「Planning」または「両方」を選択し、「OK」をクリックします。
- Essbase アプリケーションおよびルールを使用している場合は、「Essbase」を選択します。

ルールによって検証が正常に行われると、メッセージが表示されます。検証が行われない場合は、エラーが表示されます。

8

Essbaseビジネス・ルールの起動(Essbase集約ストレージおよびEssbaseブロック・ストレージ・アプリケーションのユーザーのみ)

Essbase 集約ストレージおよびブロック・ストレージのビジネス・ルールは、システム・ビューまたは Calculation Manager のルール・デザイナー内から起動できます。その点で、それぞれ Financial Management および Planning から起動する必要がある Financial Management および Planning のビジネス・ルールセットおよびビジネス・ルールとは異なります。

注： Oracle General Ledger アプリケーションで使用する Essbase 集約ストレージのビジネス・ルールは、Oracle General Ledger 内から起動します。

▶ Essbase ビジネス・ルールを起動するには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、データベース、「ルール」と展開します。
- 2 システム・ビューで、次のタスクのいずれかを実行します:
 - 実行するビジネス・ルールを右クリックして、「実行」を選択します。
 - 実行するルールをダブルクリックします。ルールがルール・デザイナーに表示されたら、「アクション」、「実行」の順に選択します。

9

ビジネス・ルールの移行 (Financial Managementおよび Planningユーザーのみ)

この章の内容

ビジネス・ルールの移行について	317
Business Rules からのビジネス・ルールの移行(Planning ユーザーのみ)	317
Financial Management からのビジネス・ルールの移行(Financial Management ユーザーのみ).....	326

ビジネス・ルールの移行について

アプリケーションを前のリリースからこのリリースにアップグレードした後に、ビジネス・ルールを前のリリースからこのリリースに移行するか(Planning)、インポートする(Financial Management)必要があります。ビジネス・ルールを移行すると、Calculation Manager を使用して、ビジネス・ルールを操作および維持できます。

注： Financial Management または Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーションから、Calculation Manager にビジネス・ルールを移行することはできません。ビジネス・ルールは、Performance Management Architect アプリケーションから Calculation Manager へのみ移行できます。

Business Rules からのビジネス・ルールの移行 (Planning ユーザーのみ)

Planning のビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトを Oracle Hyperion Business Rules の以前のリリースから Calculation Manager に移行するには、移行機能を使用します。Business Rules オブジェクトを Calculation Manager に移行する場合、ビジネス・ルールはビジネス・ルールとして、シーケンスはビジネス・ルールセットとして、変数は変数として、マクロはテンプレートとしてそれぞれ移行されます。

注： Business Rules のプロジェクトがある場合は、セキュリティを移行するときに、直接 Planning に移行されます。

Business Rules から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行に関する考慮事項を次に示します:

- Business Rules から Calculation Manager にビジネス・ルールを移行するには、それらが属しているアプリケーションを移行します。一度に1つのアプリケーションを移行できます。
- ビジネス・ルールは、移行後に変更できますが、移行できるのは一度だけです。ただし、移行機能を繰り返し使用して、Business Rules から Calculation Manager に新規ビジネス・ルールを移行することはできます。
- ビジネス・ルールを移行するには、次の基準を満たす必要があります：
 - これまでに移行されていない必要があります。
 - 移行するアプリケーションに属しているアウトラインが存在する必要があります。
 - Business Rules でアプリケーションのすべての場所に対して起動できるか、Calculation Manager でアプリケーションの少なくとも1つのプラン・タイプに対して起動できる必要があります。
- 移行するアプリケーションのすべての場所で起動できるビジネス・ルールを移行する場合は、次のようになります：
 - アウトラインが移行するアプリケーションに属している場合に Business Rules でアウトラインを選択すると、ビジネス・ルールはアウトラインで指定されているアプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。Business Rules でアウトラインを選択しなければ、ビジネス・ルールは移行を実行するユーザーが「Calculation Manager の移行」ダイアログ・ボックスで指定するデフォルト・アプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。
 - ビジネス・ルールの配置ステータスは移行されません。
 - ビジネス・ルールをデフォルト・アプリケーションおよびプラン・タイプに移行する場合、移行するアプリケーションにショートカットは作成されません。
- 移行するアプリケーションの1つ以上の場所で起動できるビジネス・ルールを移行する場合は、次のようになります：
 - Business Rules で選択されているアウトラインが移行するアプリケーションに属していない場合、ビジネス・ルールは移行を実行するユーザーが「Calculation Manager の移行」ダイアログ・ボックスで指定するデフォルト・アプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。
 - Business Rules で移行するアプリケーションに属しているアウトラインを選択すると、ビジネス・ルールはアウトラインで指定されているアプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。アウトラインを指定しなければ、ビジネス・ルールは Calculation Manager アプリケーションの最初のプラン・タイプに移行されます。
 - ビジネス・ルールの配置ステータスは、Calculation Manager の配置ビューで「配置済」に設定されます。
 - Business Rules のアプリケーションに対して、ビジネス・ルールに複数の起動場所が定義されている場合、ルール名は、Calculation Manager のすべてのプラン・タイプに対して一意にする必要があるため、ショートカットは Calculation Manager アプリケーションの1つのプラン・タイプのみに対して作成されます。

Calculation Manager への Capital Asset Planning、Workforce Planning および人材プランニングのビジネス・ルールの移行に関する考慮事項を次に示します:

- Oracle Hyperion Capital Asset Planning、Oracle Hyperion Workforce Planning および人材プランニングのビジネス・ルールは、移行中のアプリケーションで Capital Asset、Workforce および Human Capital プラン・タイプが使用可能になっている場合、それぞれ Capital Asset、Workforce および Human Capital プラン・タイプに移行されます。
- 配置ステータスは、Calculation Manager の配置ビューで「配置済」に設定されます。
- ショートカットは、ビジネス・ルールが前もって移行されている場合のみ、Calculation Manager のアプリケーションに Capital Asset、Workforce および Human Capital プラン・タイプで作成されます。

Business Rules のシーケンスの Calculation Manager への移行に関する考慮事項を次に示します:

- シーケンスは、移行後に変更した場合も含めて、一度だけ移行できます。
- Business Rules では、シーケンスに複数のアプリケーションで起動できるルールを含められます。Calculation Manager も複数のアプリケーションで起動できるルールセットをサポートします。
- Business Rules では、シーケンス内のビジネス・ルールに同じアプリケーションに対する複数の起動場所を含めることができます。Calculation Manager では、ビジネス・ルールセット中のビジネス・ルールに同じアプリケーションに対して含めることができるのは1つの起動場所のみです。
- Business Rules では、シーケンスにアウトラインは含まれません。
- シーケンスは、次の条件が満たされる場合に移行できます:
 - シーケンスおよびそのネストされたシーケンス内のすべてのルールは、正常に移行されている必要があります。
 - シーケンスのすべてのルールに対して、シーケンスの一部として起動されるルールに起動場所が定義されている場合、ルールがそれ自体で起動される場合の起動場所はルールに対して定義された一連の起動場所の1つであり、ルールがその場所に正常に移行されている必要があります。この両方の条件が満たされている場合のみ、シーケンスを移行できます。
 - シーケンス内の各ルールには、Calculation Manager で移行されたルールに対して、Business Rules で少なくとも1つの起動場所を定義する必要があります。シーケンスのルールの起動場所がルール自体に定義されたどの起動場所でもない場合は、ルールの起動場所が特定できないので、シーケンスを移行できません。Business Rules で、シーケンスのビジネス・ルールの起動場所として「すべての場所」が設定されている場合も、シーケンスを移行できません。
 - シーケンスが移行の条件を満たしている場合は、アプリケーションに移行され、Calculation Manager のシステム・ビューのアプリケーション・レベルの「ルールセット」ノードに表示されます。
 - シーケンスを移行すると、配置ビューのステータスは「配置済」に設定されます。

- 1つ以上のルールが移行に失敗すると、シーケンスは部分的に移行されません。

Business Rules から Calculation Manager への変数の移行に関する考慮事項を次に示します:

- 変数を含むビジネス・ルールを移行する場合、変数は自動的に移行されます。Business Rules では、変数はグローバルまたはローカルです。Calculation Manager では、変数はグローバル(すべてのアプリケーションで使用)、アプリケーション固有(1つのアプリケーションのみで使用)、プラン・タイプ固有(Planning ユーザーのみ: 1つのプラン・タイプのみで使用)、またはルール固有(Planning ユーザーのみ: 1つのビジネス・ルールのみで使用)です。グローバル変数を移行すると、Calculation Manager のグローバル変数になります。ローカル変数を移行すると、Calculation Manager のビジネス・ルール変数になります。

注: Calculation Manager にすでに存在する Business Rules のグローバル変数を移行する場合は、グローバル変数からアプリケーション変数に変更できます。

- 変数は、移行後に変更できますが、移行できるのは一度だけです。
- ルール・レベルで設定された変数情報も移行されます。
- シーケンス・レベルで変数に割り当てられる起動値は、Calculation Manager の対応する値に移行されます。

Business Rules から Calculation Manager へのマクロの移行に関する考慮事項を次に示します:

- マクロは、移行後に変更できますが、移行できるのは一度だけです。
- マクロは、Calculation Manager のテンプレートに移行されます。
- パラメータは、Calculation Manager の設計時プロンプトに移行されます。設計時プロンプトは、parm1、parm2、parm3 などと命名され、String 型です。
- マクロのコアは、グラフィカル・スクリプト・コンポーネントに移行されません。
- マクロをテンプレートに移行すると、テンプレートは移行されたアプリケーションの最初のプラン・タイプに配置されます。
- ネストされたマクロを含むマクロは、移行されません。

Essbase の代替変数の移行に関する考慮事項を次に示します:

- アプリケーションおよびプラン・タイプ・レベルの Essbase 代替変数は、それらを含むアプリケーションを最初に移行する際に移行されます。アプリケーションを再び移行する場合、Essbase 代替変数は移行されません。
- Essbase のグローバル・レベルの代替変数は、移行されません。

注： Calculation Manager の移行機能は、ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトを移行します。プロジェクトおよびオブジェクトの起動セキュリティは移行されません。プロジェクトおよび起動セキュリティを Planning に移行するには、Planning とともにインストールされるユーティリティを使用する必要があります。(『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照。)

▶ Business Rules から Calculation Manager にビジネス・ルールを移行するには:

1 システム・ビューで、「アクション」、「移行」の順に選択します。

注： ビジネス・ルールは、リスト・ビューおよびカスタム・ビューからも移行できます。この2つのビューを開くには、それぞれ「表示」、「リスト・ビュー」または「表示」、「カスタム・ビュー」の順に選択します。

2 「移行」ダイアログ・ボックスで、Business Rules から移行するアプリケーションを選択します。

注： アプリケーションは、配置する必要があります。

3 「アプリケーション」で、ビジネス・ルールを移行するデフォルト・アプリケーションを選択します。移行されるアプリケーションに対して起動可能なビジネス・ルールのデフォルト・アプリケーションを指定する必要があります。ただし、Business Rules でアウトラインが選択されていないこと、または選択されたアウトラインが現在のアプリケーションに属していないことが必要です。

4 「プラン・タイプ」で、デフォルトのプラン・タイプを選択します。

5 Calculation Manager のグローバル変数と同じ名前の Business Rules グローバル変数をアプリケーション変数として移行する場合は、「移行オプション」で、「グローバル変数をアプリケーションに移行」を選択します。

6 移行するオブジェクトによって、アプリケーションおよびプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトを上書きする場合は、「既存のオブジェクトの上書き」を選択します。

7 アプリケーションおよびプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトに移行するオブジェクトを追加する場合は、「既存のオブジェクトをスキップ」を選択します。

8 移行するオブジェクトが、アプリケーションおよびプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトと重複する場合に移行プロセスを停止する場合は、「重複のエラー出力」を選択します。

9 「OK」をクリックします。

移行のユース・ケース

次の2つの表に、ルールを Performance Management Architect の App1 および Performance Management Architect の App2 の場所に移行する際のアプリケーションおよびプラン・タイプの各種の組合せを示します。この例では、App1 および App2 は Performance Management Architect アプリケーションに存在し、App3 はまだ存在していません。

表 20 App1 の移行

ビジネス・ ルール のアー ティ ファク ト	Business Rules にお ける設計場 所	Business Rules における起 動場 所	Calculation Manager の システム・ビューの場 所	Calculation Manager の配 置 ビューの場 所	移行先	内部の ショート カット
R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	App1/pt1	なし(起動場所が 設計アプリケー ションに一致し ないため)	App1	なし
R2	空白	すべての場所	デフォルト・アプリ ケーション/デフォ ルト・プラン・タイ プ	なし	デフォ ルト・ア プ リ ケ ー シ ョ ン	なし
R3	App2/pt1	App2/pt1	スキップされました	なし	なし	なし
R4	App1/pt2	App2/pt1	App1/pt2	なし	App1	なし
R5	App3/pt1	すべての場所	デフォルト・アプリ ケーション/デフォ ルト・プラン・タイ プ	なし	デフォ ルト・ア プ リ ケ ー シ ョ ン	なし
R6	App1/pt1	App3/pt1	App1/pt1	なし	App1	なし
R7	<空白>	App3/pt1	スキップされました	なし	なし	なし
R8	App1/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	App1/pt1	App1/pt1	App1	なし
R9	<空白>	App1/pt2、 App1/pt1	App1/pt1	App1/pt1	App1	なし
R10	App3/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	デフォルト・アプリ ケーション/デフォ ルト・プラン・タイ プ	App1/pt2	デフォ ルト・ア プ リ ケ ー シ ョ ン	App1/pt2

表 21 App2 の移行

ビジネス・ ルール のアー ティ ファク ト	Business Rules にお ける設計場 所	Business Rules における起 動場 所	Calculation Manager の システム・ビューの場 所	Calculation Manager の配 置 ビューの場 所	移行先	内部の ショート カット
R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	移行済	App2/pt1	App1	App2/pt1
R2	<空白>	すべての場所	移行済	なし	前の実行の デフォ ルト・ア プ リ ケ ー シ ョ ン	なし

ビジネス・ルール のアー ティ ファク ト	Business Rules における設計 場所	Business Rules における起動 場所	Calculation Manager のシステム・ ビューの場所	Calculation Manager の配 置ビューの場 所	移行先	内部の ショート カット
R3	App2/pt1	App2/Pt1	App2/pt1	App2/Pt1	App2	なし
R4	App1/pt2	App2/pt1	移行済	App2/pt1	App1	App2/pt1
R5	App3/pt1	すべての場所	移行済	なし	前の実行の デフォル ト・アプリ ケーション	なし
R6	App1/pt1	App3/pt1	スキップされま した	なし	App1	なし
R7	<空白>	App3/pt1	スキップされま した	なし	なし	なし

次の2つの表に、シーケンスを Performance Management Architect の App1 および Performance Management Architect の App2 の場所に移行する際のアプリケーションおよびプラン・タイプの各種の組合せを示します。この例では、App1 および App2 は Performance Management Architect アプリケーションに存在し、App3 はまだ存在していません。

表 22 App1 の移行

ビジネス・ルール のアー ティ ファク ト	シーケ ンスの移行 先	起動場所	上書きさ れた起動 場所	Calculation Manager のシステム・ ビューの場所	Calculation Manager の 配置ビュー の場所	移行 先
RS1、R1	App1/pt1	App1/ pt2、 App2/pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、 スキップされました	なし	なし
RS1、R2	デフォル ト・アプリ ケーション (App1/pt1 など)	すべての 場所	<空白>	移行されていないルールがあるので、 スキップされました	なし	なし
RS1、R3	なし	App2/Pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、 スキップされました	なし	なし
RS2、R4	App1/pt2	App2/pt1	App2/pt1	オーバーロードされた R4 の起動場所は、 R4 が移行された場所ではないので、 スキップされました	なし	なし
RS2、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 の起動場所は、 R4 が移行された場所ではないので、 スキップされました	なし	なし

ビジネス・ルールのアーティファクト	シーケンスの移行先	起動場所	上書きされた起動場所	Calculation Manager のシステム・ビューの場所	Calculation Manager の配置ビューの場所	移行先
RS2、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 の起動場所は、R4 が移行された場所ではないので、スキップされました	なし	なし
RS3、R4	App1/pt2	App2/pt1	App1/pt2	オーバーロードされた R4 の起動場所は、起動場所ではないのでスキップされました	App1	App1
RS3、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 の起動場所は、起動場所ではないのでスキップされました	App1	App1
RS3、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 の起動場所は、起動場所ではないのでスキップされました	App1	App1
RS4、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、R4 が移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS4、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、R4 が移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS4、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、R4 が移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS5、R1	App1/pt1	App1/pt2、App2/pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、スキップされました	なし	なし
RS5、R2	デフォルト・アプリケーション (App1/pt1 など)	すべての場所	<空白>	移行されていないルールがあるので、スキップされました	なし	なし
RS5a、R3	なし	App2/Pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、スキップされました	なし	なし
RS5a、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、スキップされました	なし	なし

表 23 App2 の移行

ビジネス・ルールのアーティファクト	シーケンスの移行先	起動場所	上書きされた起動場所	Calculation Manager のシステム・ビューの場所	Calculation Manager の配置ビューの場所	移行先
RS1、R1	App1/pt1	App1/pt2、App2/pt1	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし

ビジネス・ルールのアーティファクト	シーケンスの移行先	起動場所	上書きされた起動場所	Calculation Manager のシステム・ビューの場所	Calculation Manager の配置ビューの場所	移行先
RS1、R2	前の実行のデフォルト・アプリケーション (App1/pt1 など)	すべての場所	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし
RS1、R3	App2/pt1	App2/Pt1	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし
RS2、R4	App1/pt2	App2/pt1	App2/pt1	オーバーロードされた R4 および R6 の起動場所は、ルールが移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS2、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 および R6 の起動場所は、ルールが移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS2、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 および R6 の起動場所は、ルールが移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS3、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、移行された場所ではなかったためスキップされました	App1	なし
RS3、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、移行された場所ではなかったためスキップされました	App1	なし
RS3、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、移行された場所ではなかったためスキップされました	App1	なし
RS5、R1	App1/pt1	App1/pt2、App2/pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、スキップされました	なし	なし
RS5、R1	App1/pt1	App1/pt2、App2/pt1	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし
RS5、R2	前の実行のデフォルト・アプリケーション (App1/pt1 など)	すべての場所	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし
RS5a、R3	App2/pt1	App2/Pt1	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし
RS5a、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	R2 の起動場所が不明なためスキップされました	なし	なし

Financial Management からのビジネス・ルールの移行(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management のビジネス・ルールを Financial Management の以前のリリースから Calculation Manager に移行するには、Calculation Manager のインポート機能を使用します。

Financial Management のビジネス・ルールをインポートする場合は、SUB ステートメントを含む Visual Basic スクリプト・ルール・ファイル(.rle ファイル)としてインポートされます。ルール・ファイルの各 SUB ステートメントは、SUB ステートメントの計算タイプのルールおよびルール・セットの Calculation Manager スクリプト・コンポーネントに変換されます。

有効な SUB ステートメント・タイプの一覧を次に示します:

- SUB Calculate
- SUB Consolidate
- SUB Translate
- SUB Allocate
- SUB Input
- SUB NoInput
- SUB Dynamic
- SUB Transactions
- SUB EquityPickUp
- SUB Global

有効な計算タイプの各 SUB ステートメントでは、1つのビジネス・ルールおよび1つのスクリプト・コンポーネントを含むルールセットが作成されます。ルール・ファイルに有効な計算タイプではない SUB ステートメントがあるか、または関数がある場合は、汎用計算タイプに変換されます。たとえば、ルール・ファイルに Write_To_File() という SUB ステートメントがある場合は、定義済の計算タイプではないので、汎用計算タイプに変換されます。

Financial Management から Calculation Manager への移行中に、作成できるルールセット、ルールおよびスクリプト・コンポーネントを次に示します:

Sub Calculate

- ルールセット
 - 名前: Calculate_Ruleset
 - 計算タイプ: Calculate
 - Calculate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Calculate_Rule
 - 計算タイプ: Calculate

- Calculate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Calculate_Component
 - 計算タイプ: Calculate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Translate

- ルールセット
 - 名前: Translate_Ruleset
 - 計算タイプ: Translate
 - Translate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Translate_Rule
 - 計算タイプ: Translate
 - Translate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Translate_Component
 - 計算タイプ: Translate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Consolidate

- ルールセット
 - 名前: Consolidate_Ruleset
 - 計算タイプ: Consolidate
 - Consolidate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Consolidate_Rule
 - 計算タイプ: Consolidate
 - Consolidate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Consolidate_Component
 - 計算タイプ: Consolidate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Dynamic

- ルールセット
 - 名前: Dynamic_Ruleset
 - 計算タイプ: Dynamic
 - Dynamic_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Dynamic_Rule
 - 計算タイプ: Dynamic
 - Dynamic_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Dynamic_Component
 - 計算タイプ: Dynamic
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Input

- ルールセット
 - 名前: Input_Ruleset
 - 計算タイプ: Input
 - Input_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Input_Rule
 - 計算タイプ: Input
 - Input_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Input_Component
 - 計算タイプ: Input
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub NoInput

- ルールセット
 - 名前: NoInput_Ruleset
 - 計算タイプ: NoInput
 - NoInput_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: NoInput_Rule
 - 計算タイプ: NoInput

- NoInput_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: NoInput_Component
 - 計算タイプ: NoInput
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Transactions

- ルールセット
 - 名前: Transactions_Ruleset
 - 計算タイプ: Transactions
 - Transactions_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Transactions_Rule
 - 計算タイプ: Transactions
 - Transactions_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Transactions_Component
 - 計算タイプ: Transactions
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub EquityPickUp

- ルールセット
 - 名前: EquityPickUp_Ruleset
 - 計算タイプ: EquityPickUp
 - EquityPickUp_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: EquityPickUp_Rule
 - 計算タイプ: EquityPickUp
 - EquityPickUp_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: EquityPickUp_Component
 - 計算タイプ: EquityPickUp
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Allocate

- ルールセット
 - 名前: Allocate_Ruleset
 - 計算タイプ: Allocate
 - Allocate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Allocate_Rule
 - 計算タイプ: Allocate
 - Allocate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Allocate_Component
 - 計算タイプ: Allocate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Generic

- ルールセット
 - 名前: Generic_Ruleset
 - 計算タイプ: Generic
 - <メジャーではない sub の名前>_Rule という 1 つ以上のルールを含む
- ルール
 - 名前: <メジャーではない sub の名前>_Rule
 - 計算タイプ: Generic
 - <メジャーではない sub の名前>_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: <メジャーではない sub の名前>_Component
 - 計算タイプ: Generic
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

SUB Global

- ルールセット
 - 名前: Global_Ruleset
 - 計算タイプ: Global
 - Global_Rule という 1 つ以上のルールを含む
- ルール
 - 名前: Global_Rule
 - 計算タイプ: Global

- Global_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
 - スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Global_Component
 - 計算タイプ: Global
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む
- ▶ Financial Management から Calculation Manager にビジネス・ルールを移行するには:
- 1 システム・ビューで、「ファイル」、「インポート」の順に選択します。
 - 2 以前のリリースから Financial Management オブジェクトを Calculation Manager に移行するには、ファイルにインポートする必要があります。[335 ページの「ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート」](#)を参照してください。

ファイル内のすべての SUB ステートメントをルールセット、ルールおよびスクリプト・コンポーネントに変換して移行すると、Calculation Manager に計算オブジェクトが表示されます。

スクリプト・コンポーネントをグラフィカル・オブジェクトに変換する場合は、ルール・デザイナーで新規ビジネス・ルールおよび式コンポーネントを作成できます。グラフィカル・ルールおよびスクリプト・コンポーネントを組み合わせることができます。スクリプト・コンポーネントをグラフィカル・オブジェクトに変換しない場合は、移行後に配置できます。

10

ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポートおよびインポート

この章の内容

エクスポートおよびインポートについて.....	333
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポート.....	334
アプリケーションのエクスポート.....	335
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート.....	335
グラフィカル・ビジネス・ルールとしての Essbase 計算スクリプトのインポート.....	337

エクスポートおよびインポートについて

Financial Management、Planning、Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning アプリケーションのすべてのオブジェクトをエクスポートできます。また、アプリケーション内の個別のビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式コンポーネントおよびスクリプト・コンポーネントもエクスポートできます。

Business Rules からビジネス・ルール、シーケンス、マクロおよび変数をエクスポートし、Calculation Manager にインポートすることもできます。シーケンスはビジネス・ルールセットに変換され、マクロは Calculation Manager のテンプレートに変換されます。

アプリケーションとオブジェクトをエクスポートした後で、それらを別の Financial Management、Planning、Essbase、Oracle General Ledger または Operational Planning アプリケーションにインポートできます。たとえば、ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを、本番コンピュータのアプリケーションからエクスポートし、それらをテスト・コンピュータの別のアプリケーションにインポートできます。

また、Essbase 計算スクリプトを、グラフィカル・ビジネス・ルールとして Calculation Manager にインポートすることも可能です。

ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポート

オブジェクトは、任意のビュー(システム・ビュー、カスタム・ビューおよび配置ビュー)からエクスポートできます。アプリケーション、オブジェクト、または複数のオブジェクトをエクスポートする場合は、Calculation Manager の他のアプリケーションにインポートできる xml ファイルにエクスポートされます。

注： 1つ以上のオブジェクトをエクスポートできます。

▶ オブジェクトをエクスポートするには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプと、エクスポートするオブジェクトを含むアプリケーションを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management のルールセットをエクスポートするには、計算タイプおよびエクスポートするルールセットを含む「ルールセット」ノードを展開します。
- **Planning、Essbase、Oracle General Ledger および Operational Planning アプリケーションのみ:** ルールセットをエクスポートするには、「ルールセット」を展開します。
- ルール、式、スクリプトまたはテンプレートをエクスポートするには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、次に、「ルール」、「式」、「スクリプト」または「テンプレート」を展開します。

3 次のいずれかのタスクを行います:

- オブジェクトを1つだけエクスポートする場合は、右クリックして「エクスポート」を選択します。
- 複数のオブジェクトをエクスポートする場合は、エクスポートするオブジェクトを選択し、右クリックして「エクスポート」を選択します。「[Shift]キーを押しながらクリック」または「[Ctrl]キーを押しながらクリック」し、異なる計算、プラン・タイプまたはデータベース、異なるオブジェクト・タイプ(ビジネス・ルール、式など)、およびアプリケーション・タイプ内の異なるアプリケーションにある隣接または隣接していない複数のオブジェクトを選択します。

「エクスポート」を選択した後に、生成された.xml ファイルを開くか、または保存するかを確認するメッセージが表示されます。

4 「ファイルのダウンロード」で、次のいずれかのタスクを行います:

- 生成された.xml ファイルのコンテンツを表示する場合は、「開く」を選択します。
- 生成された.xml ファイルを表示せずに保存する場合は、「保存」を選択し、ファイル名を入力し(またはデフォルト名を受け入れる)、再び「保存」をクリックします。

アプリケーションのエクスポート

1つ以上のアプリケーションをエクスポートできます。アプリケーションをエクスポートする場合は、アプリケーションのコンテンツが xml ファイルに保存されます。

▶ アプリケーションをエクスポートするには:

1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプを展開します。

2 次のいずれかのタスクを行います:

- アプリケーションを1つだけエクスポートする場合は、右クリックして「エクスポート」を選択します。
- 複数のアプリケーションをエクスポートする場合は、エクスポートするアプリケーションを選択し、右クリックして「エクスポート」を選択します。「[Shift]キーを押しながらクリック」または「[Ctrl]キーを押しながらクリック」し、同じアプリケーション・タイプ内の隣接または隣接していない複数のアプリケーションを選択します。

「エクスポート」を選択した後に、生成された.xml ファイルを開くか、または保存するかを確認するメッセージが表示されます。

3 「ファイルのダウンロード」で、次のいずれかのタスクを行います:

- 生成された xml ファイルのコンテンツを表示する場合は、「開く」を選択します。
- 生成された xml ファイルのコンテンツを表示せずに保存する場合は、「保存」を選択し、ファイル名を入力し(またはデフォルト名を受け入れる)、再び「保存」をクリックします。

ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート

Business Rules(『Hyperion Business Rules 管理者ガイド』を参照)からオブジェクトをエクスポートし、Calculation Manager からオブジェクトおよびアプリケーションをエクスポートした後は、Calculation Manager 内の他のアプリケーションにそれらをインポートできます。オブジェクトをインポートするには、ファイルの種類が次のいずれかである必要があります:

- **.すべてのユーザー:** xml。オブジェクトを xml フォーマットで格納するファイル
- **Planning、Essbase、Oracle General Ledger および Oracle Operational Planning ユーザーのみ:** .csc。Essbase 計算スクリプト・フォーマットで、オブジェクトを含むファイル
- **Financial Management ユーザーのみ:** .cmo。オブジェクトを ASCII テキスト・フォーマットで格納するファイル

- **Financial Management ユーザーのみ:** .rle。オブジェクトを Visual Basic フォーマットで格納するファイル

▶ オブジェクトをインポートするには:

- 1 システム・ビューで、アプリケーション・タイプを展開します。
- 2 オブジェクトをインポートするアプリケーションを選択します。
- 3 「ファイル」、「インポート」の順に選択します。
- 4 「インポート」で、「ファイル」に、インポートするファイルを入力するか参照します。
- 5 「場所詳細の更新」をクリックして、ファイルのインポート先のアプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを入力します。
 - .csc ファイルの場合は、場所の詳細を入力する必要があります。
 - .xml ファイルの場合、場所の詳細はインポート・ファイル自体にあるので、場所の詳細を入力する必要はありません。
 - ファイルが.rle ファイルで、場所の詳細を入力した場合、キーワード'app_name=<name of the application>'は.rle ファイルの最初の行にある必要があります。たとえば、'app_name=Statutory。
 - .cmo ファイルの場合、アプリケーションの情報はキーワードに含まれません。

注: 詳細の更新を使用してファイルをインポートするアプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを入力する場合は、この場所によって、インポート・ファイル自体の場所が上書きされます。インポート・ファイルに場所情報が含まれていない場合は、「詳細の更新」を使用して場所情報を入力する必要があります。場所情報がなければ、インポートは失敗します。

- 6 「インポート・オプション」で、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 「既存のオブジェクトを上書き」: インポートするオブジェクトは、アプリケーションおよび計算、プラン・タイプ、またはデータベースのオブジェクトを置換します。
 - 「既存のオブジェクトをスキップ」: インポートするオブジェクトは、アプリケーションおよび計算、プラン・タイプ、またはデータベースのオブジェクトに追加されます。
 - 「重複のエラー出力」: インポートするオブジェクトが、アプリケーションおよび計算、プラン・タイプ、またはデータベースにすでに存在するオブジェクトと重複する場合、重複するオブジェクトの名前がログ・ファイルに記述され、オブジェクトはインポートされずに、インポート・プロセスが停止します。
- 7 **Financial Management ユーザーのみ:** 手順 4 で rle ファイルを選択すると、「変換オプション」が有効化されます。
 - Calculation Manager で、rle ファイルをスクリプト・コンポーネントに変換する場合は、「スクリプト・コンポーネント」を選択します。

- Calculation Manager で、r1e ファイルをグラフィカル・コンポーネントに変換する場合は、「グラフィカル・コンポーネント」を選択し、次のタスクを実行します:
 1. 式コンポーネントの一部としてフロー・チャートに条件を含める場合は、「コンポーネント・レベルの条件ブロックの使用」を選択します。(デフォルトでは、条件は、式コンポーネントの一部としてではなく、個別の条件コンポーネントとしてフロー・チャートに含まれます。)
 2. 次のコンポーネント分割オプションのいずれかを選択し、スクリプト内でコンポーネントに基づいて、文をどのようにコンポーネント・オブジェクトに分割するかを指定します:
 - 「別のコンポーネント」: スクリプトの各コメント行に対して、個別のコンポーネントが生成されます。
 - 「複数ブロックのコンポーネント」: スクリプトの各コメント行に対して1つのブロックで、1つのコンポーネントが生成されます。
 - 「単一ブロックのコンポーネント」: スクリプトのすべてのコメント行に対して1つのブロックで、1つのコンポーネントが生成されます。(つまり、コメント行ごとに別々のブロックはありません。)

8 「インポート」をクリックします。

注: インポートの結果をローカル・ファイルに保存できます。

グラフィカル・ビジネス・ルールとしての Essbase 計算スクリプトのインポート

Essbase 計算スクリプトを、グラフィカル・ビジネス・ルールとして Calculation Manager にインポートすることができます。

▶ グラフィカル・ビジネス・ルールとして Essbase 計算スクリプトをインポートするには:

- 1 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、およびインポートする計算スクリプトが格納されているデータベースを含むアプリケーションを展開します。
- 2 データベースを右クリックし、「Essbase 計算スクリプトのインポート」を選択します。

注: このメニュー・オプションは、インポートする Essbase 計算スクリプトが存在する場合にのみ使用可能になります。

- 3 各計算スクリプトに関して、すでに Calculation Manager に存在するかどうかと、インポートするかどうかを選択します。(すべての計算スクリプトをインポートするには、「すべて選択」をクリックします。)
- 4 次のいずれかのオプションを選択します:

- 既存のオブジェクトを同じ名前の新しいオブジェクトに置き換えるには、「既存のオブジェクトをオーバーライド」を選択します。
- 新しいオブジェクトが既存のオブジェクトと同じ名前の場合に既存のオブジェクトを保持するには、「既存のオブジェクトをスキップ」を選択します。

5 「インポート」をクリックします。

注： インポートする計算スクリプトをスクリプト・コンポーネントとしてインポートすると、解析エラーが発生する場合があります。ルールを検証して解析エラーが発生した場合は、次のいずれかを行って修正します。

1) Calculation Manager で解析エラーを修正してルールを検証し、スクリプト・コンポーネントを右クリックして「グラフィカルに変換」を選択し、ルールを保存します。(グラフィカルへの変換を元に戻す場合は、「編集」、「変換を元に戻す」の順に選択します。) 2) 元の計算スクリプトを開き、解析エラーを修正して計算スクリプトを保存し、その計算スクリプトを Calculation Manager に再度インポートします。計算スクリプトの「すでに存在します」の下にチェックマークが表示されます。「インポート」チェック・ボックスと、既存のオブジェクトを上書きを選択します。

計算スクリプトのインポート後、インポートした計算スクリプトがスクリプト・コンポーネント形式であり、それをグラフィカル・フォーマットで表示する場合は、ルール・フロー・チャートでそのスクリプト・コンポーネントを右クリックし、「グラフィカルに変換」を選択します。

インポートの結果をローカル・ファイルに保存することもできます。

11

PlanningアプリケーションのためのEssbaseサーバー、アプリケーションおよびデータベースの管理

この章の内容

データベース・プロパティの操作	339
MaxL スクリプトの作成および起動	345
データベース・オブジェクトのロックの削除	346
アプリケーションの開始と停止	346
データベースの開始と停止	347

場合によっては、Planning アプリケーションが存在している、Essbase サーバー、アプリケーションまたはデータベースで特定の管理タスクを実行する必要があります。Calculation Manager の「データベース・プロパティ」ツールを使用して、欠落した値を集約するかどうか、次元とメンバーにチェックを実行するかどうか、ブロックのサイズと潜在数、キャッシュ・サイズ、およびデータベースの通貨関連の情報などのプロパティを編集および表示できます。

データベース・プロパティの操作

▶ Planning アプリケーションのデータベース・プロパティを表示および編集するには:

- 1 システム・ビューで「ツール」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。
- 2 エンタープライズ・ビューで、アプリケーション・タイプと、プロパティを表示または編集するデータベースを含むアプリケーションを展開します。
- 3 プロパティを表示または編集するデータベースを選択します。
データベースのプロパティは、エンタープライズ・ビューで「一般」タブが選択されているときに右側のペインに表示されます。
- 4 「一般」タブの「一般」の下で、データベースの説明を表示または編集します。

注: 説明がない場合は、データベースの作成時に説明が入力されていません。

「データベース・タイプ」には、「標準」(デフォルト)または「通貨」が表示されます。

- 5 「計算」の下で、次のいずれかのタスクを行います:

- 「欠落した値の集約」を選択して、データベースの計算中に欠落した値を集約します。

Essbase のデフォルトでは、データベースの完全計算時に欠落した値 (#Missing 値)は集約されません。データを親レベルにロードしない場合は、欠落した値を集約することにより計算のパフォーマンスが改善されることがあります。データベース・マネージャの権限を持つデータベースでは、欠落した値を集約するかどうかを選択できます。

親レベルでデータをロードしない場合、このオプションを選択すると、計算のパフォーマンスが向上する場合があります。このオプションが選択されているときにデータを親レベルでロードした場合、データベースの集計結果が#MISSING 値であっても、親レベルの値はそのデータベース集計結果で置き換えられます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

- 「等式によるブロックの作成」を選択して、特定のメンバーの組合せのためにデータ・ブロックを作成します。

このオプションを選択すると、データ・ブロックが存在しないメンバーの組合せに対して非定数値を割り当てたときに、Essbase でデータ・ブロックが作成されます。このオプションを選択するとデータベースのサイズが非常に大きくなってしまう可能性があるため、このオプションはデフォルトでは選択されていません。

疎次元のメンバーに定数を割り当てる場合は、Essbase でデータ・ブロックが作成されます。このため、疎メンバーに定数を割り当てる場合(West = 5 など)、「等式によるブロックの作成」を選択する必要はありません。ただし、疎メンバーに定数以外のものを割り当てるときにブロックが作成されるようにするには、「等式によるブロックの作成」を選択する必要があります。たとえば、疎の Scenario 次元のメンバーである Actuals にデータが存在しない場合、次の割当てを行うためには、「等式によるブロックの作成」を選択する必要があります: $2002Forecast = Actuals * 1.05$;

- 「2 パス計算」を選択して、特定のメンバーを再計算するかどうかを指定します。(このオプションはデフォルトで選択されています。)

このオプションを選択すると、デフォルト計算の後に、2 パスのタグが付いているメンバーが再計算されます。このオプションはデフォルトで選択されています。2 パスのタグは、会計タグが付けられた次元のメンバー、および任意の次元の「動的計算」および「動的計算および保管」のメンバーに対してのみ作用します。

6 「データの取得バッファ」の下で、次のいずれかを表示または編集します:

「データの取得バッファ」グループで、取得バッファのサイズを KB 単位で指定します。バッファのサイズを大きくすると、取得のパフォーマンスが向上する場合があります。デフォルト値、最小値および推奨値については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

- 「バッファ・サイズ」には、取得したバッファのサイズが表示されます。この数は編集できます。

これは、Spreadsheet Add-in やレポート・スクリプトからのデータの取得を処理および最適化するために使用する取得バッファの設定です。バッファのサイズを増やすと、取得のパフォーマンスが向上する場合があります。

デフォルト値、最小値および推奨値については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

- 「ソート・バッファ・サイズ」には、取得したソート・バッファのサイズが表示されます。この数は編集できます。

これは、取得時に使用される取得ソート・バッファの設定です。バッファのサイズを増やすと、取得のパフォーマンスが向上する場合があります。デフォルト値、最小値および推奨値については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

7 「ストレージ」の下で、次のいずれかのタスクを行い、ブロック・ストレージ・データベースのデータ・ストレージ・オプションを設定します:

- 「現在の入出力アクセス・モード」には、現在のアクセス・モードが表示されます。
- 「保留中の入出力アクセス・モード」で、次のオプションから1つを選択します:
 - 「バッファ入出力」 - ファイル・システムのバッファ・キャッシュを使用します。データベースの作成時に `essbase.cfg` ファイルの `DIRECTIO` 設定で直接入出力を指定していない場合、バッファ入出力がデフォルトになります。(『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。)
 - 「直接入出力」 - ファイル・システムのバッファ・キャッシュを使用せず、非同期のオーバーラップ入出力を実行します。これによって、応答時間が速くなり、キャッシュ・サイズをさらに最適化できるようになります。直接入出力を選択すると、データベースが開始されるたびに Essbase では直接入出力の使用が試みられます。直接入出力が使用できない場合、Essbase ではバッファ入出力が使用されます。キャッシュ・メモリのロック機能や、オペレーティング・システムに用意されているノー・ウェイト(非同期)入出力を使用可能にするには、直接入出力を選択する必要があります。
- 「データ圧縮」で、次のオプションから1つを選択します:
 - 「ビットマップ符号化」 - ビットマップを使用してデータ・セルが表され、ビットマップ、ブロック・ヘッダーおよびその他の制御情報のみがディスクに保管されます。これがデフォルトの設定であり、データを最も効率的に圧縮する方法です。Essbase で保管されるのは欠落していない値のみで、反復値やゼロ値は圧縮されません。Essbase では、データ・ブロックがデータ・キャッシュに移動されると、ビットマップを使用して欠落した値が再作成され、ブロックが完全に展開されません。
 - 「RLE(ランレングス符号化)」 - 連続する反復値(ゼロを含む)が圧縮され、各反復値と連続反復回数が記録されます。RLE が適しているのは、ブロックの平均密度が3パーセント以下である場合や、連続するゼロの値やゼロ以外の連続する反復値がデータベースに多数存在している場合などです。
 - 「ZLIB」 - 圧縮されるデータに基づくデータ・ディクショナリが作成されます。通常、ZLIB 圧縮は、データの密度が非常に高い場合に高い圧縮率を示します。ただし、場合によっては、他の圧縮方式のほうが高

い圧縮率を示すことがあります。ZLIB 圧縮の場合、節約される記憶域は、欠落セル数や等しい値を持つセルの連続回数とは、ほとんど関係ありません。

○ 「圧縮しない」 - データ圧縮が行われません。

- 8 「次元」タブで、データベースの次元情報を確認できます。データベース内の次元数や、各次元の名前、タイプ(疎または密)およびメンバーの表が含まれます。
- 9 「統計」タブでは、データベースの開始時刻、経過時間、接続数、およびデータ・ブロックの統計を確認できます。「一般」ノードには次が表示されます:

注: このタブでは、いずれの情報も変更できません。

- 「データベース開始時間」 - Essbase サーバーのタイム・ゾーンに準拠
- 「データベースの経過時間」 - 時間:分:秒の形式
- 「接続数」 - 接続しているユーザー数

「ブロック」ノードには、ブロック・ストレージ・データベースのデータ・ブロックに関する統計が表示されます:

- 「既存のブロック数」 - 存在している(データが格納されている)ブロックの合計数
- 「ブロック・サイズ」 - 展開(圧縮解除)されたデータ・ブロックのバイト単位のサイズ(セル数×8; 8KB から 100KB になるのが理想的です)。ブロック・サイズを変更するには、データベースの疎/密の構成を変更する必要があります。
- 「ブロックの潜在数」 - ブロックの最大数(1つの疎次元のメンバー数に別の疎次元のメンバー数を掛け合せることによって得られます)。たとえば、Sample Basic データベースでは、19個の Product メンバーと 25個の Market メンバーがあります(共有メンバーやラベルのみのメンバーは数えません)。Product と Market はデータが保管される疎次元であるため、潜在データ・ブロックの数は $19 \times 25 = 475$ 個になります。
- 「既存のレベル 0 ブロック」 - 存在している(データが含まれる)レベル 0 ブロック(子メンバーを1つも持たない疎次元メンバーのブロック)の合計数。データは上位レベルにロードされる場合があるため、レベル 0 ブロックの数とデータ入力によって作成されたブロックの数が同じになるとはかぎりません。
- 「既存の上位レベル・ブロック」 - レベル 0 ブロック以外の、存在している(データが含まれる)ブロックの合計数。上位レベル・ブロックには、上位レベルの疎メンバーのすべての組合せ、およびレベル 0 の疎メンバーを含む上位レベルの組合せが含まれます。
- 「ブロックの密度(%)」 - 既存のデータ・ブロックのサンプルに基づく、各データ・ブロック内のデータ・ポイントの平均充てん率。疎/密の構成によりブロック密度が最大になります。しかし、ブロック密度を最大にするとデータ・ブロックの数が急増することがあります。ブロック・サイズとブ

ロックの急増を考慮したうえで、ブロック密度の最大化を試みてください。

- 「既存の最大ブロック数のパーセンテージ」 - 存在するブロックの数と可能なブロックの数の比を示すパーセント。この割合は、データベースの疎密の度合いを示すメジャーになります。このパーセントが非常に小さい値(1パーセント未満など)になることは通常はありません。
- 「圧縮率」 - ディスク上に保管されているブロックの圧縮効率のメジャー。通常、圧縮率はブロック密度を示します。
- 「平均クラスタ率」 - データ(.pag)ファイルの断片化レベル。最大値は1で、断片化なしを示します。取得、計算、データ・ロードのパフォーマンスが低下しており、クラスタ率の値が1よりも著しく小さい場合は、データのエクスポートと再ロードを実行してデータ・ファイルの再書き込みを実行することを検討してください。ファイルの再書き込みによりファイルの断片化が解消され、1に近いクラスタ率が得られるようになります。

10 「キャッシュ」タブでは、キャッシュ・サイズおよびキャッシュ・ロックを表示および編集でき、キャッシュ・メモリーをロックできます。

- 「キャッシュ・メモリーのロック」を選択すると、データベース・マネージャ権限を持っているデータベースについて、キャッシュ・メモリーのロックを使用可能にできます。デフォルトでは、キャッシュ・メモリーのロックはオフです。

メモリーをロックすると、システムのメモリー・マネージャが Essbase のキャッシュ・メモリーをスワップしたり予約したりする必要がなくなるので、データベースのパフォーマンスが向上することがあります。

注：メモリーのロックを変更した場合、変更内容はデータベースをいったん停止して再起動したときに有効になります。

- 「インデックス・ページ設定(KB)」には、インデックス・ページのサイズ(8KB で変更不可能)が表示されます。
- データベースにデータが含まれる場合、「インデックス・ページの現在値(KB)」には、「インデックス・ページ設定」に表示される値が表示されます。データベースにデータが含まれない場合は、「インデックス・ページの現在値(KB)」に0が表示されます。

「キャッシュ・サイズ」の下で、様々なバッファのサイズを指定することにより、インデックス・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュおよびデータ・キャッシュに割り当てられるメモリーの量を設定します。デフォルト値、最小値、推奨値については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

- 「インデックス・キャッシュ設定(KB)」 - KB 単位の値を入力して、インデックスに使用されるメモリーの量を指定します。
- 「インデックス・キャッシュの現在値(KB)」 - インデックスに使用されているメモリーの量が表示されます。データベースにデータが含まれない場合、値は0になります。

- 「データ・ファイル・キャッシュ設定(KB)」 - 圧縮されたデータ(.pag)ファイルを保持するための KB 単位の値を入力します。(Essbase がバッファ I/O を使用している場合、これは使用できません。)
- 「データ・ファイル・キャッシュの現在値(KB)」 - データ・ファイルに使用されているメモリーの量が表示されます。データベースにデータが含まれない場合、値は 0 になります。
- 「データ・キャッシュ設定(KB)」 - KB 単位の値を入力して、圧縮されないデータ・ブロックを保持するために使用されるメモリーの量を指定します。
- 「データ・キャッシュの現在値(KB)」 - データ・キャッシュに使用されているメモリーの量が表示されます。データベースにデータが含まれない場合、値は 0 になります。

11 「トランザクション」タブでは、データベースへのアクセスを表示および編集できます。次のいずれかのタスクを実行します:

- トランザクションが完了してコミットされるまで、トランザクションに含まれているすべてのデータ・ブロックに対する読取り/書込みロックが保留されるようにするには、「コミット・アクセス」を選択します。次に同時実行オプションを指定します:
 - 「待機(秒)」 - ロックされたデータ・ブロックにアクセスできるようになるまでトランザクションが待機する秒数を指定します。デフォルト(20 秒)のままにするか、値を入力するか、あるいは、リストから「無限」または「待機しない」を選択します。
 - 「プライメージ・アクセス」 - 別の同時トランザクションが実行されている間にロックされているデータ・ブロックに対する読取り専用アクセス権を、ユーザーに付与します。
- トランザクションがブロック単位で読取り/書込みを保留できるようにするには、「アンコミット・アクセス」を選択します(デフォルト)。次に、いつ Essbase がコミット操作を実行するかを指定します:
 - 「ブロックのコミット」 - 指定した数のデータ・ブロックが更新されたから、Essbase がコミットを実行します。(デフォルトは 3000 です。)
 - 「行のコミット」 - 指定した数のデータ・ファイル行がデータ・ロード時に処理されてから、Essbase がコミットを実行します。(デフォルトは 0 です。)

12 「通貨」タブでは、アプリケーションの通貨データベース、通貨換算方法およびデフォルト通貨タイプ・メンバーを表示および編集できます。また、「国」、「時間」、「カテゴリ」および「通貨パーティション」次元の名前を確認することもできます。

- 「通貨データベース」 - プロパティを表示または編集する通貨データベースを選択します。(アプリケーションで使用可能なすべての通貨データベースがリストに含まれます。)
- 「換算方法」 - 「除算」または「乗算」を選択して、通貨の換算方法を指定します。

- 「デフォルトの通貨タイプのメンバー」 - 通貨換算でデフォルトとして使用する通貨タイプ・メンバーを選択します。通貨データベースで CurType 次元の有効なメンバーを任意に指定できます。

通貨データベースは、このタブにリストされる次の4つの次元で必ず構成されます:

- 国次元。実際の現地通貨(米国ドル、カナダドル、ドイツユーロなど)ごとのレートのみが格納されます。
- 時間次元。一般に、メイン・データベース内の時間次元と同じです。このため、通貨データベースでは、長期にわたる通貨の変動を追跡し、メイン・データベースの異なる時間スライスを正確に変換できます。
- カテゴリ次元。メイン・データベース内の勘定科目のタグが付けられた次元のメンバーに様々なレートを適用できます。会計次元用に定義されたカテゴリから、通貨データベースの通貨カテゴリ次元メンバーが生成されます。たとえば、総利益(Gross Profit)と純利益(Net Profit)の換算には特定のカテゴリのレートを使用し、その他の勘定科目の換算には他のレートを使用する必要があります。
- 通貨パーティション次元。異なる通貨換算シナリオを利用できます。たとえば、企業では実績レートとプラン・レートを格納する場合があります。シナリオ間でデータ換算を行うには、使用するレートのタイプを選択します。

13 「保存」アイコンをクリックして、変更を保存します。

MaxL スクリプトの作成および起動

MaxL スクリプト・エディタを使用して、Calculation Manager での Essbase 管理タスクを自動化します。このエディタを使用すると、データベース・アウトラインおよびメタデータを定義できます。

MaxL スクリプト・エディタは、MaxL スクリプトを入力できるテキスト編集ウィンドウとして機能します。

MaxL スクリプト・エディタでは、MaxL に関する次のタスクを実行できます:

- MaxL スクリプトを作成および起動して、Essbase の管理タスクを自動化します。
- MaxL ステートメントを対話的に入力および起動して、1つ以上の Essbase 操作を一度に実行します。
- スクリプトの起動結果を表示します。

▶ MaxL スクリプトを作成するには:

- 1 システム・ビューで「ツール」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。
- 2 エンタープライズ・ビューで、MaxL スクリプトを作成するアプリケーション・タイプとアプリケーションを展開します。
- 3 アプリケーションを右クリックし、「MaxL スクリプト・エディタ」を選択します。

MaxL スクリプト・エディタが表示されます。

4 MaxL スクリプト・エディタで、スクリプトのコンテンツを入力します。

5 「起動」ボタンをクリックします。

スクリプトのコンテンツは、エディタで対話的に入力、実行、および消去を行う個別のステートメントである場合があります。ステートメントは、スクリプトを保存しなくても実行できます。

6 **オプション:** 次のタスクを行って、スクリプトを完成させます:

7 スクリプトを保存するか起動します(または保存して起動します)。

データベース・オブジェクトのロックの削除

Essbase では、データベース・オブジェクト(計算スクリプト、レポート・スクリプト、ビジネス・ルール・ファイルなど)にチェックアウト機能を設けて、同じオブジェクトを複数のユーザーが同時に編集しないようにしています。デフォルトでは、オブジェクトがロックされるのは、変更のために開くときです。オブジェクトを閉じるとロック解除されます。

自身の持つセキュリティ権限に応じて、オブジェクトを表示してロックを解除できます。管理者権限を持つユーザーは、どのオブジェクトでもロックを解除できます。管理者権限を持たないユーザーは、ロックしたオブジェクトのみロックを解除できます。

注: ロックされるのは、ブロック・ストレージ・データベース内のデータベース・オブジェクトのみです。

▶ データベースからロックを削除するには:

- 1 システム・ビューで「ツール」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。
- 2 エンタープライズ・ビューで、アプリケーション・タイプと、ロックを削除するデータベースを含むアプリケーションを展開します。
- 3 データベースを右クリックし、「ロックの削除」を選択します。
- 4 「はい」をクリックすると、データベース内のすべてのオブジェクトのすべてのロックの削除が確認されます。「いいえ」をクリックすると、ロックの操作が取り消されます。

アプリケーションの開始と停止

ユーザーは、自身が読取り権限以上を持っているアプリケーションを開始できません。Essbase によって、新たに開始されたアプリケーションが Essbase サーバーのメモリーにロードされます。

親アプリケーションの開始時にデータベースも開始するよう指定できます。この場合、ユーザーがアプリケーション内のデータベースへ接続するよりも前にアプリケーションを開始しておけば、アプリケーションおよび関連する全データベー

スがメモリー内にロードされた状態となるため、ユーザーの初期パフォーマンス(データベース接続時)が向上します。

アプリケーションを停止すると、Essbaseによって、アプリケーションと、そのアプリケーション内のすべてのデータベースがEssbaseサーバーのメモリーからアンロードされます。これにより、使用可能なメモリーが増加します。アプリケーション内のデータベースが破損しないようにするには、適切な方法でアプリケーションを停止する必要があります。

▶ アプリケーションを開始または停止するには:

- 1 システム・ビューで「ツール」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。
- 2 エンタープライズ・ビューで、開始または停止するアプリケーション・タイプとアプリケーションを展開します。
- 3 アプリケーションを右クリックして、次を選択します:
 - 「アプリケーションの起動」
 - 「アプリケーションの停止」

データベースの開始と停止

データベースを開始すると、EssbaseではEssbaseサーバーのメモリー上にデータベースがロードされます。インデックス・キャッシュは自動的に割り当てられ、データ・ファイル・キャッシュおよびデータ・キャッシュはブロックの要求時に割り当てられます。ユーザーのアクセスよりも前にデータベースを開始すれば、データベースが先にメモリー内にロードされるため、ユーザーの初期パフォーマンス(接続時)が向上します。

開始されていないアプリケーションのデータベースを開始すると、そのアプリケーションと、そのアプリケーション内のすべてのデータベースがロードされます。1つのアプリケーションについて1つのデータベース、またはすべてのデータベースを開始できます。

データベースを停止すると、EssbaseではEssbaseサーバー上のメモリーからデータベースがアンロードされ、更新されたデータがディスクにコミットされます。これにより、サーバー・コンピュータ上で使用可能なメモリーの量が増加します。

1つのアプリケーションについて1つのデータベース、またはすべてのデータベースを停止できます。

▶ データベースを開始または停止するには:

- 1 システム・ビューで「ツール」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。
- 2 エンタープライズ・ビューで、アプリケーション・タイプと、開始または停止するデータベースを含むアプリケーションを展開します。
- 3 データベースを右クリックして、次を選択します:
 - 「データベースの開始」
 - 「データベースの停止」

- ▶ アプリケーションのすべてのデータベースを開始または停止するには:
- 1 システム・ビューで「ツール」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。
 - 2 エンタープライズ・ビューで、アプリケーション・タイプと、開始または停止するデータベースを含むアプリケーションを展開します。
 - 3 アプリケーションを右クリックして、次を選択します:
 - 「全データベースの開始」
 - 「全データベースの停止」



管理者機能の使用

この付録の内容

Calculation Manager への移行	349
--------------------------------	-----

Calculation Manager への移行

今回のリリースでは、Financial Management、Planning または Performance Management Architect で作成されたアプリケーションを使用している Financial Management ユーザーと Planning ユーザー、さらに Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションおよび集約ストレージ・アプリケーション・ユーザーが、Calculation Manager でビジネス・ルールを作成して管理できます。

次の表は、Calculation Manager、Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)、Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)のビジネス・ルールの機能を比較しています。

表 24 Calculation Manager、Financial Management および Business Rules におけるビジネス・ルールの機能比較

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
<p>ビジネス・ルールの作成</p>	<p>ルール・デザイナ内のフロー・チャートでビジネス・ルールをグラフィカルに作成することができます。</p> <p>ビジネス・ルールを設計するために使用するコンポーネントが、Planning と Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションには 5 つ、Financial Management アプリケーションには 6 つあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 式コンポーネント: メンバー、関数、条件ステートメント(オプション)を使用して作成された計算ステートメントが含まれています。 2. スクリプト・コンポーネント: Visual Basic (Financial Management) または Essbase (Planning) の計算スクリプト・ステートメントのみ含まれています。 3. 条件コンポーネントには、true または false の条件コンポーネント・ステートメントが含まれます(つまり、If...Then ステートメント)。 4. ループ・コンポーネントには、メタデータ・メンバーのリストが含まれます(勘定科目のリストなど)。 5. メンバー範囲コンポーネントには、メタデータ・メンバーの一覧が含まれます(勘定科目のリストなど)。 6. (Financial Management ユーザーのみ) データ範囲コンポーネントにはデータ・レコードのリストが含まれます(勘定科目値のリストなど)。 <p>Essbase 集約ストレージ・アプリケーションには、次の 3 つのコンポーネントがあります:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視点(POV)コンポーネント: メンバーの範囲コンポーネントのように、メタデータ・メンバーのリストが含まれます。 2. 割当てコンポーネント: データベース・アウトラインの 1 つのレベルにあるメンバーからアウトラインの他のメンバーにデータを配布するための計算が含まれます。 3. 式コンポーネント: ユーザーがメンバー、関数および変数を使用して設計する計算文が含まれます。 	<p>ビジネス・ルール・グラフィカル・デザイナおよび Administration Services の管理コンソールのビジネス・ルール・ノード内でビジネス・ルールを作成することができます。</p> <p>グラフィカルにビジネス・ルールをデザインできる 4 つのアクションおよび 8 つの式があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの集約アクション 2. データのコピー・アクション 3. データの消去アクション 4. ブロックの作成アクション 5. 比率配分率式 6. 分布係数式 7. 均等分割式 8. 増加/減少式 9. 単価レート式 10. 結合式 11. カスタム式 12. 変数式 	<p>ルール・エディタまたはテキスト・エディタでビジネス・ルールを作成できません。Visual Basic および Financial Management の関数、そして Financial Management ビジネス・ルール内のメンバーを使用することができます。</p>

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
	コンポーネント内で、メンバー、変数および関数を使用できます。		

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
<p>システム・テンプレート (Calculation Manager)、およびアクションと式 (Business Rules)を使用して、ビジネス・ルールを設計できます。</p>	<p>Calculation Manager には 8 つの Planning および Essbase ブロック・ストレージ・システム・テンプレートがあります:</p> <p>注: システム・テンプレートは、Essbase 集約ストレージ・アプリケーションでサポートされていません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「集約」テンプレートはデータを集約します。 「データのコピー」テンプレートはデータをコピーします。 「データの消去」テンプレートはデータを削除します。 「割当て - 単純」テンプレートは、ある場所から別の場所にデータを割り当てます。 「割当て - レベル間」テンプレートは、複数レベルのデータを割り当てます。 「金額-レート-単価」テンプレートは、他の 2 つに値を提供する場合に 1 つの変数を計算します。 「データのエクスポート」テンプレートはデータをデータベースまたはファイルにエクスポートします。 「SET コマンド」テンプレートでは、計算スクリプトのパフォーマンスを最適化するスクリプト・コマンドが入力できます。 <p>Calculation Manager には、8 つの Financial Management システム・テンプレートがあります:</p> <ol style="list-style-type: none"> 財務的な四捨五入テンプレートは統計的な四捨五入ではなく、データを財務的に四捨五入します。財務的な四捨五入関数は、四捨五入法を使用してデータを指定した小数点以下の桁数に丸められます。 月の日数の取得テンプレートは指定された年と月の数に基づいて、月の日数を生成します。月は通常の 1 から 12 の範囲外の数字として入力できます。たとえば、年(2008)および期間番号(0)を入力すると、2007 年 12 月の日数が戻されます。年(2008)および期間番号(14)を入力すると、2009 年の 2 月の日数が戻されます。この関数は、うるう年にも対応しています。 リスト内テンプレートでは、指定の次元メンバーが指定のメンバー・リストのメンバーかどうかをテストします。 	<p>Business Rules には、次の 4 つの Calculation Manager のいくつかのシステム・テンプレートのように機能するアクションがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> データの集約アクションは、Calculation Manager の集約テンプレートのように動作します。 「データのコピー」アクションは、Calculation Manager の「データのコピー」テンプレートのように機能します。 「データの消去」アクションは、「ブロックの作成」アクションとともに、Calculation Manager の「データの消去」テンプレートのように機能します。 ブロックの作成アクションは、「データの消去」アクションと連動して、計算マネージャの「データの消去」テンプレートのように動作します。 <p>Business Rules には、計算マネージャのシステム・テンプレートのように機能する式もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 比率配分式は、計算マネージャの「割当て - 単純」テンプレートのように機能します。 3 つの単価レート式は、計算マネージャの金額レート単価テンプレートのように機能します。 	<p>適用なし</p>

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
	<p>4. 平均貸借対照表テンプレートでは、MTD、QTD、HYTD および YTD の頻度の平均貸借対照表比率を計算します。データは MTD<QTD、HYTD<YTD、または累積日次残高として入力できます。</p> <p>5. 期首残高テンプレートでは、指定した取得メソッドに基づいて勘定科目の期首残高を計算します。期首残高は同じ値通貨またはエンティティ通貨の合計から取得できます。</p> <p>6. 複雑な集計テンプレートは、各エンティティに割り当てられた集計メソッド(持株、グローバル、比例、資本)に基づいて、集計グループ内の各エンティティに対して集計と消去を行う組込み済の集計ルールです。資本、投資、純利益および標準消去の計算を処理します。監査トランザクションは、ユーザーが設定する監査フラグに基づいて生成されます。このテンプレートの集計ルールで、通常の法的要件のほとんどの計算を行います。</p> <p>7. 標準集計テンプレートは、デフォルトの集計プロセスを使用して集計グループ内の各エンティティに対して集計および消去を行う組込み済の集計ルールです。</p> <p>8. エンティティ割当てテンプレートでは、指定された割当て加重に基づいて、ソース勘定科目がグループの親エンティティからリストの各エンティティに対応する宛先勘定科目に割り当てられます。</p>		
カスタム定義のテンプレート(Calculation Manager)とマクロ(Business Rules)の作成によるビジネス・ルールの設計	ウィザードを使用して、ビジネスに固有の計算を実行する、再利用可能なカスタム定義のテンプレートを設計できます。つまり、システム・テンプレートをコピーして別の名前で保存し、これをカスタム定義のテンプレートとして使用できます。	ビジネスに固有の計算を実行する、再利用可能なマクロを設計できます。	適用なし
設計時プロンプトの作成	ウィザードを使用して、Calculation Manager のカスタム定義のテンプレート用の設計時プロンプトを作成できます。	マクロの変数を使用して、情報を求めるプロンプトを表示できます。	適用なし
コンポーネントの共有	複数のプラン・タイプ(Planning の場合)、計算タイプ(Financial Management の場合)、データベース・タイプ(Essbase の場合)、およびアプリケーションで、スクリプトと式コンポーネントを共有できます。	適用なし	適用なし

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
コンポーネントのドラッグ・アンド・ドロップ	ルール・デザイナーでは、コンポーネントをビジネス・ルールのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップできます。	グラフィカル・デザイナーでは、アクションと式をビジネス・ルールのプロセス・バーにドラッグ・アンド・ドロップできません。	適用なし
詳細の表示/非表示	フロー・チャートの表示をズーム・イン/ズーム・アウトして、表示の詳細レベルを調整できます。	適用なし	適用なし
計算スクリプト・フォーマットでのビジネス・ルールの編集	ビジネス・ルールを計算スクリプト・フォーマットで編集した後で、ルール・エディタでグラフィカルな形式に戻して編集できます。	計算スクリプト・フォーマットでビジネス・ルールを編集できますが、それをグラフィカルの編集に戻すことはできません。	ビジネス・ルールはテキスト・モードでのみ編集可能です。
ビジネス・ルールの検証	<p>Performance Management Architect アプリケーションで作業する場合: Planning のビジネス・ルールは、Performance Management Architect、Financial Management、Planning で検証できます。Financial Management のビジネス・ルールは、Performance Management Architect のみで検証できます。たとえば、検証するアプリケーションが配置されていない場合や、Oracle Hyperion EPM Architect のアプリケーションが Financial Management や Planning に配置されているアプリケーションと同期していない場合に、Performance Management Architect で検証できます。</p> <p>注: Essbase ビジネス・ルールは、Essbase に対してのみ検証できます。</p> <p>Financial Management または Planning アプリケーション管理で作成されたアプリケーションを操作する場合: ビジネス・ルールは、Financial Management または Planning でのみ個々に検証できます。</p>	ビジネス・ルールを Essbase または Planning に対して検証できます。	スキャン関数を使用して、Visual Basic スクリプト・ファイルのスキャンして、関数が正しいパラメータ番号に有効であり、次元メンバーがアプリケーションに対して有効であることを確認できます。
ビジネス・ルールの配置	計算タイプごとに1つのビジネス・ルールセットを Financial Management に配置できます。つまり、1つ以上のビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを Planning および Essbase に配置できます。ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置し、それらを Financial Management、Planning または Administration Services (Essbase の場合)内から起動する必要があります。それらの起動場所は、それらを配置するアプリケーションおよび計算のタイプ、プラン・タイプ、またはデータベースによって決まります。	適用なし	適用なし

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
ビジネス・ルールの起動	Calculation Manager からそれらのルールを配置したら、Financial Management および Planning 内から、Financial Management ビジネス・ルールセットおよび Planning ビジネス・ルールを起動します。Essbase ビジネス・ルールを配置すると、Calculation Manager または Administration Services 内からそれらのルールを起動できます。起動場所は、ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置場所によって決まります。ビジネス・ルールの複数の起動場所を定義するには、そのショートカットを Calculation Manager に作成します。	起動する場所を選択することにより、ビジネス・ルールを1つの場所からでも、すべての場所からでも起動できます。Administration Services 管理コンソールのルール・ノード、Business Rules のグラフィック・デザイナ、Business Rules Web ランチャ、コマンド・ライン・プロンプトまたは Planning Web から、ビジネス・ルールを起動できます。	ビジネス・ルールは、計算、換算、連結、配賦を実行するときに実行します。
ビューを使った作業	Calculation Manager には、アクセスできるオブジェクトを表示する、次の4つのビューがあります。 1. システム・ビュー 2. カスタム・ビュー 3. 配置ビュー 4. リスト・ビュー	Business Rules にはビューはありません。ビジネス・ルールやその他のオブジェクトは、管理コンソール内でオブジェクト・タイプ別にフラット・リストに表示されます。	適用なし
システム・ビューの使用 方法	システム・ビューには、Financial Management、Planning および Essbase アプリケーションと、それらの計算タイプ、プラン・タイプ、データベース、ユーザーがアクセスできるオブジェクトが階層的なリストで表示されます。このビューから、ビジネス・ルールの対象アプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベースを確認できます(これは、計算マネージャのデフォルトのビューです)。	適用なし	適用なし
カスタム・ビューの使用 方法	カスタム・ビューには、ユーザーが作成したフォルダと、そこにドラッグ・アンド・ドロップしたオブジェクトのリストが表示されます。このビューにより、ユーザーの目的に合わせてオブジェクトを整理できます。	¹ 適用なし	適用なし
配置ビューの 使用方法	配置ビューには、配置済および未配置のルールとルールセット、それらの配置と検証ステータスのリストが、アプリケーション・タイプとアプリケーション別に表示されます。	適用なし	適用なし

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
リスト・ビューの使用 方法	リスト・ビューには、「フィルタ」ダイアログで選択したオブジェクトのリストが表示されます。「フィルタ」ダイアログを使用して、アプリケーション・タイプ、属するアプリケーション、計算タイプおよびプラン・タイプ、およびアクセスできるオブジェクトでフィルタされたリストを作成できます。	適用なし	適用なし
ビジネス・ルールの移行	<p>ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトを前回リリースされた Business Rules から今回リリースされる Calculation Manager に移行することができます。</p> <p>注： Financial Management および Essbase のビジネス・ルールを移行するには、Calculation Manager のインポート機能を使用します。</p>	ビジネス・ルールは、前のリリースの Business Rules から今回のリリースの Calculation Manager、および前のリリースの Business Rules から今回のリリースの Business Rules へ移行できます。	ビジネス・ルールは、前のリリースの Financial Management から今回のリリースの Calculation Manager、および前のリリースの Financial Management から今回のリリースの Financial Management へ移行できます。
ビジネス・ルールのインポート	ビジネス・ルール、およびテンプレートやコンポーネントなどのその他のオブジェクトは、Business Rules から Calculation Manager へ、または Calculation Manager 内の別の Financial Management、Planning、または Essbase アプリケーションからインポートできます。Essbase の計算スクリプトを Calculation Manager にインポートすることもできます。インポートした計算スクリプト・ファイルは、Calculation Manager でグラフィカルなビジネス・ルールになります。	ビジネス・ルールを xml ファイルから Business Rules にインポートできます。	「ルールのロード」オプションを使用して、有効な Visual Basic スクリプト・ファイルをアプリケーションにインポートできます。
ビジネス・ルールのエクスポート	1 つ以上のビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトを Calculation Manager から、xml ファイルにエクスポートできます。	ビジネス・ルールとその他のオブジェクトは、Business Rules から xml ファイルにエクスポートできます。	「抽出ルール」オプションを使用して、Financial Management から外部の Visual Basic スクリプト・ファイルにビジネス・ルールをエクスポートできます。
ビジネス・ルールのショートカットの使用 方法	複数のアプリケーション、および計算タイプまたはプラン・タイプで、ビジネス・ルールへのショートカットを作成できません。ショートカットを使用してビジネス・ルールを配置すると、ショートカットの作成時に対象としたアプリケーション、および計算タイプまたはプラン・タイプに、ルールのコピーが配置されます。	適用なし	適用なし

機能/アクション	計算マネージャ	Business Rules (Planning および Essbase ユーザーの場合)	Financial Management (Financial Management ユーザーの場合)
変数の操作	<p>Calculation Manager の変数タイプの個数は、Planning は 4 個、Financial Management は 2 個、Essbase は 3 個です:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル: あらゆる Planning または Financial Management アプリケーションで使用できます 2. アプリケーション: 作成された Planning、Financial Management または Essbase アプリケーションでのみ使用できます 3. プラン・タイプまたはデータベース: 作成された Planning プラン・タイプまたは Essbase データベースでのみ使用できます 4. ビジネス・ルール: 作成された Planning または Essbase ビジネス・ルールでのみ使用できます 	<p>Business Rules には 2 つの変数タイプがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル: どのビジネス・ルールでも使用できます。 2. ローカル: 作成されたビジネス・ルールでのみ使用できます。 	<p>Financial Management には 2 つの変数タイプがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル: 計算プロセス全体に適用できます。 2. ローカル: 個々のサブルーチンにのみ適用できます。
ビジネス・ルールの作成・編集にアクセス権を割り当てる	<p>Calculation Manager では、ビジネス・ルールおよびその他オブジェクトの作成、表示および編集能力は、Oracle Hyperion Shared Services で割り当てられた役割および Calculation Manager でのオブジェクト所有権によって決まります。デフォルトでは、ユーザーは自分が作成したビジネス・ルールとオブジェクトを所有します。管理者やオブジェクトの所有者は、オブジェクトの所有権を別のユーザーに割り当てることができます。</p>	<p>Business Rules では、ビジネス・ルールおよびその他オブジェクトを変更できるユーザーとグループを選択して、それらを編集する権限を割り当てます。</p>	<p>Financial Management では、ビジネス・ルールを作成・編集するアクセス権は必要ありません。</p>
ビジネス・ルールを起動するアクセス権を割り当てる	<p>ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを Oracle Hyperion Calculation Manager から配置した後に、Financial Management、Oracle Hyperion Planning または Oracle Essbase Administration Services (Oracle Essbase の場合) で、ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを起動する権限を割り当てます。</p>	<p>ビジネス・ルールとシーケンスを起動できるデータベースの場所(またはすべての場所)を選択し、それらを起動できるユーザーとグループを選択することにより Oracle Hyperion Business Rules でビジネス・ルールとシーケンスを起動できる権限を割り当てます。</p>	<p>計算プロセスを実行できる権限を割り当てるには、Oracle Hyperion Financial Management で、計算プロセスが属するアプリケーションに対する適切な役割のセキュリティ・アクセスを(ユーザーに)割り当てます。たとえば、連結プロセスを実行するには、「連結」のセキュリティ役割が必要です。</p>

¹Business Rules でプロジェクトを作成し、ビジネス・ルール、シーケンス、マクロ、変数を独自のわかりやすい方法で編成できます。

用語集

Calculation Manager Planning および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Enterprise Performance Management Architect (EPMA) のモジュールの 1 つです。

Shared Services レジストリ Shared Services データベースの一部です。Shared Services レジストリでは、インストールされたほとんどの Hyperion 製品の情報 (インストール・ディレクトリ、データベース設定、配置設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど) を保管および再利用します。

アウトライン 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的關係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

疎次元 ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。「密次元」と対比してください。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。

拡張計算スクリプト 実行時プロンプトの値を含められる計算スクリプトです。

関数 値またはデータベース・メンバーを戻すルーチンです。

起動 計算済の値を戻すため、データベースに対してビジネス・ルール、計算スクリプトまたはシーケンスを実行するプロセスです。

キューブ 3 つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

計算 データベース上での集約プロセス、または計算スクリプト実行のプロセス。

計算 データを集約したり、データベースで計算スクリプトを実行したりするプロセスです。

計算スクリプト データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

検証 アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプトまたはパーティション定義をチェックして、各オブジェクトが有効であるかどうかを確認するプロセスです。

式 データベース・メンバーを計算する演算子、関数、次元およびメンバー名、および定数の組合せです。

シナリオ データを分類するための次元です (Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2 など)。

集約 レコードの要約と集計というアクティビティは、データベース専門家の間では「集約」という技術用語で表現されます。集約とは単純に、より上位のクエリーのパフォーマンスを劇的に向上するためにデータをグループ化および要約することを意味します。

次元 ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元は多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。

実行時プロンプト ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

条件 TRUE であるために行う必要がある一連の状況です。

セル (1) 多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。(2) 管理ドメインに属するノードの論理グループです。

多次元データベース 3つ以上の次元でデータを整理、格納および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。「リレーショナル・データベース」と対比してください。

テンプレート 特定のデータを一貫して取得するように設計された定義済みのフォーマットです。

データベース・アウトライン 「アウトライン」を参照してください。

範囲 上限と下限、およびその間に含まれる値のセットです。数字、金額、または日付を含むことが可能です。

ビジネス・ルール 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ブロック・ストレージ・データベース 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および格納する、Essbaseのデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で格納され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

保存済選択 多次元にわたり、明示的に定義されたメンバーのセットです。この選択内容は、次元が維持されている間は変更されません。

密次元 ブロック・ストレージ・データベースでは、次元メンバーのすべての組合せについてデータを含んでいる可能性があります。たとえば、時間次元はしばしば密ですが、これは時間次元がすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるからです。「疎次元」と対比してください。

メタデータ データベースに格納された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メンバー 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

文字列 1つの単位として扱われる一連の文字。

ユーザー定義属性(UDA) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明します。UDAを使用すると、指定された UDA が関連付けられているメンバーのリストが戻されます。

リポジトリ ビューおよびクエリーに使用するためのメタデータ、フォーマット、および注釈の情報を格納します。

リレーショナル・データベース 情報のテーブルで構成されている2次元テーブルです。2つ以上のテーブルを相互参照して新規テーブルを生成できます。テーブルが1つしかないデータベースはフラット・ファイル・データベースと呼ばれます。「多次元データベース」と対比してください。

レベル0のメンバー 子の存在しないメンバーです。

連結 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

索引

A - Z

Calculation Manager

説明, 19

ログオン, 23

EPM Workspace

ログオン, 23

Essbase 計算スクリプト、ビジネス・ルールとしてインポート, 337

「SET コマンド」テンプレート, 118

説明, 104

あ行

「アクション」メニュー, 29

アプリケーション

エクスポート, 335

移行

Financial Management から Calculation Manager へのビジネス・ルール, 326

Planning から Calculation Manager へのビジネス・ルール, 317

ビジネス・ルール, 317

概要, 317

依存関係、設計時プロンプトに対する定義, 155

印刷

ビジネス・ルール, 79

インポート

ビジネス・ルールとしての Essbase 計算スクリプト, 337

概要, 333

式およびスクリプト・コンポーネント, 335

テンプレート, 335

ビジネス・ルール, 335

ビジネス・ルールセット, 335

エクスポート

アプリケーション, 335

概要, 333

式およびスクリプト・コンポーネント, 334

テンプレート, 334

ビジネス・ルール, 334

ビジネス・ルールセット, 334

「お気に入り」メニュー, 28

か行

カスタム定義テンプレート

検索, 167

異なる名前で保存, 158

コピーおよび貼付け, 161

コンポーネントからの作成, 156

削除, 161

作成, 142

使用状況の表示, 160

設計, 143

設計時プロンプトの依存関係の定義, 155

設計時プロンプトの作成, 147

設計時プロンプトの次元限界の定義, 153

設計時プロンプトの選択, 153

設計時プロンプトのデフォルト値の定義, 154

説明, 141

開く, 157

フロー・チャートからの除去, 163

フロー・チャートへの挿入, 162

編集, 157

保存, 158

リフレッシュ, 159

カスタム・ビュー

説明, 34

フォルダの作成, 34

フォルダ名の変更, 35

「金額-単価-レート」テンプレート, 109

説明, 104

計算。「ビジネス・ルール」を参照

計算スクリプト

検索, 47, 63, 66, 70, 84, 188

計算スクリプト、比較, 55

検索

オブジェクト用, 36
 計算スクリプト内, 47, 63, 66, 70, 84, 188

コピー

式またはスクリプト・コンポーネントの参照, 74
 ビジネス・ルール, 72
 ビジネス・ルール・コンポーネントの子, 73
 ビジネス・ルールセット, 92

コンポーネント

検証, 305
 コンポーネントのビジネス・ルールへの追加, 60
 所有者の変更, 98
 追加、ビジネス・ルールへ, 41
 テンプレートの作成, 156
 ビジネス・ルールから削除, 60
 ビジネス・ルールでのコンポーネントのコピーおよび貼付け, 60

さ行

削除

カスタム定義テンプレート, 161
 ビジネス・ルール, 78
 ビジネス・ルールセット, 95
 ビジネス・ルールのコンポーネント, 60
 ルールセットからのルールまたはルールセット, 89
 ルールセットのビジネス・ルール, 88

作成

ビジネス・ルール, 39, 41
 ビジネス・ルールセット, 82
 ビジネス・ルールセットのプロパティ, 82
 ビジネス・ルールのコンポーネント, 41
 ビジネス・ルールのプロパティ, 43, 50

式コンポーネント

インポート, 335
 エクスポート, 334
 検証, 305
 所有者の変更, 98

システム・テンプレート

Essbase、説明, 103
 Planning と Essbase、説明, 103
 「SET コマンド」テンプレートの使用, 118
 カスタム定義テンプレートとして保存, 138
 「金額-単価-レート」テンプレートの使用, 109

検索, 167

集約テンプレートの使用, 116
 「データのエクスポート」テンプレートの使用, 120
 「データのコピー」テンプレートの使用, 108
 「データの消去」テンプレートの使用, 107
 ビジネス・ルールの使用, 105
 複数通貨テンプレートの使用, 131
 フロー・チャートからの除去, 140
 フロー・チャートへの挿入, 139
 「割当て - 単純除外」テンプレートの使用, 122
 「割当て - 単純」テンプレートの使用, 112
 「割当て - レベル間」テンプレートの使用, 110

システム・ビュー

説明, 33
 システム変数、ロード, 299
 集約テンプレート, 116
 説明, 104

所有権

変更, 98

ショートカット

作成、ビジネス・ルールへの, 77
 ショートカット、ビジネス・ルールの配置, 312

使用状況

カスタム定義テンプレート
 表示, 160
 表示、ビジネス・ルール, 47, 64, 69, 97
 表示、ビジネス・ルールセット, 84, 91, 97
 表示、変数, 298

次元限界

設計時プロンプトに対する定義, 153

実行時プロンプト、入力, 293

スクリプト

検索場所, 63, 66, 70, 84, 188
 テキスト文字列の検索, 70, 71
 テキスト文字列の置換, 70, 71

スクリプト・エディタ、ビジネス・ルールの編集に使用, 65

スクリプト・コンポーネント

インポート, 335
 エクスポート, 334
 検証, 305
 所有者の変更, 98
 スクリプト、比較, 55

- スクリプト・モード
 - ビジネス・ルールの編集, 65
- 設計時プロンプト
 - 依存関係の定義, 155
 - カスタム定義テンプレート向けの作成, 147
 - カスタム定義テンプレート向けの選択, 153
 - 次元限界の定義, 153
 - デフォルト値の定義, 154
- 設定
 - タイマーの使用可能, 68
 - 「タイマーの使用可能」設定, 44, 50, 62, 83, 91
 - ロギングの使用可能, 67
 - 「ロギングの使用可能」設定, 44, 50, 62, 83, 90
- た行**
 - 「タイマーの使用可能」設定, 44, 50, 62, 68, 83, 91
- 置換
 - オブジェクト, 36
- 貼付け
 - 式またはスクリプト・コンポーネントの参照, 74
 - ビジネス・ルール, 72
 - ビジネス・ルール・コンポーネントの子, 73
 - ビジネス・ルールセット, 92
- 追加
 - コンポーネントをビジネス・ルールに, 41, 60
 - 事前定義済ビジネス・ルール, 56
 - ビジネス・ルール, 39, 41
 - ビジネス・ルールからルールセットに, 87
 - ビジネス・ルールセット, 82
 - ビジネス・ルールセットのプロパティ, 82
 - ビジネス・ルールのプロパティ, 43, 50
 - ルールまたはルールセットをルールセットに, 89
- 「通貨換算」テンプレート
 - 説明, 104
- ツールバー, 24
 - Calculation Manager, 25
 - 標準, 24
- 「ツール」メニュー, 28
- テキスト文字列
 - 検索, 70
 - 検索、テンプレート, 164
- 検索、ビジネス・ルール, 71
- 置換, 70
- 置換、テンプレート, 164
- 置換、ビジネス・ルール, 71
- テンプレート
 - カスタム定義
 - 異なる名前で保存, 158
 - コピーおよび貼付け, 161
 - コンポーネントからの作成, 156
 - 削除, 161
 - 作成, 142
 - 使用状況の表示, 160
 - 設計, 143
 - 設計時プロンプトの依存関係の定義, 155
 - 設計時プロンプトの作成, 147
 - 設計時プロンプトの次元限界の定義, 153
 - 設計時プロンプトの選択, 153
 - 設計時プロンプトのデフォルト値の定義, 154
 - 説明, 141
 - 開く, 157
 - フロー・チャートからの除去, 163
 - フロー・チャートへの挿入, 162
 - 編集, 157
 - 保存, 158
 - リフレッシュ, 159
- 検索, 167
- システム
 - Essbase、説明, 103
 - Planning と Essbase、説明, 103
 - 「SET コマンド」テンプレートの使用, 118
 - 「金額-単価-レート」テンプレートの使用, 109
 - 集約テンプレートの使用, 116
 - 「データのエキスポート」テンプレートの使用, 120
 - 「データのコピー」テンプレートの使用, 108
 - 「データの消去」テンプレートの使用, 107
 - ビジネス・ルールの使用, 105
 - 複数通貨テンプレートの使用, 131
 - フロー・チャートからの除去, 140
 - 「割当て - 単純除外」テンプレートの使用, 122
 - 「割当て - 単純」テンプレートの使用, 112
 - 「割当て - レベル間」テンプレートの使用, 110

システム・テンプレート

SET コマンド, 104

金額-単価-レート, 104

集約, 104

通貨換算, 104

データのエクスポート, 104

データのコピー, 103

データの消去, 103

割当て - 単純, 104

割当て - 単純除外, 104

割当て - レベル間, 104

所有者の変更, 98

説明, 102

テキスト文字列の検索, 164

テキスト文字列の置換, 164

デバッグ、ビジネス・ルール, 51

デフォルト値、設計時プロンプトに対する定義, 154

「データのエクスポート」テンプレート, 120

説明, 104

「データのコピー」テンプレート, 108

説明, 103

「データの消去」テンプレート, 107

説明, 103

は行

配置ビュー

説明, 35

「表示」メニュー, 27

開く

カスタム定義テンプレート, 157

ビジネス・ルール, 58

ビジネス・ルールセット, 86

ルールセットでのルールまたはルールセット, 90

ルールセット内のビジネス・ルール, 86

ビジネス・ルール

起動、Essbase, 315

Financial Management から Calculation Manager への移行, 326

Planning から Calculation Manager への移行, 317

移行, 317

概要, 317

印刷, 79

インポート, 335

エクスポート, 334

エクスポートおよびインポート、概要, 333

クイック配置を使用した配置, 312

検証, 305

異なる名前での保存, 76

コピー, 72

コンポーネントの子のコピーおよび, 73

コンポーネントの子の貼付けおよび, 73

コンポーネントのコピーおよび貼付け, 60

コンポーネントの削除, 60

コンポーネントの追加, 41, 60

削除, 78

作成, 39, 41, 59, 89

式またはスクリプト・コンポーネントへの参照のコピー, 74

式またはスクリプト・コンポーネントへの参照の貼付け, 74

所有者の変更, 98

ショートカットの作成, 77

ショートカットを含む配置, 312

使用状況の表示, 47, 64, 69, 97

スクリプトの比較, 55

スクリプト・モードでの編集, 65

説明, 39

貼付け, 72

デバッグ, 51

配置可能にする、配置可能にしない, 309

配置、概要, 308

配置、配置ビューから, 310

配置、ルール・デザイナから, 311

パラメータとしての使用, 49

開く, 58

分析, 51

プロパティの入力, 43, 50

プロパティの編集, 61, 67

編集, 58, 59

保存, 76

リフレッシュ, 95

ロード、事前定義済, 56

ビジネス・ルールセット

インポート, 335

エクスポート, 334

検証, 305

異なる名前での保存, 94

コピー, 92

削除, 95

作成, 82

所有者の変更, 98

使用状況の表示, 84, 91, 97
 説明, 80
 貼付け, 92
 配置可能にする、配置可能にしない, 309
 配置、概要, 308
 配置、配置ビューから, 310
 配置、ルールセット・デザイナから, 311
 開く, 86
 ビジネス・ルールの除去, 88
 ビジネス・ルールの追加, 87
 ビジネス・ルールを開く, 86
 プロパティの入力, 82
 プロパティの編集, 90
 編集, 88
 保存, 93
 リフレッシュ, 95
 ルールまたはルールセットの除去, 89
 ルールまたはルールセットの追加, 89
 ルールまたはルールセットを開く, 90
 ビュー, 30
 カスタム・ビュー、説明, 34
 システム・ビュー、説明, 33
 配置の説明, 35
 リスト・ビュー、説明, 30
 ビュー・ペイン、説明, 35
 「ファイル」メニュー, 26
 フィルタ, 30
 フォルダ
 作成, 34
 名前変更, 35
 複数通貨テンプレート, 131
 フロー・チャート, 30
 カスタム定義テンプレートの除去, 163
 カスタム定義テンプレートの挿入, 162
 システム・テンプレートの除去, 140
 システム・テンプレートの挿入, 139
 分析、ビジネス・ルール, 51
 プロパティ
 ビジネス・ルール
 入力, 43, 50
 編集, 61, 67
 ビジネス・ルールセット
 入力, 82
 編集, 90
 プロンプト
 依存関係の定義, 155
 次元限界の定義, 153

設計時プロンプトの作成, 147
 設計時プロンプトの選択, 153
 デフォルト値の定義, 154
 「ヘルプ」メニュー, 29
 編集
 カスタム定義テンプレート, 157
 ビジネス・ルール, 58, 59
 ビジネス・ルール、スクリプト・モード, 65
 ビジネス・ルールセット, 88
 ビジネス・ルールセットのプロパティ, 90
 ビジネス・ルールのプロパティ, 61, 67
 「編集」メニュー, 27
 変数
 システムのロード(Financial Management のみ), 299
 コピー, 297
 使用状況の表示, 298
 リフレッシュ, 296
 変数、実行時プロンプト, 293
 保存
 カスタム定義テンプレート, 158
 異なる名前, 158
 異なる名前のビジネス・ルール, 76
 ビジネス・ルール, 76, 93, 158
 ビジネス・ルールセット, 93

ま行

メニュー, 25
 「アクション」メニュー, 29
 「お気に入り」メニュー, 28
 「ツール」メニュー, 28
 「表示」メニュー, 27
 「ファイル」メニュー, 26
 「ヘルプ」メニュー, 29
 「編集」メニュー, 27

ら行

ライフサイクル管理, 22
 リスト・ビュー
 説明, 30
 リフレッシュ
 カスタム定義テンプレート, 159
 ビジネス・ルール, 95
 ビジネス・ルールセット, 95
 ルール
 起動、Essbase, 315

Financial Management から Calculation

Manager への移行, 326

Planning から Calculation Manager への移行,
317

移行, 317

概要, 317

印刷, 79

インポート, 335

エクスポート, 334

エクスポートおよびインポート、概要, 333

クイック配置を使用した配置, 312

検証, 305

異なる名前での保存, 76

コピー, 72

コンポーネントの子のコピーおよび, 73

コンポーネントの子の貼付けおよび, 73

コンポーネントのコピーおよび貼付け, 60

コンポーネントの削除, 60

コンポーネントの追加, 41, 60

削除, 78

作成, 39, 41, 59, 89

式またはスクリプト・コンポーネントへの参
照のコピー, 74

式またはスクリプト・コンポーネントへの参
照の貼付け, 74

所有者の変更, 98

ショートカットの作成, 77

ショートカットを含む配置, 312

使用状況の表示, 47, 64, 69, 97

スクリプト・モードでの編集, 65

説明, 39

貼付け, 72

デバッグ, 51

配置可能にする、配置可能にしない, 309

配置、概要, 308

配置、配置ビューから, 310

配置、ルール・デザイナーから, 311

パラメータとしての使用, 49

開く, 58

分析, 51

プロパティの入力, 43, 50

プロパティの編集, 61, 67

編集, 58, 59

保存, 76

リフレッシュ, 95

ロード, 56

ルールセット

インポート, 335

エクスポート, 334

検証, 305

異なる名前での保存, 94

コピー, 92

削除, 95

作成, 82

所有者の変更, 98

使用状況の表示, 84, 91, 97

説明, 80

貼付け, 92

配置可能にする、配置可能にしない, 309

配置、概要, 308

配置、配置ビューから, 310

配置、ルールセット・デザイナーから, 311

開く, 86

ビジネス・ルールの除去, 88

ビジネス・ルールの追加, 87

ビジネス・ルールを開く, 86

プロパティの入力, 82

プロパティの編集, 90

編集, 88

保存, 93

リフレッシュ, 95

ルールまたはルールセットの除去, 89

ルールまたはルールセットの追加, 89

ルールまたはルールセットを開く, 90

「ロギングの使用可能」設定, 44, 50, 62, 67, 83,
90

ロード

事前定義済ビジネス・ルール, 56

わ行

「割当て - 単純除外」テンプレート, 122

説明, 104

「割当て - 単純」テンプレート, 112

説明, 104

「割当て - 単純」テンプレート、使用, 112

「割当て - レベル間」テンプレート, 110

説明, 104